

2014年度前学期
静岡大学市民開放授業

授業内容（シラバス）



静岡大学
Shizuoka University

授業内容の見方

- 1 項～ 9 項 市民開放授業科目一覧を掲載してあります。
- 1 0 項～ 授業内容（シラバス）を掲載してあります。

例

※授業内容は学生向けに作られたものをそのまま掲載しています。

難易度
授業内容に応じて、A・B・C・Dの4段階に区分しています。詳しくは2ページを参照ください。

授業の目標
学習内容
授業計画
これらを参考に受講したい科目を探してください。

受講要件
こちらの要件を満たしているかご確認ください。

オフィスアワー
意味：教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の場所で待機する時間のこと。
会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・時間に教員と直接会うことができます。

科目番号
市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号。
受講申込書や払込取扱書などに記す番号です。

授業科目	ドイツ語A-2			
担当教員名	静岡 太郎		所属等	人文社会科学部
			研究室	人文A棟422
分担教員名				
クラス	学部共通2	学期	前学期	必修選択区分
対象学年	1年,2年	● 難易度	A	曜日・時限
キーワード	文法の基礎			
● 授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学習する。テープは使用しない。			
● 学習内容	教科書に沿って行う。			
● 授業計画	1回 話法の助動詞 2回 話法の助動詞 3回 動詞の3基本形 4回 動詞の3基本形 5回 動詞の3基本形 6回 時制 7回 時制 8回 形容詞 9回 形容詞 10回 形容詞 11回 関係代名詞 12回 受動 13回 受動 14回 接続法 15回 接続法			
● 受講要件	問わない。			
テキスト	ドイツ文法18歩			
参考書	無し			
予習・復習について	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。			
成績評価の方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。			
● オフィスアワー	火曜日7・8時限 研究室にて。 事前にメール連絡を。			
担当教員からのメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。			

※シラバスは各学部で作成されていますので、多少並びが異なる場合があります。

表の見方

■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号や、市民開放授業時間割の表の番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票などにもこの番号を記入します。

■学部等

◇授業実施の主体となる部局を指します。

■学期

◇この欄に「前学期（前半）」「前学期（後半）」と記載された授業については、前学期をさらに半分に分けて開講されます。「前学期（後半）」の開始時期は前学期スケジュール（P31）でご確認ください。

■時間割

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 } 10:10	10:20 } 11:50	12:45 } 14:15	14:25 } 15:55	16:05 } 17:35

■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共＝共通教育棟、人＝人文社会科学部棟、教＝教育学部棟、理＝理学部棟、農＝農学部棟の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・情＝情報学部棟、総＝総合研究棟、1～8＝工学部1～8号館の略です。

※授業開始当初は、受講学生数等により、教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

■受入可能人数

◇1科目につき若干名とします。

◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認してください。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人数を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉

■受講料

◇半期全14回で9,500円が基本となっていますが、週2回開講の場合は14,700円、「前学期（前半）」「前学期（後半）」の場合は6,800円です。

平成26年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔静岡キャンパス〕

〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
1	全学	初修外国語(現代韓国語)入門Ⅰ	南 富鎮	前学期	月3・4	未定	若干名	A	9,500円
2	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	安永 愛	前学期	月3・4	未定	若干名	A	9,500円
3	全学	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅰ	エゲンベルグ・トーマス	前学期	月3・4	未定	若干名	A	9,500円
4	全学	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅰ	大藺 正彦	前学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
5	全学	生物と環境	大野 始	前学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
6	全学	数理の構造	鈴木 信行	前学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
7	全学	化学の世界	平井 浩文	前学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
8	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	安永 愛	前学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
9	全学	科学と技術	野上 啓一郎	前学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
10	全学	哲学	竹之内 裕文	前学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
11	全学	生命科学	塩尻 信義	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
12	全学	心理学	須藤 智	前学期	火3・4	未定	若干名	B	9,500円
13	全学	経済と社会	櫻井 良治	前学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
14	全学	地域と文化	小松 かおり	前学期	火3・4	未定	3人以内	A	9,500円
15	全学	化学Ⅲ(有機化学)	山本 歩	前学期	水1・2	未定	若干名	A	9,500円
16	全学	初修外国語(ドイツ語)入門Ⅱ	エゲンベルグ・トーマス	前学期	水5・6	未定	若干名	A	9,500円
17	全学	初修外国語(ドイツ語)Ⅰ	エゲンベルグ・トーマス	前学期	木1・2	未定	若干名	B	9,500円
18	全学	初修外国語(フランス語)Ⅰ	コルベイ・スティーブ	前学期	木1・2	未定	若干名	B	9,500円
19	全学	物理学Ⅱ(電磁気)	佐藤 信一	前学期	金1・2	未定	若干名	B	9,500円
20	全学	地球科学Ⅰ(基礎A)	北村 晃寿	前学期	金1・2	未定	若干名	A	9,500円
21	全学	ことばの諸相	小町 将之	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
22	全学	地震防災	牛山 素行	前学期	金3・4	未定	若干名	A	9,500円
23	全学	静岡県の防災・減災と原子力	大矢 恭久	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,500円
24	人文社会科学部	経済政策Ⅰ	寺村 泰	前学期	月1・2	未定	若干名	B	9,500円
25	人文社会科学部	世界経済論Ⅰ	安藤 研一	前学期	月1・2	未定	若干名	C	9,500円
26	人文社会科学部	ミクロ経済学Ⅰ	山下 隆之	前学期	月3・4	未定	若干名	A	9,500円
27	人文社会科学部	環境政策Ⅰ	水谷 洋一	前学期	月3・4	未定	若干名	B	9,500円
28	人文社会科学部	環境社会学	平岡 義和	前学期	月3・4	未定	若干名	B	9,500円
29	人文社会科学部	マーケティング	鈴木 拓也	前学期	月7・8	未定	若干名	B	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
30	人文社会科学部	比較言語文化基礎論Ⅰ	大原 志麻	前学期	月7・8	未定	若干名	B	9,500円
31	人文社会科学部	日本語文化基礎講読Ⅲ	小二田 誠二	前学期	月7・8	未定	若干名	B	9,500円
32	人文社会科学部	法哲学	横濱 竜也	前学期	火1・2	未定	若干名	B	9,500円
33	人文社会科学部	日本中世社会史	湯之上 隆	前学期	火5・6	未定	若干名	B	9,500円
34	人文社会科学部	比較文化各論Ⅴ	花方 寿行	前学期	火5・6	未定	若干名	B	9,500円
35	人文社会科学部	人格心理学Ⅰ	田辺 肇	前学期	火5・6	未定	若干名	B	9,500円
36	人文社会科学部	金融論Ⅰ	小倉 将志郎	前学期	火5・6	未定	若干名	B	9,500円
37	人文社会科学部	債権各論	米谷 壽代	前学期	火5・6	未定	若干名	C	9,500円
38	人文社会科学部	ラテン語Ⅰ	田中 伸司	前学期	火7・8	未定	若干名	A	9,500円
39	人文社会科学部	農耕社会論	篠原 和大	前学期	火7・8	未定	若干名	C	9,500円
40	人文社会科学部	日本文学概論Ⅰ	袴田 光康	前学期	火7・8	未定	若干名	B	9,500円
41	人文社会科学部	日本文学史Ⅰ	酒井 英行	前学期	火7・8	未定	若干名	B	9,500円
42	人文社会科学部	日本語学概論Ⅱ	勝山 幸人	前学期	水1・2	未定	若干名	B	9,500円
43	人文社会科学部	発達心理学Ⅰ	畠垣 智恵	前学期	水3・4	未定	若干名	B	9,500円
44	人文社会科学部	ドイツ事情Ⅲ	エゲンベルグ・トーマス	前学期	水3・4	未定	若干名	B・C	9,500円
45	人文社会科学部	社会経済論Ⅰ	遠山 弘徳	前学期	水5・6	未定	若干名	C	9,500円
46	人文社会科学部	哲学の歴史Ⅰ	田中 伸司	前学期	水5・6	未定	若干名	B	9,500円
47	人文社会科学部	地域社会論Ⅱ	長沼 さやか	前学期	水5・6	未定	2～3名	B	9,500円
48	人文社会科学部	考古学概説	山岡 拓也	前学期	水5・6	未定	若干名	B	9,500円
49	人文社会科学部	中国事情	桑島 道夫	前学期	水5・6	未定	若干名	B	9,500円
50	人文社会科学部	アメリカ文学文化各論Ⅱ	レッドフォード・ステイーヴ	前学期	水5・6	未定	若干名	C	9,500円
51	人文社会科学部	臨床心理学Ⅱ	笠井 仁	前学期	水7・8	未定	若干名	B	9,500円
52	人文社会科学部	西洋史概説	藤井 真生	前学期	水9・10	未定	若干名	B	9,500円
53	人文社会科学部	ヨーロッパ近代史	岩井 淳	前学期	水9・10	未定	若干名	C	9,500円
54	人文社会科学部	中国文学史Ⅱ	桑島 道夫	前学期	水9・10	未定	若干名	B	9,500円
55	人文社会科学部	手形小切手法	小林 道生	前学期	木1・2	未定	若干名	C	9,500円
56	人文社会科学部	社会心理学Ⅰ	橋本 剛	前学期	木3・4	未定	若干名	B	9,500円
57	人文社会科学部	英米言語文化基礎論	鈴木 実佳	前学期	木3・4	未定	若干名	A	9,500円
58	人文社会科学部	法学入門	横濱 竜也	前学期	木3・4	未定	若干名	A	9,500円
59	人文社会科学部	地方財政論Ⅰ	川瀬 憲子	前学期	木3・4	未定	若干名	C	9,500円
60	人文社会科学部	英語学各論Ⅰ	大村 光弘	前学期	木3・4	未定	若干名	C	9,500円
61	人文社会科学部	日本文学講読Ⅱ	小二田 誠二	前学期	金1・2	未定	若干名	B	9,500円
62	人文社会科学部	法制史Ⅰ	橋本 誠一	前学期	金1・2	未定	若干名	B	9,500円
63	人文社会科学部	アメリカ文学文化基礎読解Ⅰ	レッドフォード・ステイーヴ	前学期	金3・4	未定	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
64	人文社会科学部	芸術文化思想	上利 博規	前学期	金7・8	未定	3名	B	9,500円
65	人文社会科学部	英語学概論	小町 将之	前学期	金7・8	未定	若干名	B	9,500円
66	人文社会科学部	国際金融論	鳥畑 與一	前学期	金3・4	未定	若干名	B	9,500円
67	人文社会科学部	統計学 I	上藤 一郎	前学期	金5・6	未定	若干名	B	9,500円
68	人文社会科学部	経済統計学	上藤 一郎	前学期	金7・8	未定	若干名	C	9,500円
69	人文社会科学部	会社法	西川 義晃	前学期	月3・4	未定	若干名	C	14,700円
					木3・4	未定			
70	人文社会科学部	行政学	日詰 一幸	前学期	火1・2	未定	若干名	B	14,700円
					水1・2	未定			
71	教育学部	線形代数学基礎(B組)	大田 春外	前学期	月1・2	教G201	若干名	A	9,500円
72	教育学部	代数学I	谷本 龍二	前学期	月9・10	教C309	若干名	B	9,500円
73	教育学部	集合と論理基礎	大田 春外	前学期	火3・4	教G001	若干名	A	9,500円
74	教育学部	微分積分学基礎(A組)	大和田 智義	前学期	火9・10	教G201	若干名	A	9,500円
75	教育学部	幾何学I	大田 春外	前学期	水1・2	教G201	若干名	B	9,500円
76	教育学部	欧米学校史	菅野 文彦	前学期	水5・6	教B111	若干名	B	9,500円
77	教育学部	解析学I	大和田 智義	前学期	水5・6	教G201	若干名	B	9,500円
78	教育学部	書写基礎B	杉崎 哲子	前学期	木1・2(予定)	教A601	若干名	A	9,500円
79	理学部	生化学(2年生用)	天野 豊己	前学期	月1・2	理B212	若干名	B	9,500円
80	理学部	放射線計測・管理学概論	大矢 恭久	前学期	月1・2	理B202	若干名	C	9,500円
81	理学部	統計学	板津 誠一	前学期	月3・4	理B204	若干名	C	9,500円
82	理学部	物理数学 I	松山 晶彦	前学期	月3・4	理B203	若干名	B	9,500円
83	理学部	有機化学Ⅲ	塚田 直史	前学期	月3・4	理B213	若干名	B	9,500円
84	理学部	発生物学 I	徳元 俊伸	前学期	月3・4	理B202	若干名	B	9,500円
85	理学部	植物生理学	粟井 光一郎	前学期	月3・4	理B212	若干名	C	9,500円
86	理学部	生物環境科学概論 I	宗林 留美	前学期	月3・4	理B201	若干名	B	9,500円
87	理学部	多様性生物学	塚越 哲	前学期(前半)	月3・4	共C611	若干名	C	6,800円
88	理学部	幾何学	久村 裕憲	前学期	月5・6	理B204	若干名	C	9,500円
89	理学部	線型代数学Ⅲ	浅芝 秀人	前学期	月7・8	理B204	若干名	C	9,500円
90	理学部	内分泌学	鈴木 雅一	前学期	火1・2	理B203	若干名	C	9,500円
91	理学部	解析学	田中 直樹	前学期	火1・2	理B204	若干名	C	9,500円
92	理学部	熱化学 I	河合 信之輔	前学期	火1・2	理B213	若干名	B	9,500円
93	理学部	層序学	北村 晃寿	前学期	火1・2	理B201	若干名	C	9,500円
94	理学部	放射化学Ⅱ	矢永 誠人	前学期	火1・2	理B202	若干名	C	9,500円
95	理学部	代数学	浅芝 秀人	前学期	火3・4	理B201	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
96	理学部	電磁気学Ⅲ	土屋 麻人	前学期	火3・4	理B203	若干名	C	9,500円
97	理学部	情報生化学	大吉 崇文	前学期	火3・4	理B213	若干名	C	9,500円
98	理学部	地球環境学	加藤 憲二	前学期	火3・4	共C611	若干名	C	9,500円
99	理学部	シミュレーション数理科学Ⅰ	田中 直樹	前学期	火5・6	理B201	若干名	C	9,500円
100	理学部	微分積分学Ⅲ	清水 扇丈	前学期	火5・6	理B204	若干名	C	9,500円
101	理学部	生物多様性科学	粟井 光一郎	前学期	火5・6	理B212	若干名	A	9,500円
102	理学部	地球科学入門Ⅰ	石橋 秀巳	前学期	火5・6	理B202	若干名	A	9,500円
103	理学部	数理論理学	鈴木 信行	前学期	水1・2	理B204	若干名	C	9,500円
104	理学部	地球物理学	生田 領野	前学期	水1・2	理B201	若干名	C	9,500円
105	理学部	物理数学Ⅱ	土屋 麻人	前学期	水1・2	理B203	若干名	C	9,500円
106	理学部	有機化学Ⅰ	山中 正道	前学期	水1・2	理B202	若干名	A	9,500円
107	理学部	基礎生化学	瓜谷 眞裕	前学期	水1・2	理B212	若干名	B	9,500円
108	理学部	有機反応論	小林 健二	前学期	水1・2	理B213	若干名	C	9,500円
109	理学部	電磁気学Ⅰ	松本 正茂	前学期	水3・4	理B203	若干名	B	9,500円
110	理学部	量子化学Ⅱ	関根 理香	前学期	水3・4	理B213	若干名	C	9,500円
111	理学部	溶液化学	加藤 知香	前学期	水3・4	共D2	若干名	B	9,500円
112	理学部	細胞生物学	丑丸 敬史	前学期	水3・4	理B212	若干名	C	9,500円
113	理学部	堆積学	北村 晃寿	前学期 (前半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,800円
114	理学部	地球ダイナミクス概論Ⅰ	森下 祐一	前学期	水3・4	理B201	若干名	B	9,500円
115	理学部	地球環境微生物学	加藤 憲二	前学期 (後半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,800円
116	理学部	集合・位相	横山 美佐子	前学期	水5・6	理B204	若干名	B	9,500円
117	理学部	生物学Ⅰ	丑丸 敬史	前学期	木1・2	理B212	若干名	A	9,500円
118	理学部	線型代数学Ⅰ	久村 裕憲	前学期	木3・4	理B204	若干名	B	9,500円
119	理学部	統計力学Ⅰ	青山 昭五	前学期	木3・4	理B203	若干名	C	9,500円
120	理学部	構造錯体化学	菅野 秀明	前学期	木3・4	理B213	若干名	C	9,500円
121	理学部	植物系統分類学	徳岡 徹	前学期	木3・4	理B212	若干名	C	9,500円
122	理学部	放射線物理学概論	近田 拓未	前学期	木5・6	共B501	若干名	B	9,500円
123	理学部	複素解析学	奥村 善英	前学期	金1・2	理C309	若干名	C	9,500円
124	理学部	量子力学Ⅰ	土屋 麻人	前学期	金1・2	理B203	若干名	C	9,500円
125	理学部	無機化学Ⅱ	近藤 満	前学期	金1・2	理B213	若干名	C	9,500円
126	理学部	分子遺伝学	山内 清志	前学期	金1・2	理B212	若干名	C	9,500円
127	理学部	地球変動学	道林 克禎	前学期	金1・2	理B201	若干名	C	9,500円
128	理学部	量子力学Ⅲ	嘉規 香織	前学期	金3・4	理B203	若干名	C	9,500円
129	理学部	離散数学Ⅰ	保坂 哲也	前学期	金5・6	理B204	若干名	B	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
130	理学部	物理実験学Ⅰ	嶋田 大介	前学期	金5・6	理B203	若干名	B	9,500円
131	理学部	物理実験学Ⅱ	三重野 哲	前学期	金5・6	理B213	若干名	C	9,500円
132	理学部	地球科学入門Ⅱ	鈴木 雄太郎	前学期	金7・8	理B201	若干名	A	9,500円
133	理学部	基礎物理学Ⅰ	溜淵 継博	前学期(前半)	月5・6	理B203	若干名	A	9,500円
					水5・6				
134	理学部	基礎物理学Ⅱ ※1	溜淵 継博	前学期(後半)	月5・6	理B203	若干名	A	9,500円
					水5・6				
135	農学部	植物繁殖学	原田 久	前学期	月1・2	農B205	若干名	B	9,500円
136	農学部	分子遺伝学	本橋 令子	前学期	月1・2	農B201	若干名	B	9,500円
137	農学部	栄養化学	森田 達也	前学期	月3・4	農B207	若干名	B	9,500円
138	農学部	森林土木工学	近藤 恵市	前学期	月3・4	農B203	若干名	B	9,500円
139	農学部	果樹園芸学	向井 啓雄	前学期	月3・4	農B201	若干名	B	9,500円
140	農学部	木質材料学	鈴木 滋彦	前学期	月3・4	農B205	若干名	B	9,500円
141	農学部	基礎生態学	澤田 均	前学期	月3・4	農B201	若干名	B	9,500円
142	農学部	応用微生物学	徳山 真治	前学期	火1・2	農B205	若干名	B	9,500円
143	農学部	生化学概論	村田 健臣	前学期	火1・2	農B208	若干名	A	9,500円
144	農学部	保全生物学	山下 雅幸	前学期	火1・2	農B208	若干名	A	9,500円
145	農学部	育種学	富田 因則	前学期	火5・6	農B201	若干名	B	9,500円
146	農学部	植物バイオサイエンス入門	切岩 祥和	前学期	火5・6	農B201	若干名	A	9,500円
147	農学部	室内環境学	渡邊 拓	前学期	火5・6	農B210	若干名	B	9,500円
148	農学部	測量学	近藤 恵市	前学期	火5・6	農A537	若干名	B	9,500円
149	農学部	人間環境科学論	澤田 均	前学期	火7・8	農B210	若干名	A	9,500円
150	農学部	園芸生産学	向井 啓雄	前学期	火7・8	農B201	若干名	A	9,500円
151	農学部	森林生態管理学	今泉 文寿	前学期	水1・2	農B205	若干名	C	9,500円
152	農学部	山地保全学	逢坂 興宏	前学期	水1・2	農B203	若干名	B	9,500円
153	農学部	細胞生物学	笹浪 知宏	前学期	水1・2	農B208	若干名	B	9,500円
154	農学部	生物工学	朴 龍洙	前学期	水1・2	農B204	若干名	C	9,500円
155	農学部	木質機能科学	安村 基	前学期	水3・4	農B205	若干名	B	9,500円
156	農学部	食品分析化学	河岸 洋和	前学期	水3・4	農B210	若干名	C	9,500円
157	農学部	分析化学	原 正和	前学期	水3・4	農B208	若干名	B	9,500円
158	農学部	木質利用化学	西田 友昭	前学期	水3・4	農B203	若干名	C	9,500円
159	農学部	花卉園芸学	大野 始	前学期	水3・4	農B207	若干名	B	9,500円
160	農学部	基礎微生物学	瀧川 雄一	前学期	水5・6	農B208	若干名	A	9,500円
161	農学部	基礎微生物学	徳山 真治	前学期	水5・6	農B201	若干名	A	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
162	農学部	木材接着学	山田 雅章	前学期	木1・2	農B203	若干名	B	9,500円
163	農学部	収穫後生理学	加藤 雅也	前学期	木1・2	農B201	若干名	B	9,500円
164	農学部	動物生命科学	高坂 哲也	前学期	木3・4	農B210	若干名	B	9,500円
165	農学部	環境微生物学	小川 直人	前学期	木3・4	農B203	若干名	B-C	9,500円
166	農学部	造園学	藤本 征司	前学期	木3・4	農B208	若干名	B	9,500円
167	農学部	材料力学	安村 基	前学期	金1・2	農B203	若干名	B	9,500円
168	農学部	食料経済学	柴垣 裕司	前学期	金1・2	農B201	若干名	A	9,500円
169	農学部	植物栄養学	森田 明雄	前学期	金1・2	農B208	若干名	B	9,500円
170	農学部	生物有機化学1	轟 泰司	前学期	金3・4	農B210	若干名	B	9,500円
171	農学部	樹木生化学	西田 友昭	前学期	金3・4	農B205	若干名	B	9,500円
172	農学部	一般昆虫学	田上 陽介	前学期	金3・4	農B208	若干名	A	9,500円
173	農学部	樹木・組織学 ※2	水永 博己	前学期	金5・6	農B203	若干名	A	9,500円

※1…基礎物理学Ⅱを受講する場合は、基礎物理学Ⅰと併せて受講することが望ましい。

※2…通常の座学講義スタイルと大きく異なりますので、シラバスの注意事項をよく読んでください。

<通年>

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・時限	教室名	受入可能人数	難易度	講習料
174	人文社会科学部	ドイツ言語文化基礎演習Ⅰ	大藪 正彦	通年	月3・4	未定	若干名	B	14,700円
175	人文社会科学部	民法総論	藤巻 梓	通年	水3・4	未定	若干名	A	14,700円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

※演習の難易度は「D」になります。

(D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業))

平成26年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔浜松キャンパス〕 〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
176	全学	生命科学	杉浦 敏文	前学期	火1・2	8-21	若干名	A	9,500円
177	全学	化学の世界	梅本 宏信	前学期	火1・2	総21	若干名	A	9,500円
178	全学	経済と社会	高口 鉄平	前学期	火1・2	情11	若干名	A	9,500円
179	全学	現代の社会	藤井 史朗	前学期	火1・2	3-31	若干名	A	9,500円
180	全学	心理学	坂井 敬子	前学期	火3・4	総24	若干名	B	9,500円
181	全学	ことばと表現	森本 隆子	前学期	火3・4	8-11	若干名	A	9,500円
182	全学	日本国憲法	原田 伸一朗	前学期	火3・4	5-21	若干名	A	9,500円
183	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅱ	田中 柊子	前学期	火5・6	情25	若干名	A	9,500円
184	全学	ことばと表現	田中 柊子	前学期	水3・4	情21	若干名	A	9,500円
185	全学	現代の社会	中 正樹	前学期	水3・4	情11	若干名	A	9,500円
186	全学	離散数学	中谷 広正	前学期	水5・6	情11	若干名	A	9,500円
187	全学	工学基礎化学Ⅰ	平川 和貴	前学期	木1・2	6-22	若干名	A	9,500円
188	全学	エネルギーと環境	大矢 恭久	前学期	金3・4	8-11	若干名	B	9,500円
189	全学	異文化と出会う	許山 秀樹	前学期	金3・4	6-21	若干名	A	9,500円
190	全学	ことば	近藤 真	前学期	金3・4	情24	若干名	B	9,500円
191	全学	浜松市の交通を考える	戸田 三津夫	前学期	金3・4	総31	若干名	A	9,500円
192	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅰ	田中 柊子	前学期	金5・6	情25	若干名	A	9,500円
193	工学部	電気電子材料	喜多 隆介	前学期	月3・4	2-21	若干名	C	9,500円
194	工学部	塑性加工学	早川 邦夫	前学期	火5・6	2-21	若干名	C	9,500円
195	工学部	弾性力学	島村 佳伸	前学期	金7・8	2-11	若干名	C	9,500円
196	情報学部	博物館概論	高松 良幸	前学期	月1・2	情22	若干名	A	9,500円
197	情報学部	コミュニケーション・メディア史	森野 聡子	前学期	月3・4	情24	若干名	B	9,500円
198	情報学部	人間情報処理論	竹内 勇剛	前学期	月5・6	情14	若干名	B	9,500円
199	情報学部	博物館資料論	高松 良幸	前学期	火1・2	情22	若干名	A	9,500円
200	情報学部	メディア・デザイン論	赤尾 晃一	前学期	火3・4	情24	若干名	B	9,500円
201	情報学部	ジェンダー論	笹原 恵	前学期	火9・10	情22	若干名	B	9,500円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2~3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3~4年次対象の授業)

※演習の難易度は「D」になります。

(D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3~4年次対象の授業))

授業科目名	初修外国語（現代韓国語）入門Ⅰ				
担当教員名	南 富鎮 NAM bujin		所属等	人文社会科学部	
			研究室	人文 A 棟 5 2 7	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	韓国語、韓国文化、日韓比較、異文化理解、相互理解、国際化				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語の基礎を勉強して韓国文化への理解を目指します。 ・韓国語は日本語に類似しているため日本語・日本文化への理解も深めます。 ・国際化の大きな時代潮流のなか、相互理解の精神を学びます。 				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語に関する基礎文法を勉強します。 ・言語を通して韓国文化への理解を高めていきます。 ・日本語との比較を通して日本語と日本文化への理解も深めていきます。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国語の紹介 2. 母音の発音 3. 母音の発音 4. 子音の発音 5. 子音の発音 6. 子音と母音の組み合わせ 7. 複母音の発音 8. です、ます的な表現 9. 指示代名詞 10. 助詞 11. 否定文 12. 動詞の連用形 13. 形容詞の連用形 14. 連体形 15. 総復習 				
受講要件	教育学部 1 年・理学部 1 年、農学部 1 年				
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼう一初級』朝日出版社、2006 年。最初の授業時にもう一度お知らせします。				
参考書	とくにありません。				
予習・復習について	その都度教員が指示します。しかし、基本的にはご自分で決めてください。				
成績評価の方法・基準	出席 40%、試験 60%。最初の授業時に詳しく説明します。				
オフィスアワー	最初の授業時にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	難易度 C。 韓国語は日本語にもっとも近い外国語の一つです。その類似性には皆様も驚くでしょう。そのため、日本人学習者にはわりと親しみやすく、簡単に習得できる言語です。ぜひ気楽に挑戦してみてください。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅰ				
担当教員名	安永 愛		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	フランス語の初歩、フランス語の音とリズム、フランス語圏の文化				
授業の目標	フランス語の基礎を身につける。フランス語圏の文化に触れる。				
学習内容	教科書「フランス語ブルー1」に沿い、「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を身につけます。フランス語圏の文化に少しずつ触れていきます。				
授業計画	<p>1. イントロダクション：フランス語はどんな言葉か。フランス語の歴史。フランス語圏について。</p> <p>教科書第0課</p> <p>2. 教科書第1課</p> <p>3. 教科書第2課</p> <p>4. 教科書第3課</p> <p>5. 教科書第4課</p> <p>6. 教科書第5課</p> <p>7. 教科書第6課</p> <p>8. 復習・中間テスト</p> <p>9. 教科書第7課</p> <p>10. 教科書第8課</p> <p>11. 教科書第9課</p> <p>12. 教科書第10課</p> <p>13. 教科書第11課</p> <p>14. 教科書第12課</p> <p>15. 復習・練習問題</p>				
受講要件					
テキスト	朝日出版社「フランス語ブルー1」				
参考書	仏和辞典				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の60点に達しない場合のみ、出席点（1回1点）を加算します。また、中間テストの結果を考慮する場合があります。				

オフィス アワー	初回の授業でお伝えします。
担当教員か らのメッセ ージ	まずは、フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を勉強するのですから、フランス語圏に目を向けてみましょう。

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門Ⅰ				
担当教員名	トーマスエゲンベルク		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期	必修選択区分	—
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード					
授業の目標	<p>キーワード： 実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、ドイツ文学の読書にも挑戦！、文法ではなく、「人」を中心としたワークショップ形式</p> <p>目標： 日常生活に最低必要なドイツ語コミュニケーション能力や読解力を身につけること。学習者がドイツ・スイス・オーストリアにより一属興味を持つようになることを願っています。</p>				
学習内容	<p>このワークショップ形式の授業では4～6人グループを作り、アットホームのような雰囲気の中で聞く、話す、読む、書く技能をバランスよく学びます。言葉の「謎」は学生たちが自分の知恵で解けるように工夫します。推測したり調べたり発見したりすることによって学生が主体的にドイツ語学習の「冒険」に取り組むことができます。易しい文学作品（ポエム、短編、寸劇など）の読書にも挑戦しましょう！</p> <p>補足：もちろん、教師（ファシリテーター）はグループ作業を支援しますが、学習の責任は学生が自ら担うこととなります。</p>				
授業計画	<p>主な内容（前期・後期あわせて）：</p> <p>01 Guten Tag! 挨拶の言葉、紹介、数字20まで、スペル、国と言葉</p> <p>02 Freunde, Kollegen und ich 趣味、約束、曜日、仕事・職業・働く時間、数字20以上、何月、季節</p> <p>03 In der Stadt 場所や建物、物、交通手段、外来語</p> <p>04 Guten Appetit! 食事、食文化、スーパーでの買い物</p> <p>05 Tag für Tag 時間、家族、遅刻、電話</p> <p>06 Zeit mit Freunden 旅行計画、誕生日、招待、レストラン、出来事、イベント</p> <p>07 Kontakte 打ち合わせ、説明、手紙、外国語</p> <p>08 Meine Wohnung 部屋、家具、インテリア、好み、ライフスタイル</p> <p>09 Alles Arbeit? 一日の経過、過去の出来事、就職活動、ブログ</p> <p>10 Kleidung und Mode 服、ファッション、デパート、ベルリン</p> <p>11 Gesund und munter 体、スポーツ、医者・病院、健康</p> <p>12 Ab in den Urlaub! 旅行、ガイドブック、ホテルの予約、クレーム、はがき、お土産</p> <p>その他にビデオ、スライドショー、音楽、ゲームなど</p>				

受講要件	なし
テキスト	必要な学習ツール： <ul style="list-style-type: none"> - 教科書：Netzwerk - Kursbuch A1, Langenscheidt 出版社, ISBN 978-3-468-46800-1 - 独和辞典（電子辞書なら、和独辞典も入っているから、役に立つ時があります） - メディアプレーヤーかスマートフォン
参考書	ドイツの「今」を紹介する情報サイト： www.young-germany.jp 静岡大学のドイツ語： www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jmozono/
予習・復習について	毎週、1時間半程度の宿題（復習・予習・下調べなど）が出ます。丁寧にやれば、スムーズに進みます。
成績評価の方法・基準	授業中のアクティビティ・課題（あわせて20%）、小テスト（30%）、Showtime テスト（20%）、期末テスト（30%）。 但し、3回以上欠席する場合は単位取得不可（2回の遅刻は1回の欠席扱い）。
オフィスアワー	月曜日の昼休み。気楽にご相談に来てください。 授業の質問は電子メールでも結構です： jtegggen@ipc.shizuoka.ac.jp
担当教員からのメッセージ	

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門Ⅰ				
担当教員名	大藪 正彦		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	ドイツ語、ドイツ文化、言語運用能力、多文化理解、文法				
授業の目標	読む・書く・聞く・話すという 4 技能のバランスに配慮して、ドイツ語の基礎的運用能力を身につけることが目的です。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。				
学習内容	基本的には教科書の内容に沿って学習していきます。2 回の授業で 1 課ずつ進めます。各課は、大きく「文法説明」「練習」「補足」の 3 つの部分から成りますが、授業では、個々の項目ごとに練習、小テスト、課題などを織り交ぜながら進めていきます。その際、受講生同士のペア練習も行います。それ以外にも、毎回、さまざまなドイツ事情について紹介します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のオリエンテーション、つづりの読み方と発音 2. 第 1 課 動詞の人称変化 (1) 3. 第 1 課 動詞の人称変化 (2) 4. 第 2 課 名詞の性・数・格 (1) 5. 第 2 課 名詞の性・数・格 (2) 6. 第 3 課 前置詞・接続詞 (1) 7. 第 3 課 前置詞・接続詞 (2) 8. 第 4 課 人称代名詞・再帰代名詞・再帰動詞 (1) 9. 第 4 課 人称代名詞・再帰代名詞・再帰動詞 (2) 10. 第 5 課 冠詞類 (1) 11. 第 5 課 冠詞類 (2) 12. 第 6 課 形容詞の格変化・比較変化 (1) 13. 第 6 課 形容詞の格変化・比較変化 (2) 14. 復習 (1) 15. 復習 (2) 16. 学期末試験 				
受講要件	クラス指定に従って履修してください。				
テキスト	大藪正彦『異文化理解のための初級ドイツ語文法』朝日出版社 (2,400 円＋税)				
参考書	独和辞典は必携です。初回の授業で紹介します。				
予習・復習について	授業 1 回あたり、1 時間・1 時間半の授業外学習が前提です。				
成績評価の方法・基準	期末試験の成績 (80%) と平常点 (20%) をもとに評価します。小テストの成績、課題の提出状況は平常点に含めます。正当な理由なく 5 回以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。				
オフィスアワー	月曜日の昼休み				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	生物と環境				
担当教員名	大野 始		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	花、虫、生態学、遺伝子				
授業の目標	生物は周りの環境との密接なかかわりの中で、その生活を営んでいる。ここでは、その生物と環境および生物と生物の関係についての理解を深める。				
学習内容	4人の教員が、文系の受講者を念頭に、それぞれの専門分野から興味深い話題を選び、オムニバス形式で、やさしく紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、花の話 2. ラン（蘭）の生きざま 3. 花の色の話 4. 虫は身近な生き物 5. 虫の利用 6. 虫の危害 7. 環境と虫の関係 8. 生態学 1. 生態学とはどんな学問か？ 9. 生態学 2. 生物階層(1) 10. 生態学 3. 生物階層(2) 11. 生態学 4. 時間スケール 12. 遺伝子について 13. 遺伝子組換え植物について 14. 葉緑体と光合成について 15. ノーベル賞とデータ捏造事件について <p>分担：大野（3回）、西東（4回）、澤田（4回）、本橋（4回）</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	随時紹介する。				
予習・復習について	復習を中心にし、疑問点などは遠慮なく質問すること。				
成績評価の方法・基準	4人の教員が、その分担回数に応じた持ち点で、小テストの成績や宿題・レポートに基づいて採点し、その合計で評価する。				
オフィスアワー	随時。				
担当教員からのメッセージ	気軽に質問に来て下さい。				

授業科目名	数理の構造				
担当教員名	鈴木 信行		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	いろいろな数、整数、論理的な証明、演繹的推論、微分・積分				
授業の目標	古典的な数学からの話題を通して、数理科学の一面に触れることを目的とする。また、数学を専攻としない学生の素養として、微分積分学や線形代数学の基礎事項にも簡単に触れる。				
学習内容	<p>日常の身近なところにある数学的なもの（数、図形、自然現象の数理など）を題材に、数理科学への橋渡しをしようと思う。また、その過程で現れる様々な論証や証明方法を考察し、数学的なものの考え方や論理的な推論を議論する。</p> <p>高校の数Ⅰ数Ⅱ程度の知識から出発し、諸君とともに、「大学レベルの数学」の見物に出かけたいと思う。</p>				
授業計画	<p>以下の各項目を解説していく予定であるが、学生諸君の理解の状況をみて適宜調節する。また、学生諸君の希望があれば、内容の一部変更の可能性もある。学生諸君と対話型形式をとり、議論に参加を求める場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いろいろな数 2. 整数の話 3. 論証の構造（数理論理学入門） 4. 微分と積分（微分積分学の基本定理） 5. 線形代数学の基礎 				
受講要件	なし。高校1年生くらいの数学（数Ⅰ数Ⅱ程度）の知識は仮定しますが、復習しながら進めます。				
テキスト	なし				
参考書	必要に応じて講義中に指示します。				
予習・復習について	予習復習は古来より効果的な学習法です。この講義では、特に復習に力を入れてください。自宅での自発的かつ積極的な学習なくしては、身に付くものも少ないですよ。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。				
オフィスアワー	最初の講義で伝える。出張・会議によって対応できない場合もあります。アポイントをとってけると確実です。				
担当教員からのメッセージ	<p>数学は「積み上げ」が大事といわれます。しかし、この講義では、再チャレンジが可能なように、いくつかのトピックスを数回ずつ話します。一度解らなくなっても諦めずに出席してください。予習復習は古来より効果的な学習法です。諸君の自宅での自発的かつ積極的な学習、特に復習を前提として講義します。大学の講義ですから、ただ出席して座っているだけで解るようなレベルの内容は講義しません。高校数学の復習ではなく、大学レベルの話をしていきます。「定理や公式を当てはめて練習問題を解く」という受験勉強のようなことは期待しないでください。</p>				

授業科目名	化学の世界				
担当教員名	平井 浩文		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	液体、色、無機、有機、サイズ、環境				
授業の目標	暮らしの中の事象について、高校までに学んだ化学の知識を用いて理解する。				
学習内容	本講義は、パワーポイントを用いて（本ファイルは事前にダウンロード可能）、暮らしの中で起こっている事象を、優しい化学で理解し、暮らしの不思議を解明する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 目で観察される化学（1） 3. 目で観察される化学（2） 4. 身近な色の化学（1） 5. 身近な色の化学（2） 6. 有機と無機の化学（1） 7. 有機と無機の化学（2） 8. 有機と無機の化学（3） 9. モノのサイズの化学（1） 10. モノのサイズの化学（2） 11. 自然を支える化学（1） 12. 自然を支える化学（2） 13. 地球を救う化学（1） 14. 地球を救う化学（2） 15. 地球を救う化学（3） 				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	特になし。				
予習・復習について	予習の必要はなし。「気になる？」ことがあれば、十分復習すること。				
成績評価の方法・基準	ミニレポート、期末試験により評価する。				
オフィスアワー	特に設けない。必要に応じて、メールにて予約してください。				
担当教員からのメッセージ	学校で習った化学は、覚えることが多くて難しかった、という「化学に対する苦手感」を本講義で少しでも解決出来たらと思います。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅰ				
担当教員名	安永 愛		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	フランス語の初歩、フランス語圏の文化				
授業の目標	フランス語の音やリズムに慣れる。フランス語の基礎を身につける。フランス語圏の文化に触れる。				
学習内容	『Elle est gourmande!（新・彼女は食いしん坊!）1』に沿って「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を身につけます。また、フランス語圏に文化的背景にも少しずつ触れ、興味関心を深めていきます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：フランス語はどんな言葉か。フランス語の歴史・フランス語圏について 2. フランス語の音と綴り 3. 教科書第1課 前半 4. 教科書第1課 後半 5. 教科書第2課 前半 6. 教科書第2課 後半 7. 教科書第3課 前半 8. 教科書第3課 後半（中間テスト） 9. 教科書第4課 前半 10. 教科書第4課 後半 11. 教科書第5課 前半 12. 教科書第5課 後半 13. 教科書第6課 前半 14. 教科書第6課 後半 15. まとめと復習 				
受講要件					
テキスト	朝日出版社『Elle est gourmande!（新・彼女は食いしん坊!）1』				
参考書	仏和辞典				
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。発音や聞き取りの能力を高めるため、教科書付属のCDを活用しましょう。				
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の60点に達しない場合のみ、出席点（1回1点）を加点します。また、中間テストの結果を考慮する場合があります。				
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。				
担当教員からのメッセージ	まずは、フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を学ぶのですから、フランス語圏に目を向けてみましょう。				

授業科目名	科学と技術				
担当教員名	野上 啓一郎		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	成長の限界、人口と食糧、気候変動、化石燃料、環境汚染、生物多様性、廃棄物、イノベーション、ライフスタイル、社会システム				
授業の目標	2100 年程度までの地球の状況を、” 人類の持続可能性にとって、どのような危機的事態が起こるかという観点から考える ” 考察力を養います。				
学習内容	気候変動、食糧生産、水不足、生態系破壊、生物種絶滅、公害型の環境汚染、資源枯渇問題、人口動態などについて、科学と技術の視点から考えます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成長の限界- 西暦 2000 年の地球 - 序論 (問題の本質・解決法・予測・原理) - 2. 人口と食糧生産 (I) 3. 人口と食糧生産 (II) 4. 気候変動の影響 (I) - 陸上生態系・農業への影響 - 5. 気候変動の影響 (II) - 海洋生態系・漁業への影響 - 6. 鉱物資源・化石燃料・水資源 7. 環境汚染はどうか - 水俣型、四日市ぜんそく型、カネミ油型、アスベスト - 8. 生物多様性の喪失・崩壊・絶滅 9. 廃棄物 10. 福島原発事故以後の安全と安心 11. イノベーション (I) - エネルギー革命 - 12. イノベーション (II) - 元素革命 - 13. イノベーション (III) - 生物多様性革命 - 14. 成功例とされる社会システム 15. 失敗例とされる社会システム 				
受講要件	環境問題に興味を持っている者が望ましい。				
テキスト	特にテキストは使用せず、随時プリントを配布します。				
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1.気候変動 W.J.バローズ著 松野太郎監訳 シュプリンガー・ジャパン 2003 2.生態系サービスと人類の将来 横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会 オーム社 2007 3.循環型社会を創る エントロピー学会 藤原書店 2003 4.食の危機と農の再生 祖田 修著 三和書籍 2010 5.ヒューマンエコロジーをつくる 野上啓一郎編 共立出版 2010 <p>その他、授業中に紹介します。</p>				
予習・復習に	授業に関連して予習および復習のレポートを課すので、レポートに十分な時間を費やすことが求められます。				

ついて	す。
成績評価の方法・基準	学習に積極的に取り組んだか、教養的基礎事項を理解できたかを評価基準として、記述試験およびレポート提出を勘案して総合的に評価します。
オフィスアワー	afknoga@icloud.com に事前に連絡してください。
担当教員からのメッセージ	ベーコン (F.Bacon)は言った。 「読むことは内容のある人間を作る。」 また、彼は言う。 「書くことは正確な人間を作る。」 教員からの一方的メッセージを受けるだけでなく、配付資料を読み、論評をしよう。思考の型を身につけよう。文章の型を身につけよう。読み書きが学力の基礎であるという、私の授業思想を身をもって理解しよう。

授業科目名	哲学				
担当教員名	竹之内 裕文		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月 5・6
キーワード	哲学カフェ、討議、友愛、愛、勇気、自然、環境、死、幸福				
授業の目標	「哲学カフェ@静岡大学」と題して、哲学カフェスタイルで講義を進める。講義の目標は、1. 自分とは異なった意見に耳を傾ける開かれた態度、2. 自分の考えや思いを言葉にする力、3. 討議テーマについて吟味する省察の姿勢を身につけること、さらに4. 討議テーマとしてとり挙げられる哲学的課題について理解を深めることである。				
学習内容	講義担当者による解題を受けて、受講者は7名程度で1つのグループをつくり、各回のテーマについてグループ討議を行う。各グループの討議内容は、次回の講義でグループ代表者（輪番制を想定している）が報告する。各グループの報告を踏まえて、講義担当者は、さらなる探究のための展望と資料を示す。このようなスタイルで、順次、「友愛」、「愛」、「勇気」、「自然」、「環境」、「死」、「幸福」といったテーマについて共に哲学していく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス（哲学カフェについて、講義の進め方、グループ分け、役割分担、評価方法など） 討議1 「友だち」とはだれのことか？ 討議報告&ミニレクチャー その1 討議2 「人を愛する」とはどういうことか？ 討議報告&ミニレクチャー その2 討議3 「勇気がある」とはどういうことか？ 討議報告&ミニレクチャー その3 討議4 「自然である natural」とはどういうことか？ 討議報告&ミニレクチャー その4 討議5 「環境を守る」とはどういうことか？ 討議報告&ミニレクチャー その5 討議6 「死ぬ」とはどういうことか？ 討議報告&ミニレクチャー その6 討議7 「幸福」とはなにか？ 討議報告&ミニレクチャー その7 				
受講要件	講義の目標として掲げた4つの課題に真剣に取り組み、グループ内の役割分担（司会、書記、発言）を担う用意のあること。				
テキスト	テキストは使用しない。				
参考書	三木清『人生論ノート』（新潮文庫、1978年、978-4101019017、300円）、麻生博之・城戸淳編『哲学の問題群 もういちど考えてみること』（ナカニシヤ出版、2006年、978-4779500381、2520円）、アンドレ・コント＝スポンヴィル『ささやかながら、徳について』（紀伊国屋書店、1999年、978-4314008372、古書734円より）など。その他の参考文献は、講義で提示する。				
予習・復習について	各回の討議テーマについて、事前に自分なりの考えをまとめておく。また討議後も問い続けたうえで、最終試験に臨んでほしい。				
成績評価の方法・基準	成績評価は、主として期末の記述式試験（討議テーマ1～7のうちから1つ選択し、これに回答する）による（60%）が、グループ討議の報告内容（20%）と討議への貢献度（20%）も併せて考量する。				

オフィス アワー	水曜日と金曜日の午後。事前に電話かメールで連絡したうえで来室することが望ましい。
担当教員か らのメッセ ージ	討議を通じた探究は、哲学の醍醐味のひとつです。カフェスタイルで、哲学することの楽しさを存分に味わってください。ただし参加型の講義スタイルをとるため、上の受講要件を満たしていることが不可欠になります。よく考えて選択してください。

授業科目名	生命科学				
担当教員名	塩尻 信義		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	臓器移植、再生医療、万能細胞、癌、遺伝子、DNA、タンパク質、細胞、生命倫理				
授業の目標	最近の生命科学の進歩はめざましい。毎日とっていいほど、新聞紙上には関連記事が掲載されている。この授業では、新聞記事に話題をもとめながら、生命科学の基本的な事柄（遺伝、遺伝子、タンパク質、細胞、臓器、発生など）の理解をめざす。				
学習内容	基本的には高校の理科／生物の知識をもとに、生命科学関係の新聞記事を理解することをめざす。あわせて、一般常識としての生命科学と最近の生命科学の進歩についても理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. わたしたちの体のなりたち（肝臓移植） 3. 再生医学・再生医工学 4. 細胞とは 5. 細胞小器官 6. 生体をつくる物質 7. 細胞増殖のしくみ 8. 癌とは 9. 遺伝の話 10. 遺伝子とは 11. 遺伝子のはたらき 12. 遺伝子治療 13. 発生のしくみと内分泌攪乱物質 14. クローン動物と発生工学 15. まとめ 				
受講要件	特になし。				
テキスト	テキストは指定しないが、次の本のレベルを理解してほしいと考えている。 武村政春他著(2010)「生命科学～身近な話題から学ぶ」実教出版				
参考書	随時紹介する。				
予習・復習について	できるだけ予習復習をしてほしい。				
成績評価の方法・基準	小テスト、レポート、期末テストを基準に成績評価をします。				
オフィスアワー	出張以外は大体研究室にいますので、質問のある方は研究室に来てください。				
担当教員からのメッセージ	ズルをせず、一緒に勉強しましょう。				

授業科目名	心理学				
担当教員名	須藤 智		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード	心理学、こころ				
授業の目標	私たちの生活に密着した学問である心理学の基礎的な知識を習得する。そして、それらの知識を、自らの今後の生活や研究分野にどのように生かせるのかを考えることができるようにする。授業はテキストに準拠し、パワーポイントを使ってそれぞれの内容を具体的に説明する形式をとる（配布資料有）				
学習内容	心理学の研究領域で基礎的な知識について学ぶ。実際に、心理学研究で行われた実験、調査、検査等について体験し、実践的に知識を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.科学としての心理学の歴史と方法論 2.生理心理学 1（脳の機能と役割を考える） 3.生理心理学 2（脳の機能と役割を考える） 4.感覚・知覚 1（外界と心の相互作用を考える） 5.感覚・知覚 2（外界と心の相互作用を考える） 6.学習（学ぶということ） 7.認知 1（知のメカニズムを知る） 8.認知 2（記憶のメカニズムを知る） 9.認知 3（注意とは何か？） 10.発達 1（乳児期から児童期までの発達を知る） 11.発達 2（青年期から死までの発達を知る） 12.性格（性格とは何か？） 13.最新のトピック 1（高齢者の心理） 14.最新のトピック 2 15.まとめ 				
受講要件	特になし				
テキスト	特になし				
参考書	授業で扱う内容は以下の参考書に準じる。予習・復習で利用すること。 兵藤宗吉・緑川晶編著、心の科学—理論から現実社会へ（ナカニシヤ出版）、477950385X（生協で販売予定）				
予習・復習について	予習：参考書（テキスト）を一読してくること。 復習：配布資料、ノートについて、1時間程度読み直しをすること。				
成績評価の方法・基準	学期末レポート+α（エクストラクレジット）で評価を決定する。 学生の受講状況によっては、レポートではなく試験を実施する場合もある。 学期末レポートは、各回の内容の自学自習についても記入することが求められるので、日常的な事前事後学習をしていないと記入することができない。レポートだからといって軽く考えないこと。 ※エクストラクレジット制の導入：指定した心理学の実験、調査に参加した場合、体験学習に参加したと解釈し加点する。制度の詳細については、授業の初回時に説明資料を配付する。				
オフィスアワー	静岡キャンパス 共通 A 棟 5F513 室 火曜日 5,6 限				
担当教員からのメッセージ	授業に関する情報は、以下の URL から取得できる(パソコン : http://www.sutolab.net/class/)。多数の学生の受講が予測されるので、厳密な点数に基づく成績評価を行う予定。また、授業中に最新の授業支援ツールを利用する予定。				

授業科目名	経済と社会				
担当教員名	櫻井 良治		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	現代経済学、ケインズ、景気対策、失業、乗数理論、公共事業				
授業の目標	<p>現代経済の基本であるケインズ理論を中心に学ぶ。ケインズ経済学の基本理論について、景気対策を中心に学ぶ。資本主義社会の重要な経済問題である経済不況化の失業対策について、その対策と問題点について、学ぶ。その他、経済に介入する国家の役割について、学ぶ。特に、社会保障や公共事業等の課題について、現代経済との関連で学ぶ。</p> <p>最近の政府の経済対策であるアベノミックスについては、その方法と成果について、学ぶ。</p> <p>経済学の基礎となる市場経済については、以下のリレー講義テキストの櫻井担当部分で学ぶ。</p> <p>この資料</p>				
学習内容	<p>図表や解説の多い、分かりやすいテキストにそって、経済と社会について論じた主要な部分を学ぶ。経済学は、景気対策、失業対策等を通じて、国民生活を守ることを課題としている。専門用語は難しそうに見えるが、出席すれば、困難は少ない。授業中の残りの時間に質問の時間を設け、質問者は評価ポイントを高める。</p> <p>以下の授業計画は、学生の関心の度合いや経済社会の動向に沿って、教育効果を高めるために、多少の変更がありうる。</p> <p>授業の進展に応じて、授業の関連課題について、学生有志の発表を認める。この場合には、試験代替措置と</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代経済入門の解説 2. アダム・スミス経済学と国家の役割 3. R.A.マスグレイブの国家の役割 4. 景気調整機能 5. 自動安定化機能 (build-in-stabilizer) 6. 裁量的な経済 (財政) 政策 7. ケインズの人その政策 8. ケインズ理論と失業対策、公共投資 9. 乗数理論 10. 赤字公債政策の問題点 11. 資源配分機能 12. 所得再分配政策 13. 景気調整機能 14. 社会保障の役割の増大 15. 年金・医療・介護制度の具体的役割 				
受講要件	教室内の勉強環境を良好に保つため、授業中のおしゃべり、「内職」を厳禁とし、違反者の受講を禁止する。				
テキスト	<p>(必携) 櫻井良治著『コスト大国日本の財源』勁草書房、2005年5月(大幅な値引き販売予定)</p> <p>テキストが品切れの場合には、他のテキストを使用する可能性がある。</p> <p>テキストは絶版となり市販されてないので、教員が初回の授業で購入方法を案内する。</p> <p>リレー講義テキスト『経済と政策』櫻井担当箇所の市場経済入門に関する部分(ダウンロード、または無料で資料配布)</p>				
参考書	<p>その他の分かりやすい普及した入門書(生協で販売していることが多い)</p> <p>授業中に、適宜必要に応じて紹介する予定。</p>				

予習・復習について	週一回の授業ごとに、最低 1 時間以上の予習・復習を要する。病気等で欠席の場合は、必要箇所を読んでおくこと。
成績評価の方法・基準	2 回以上の小テストと授業中の発言内容によって行う。授業中の質問・意見の多さと水準の高さは、特に重要な評価ポイントとなる。 授業内容に即応した個別の専門的な課題での発表を希望する者が居れば、そのできに応じて、高い評価を与える。
オフィスアワー	月曜日 5 時 30 分～6 時
担当教員からのメッセージ	テキストは必ず購入すること。授業中頻繁に使用するので、購入意思のないものは受講しないこと。 県立大との単位互換、科目等履修生の受講は、認める。難易度は A（入門）である。 授業中の質問は評価するが、授業後も受け付ける。授業への意見は、メールでも受け付ける。 連絡先 所在：共通教育 L 棟 413 電話：054-238-4279 メール：jersaku@hss.shizuoka.ac.jp 熱心な受講生を歓迎する。現代経済学は、世の中の動きと密接にかかわっている。そのため、履修にあたって、

授業科目名	地域と文化				
担当教員名	小松 かおり		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	アフリカ、文化、民族、紛争、開発、グローバリゼーション				
授業の目標	テーマは、「混乱と生きる力・現代アフリカの人々の暮らし」である。 アフリカを対象に、現代アフリカの直面する困難な状況と、その背景、その中で暮らす人々の生きる力について学び、グローバリゼーションの時代のアフリカの現状をさまざまな視点から考える。				
学習内容	はじめに、アフリカの生態的・文化的・政治的状況の多様性について学ぶ。その中での人々の暮らしと考え方について紹介したあと、国家経済の破綻、虐殺など、アフリカが直近に直面した問題とその背景について学ぶ。さらに、アフリカ各地の文化的な力の例として、音楽を紹介する。最後に、グローバリゼーションの中でアフリカが置かれた状況とわれわれとの関係について学ぶ。				
授業計画	ガイダンス・アフリカの多様性 アフリカ農村の暮らし アフリカの人間関係 国家経済が破綻するということ ルワンダ虐殺はなぜ起こったか I 何がおこったか ルワンダ虐殺はなぜ起こったか II 歴史的背景と国際社会 紛争と社会の単位 音楽とパワー1 太鼓の力 音楽とパワー2 音楽で抵抗する 音楽とパワー3 路上を歌う グローバリゼーションの中のアフリカ 開発と援助 先住民とグローバリゼーション 熱帯雨林は誰のものか —自然保護と地域住民				
受講要件					
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する。				
予習・復習について	紹介する次回のテーマについて、文献やインターネットで調べること。 また、授業中に興味をもったテーマについて、参考文献を読むこと。				
成績評価の方法・基準	毎回の提出物が 40%、最終テスト（記述式）が 60%。				
オフィスアワー	火曜日 16:00-17:00。できるだけメール（jkkomat■ipc.shizuoka.ac.jp・■を@に変換）で連絡してから来室すること。				
担当教員からのメッセージ	遠い世界の出来事としてではなく、同時代に、日本人も関わることとして学んで欲しい。 授業だけでは足りない点を、参考文献で補足すること。				

授業科目名	化学Ⅲ (有機化学)				
担当教員名	山本 歩		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	水 1・2
キーワード	混成軌道、IUPAC命名法、付加反応、置換反応、脱離反応、ラジカル反応、光学異性体、芳香族、脂肪族、官能基				
授業の目標	混成軌道の知識を基に、分子の構造について理解し、分子の名称と異性現象についても理解を深める。有機合成は簡単な分子から反応を通じて複雑な分子へと変換することである。種々の有機反応の基本をしっかり学ぶ。				
学習内容	我々生命体は有機化合物の集まりであり、また、有機化合物を素材とする種々の物体に取り囲まれて生活している。これらの有機化合物を取り扱うのが有機化学であり、この理解なくして生命現象を理解することはできない。有機化学は量子理論に基づいた構造論と、化学反応を支配する理論によって体系化されている。また、有機化学は物質を取り扱うので、化学全体の基礎となっている。本授業では、有機化合物の結合様式と分子の種類について、また、脂肪族化合物および芳香族化合物の基本骨格とその構造について学び、さらにこれらの化合物の基本原理に基				
授業計画	教科書にそって、以下の項目を解説する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化学の基礎・・・原子の電子配置 2. 化学結合と電子構造・・・共有結合の成り立ち、混成軌道と分子の形 3. 電子の動きと共鳴・・・極性結合と電子の動き、共鳴と酸塩基 4. 構造式と化合物の分類、命名・・・構造式の表記と有機化合物の分類、構造異性体と命名法 5. シス・トランス異性と立体配座・・・結合回転による異性、シクロアルカン 6. キラル炭素と鏡像異性・・・鏡像異性体とその区別、生体分子とキラリティ 7. 有機化学反応の分類と進み方・・・有機化学反応のいろいろ、有機化学反応の進み方 8. アルカンのラジカル反応・・・ラジカル反応のメカニズム 9. ハロアルカンの求核置換反応・・・求核置換反応のメカニズム、反応の競合と脱離反応 10. アルケンの求電子付加反応・・・付加反応のメカニズム、アルキンの反応とハロゲンの付加 11. ベンゼンと芳香族化合物・・・ベンゼンと芳香族化合物、「芳香族性」と多様な化合物 12. ベンゼンの求電子置換反応・・・置換反応のメカニズム、置換基による反応性への影響 13. カルボニル化合物の求核付加反応 <ul style="list-style-type: none"> ・・・求核付加反応のメカニズム、エノラートアニオンとアルドール反応 クライゼン縮合 				
受講要件	化学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい				
テキスト	川端潤著『ビギナーズ 有機化学』第2版 (化学同人)				
参考書	適宜、授業中に紹介する。				
予習・復習について	あらかじめ教科書を読んでもらうこと。講義後、からなず復習をすること。自主的に章末問題を解くこと。				
成績評価の方法・基準	単位の認定と成績の評価は、レポートおよび期末試験の総点で判断する。単位の認定は3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門Ⅱ				
担当教員名	トーマスエゲンベルク		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	水5・6
キーワード					
授業の目標	<p>キーワード： 実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、ドイツ文学の読書にも挑戦！、文法ではなく、「人」を中心としたワークショップ形式</p> <p>目標： 日常生活に最低必要なドイツ語コミュニケーション能力や読解力を身につけること。学習者がドイツ・スイス・オーストリアにより一属興味を持つようになることを願っています。</p>				
学習内容	<p>このワークショップ形式の授業では4～6人グループを作り、アットホームのような雰囲気の中で聞く、話す、読む、書く技能をバランスよく学びます。言葉の「謎」は学生たちが自分の知恵で解けるように工夫します。推測したり調べたり発見したりすることによって学生が主体的にドイツ語学習の「冒険」に取り組むことができます。易しい文学作品（ポエム、短編、寸劇など）の読書にも挑戦しましょう！</p> <p>補足：もちろん、教師（ファシリテーター）はグループ作業を支援しますが、学習の責任は学生が自ら担うこととなります。</p>				
授業計画	<p>主な内容（前期・後期あわせて）：</p> <p>01 Guten Tag! 挨拶の言葉、紹介、数字20まで、スペル、国と言葉</p> <p>02 Freunde, Kollegen und ich 趣味、約束、曜日、仕事・職業・働く時間、数字20以上、何月、季節</p> <p>03 In der Stadt 場所や建物、物、交通手段、外来語</p> <p>04 Guten Appetit! 食事、食文化、スーパーでの買い物</p> <p>05 Tag für Tag 時間、家族、遅刻、電話</p> <p>06 Zeit mit Freunden 旅行計画、誕生日、招待、レストラン、出来事、イベント</p> <p>07 Kontakte 打ち合わせ、説明、手紙、外国語</p> <p>08 Meine Wohnung 部屋、家具、インテリア、好み、ライフスタイル</p> <p>09 Alles Arbeit? 一日の経過、過去の出来事、就職活動、ブログ</p> <p>10 Kleidung und Mode 服、ファッション、デパート、ベルリン</p> <p>11 Gesund und munter 体、スポーツ、医者・病院、健康</p> <p>12 Ab in den Urlaub! 旅行、ガイドブック、ホテルの予約、クレーム、はがき、お土産</p> <p>その他にビデオ、スライドショー、音楽、ゲームなど</p>				

受講要件	なし
テキスト	必要な学習ツール： <ul style="list-style-type: none"> - 教科書：Netzwerk - Kursbuch A1, Langenscheidt 出版社, ISBN 978-3-468-46800-1 - 独和辞典（電子辞書なら、和独辞典も入っているから、役に立つ時があります） - メディアプレーヤーかスマートフォン
参考書	ドイツの「今」を紹介する情報サイト： www.young-germany.jp 静岡大学のドイツ語： www.ipc.shizuoka.ac.jp/~jmozono/
予習・復習について	毎週、1時間半程度の宿題（復習・予習・下調べなど）が出ます。丁寧にやれば、スムーズに進みます。
成績評価の方法・基準	授業中のアクティビティ・課題（あわせて20%）、小テスト（30%）、Showtime テスト（20%）、期末テスト（30%）。 但し、3回以上欠席する場合は単位取得不可（2回の遅刻は1回の欠席扱い）。
オフィスアワー	水曜日の昼休み。お気軽にご相談に来てください。 授業の質問は電子メールでも結構です： jtegggen@ipc.shizuoka.ac.jp
担当教員からのメッセージ	

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）Ⅰ				
担当教員名	トーマスエゲンベルク		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	実践的なドイツ語、中央ヨーロッパの社会や文化、異文化理解				
授業の目標	中級レベルのドイツ語コミュニケーション能力・聴力・読解力を身につけること。				
学習内容	学習者が中央ヨーロッパの文化により一属興味を持つようになることを願っています。				
授業計画	<p>このコースでは小グループを作り、アットホームのような雰囲気の中でドイツ・スイス・オーストリアの人気作家が書いた短編やエッセーなどを読み、それに基づいて様々な話をしながらたくさん表現を覚え、また文法規則を応用できるようにしましょう。異文化理解の楽しさを是非、体験してみてください。</p> <p>”Diplom Deutsch in Japan”（ドイツ語技能検定試験）の3級レベルを目指す学生にもお勧めです。</p>				
受講要件	初級レベルのドイツ語能力				
テキスト	様々				
参考書					
予習・復習について	各授業にあたって1～2時間程度の予習が必要です。				
成績評価の方法・基準	授業中のアクティビティ（50%）、プレゼンテーション（25%）、会話テスト（25%） 注意：3回以上の欠席＝不可（2回の遅刻は1回の欠席扱い）				
オフィスアワー	月・金曜日の昼休み 授業の質問は電子メールでも結構です：jtegggen@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	初修外国語（フランス語）Ⅰ				
担当教員名	コルベイ	所属等			
		研究室			
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期	必修選択区分	—
対象学年		難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	聴解、口頭表現				
授業の目標	様々な日常生活場面に必要な表現の練習を土台に、基礎文法を復習し、聴解・口頭表現能力を向上させる。				
学習内容	フランス語の CD を聴き、聴解タスク（ディクテ）を行い、文法や表現の意味を確認する。モデル会話の音読練習を行い、色々な場面での自然な会話表現に慣れる。フランスの文化について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶と自己紹介 2. On est perdus! 3. Il y a une reduction? 4. Je cherche une jupe a fleurs. 5. Je n'ai plus mal au dos! 6. C'est possible, non? 7. 復習/中間テスト 8. Pourquoi ca ? 9. Papa, sois gentil! 10. Je suis tres gourmande! 11. Tu n'es jamais content! 12. Mais je ne le connais pas! 13. Ca t'a plu? 14. Je peux t'y amener ! 15. DELF A1-A2 /復習 				
受講要件					
テキスト	Claire Renoul, Le francais tricolore: rouge 2, editions asahi, ISBN 978-4-255-35239-8				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席点、授業への参加（20%）、宿題（10%）、中間テスト（35%）、最終テスト（35%）3回以上欠席する場合は単位不可				
オフィスアワー	月曜日の 14 : 30～16 : 00				
担当教員からのメッセージ	恥ずかしがらずに、フランス語で話しましょう！				

授業科目名	物理学Ⅱ（電磁気）				
担当教員名	佐藤 信一	所属等			
		研究室			
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期	必修選択区分	—
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	電荷と電場、電流と磁場、電磁波				
授業の目標	電磁気に関する基本的な概念と法則について学び、電磁気に関する理解を深める。				
学習内容	現代の科学技術の発展に深く関わる電磁気学の基礎について解説する。電荷と電位、電場、磁場などの基本的な概念と、ガウスの法則、アンペールの法則などの電磁気学の諸法則を学び、電磁気現象についての理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電荷とクーロンの法則 2. 電場 3. 電場のガウスの法則 4. 電位 5. キャパシター 6. 誘電体 7. 電流と起電力 8. 電気抵抗とオームの法則 9. 直流回路 10. RC回路 11. 磁石と磁場 12. 電流の作る磁場 13. 電流と荷電粒子に働く磁気力 14. 電磁誘導 15. 電磁波 				
受講要件	物理学 I(力学)を履修していることが望ましい。				
テキスト	「基礎物理学」原康夫著（学術図書出版社）				
参考書	必要に応じて授業中に紹介。				
予習・復習について	予習と復習を必ずすること。				
成績評価の方法・基準	宿題、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	簡単な微分・積分を使用しますが、高校で物理を履修していないことも想定して講義を進めるよう心がけます。				

授業科目名	地球科学 I (基礎 A)				
担当教員名	北村 晃寿		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	金 1・2
キーワード	地球の誕生、生物進化、地球環境、大量絶滅、気候変動、人類の進化、巨大地震、南海トラフ				
授業の目標	地球と生命の歴史を学び、地球上の多くの事象に潜む歴史的背景の重要性を理解する。				
学習内容	温暖化、生物多様性の減少、エネルギー問題などが人類の将来に影を落としている。私たち人類はどこに向かうのだろうか。それを考えるには、人類の歩んできた歴史を知る必要がある。なぜならば、人類の高度な文明は歴史の産物だからだ。そこで、この授業では、46 億年前の惑星「地球」の誕生から、生命の発生と進化、地球表層の環境の変遷、生命と環境の相互作用の歴史を概説する。また、静岡県以南の太平洋沿岸域は、近い将来、南海トラフの大地震の被害を受けることが確実である。この大地震へ備えるためには、過去の地震や津波の実態の理解も必要				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東北地方太平洋沖地震と巨大津波について 2. 化石記録と地層 3. 初期地球の環境と生命の起源 4. 錆びる地球と凍る地球 5. エディアカラ動物群とカンブリア紀の生命大爆発 6. 古生代の生物の進化 7. 古生代後期の生物の進化と絶滅 8. 中生代の古生物ー恐竜ー 9. 中生代末の絶滅事件、哺乳類の繁栄と急激な温暖化事件 10. 気候変動の復元方法 11. 気候変動のメカニズム 12. 氷期-間氷期サイクルの原因、人類の進化 13. 日本列島の島嶼化、最終氷期の環境変動 14. 過去 1 万年間の環境変動 15. 文明と気候変動、地球温暖化問題 				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	毎回の授業でプリントを配布する。				
予習・復習について	毎回の授業で配布するプリントで復習する。適時、レポートを課す。				
成績評価の方法・基準	出席(出席 2/3 以上を評価の対象とする)、授業態度、レポート、試験にて総合的に評価します。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、事前にメールで連絡下さい(アドレス : seakita@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	歴史科学の重要性を理解して欲しい。				

授業科目名	ことばの諸相			
担当教員名	小町 将之		所属等	
			研究室	
分担教員名				
クラス	—	学期	前学期	必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限
キーワード	言語学、言語心理学、社会言語学、生成文法、認知言語学、表象文化論			
授業の目標	ことばは人間に固有の認知能力であり、人間を特徴づける重要な手がかりが隠されているといわれている。この講義では、人間を理解する手がかりとして、ことばのさまざまな側面について検討する。			
学習内容	授業では、ことばと他の要因との関わりを切り口として、各担当者の視点から理論的、また実証的にことばの性質について議論を展開する。			
授業計画	<p>言語学、言語心理学、表象文化論などを専門とする4名の担当者が分担して以下のテーマで講義を行う。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回～第6回 ことばと心・ことばの音声（小町+ゲスト講師2名） 第7回 ことばと身体（田村） 第8回～第9回 ことばとコミュニケーション（田村） 第10回～第11回 ことばと文化（堀内） 第12回～第14回 ことばの表象（コルベイ） 第15回 まとめ</p>			
受講要件	特になし			
テキスト	特になし			
参考書	各講師が必要に応じて紹介する。			
予習・復習について	各担当者の講義では、その担当者による前回の講義内容を理解していることを前提として講義をすすめる。毎週の講義の後で必ず復習をして、各週の講義内容を、その週のうちに理解するように努めること。			
成績評価の方法・基準	学期末レポートによる（1500字×2題）。課題は各授業担当者の担当回に授業中に提示される。そのうち2つを選択し、学期末の所定の時期に所定の方法で提出する。提出されたレポートはそれぞれ50点満点で採点され、その合計点を最終的な成績とする。レポートを期日までに決められた方法で2題分とも提出しない場合には、提出されているものの評価にかかわらず最終評価を「不可」とする。			
オフィスアワー	アポイントメントによる。メールで連絡を取りたい場合、asp.lg@hedc.shizuoka.ac.jp に送ること。			
担当教員からのメッセージ				

授業科目名	地震防災				
担当教員名	牛山 素行		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	地震災害、防災、減災、災害対策、地震予知、危機管理、防災教育				
授業の目標	地震防災はさまざまな分野にまたがる総合科学であり、東海地震の発生が危惧されている静岡県で生活する学生にとってこれを学ぶことは極めて重要である。また、静岡県において警戒すべき災害は東海地震にとどまるものではなく、幅広い視野から災害を考える視点を養うことも重要である。今後、社会の一員として活動していく中で、日々の仕事や日常生活の中に、防災に関する視点を育てるようになることを目標とする。				
学習内容	地震災害をおもな題材とし、地震と災害の発生メカニズム、災害に対する社会の対応など、災害科学について各分野の専門家による講義を通じて総合的に学ぶ。				
授業計画	<p>各回毎に講義担当者が代わり、それぞれの分野の専門家により、講義が行われる。</p> <p>1 2014/4/11 地震学と東海地震の基礎 1 生田領野 静大</p> <p>2 2014/4/18 地震学と東海地震の基礎 2 藤井直之 静大</p> <p>3 2014/4/25 地震予知 長尾年恭 東海大</p> <p>4 2014/5/9 活断層と地震発生長期予測 狩野謙一 静大</p> <p>5 2014/5/16 地震による災害：津波災害 原田賢治 静大</p> <p>6 2014/5/23 地震による災害：土砂災害 土屋智 静大</p> <p>7 2014/5/30 地震による災害：建物災害 安村基 静大</p> <p>8 2014/6/6 地震災害史 武村雅之 名大</p> <p>9 2014/6/13 地震防災行政 岩田孝仁 静岡県庁</p> <p>10 2014/6/20 災害報道 荒川修平 テレビ東京</p> <p>11 2014/6/27 地震災害のリスク認知 村越真 静大</p> <p>12 2014/7/4 災害時の心のケア 小林朋子 静大</p> <p>13 2014/7/11 市民防災 横幕早季</p> <p>14 2014/7/18 災害時の医療 安田清 県立総合病院</p> <p>15 2014/7/25 防災を学ぶ(講義のおわりに) 牛山素行 静大</p> <p>※講師の都合により、講義順序が入れ替えとなる場合がある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	指定しない				
参考書	<p>「地震防災」 里村幹夫 (編著) 学術出版社 2008 年発行</p> <p>購入は義務づけはないが、本講義の担当者が多く参加して執筆している図書であり、副読本として参考になる。</p>				
予習・復習について	予習・復習合わせて週 1 時間程度はテキストや配布資料を読み、不明な点は図書館やネット検索するなどして自分で調べてほしい。				
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義の最後に小レポートを出題し、それを採点する。欠席の場合その回は 0 点となる。講義時間中に特に指示があった場合を除き、小レポートの後日提出は認めない。 ・小レポートの提出回数が、10 回以上の者を成績評価の対象とする。期末試験は実施しない。最後にレポートの点数を合計し、評価を決める。評価は全体の得点分布をみて判断する。 ・欠席時の講義内容については、欠席者自身で情報収集すること。 ・講義期間終了後に、レポート出題などによって不合格者に対するいわゆる「救済措置」をとることはない。 				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	本学防災総合センターが企画している講義である。多様なバックグラウンドを持つ、学内外の専門家による講義を直接聞くことができる貴重な機会であり、本学ならではのユニークな構成となっている。是非この機会を生かして欲しい。				

授業科目名	静岡県の防災・減災と原子力				
担当教員名	大矢 恭久		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	防災・減災、地域と原子力、長期的なエネルギー問題				
授業の目標	静岡県は東海地震想定域に位置しているとともに、中部電力浜岡原子力発電所を有している。そのため、長期的なエネルギー問題や原子力の在り方について「みんなで考える」機会を持つと共に、防災・減災（特に原子力防災・減災）の在り方について理解を深め、原子力の在り方について学生自らの問題として理解し、考えることのできる学生の育成をめざす。				
学習内容	静岡県の減災・防災の取り組みや原子力・放射線への理解を高めると共に、原子力防災・減災の取り組みや長期的なエネルギー問題における原子力の在り方について「みんなで考える」そして「みんなで理解する」科目である。グループワークを通して、自分の問題として原子力や防災・減災について考えてみる。中部電力、静岡県、静岡新聞社の担当者を招聘してそれぞれの機関での防災対策についても解説してもらいます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 社会合意形成とは（グループワークを通して） 3. 放射線と放射能 4. 津波災害についての基礎 5. 浜岡原子力発電所と安全対策 6. 静岡県の原子力防災・減災体制 7. 静岡市の緊急時支援体制 8. 報道と原子力防災 9. 防災・減災教育 10. 原子力災害からの復興 <ol style="list-style-type: none"> 11. 目で見える放射線とその防護（1） 12. 目で見える放射線とその防護（2） 13. 議論することとその方法 14. 専門家と市民とのコミュニケーションの方法論 15. まとめ <p>講義の順番は前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	静岡県の防災・減災と原子力（静岡学術出版）当日配布します。				
参考書	なし				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習をおこなうこと。				
成績評価の方法・基準	講義中に小レポート、討論での発表内容および期末のレポートを総合的に評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	静岡県の原子力の在り方、原子力防災・減災の在り方についてみんなで考えてみませんか？				

授業科目名	世界経済論 I				
担当教員名	安藤 研一		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	月 1・2
キーワード	世界経済、国家、貿易、外国為替、為替相場、国際資本移動、直接投資				
授業の目標	世界経済の多様な項目に関する理論の初歩を学ぶ。簡単な四則演算，図表を用い，高度な数学を使うことはしない。				
学習内容	世界経済の基礎単位である国家の経済学的基础の考察から始め，国際貿易，外国為替，資本・労働移動などをを中心に，世界経済の理論について学ぶ。				
授業計画	<p>概ね以下のようなテーマを取り上げながら，世界経済に関する理論の理解を深めるようにする。その際，理論と具体的現実の関係に留意しながら授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資本主義経済の特徴と世界経済。 2. 世界経済と国家。 3. 国際貿易の利益と課題。 4. 外国為替の役割と意義。 5. 国際生産要素移動の原因と意義。 6. 直接投資の利益と課題。 7. 国際労働力移動の原因と特殊性 8. 現代世界経済の問題。 				
受講要件	経済学についての初歩的理論を修得していることを前提に講義を進めるので，ミクロ経済学，マクロ経済学，政治経済学などを修得していることが望ましい。				
テキスト	特に，指定しない。毎回の授業に合わせたレジメ・資料については，学務情報システムに随時アップする。				
参考書	特に，指定しない。				
予習・復習について	学務情報システムにアップされたレジメ，資料を各自でダウンロードして活用すること。それと合わせて，新聞・テレビなどのニュースをフォローし，現在の世界経済でどのようなことが起きているのか，ということに関心を持ちながら授業に出席することが必要である。				
成績評価の方法・基準	出席は取らない。中間試験を課し，学期末試験の結果と合算の上で成績を評価する。中間試験，学期末試験では，論理的思考表現能力についてみる。単純な選択式の問題などは出さず，ある程度の記事を書くことを求める。				
オフィスアワー	水曜日 17:30～18:30				
担当教員からのメッセージ	世界には多様な国，社会があり，そこから多くのことを学ぶことが出来ると同時に，国際経済関係が日本経済や我々の生活に大きな変更，修正を迫るものでもあります。そのような問題意識を持ちながら本講義を受講することを求めます。				

授業科目名	ミクロ経済学 I				
担当教員名	山下 隆之		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月 3・4
キーワード	経済理論、ミクロ経済学、生産者行動				
授業の目標	まずは基礎的な理論を正確に理解することを期待しています。市場の運行法則に関するスタンダードな考え方を身につけて、現代の経済事象を分析する力を養ってもらいたいと考えています。				
学習内容	<p>経済についての基本的な原理や考え方には、マルクス経済学と近代経済学の2つの系統があります。近代経済学は、さらに、国民所得や国民総生産など経済全体の運動を巨視的に捉える「マクロ経済学」と、経済活動の主体である個々の消費者や企業の活動から経済の法則性を考える「ミクロ経済学」の二本立てで構成されています。</p> <p>近代経済学の性格についての全体的な展望をした後に、ミクロ経済学の概要を講義します。消費者（家計）と生産者（企業）の動きから完全競争市場のメカニズムを学習します。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 近代経済学の歴史 3. 市場均衡と価格決定 4. 市場の安定性 5. 需用・供給の変動 6. 弾力性とその応用 7. 社会的余剰 8. 市場と課税 9. 市場と価格規制 10. 生産者行動：生産関数 11. 生産者行動：費用関数 12. 生産者行動：利潤最大化 13. 生産者行動：損益分岐点 14. 独占企業の行動 15. 独占市場の諸問題 				
受講要件	科目の性格上、高校数学Ⅱ（微分法）に関する知識が必要です。「経済数学Ⅰ」を履修すると効果的です。				
テキスト	N.グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編 第3版』東洋経済新報社、2013年。				
参考書	必要に応じて紹介します。				
予習・復習について	予習…テキストを読むこと。 復習…ノートを整理すること。				
成績評価の方法・基準	学期末の筆記試験（100%）				
オフィスアワー	木曜日 12:00-12:45（通年）、研究室（L312）				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A） <p>ミクロ経済学の題材は、TVや新聞の経済ニュースはもちろんのこと、小説、スポーツ、音楽など、私たちの身の回りに沢山見出すことができます。そうした事例を紹介しながら、授業を展開したいと考えています。</p>				

います。

授業科目名	環境政策 I				
担当教員名	水谷 洋一		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	地球温暖化、京都議定書、コペンハーゲン合意、ダーバン・プラットフォーム、京都議定書目標達成計画				
授業の目標	主要な環境問題をめぐる国内外の政策動向とそれへの経済学をベースとした政策的アプローチのエッセンスを修得することを目標とする。				
学習内容	地球温暖化問題を取り上げ、国内外の対策の動向、各分野での様々な政策・措置につき講義する。				
授業計画	(1) 地球温暖化の科学的基礎①・② (2) 地球温暖化防止に向けての国際的な取り組み①～③ (3) 日本における地球温暖化対策の展開①～③ (4) EU とドイツ地球温暖化対策の動向①・②				
受講要件	とくになし				
テキスト	なし（適宜、レジュメや資料プリント等を配布する）				
参考書	授業でそのつど紹介する。				
予習・復習について	1 回の授業につき、予習・復習合わせて週 1 時間程度レジュメ、資料プリントを読めば十分である。宿題を出す場合がある。				
成績評価の方法・基準	講義前半が終わったところで中間試験を、全講義終了後に最終試験を実施し、その点数の合計により成績評価を行う。				
オフィスアワー	火曜日 11・12 時限を予定。事前連絡が必要。 連絡先メールアドレス（jeymizu@ipc.shizuoka.ac.jp ）				
担当教員からのメッセージ	講義に計画的に遅刻したり、講義中におしゃべりをする等、受講態度がわるい者には単位を認定しないことがあるので、気をつけること。				

授業科目名	環境社会学				
担当教員名	平岡 義和		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月3・4
キーワード	環境リスク、社会的構築、政治的決定、リスクのフレーミング				
授業の目標	環境問題を「環境リスク」という観点から分析するとどのようなことが浮かび上がるのか、環境問題の社会的な読み解き方を身につける。				
学習内容	環境問題は、環境の変化、破壊という自然現象であるだけでなく、人間社会との関係の中で生じる社会現象でもある。そこで、この授業では、環境リスクの社会学という観点から、環境問題をとらえ、そのリスクとしての社会的特徴と、問題への対応をめぐる社会的構図を明らかにしたい。				
授業計画	<p>以下のようなテーマについて、数回ずつ講義する予定である。なお、問題の理解を深めるために、できるだけビデオ教材を使用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境リスクとは？ 2. 水俣病という環境リスク 3. 環境リスクの国際的転移 4. メディアの環境リスクのフレーミング 5. 原発というリスク 6. 微量化学物質の環境リスク 7. 地球温暖化という環境リスク 				
受講要件	特になし。初学者にもわかるように講義する。				
テキスト	使用しない。				
参考書	毎回配布するプリントで提示する。				
予習・復習について	取り上げる環境問題に関する基礎知識を身につけておいたり、参考文献を読んだりすると、授業の理解が深まる。また、日頃から新聞、テレビの環境問題に関する記事、ニュース、番組などを見るように心がけてほしい。				
成績評価の方法・基準	基本的には、中間レポートと期末試験の成績で評価する。				
オフィスアワー	初回授業時に提示する。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (B)				

授業科目名	マーケティング				
担当教員名	鈴木 拓也		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 7・8
キーワード	マーケティングの 4P、戦略計画、顧客価値・顧客満足、マーケティングの STP、消費者行動、ブランド・エクイティ、リレーションシップ				
授業の目標	マーケティングの基本を一通り理解し、それを使って考える能力を養う。				
学習内容	<p>マーケティングは、企業が自社の商品が売れるようになるために行う諸活動（製品開発、ブランド付け、価格付け、広告など）の総称です。現代ビジネスにおいてマーケティングは必要不可欠のものとなっています。特に多くの業界が成熟している現在においては、いかにして他社との違いを明確にし、それを消費者に認識させるのか、価格をいくらにしたら消費者に受け入れられるのか、最適な販路は何かといったマーケティングの課題が企業の戦略において大きな比重を占めるようになってきています。</p> <p>そこでこの授業では、主に消費財メーカーのマーケティ</p>				
授業計画	<p>下記のテーマを主に取り上げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マーケティングとは何か 2. マーケティング計画の立案と実行 3. 市場、市場需要、マーケティング環境の理解 4. 顧客価値、顧客満足、顧客ロイヤルティの創造 5. 消費者行動分析 6. 市場セグメントとターゲットの明確化 7. ポジショニング 8. ブランド・エクイティの創出 				
受講要件	経営学Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。				
テキスト	<p>フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー（著）、恩藏直人（監修）、月谷真紀（訳）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』、ピアソン・エデュケーション、2008年。</p> <p>※補足資料を適宜、配布します。</p> <p>※後期「企業経済特論Ⅱ」でも同じ教科書を使用します。</p>				
参考書	授業中に適宜紹介します。				
予習・復習について	予習：テキストの該当部分を読んでくる。 復習：教科書、ノート、配布資料を見直す。				
成績評価の方法・基準	定期試験 70%、ミニレポート 30%。1回あたり 1,200 字程度（A4 で 1 枚程度）のレポートを授業中に 3 回課す予定です。				
オフィスアワー	毎週火曜日の 16:00～17:00、18:00～19:00				
担当教員からのメッセージ	<p>1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認めない） 3. 難易度（B）</p> <p>後期「企業経済特論Ⅱ」はこの授業の続きです。マーケティングの基本全般をしっかりと身に付けたい人は、後期の「企業経済特論Ⅱ」を必ず履修して下さい。</p>				

授業科目名	比較言語文化基礎論 I				
担当教員名	大原 志麻		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 7・8
キーワード	比較文化、スペイン文学、スペイン史、地域研究、セルバンテス、黄金世紀、著作権				
授業の目標	聖書に続くベストセラー『ドン・キホーテ』の著者で黄金世紀の代表的な作家セルバンテスの評価について、古代、中世の作品の模倣や著作権の問題、フランスやイギリスとの比較を絡めて理解する。				
学習内容	スペイン黄金世紀文学やその背景、歴史的・文学史的経緯を理解することで、ナショナリズムの歴史的経緯や著作権への知見と問題意識を深める。				
授業計画	シェイクスピアと比肩される国民文学の担い手セルバンテスの多くの作品の中から、最もナショナリズム色の強い『ヌマンシア』を取り上げる。ヌマンシアは地域ナショナリズムの非常に強いスペイン中部の地域である。『ヌマンシア』の背景を理解するために、今日のヌマンシアの人々へのインタビュー、ローマ時代のアッピアヌスの記述、ガリアやブリタンニアとイベロ族のナショナリズム表象を比較する。またセルバンテスはそのオリジナリティーが高く評価されているが、実際には最も低い評価を受けている 15 世紀文学の模倣をしている。これまでの黄金世紀文学と 15 世紀文学を比較することにより、過度の評価を受けているセルバンテスについて再評価を試み、その背景となる著作権の変遷についても学んでいく。				
受講要件	特になし。				
テキスト	授業中に紹介します。				
参考書	授業中に紹介します。				
予習・復習について	授業中に紹介する関連文献を読んで知見を深め、レポートに反映させて下さい。				
成績評価の方法・基準	出席情報と毎回のミニレポート、期末のレポートから総合的に判断します。				
オフィスアワー	水 3・4 限教員研究室にて。				
担当教員からのメッセージ	広大なスペイン語圏のシンボリックな国民文学の担い手である、セルバンテス文学について、古代から中世後期、そして黄金世紀へと長い時間軸から俯瞰し、比較文化をしながら広く理解していきましょう。				

授業科目名	日本語文化基礎講読Ⅲ				
担当教員名	小二田 誠二		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月7・8
キーワード	日本、江戸時代、恋愛、性、遊女、好色、手管、洒落本、人情本、事件、不義				
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代に書かれた様々な書物から、当時の恋愛・結婚・性生活を巡る言説を取り出し、フィクションとしての色恋と現実の有り様について検証してみようと思っている。 受講者は資料の批判的な読みの方法と技術を学ぶことになるはず。 				
学習内容	<p>“江戸の色恋を読む”</p> <p>古今東西を問わず、“文学”の源泉としての“恋愛”は非常に重要なテーマであるが、特に日本近世にあつては、家や婚姻と、恋愛ないし性生活との間に距離があるようにみえる。</p> <p>文芸に現れる色恋と現実のずれを検証する作業は困難が予想されるが、可能な限り集めて読んでみようと思っている。</p>				
授業計画	<p>以下、大まかな流れを示すが、この通りに進行することを意味する物では無い。</p> <p>*また、期間中に一度、ゲストによるお話を伺う予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> はじめに 恋愛・結婚・性……フィクションとノンフィクション 元禄以前にあったこと 西鶴・芭蕉・近松 浮世草子のなかで 洒落本の“作法” 人情本の恋愛 怪談の女性と家 小説を離れて 幾つかの事件をよむ 遊廓・春画・艶本 まとめ 				
受講要件	<ul style="list-style-type: none"> 古文が抵抗なく読めること。 性的表現が抵抗なく読めること。 				
テキスト	印刷して配布します。				
参考書	随時紹介しますが、キーワードで探して色々読んでおいてください。				
予習・復習について	<ul style="list-style-type: none"> 配付資料は必ず読んで、「音読できる・意見を言える」状態で授業に臨むこと。 授業で気になった箇所は必ず調べて報告すること。 				
成績評価の方法・基準	<p>最終レポートのみ。</p> <p>ただし、随時調べたことなどの報告で加点します。</p> <p>詳細は第一回で。</p>				
オフィスアワー	<p>空き時間随時。なるべく予約してください。</p> <p>時間割はネットで公開します。</p>				
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 初めてのテーマなので手探りで、着地点もよく判りません。 皆さんと一緒に考えていく授業になる予定です。 積極的な発言を期待します。 				

授業科目名	法哲学				
担当教員名	横濱 竜也		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火1・2
キーワード	正義、相対主義、エゴイズム、功利主義、平等主義、リベタリアニズム、共同体主義、国家、市場、共同体				
授業の目標	法のあるべき姿を示す正義とは何か。この問いに応答する正義の一般理論を網羅的に概説する。授業を通じて、正義を論じる上で踏まえるべき思考枠組みを習得し、この問いに応答する現代正義論の様々な立場（特に英米政治哲学上の諸議論）とその限界について知悉することにより、受講者が法改革のための基本的ヴィジョンを自力で描けるようになること、また規範理論を構想する哲学的思考に慣れ親しむことが目標である。				
学習内容	授業計画に示す通り。				
授業計画	<p>* 以下の授業計画は暫定的なものであり、授業の進展の仕方により変更の可能性がある。また各項目の括弧内の内容は講義で扱うトピックの一部にとどまる。詳細な計画は初回授業の際に示す。</p> <p>(1) イントロダクション：我々は何故正義を論じるべきか(諦観的平和主義と正戦論)</p> <p>(2) 正義とは何か(相対主義とその克服/正義の普遍主義的性格とエゴイズム)</p> <p>(3) 功利主義(功利主義の内容とそれぞれへの批判：帰結主義、総和主義、最大化主義/行為功利主義と規則功利主義、快楽説と選好充足説、総和最大化と平均最大化)</p> <p>(4) ロールズの正義論とその批判(ロールズの正義の二原理の導出/主要なロールズ批判/平等主義的正义論の諸構想：資源平等論、潜在能力平等論/卓越主義的リベラリズム)</p> <p>(5) リベタリアニズム(自然権論リベタリアニズム、帰結主義的リベタリアニズム、契約論的リベタリアニズム/リベタリアニズムの現代政治思想上の重要性)</p> <p>(6) 共同体論(共同体論の諸特徴、リベラル・コミュニタリアン論争、普遍主義の限界)</p> <p>(7) グローバルな正義(国内的正義と世界正義の相克とその克服、ナショナリズムに関わる諸問題)</p>				
受講要件					
テキスト	初回授業の前に、講義案を授業支援システムより配布する。受講者は各自プリントアウトして教室に持参すること。また各回の授業の前に該当範囲を読んでくること。				
参考書	毎回の授業で詳細な文献リストを配布するが、ひとまず以下を挙げておきたい。W・キムリッカ『新版 現代政治理論』(日本経済評論社、2005年)、伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』(名古屋大学出版会、2008年)、井上達夫『共生の作法—会話としての正義』(創文社、1986年)、平井亮輔編『正義—現代社会の公共哲学を求めて』(嵯峨野書院、2004年)。				
予習・復習について	予習：事前に配布する講義案と資料を読み、毎回の授業のポイントを理解する。 復習：授業内容について曖昧なところがないか確認し、疑問点は授業の際やオフィスアワーで質問し解決する。また授業中に挙げる文献を読み、理解を深める。				
成績評価の方法・基準	受講人数、授業の進捗などにより変更がありうるが、学期中に授業内容の理解度を確かめる課題レポート(20点満点)を提出してもらうことを予定している。このレポートの成績と学期末試験の成績(80点満点)で成績の評価を行う。なお、学期末試験は事前に出題する問題の候補を公表する。				
オフィスアワー	金曜日14時25分～15時55分(複数の学生が重複することを避けるため、訪問する際は事前に予約してください)。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(○) 2. 科目等履修生(○) 3. 難易度(B) 現代正義論の主要な議論とその正当化根拠の検討、それらの議論がどのような思想的、社会的背景を有しており、現代日本政治においてどのような意味を持つか、など多くの内容を半期の講義で一通り扱うので、講義の進捗はかなり速くなります。難しく感じたり、わからないところがでてきた場合には、ためらわずに積極的に質問してください。				

授業科目名	日本中世社会史				
担当教員名	湯之上 隆		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火5・6
キーワード	六十六部聖、地域社会、大般若経、神仏分離、国学				
授業の目標	地域社会における歴史の記憶を掘り起こし、よみがえらせる作業を通して、歴史に学ぶ意義を考える。				
学習内容	「地域社会の記憶を読み解く」をテーマとして、中世を中心に、地域における人びとのいのちの営みを明らかにし、残された課題を解決するための道しるべを探る。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史のなかの災害の記憶 2. 源頼朝と六十六部聖 3. 六十六部聖の世紀 4. 伊豆国国柱命神社の大般若経 5. 中世静岡の宗教世界（1）（2） 6. 喜捨する人びと一駿河国心岳寺祠堂帳 7. 遠江国久野氏の成立とその歴史的環境 8. 韮山代官江川氏と日蓮宗 9. 中世後期の秋葉山と徳川家康 10. 名物瀬戸の染飯をめぐる文化史 11. 神仏分離と廃仏毀釈 12. 国学者小杉楹邨の幕末維新（1）（2） 13. まとめ 				
受講要件	人間の歴史や生き方に関心をもち、考えようとする姿勢をもってほしい。				
テキスト	各回の講義のたびに、説明のための関連資料を配布する。				
参考書	講義のなかで、説明する。				
予習・復習について	わからないことがあれば、質問して理解を深めるとともに、人名・用語等については、日本史辞典で調べておくと、さらにわかりやすくなるはずである。授業で取り上げる時代の人間の生き方は過去のものであるのではなく、現代に通ずるものをもっているのであり、時には「もし自分であれば」と置き換えて考えてみることも、興味をもつことにつながる。				
成績評価の方法・基準	出席、質問用紙（出欠確認を兼ねる）、期末の筆記試験を総合して評価する。特別な理由なく欠席が3分の1を超えた場合は、受験資格を認めない。				
オフィスアワー	水5・6時限、研究室（人文A319）にて。jstyuno@ipc.shizuoka.ac.jp 他の時間も、メールで連絡すれば可能。				
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 隔年開講。毎回講義の終わりに、質問用紙に記入してもらい、複数のもや重要な質問には次回初めに答える。これは受講者もより良い授業を作る一員であることを認識してもらおうとともに、さらに質問力の向上を目指して、授業改善に資するねらいももっている。 特別な理由以外による遅刻入室と、携帯電話等の使用は認めない。				

授業科目名	比較文化各論V				
担当教員名	花方 寿行		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火5・6
キーワード	文化、文学、絵画、視覚、思想、欧米				
授業の目標	主としてルネサンス以降のヨーロッパ近現代における思想・文化・芸術上の重要な変化を、視覚表象とその意味の変化を通して理解する。				
学習内容	近現代ヨーロッパにおいて思考・認識の象徴として用いられてきた視覚表象がいかにルネサンスから現代にかけてその位置づけを変化させてきたかを、視覚や窓、船といったメタファーの変化を通して理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。視覚の重要性について。 2. ルネサンスにおける幾何学的遠近法の成立。幾何学的遠近法による図と実際の視覚とのずれ。「見えるとおりに描く」ことの困難さと、視覚的表象と視覚の違い。 3. ルネサンス以前における視覚表象とその特徴。プラトンの比喻における洞窟からギリシャ・ローマの視覚表象、中世への変化とその帰結としての幾何学的遠近法。 4. 幾何学的遠近法の世界観。言葉とイメージ、物の一致とプラトンのイデア観の新プラトン主義的読替。 5. ルネサンス後期からマニエリスム時代における視覚描写への傾倒と、そこから生ずる矛盾。写実的な描写と寓意画、綺想主義への分離。 6. マニエリスム時代における言葉・イメージと「現実」の分離。シェイクスピア、セルバンテスにおける分離と衝突のモチーフ。 7. バロック時代における分離の進行。宗教改革におけるイメージの否定と対抗宗教改革における視覚的スペクタクルの重視。ロヨラ、ホップス、カルデロン。 8. 視覚の位置づけを逆転して再成立する「新古典主義」。デカルト、カントの観念論。理性と視覚のアナロジー。ダランベール。 9. 視覚描写のカatalog化と、視覚による支配の一般化。絶対王政とフランス式風景庭園。サドと理性信仰の暴走。視覚の生理学的側面への関心と視覚の時間化。ゲーテ。 10. ロマン主義から自然主義へ——主観的視覚描写と客観的視覚描写の隆盛と、そこから生ずる矛盾。外界と内面のシンクロニシティと、内面の外界への投影。ユゴー、ゾラ。 11. 光学的視覚意識の定着と、網膜・外界双方向への投影。見ることによる支配への欲求と、見られることに対する恐怖の拡大。「見てしまうもの」「窓から覗くもの」。ホフマン、フロイト、コナン・ドイル、ワイルド。 12. 「見るもの」の疎外。部屋と船、窓の位置づけの逆転と変化。ホフマン、ヴェルヌ、パロウハ、センデール、サバト、ラファエル前派。 13. 視覚の機械化と主体の解体。写真、映画、シュルレアリスム、コラージュ。 14. 視覚で捉えられる世界のヴァーチャル化と、世界そのものの閉塞化。ギブソン『ニューロマンサー』、『マトリックス』。 15. まとめ。 				
受講要件	特にないが、文化的な事柄について積極的な関心をもっていることが望ましい。				
テキスト	プリントを配布。				

参考書	各回のプリントなどで紹介。
予習・復習について	事前の予習は必要ないが、授業で扱われた作品について積極的に探して接するようにしてほしい。
成績評価の方法・基準	出席・授業態度 60%、レポート 40%。
オフィスアワー	月曜 7・8 限、花方研究室(人文 A 棟 515)にて。
担当教員からのメッセージ	

授業科目名	人格心理学 I				
担当教員名	田辺 肇		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	人間理解、性格、人格、自己、自由意志、主体性、アイデンティティ、個人差、パーソナリティ				
授業の目標	心理学の知識と探究方法の学びを通じて、さまざまな条件における多様な人間のあり方について深く理解しつつ、他者への肯定的な関心と共生への志向を高め、協働的対人関係能力の基礎を培う。				
学習内容	<p>心理学の諸理論を参照しながら性格・人格・パーソナリティ・自由意志・主体性・自己・アイデンティティなどの人間理解の鍵概念を検討する。？</p> <p>「個人差・異常・個性」「主体性・自由意志・意図・無意識」「自己・同一性・アイデンティティ」「個人の人格としての一貫性と統合性」「本当の自分とありのままの自分」「人を理解するとはどういうことか」など、心理学的な人間理解における根本問題をさまざまな理論を参照しながら考える。本講義は、これらの問いに答えを与えるものではなく、人間理解の難しさと考え方を学び、その中で、日常当</p>				
授業計画	<p>(1) 「個性」研究の歴史と方法 (榎1章2章/若1章2章)</p> <p>(2) 自己論と物語論 (自伝的記憶・自己概念・アイデンティティ) (榎3章4章7章)</p> <p>(3) 分類と測定・契約論と本質論・構成概念と実体概念・観測問題・個性記述と法則定立 (榎5章/若3章)</p> <p>(4) 遺伝と環境・行動遺伝学 (榎6章/若6章)</p> <p>(5) 古典的動因論 (力動論・学習論・認知論) と状況論 (榎8章/若4章)</p> <p>(6) 認知論と現代の相互作用論 (榎9章/若5章)</p> <p>(7) 状態論 (意識と自我状態)・主体性 (自由意志と決定論)・“多重人格” — 人格の一貫性と統合性・“本当の私” とは誰か</p> <p>(8) 物語としての自己 — 自伝的記憶の構成的側面・自己語りと自分史・対話的自己 (Hermans)・統合と自己組織化</p> <p>(9) 社会と文化 — 対人関係と役割演技 (ロールプレイング)・自己の社会的構成・記憶と事実の社会的確証過程・“パーソン” とは何か (理性と法の支配)</p> <p>(A) 他者理解と「性格」観 — 血液型性格診断・差別と偏見・暗黙の性格理論 (ITP)・中心特性・基本的帰属錯誤・ステレオタイプ・そもそもそれは“性格”なのか</p> <p>(B) 自己理解と共感的理解 — 現象的自己・「理解」体験・傾聴・共にいること・生成過程にある自己・関係的自己</p>				
受講要件	心理学概論と基礎心理学の履修を前提として授業を進める。未修者は補足学習が不可欠。難易度 B (やや専門的な内容)				
テキスト	榎本・安藤・堀毛 (著)『パーソナリティ心理学—人間科学、自然科学、社会科学のクロスロード』(有斐閣アルマ)¥ 1,995 ISBN-13: 978-4641123779				
参考書	<p>若林明雄 (著)『パーソナリティとは何か—その概念と理論』培風館 ISBN-13: 978-4563057107</p> <p>小塩真司 (著)『はじめて学ぶパーソナリティ心理学—個性をめぐる冒険』ミネルヴァ書房 ISBN-13: 978-4623056842</p> <p>榎本博明 (著)『<私>の心理学的探求—物語としての自己の視点から—』有斐閣</p> <p>W・ギャラハー (著)『なぜ私は「私」なのか—パーソナリティの探求—』河出書房新社</p>				
予習・復習について	<p>教科書・参考書や事典等を活用して予習・復習が必要。シラバス中「榎」はテキストを「若」は参考書の1冊目を意味する。「若」が難しい人は、小塩を参照のこと。受講生による質問や意見提出を取り入れて授業を進める。</p> <p>毎回ごく簡単なレポート提出 (学情の機能を利用) を求めるので、それをペースメーカーにしながら予習、復習をして下さい。講義の他にも、参考文献、事典、テレビ、インターネットの関連サイトなど、広くアンテナを張り、多くの情報を参照し、自らそれらを整理し統合することが大切です。疑問点を整理し予習・復習を充分に行っ</p>				
成績評価の方法・基準	<p>毎回の予習復習の小レポート (1 授業のポイントを掴み、2 積極的に自己学習を行い、3 疑問点を明確化して提出し授業の活性化に貢献したか。4 点×15 回=60 点) と最終レポート (授業のまとめ20 点と自由課題20 点) により評価する。</p> <p>？初回から学情を使ってレポート提出していただきますので、学情の「授業サポート」機能の使い方を確認しておいてください。</p>				
オフィスアワー	水曜 7・8 限				

担当教員からのメッセージ	社会学科高校公民教員免許選択科目だが，教職科目との関連も深いので公民以外の免許課程を履修している学生も歓迎する。また，人間理解の基本問題にも触れるので，人間学的な関心を持っている学生が履修するのも良いだろう。心理学的な考え方を知りたい人には是非履修して頂いて，ぜひ一緒に納得感のある理解までたどり着きたいと思っています。
--------------	--

授業科目名	金融論 I				
担当教員名	小倉 将志郎		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	貨幣（通貨）、金融制度、金融業務、金融理論、金融政策				
授業の目標	金融論の取り扱う諸テーマに関わる総合的理解				
学習内容	金融論は資金の流れにまつわる諸事象を学ぶ学問分野ですが、一般的に、いくつかのテーマによって構成されています。たとえば、「金融理論」、「金融制度論」、「金融業務論」、「金融政策論」などです。本金融論ではそれらのテーマに即して総合的に学習します。なお金融論 I は銀行市場を主に取り扱い、金融論 II は証券市場を主に扱います。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 貨幣の形態と機能 3. マネーストックとその変動 4. 預金通貨の供給と信用創造 5. 内国為替制度と手形交換制度 6. 金融システムとは何か—直接金融と間接金融— 7. 銀行の融資業務 8. 銀行の預金業務 9. 短期金融市場 10. 金融政策と銀行① 11. 金融政策と銀行② 12. 銀行業とリスク 13. 銀行業の規制・監督 14. 中小企業金融とは何か 15. 講義内容の総復習（予備日） 				
受講要件					
テキスト	使用する場合は初回ガイダンス時に指定します。				
参考書	随時指定していきます。				
予習・復習について	特に復習を十分に行ってください。				
成績評価の方法・基準	期末試験に基づきます。中間課題（小レポートまたは小テスト）を課したり、出欠を取ったりした場合は加点対象とします。				
オフィスアワー	月曜 15-16 時を予定（変更可能性あり）				
担当教員からのメッセージ	質問には講義終了後にまとめてお答えするので、講義中の質問はご遠慮ください。				

授業科目名	債権各論				
担当教員名	米谷 壽代		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火 5・6
キーワード	債権各論、契約法、契約各論、売買、賃貸借、請負				
授業の目標	本講義では、債権総論Ⅰ・Ⅱを履修していることを前提として、契約各論を中心に授業を行う。具体的な事例を取り上げながら、当該分野の基本的な知識を身につけ、学説ならびに判例の理解を深める。さらに、法改正に関する議論にも、随時、着目をしておくこととする。				
学習内容	債権各論についての基本的な理解と現在の理論状況を学修する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. (契約総論の復習) 契約の基礎 3. (契約総論の復習) 契約の成立・効力・解除 4. 売買 (1) 予約、手付、買戻し 5. 売買 (2) 売買の効力 6. 贈与・使用貸借 7. 消費貸借 8. 前半のまとめと小テスト 9. 賃貸借 (1) 10. 賃貸借 (2) 11. 賃貸借 (3) 12. 請負 (1) 13. 請負 (2) 14. 委任・雇用 15. 寄託・組合・和解 				
受講要件	債権総論Ⅰ・債権総論Ⅱを履修していることが望ましい。				
テキスト	初回、授業時に指示する。				
参考書	<p>中田ほか編『民法判例百選Ⅱ 債権 (第6版)』(有斐閣)</p> <p>潮見佳男『債権各論Ⅰ 契約法、事務管理、不当利得』(新世社)</p>				
予習・復習について	債権総論Ⅱの後半で扱った契約総論の知識を前提に講義を進めるため、事前に復習をしておくことが望ましい。講義内容が広範囲にわたり、今後の法改正にも影響してくる領域であるため、たえず、最新の判例、新聞・雑誌等の情報についても、日頃から、意識をして、目を通す習慣をつけてもらいたい。講義の内容については、必ず毎回予習・復習をすること。(講義に関連する項目の新聞記事の切り抜き、判例メモの作				

	成など、課題を出すこともある。)
成績評価の方法・基準	原則として、学期末に実施する筆記試験による。 学期の途中に小テスト、レポートを課す場合もある。
オフィスアワー	初回授業時に指定する。
担当教員からのメッセージ	教科書、判例集は必ず購入すること。また、六法は最新のものを購入し、毎回、授業時に持参すること。

授業科目名	ラテン語 I				
担当教員名	田中 伸司		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火 7・8
キーワード	西洋古典、人文学、ラテン語文法				
授業の目標	ラテン語の基本的な変化をマスターする。				
学習内容	西欧の人文学の基礎であるラテン語を理解するために、その文法を学びます。ラテン語についての講義ではなく、ラテン語の練習問題を解くことが中心です。毎回当たります。				
授業計画	<p>初回はイントロダクションおよび講義：「I 文字と発音」です。</p> <p>*初回にはプリントを配布しますが、受講を決めている方は教科書をあらかじめ購入して、持参してください。</p> <p>二回目以降は、教科書の練習問題を解き、そしてつぎの文法事項の課へと進むこととなります。</p> <p>授業で使用する教科書は51課からなっています。「ラテン語 I」では1コマにつき2課、教科書のおおよそ半分を目標に進みます。授業は、この教科書の練習問題を解くことが中心になります。</p> <p>最初のうちは語形変化の暗記が必須です。というのも、ラテン語にはいくつかの変化のセットしかなく、それらを使いまわすことになるからです。初期の暗記を怠ると、後半につらい思いをします。</p> <p>*辞書は必要ありません。</p>				
受講要件	とくにありません。まじめに予習をして授業に出席する人であればどなたでも。				
テキスト	田中利光『ラテン語初歩 改訂版』（岩波書店）				
参考書	大西英文『はじめてのラテン語』（講談社現代新書）				
予習・復習について	予習が不可欠です。前半の語形変化の暗記がうまくゆけば、それほどつらくありません。				
成績評価の方法・基準	授業の平常点（課題・練習問題への回答：60%）と学期末の授業で行う試験（40%）で評価します。試験は、テキストノート類の持ち込みは認めませんが、ごく基本的な事柄を問うものを予定しています。合格点に達しなかった学生については、レポートを課すことがあります。				
オフィスアワー	火曜 5・6 時限（12:45-14:15）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（A） 教科書は高価です（生協の10%引きなどを利用して購入してください。）が、教科書として高く評価されています。この教科書をきちんとやり終えたときには、ラテン語原文を十分読み解く力がついているはずですよ。				

授業科目名	農耕社会論				
担当教員名	篠原 和大		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火7・8
キーワード	農耕、環境、弥生時代、初期農耕、畑作、灌漑水田耕作、登呂遺跡				
授業の目標	静岡清水平野における農耕文化の形成過程を具体的に理解することを通して、考古学的な文化の復元、歴史の叙述の方法について理解する。				
学習内容	日本列島に農耕がどのように生成したかは、以降の社会基盤にかかわる極めて重要な問題である。本講義では、世界と列島の農耕起源論について解説した後、静岡清水平野を題材として、考古学による具体的な調査事例を取り上げながら、新たに明らかになった農耕の形成過程を詳細に検討していきたい。登呂遺跡の形成に至る弥生農耕の成立展開過程が列島農耕形成の一つのモデルとなるのであり、身近な地域の考古学的調査から列島史の描写にいたる過程があることを学習していただきたい。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農耕起源論の現在 <ul style="list-style-type: none"> ・農耕の起源をめぐる議論の展開 ・地球環境の変化と農耕の開始 ・初期農耕論の現在 2. 日本農耕形成論の現在 <ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代の植物利用と生業論 ・弥生文化と農耕の重層的展開 ・東海地域における農耕文化の形成 3. 手越向山遺跡の調査と初期農耕 <ul style="list-style-type: none"> ・手越向山遺跡の調査 ・瀬名遺跡下層生産関連遺構と初期水稲耕作 ・条痕文期の農耕文化の実態 4. 有東遺跡の形成と本格的灌漑水田農耕の成立 <ul style="list-style-type: none"> ・有東遺跡の形成と灌漑水田農耕文化複合 ・瀬名遺跡の層位的変遷と灌漑水田農耕技術の展開 ・方形周溝墓論 ・静岡清水平野における弥生集落の展開 5. 登呂遺跡の成立と農業基盤社会の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・登呂遺跡の再発掘調査 ・登呂型の開発と農業基盤－寒冷化と鉄－ ・大型建物祭祀論 <p>まとめ</p>				
受講要件	考古学の最も専門的な講義です。考古学概論 I・II を履修していることを前提に授業を進めます。				
テキスト	なし。毎回プリントを配布します。				
参考書	講義内容に関連する文献は適宜紹介します。				
予習・復習について	毎回配布するプリントには講義の前後にもよく目を通しておいてください。講義で紹介する基本文献についても入手して読解することを薦めます。				
成績評価の方法・基準	学期末のレポート（80%）と出席状況（20%）により評価します。				
オフィスアワー	水曜3・4限（10時20分～11時50分）。要連絡、連絡先（jsksino@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	考古学のもっとも専門的な授業ですので、履修に際してその点を注意してください。遺構・遺物の実測図や写真を示しながら講義をおこなっていきますので、その見方が分かる必要があります。 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C）				

授業科目名	日本文学概論 I				
担当教員名	袴田 光康		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 7・8
キーワード	素材、モデル、歴史、虚構、読者、プレテクスト				
授業の目標	文学作品において素材とはどのような意味を持つのか、具体的な作品の分析を通して作品と素材の関係を理解し、虚構の表現の論理について考える力を養うことを目的とする。				
学習内容	文学作品は、さまざまな素材を基にしながら独自の表現を生成している。作者自身の体験、周囲の出来事、書物による知識、先行する作品、歴史上の人物や事件など、作者を取り巻くあらゆるものが素材となりえる。しかし、その一方で、私たち読者には何を何処まで素材としているのか厳密に判断することが難しいのも事実である。テクスト—素材(プレテクスト)—読者の三者は、果たしてどのような関係にあるのであろうか。この授業では、『源氏物語』を中心とした古典作品を取り上げ、出典や歴史的モデルを具体的に分析しながら、虚構の表現の論理につい				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「作者の死」について 2. 素材としてのプレテクスト 3. テキスト論と古注釈 4. 『源氏物語』の物語論 5. 『源氏物語』の読まれ方①(出典) 6. 『源氏物語』の読まれ方②(準拠) 7. 『源氏物語』と「長恨歌」①(内容説明) 8. 『源氏物語』と「長恨歌」②(引用の方法) 9. 『源氏物語』と「長恨歌」③(主題化の方法) 10. 『源氏物語』と歴史①(時代設定) 11. 『源氏物語』と歴史②(複数のモデル) 12. 史実離れと虚構の論理 13. 『栄花物語』の史実と虚構 14. 作者と素材と読者 15. まとめ 				
受講要件	特になし。				
テキスト	テキスト・資料は授業で配布する。				
参考書	<p>三谷邦明著、『物語文学の方法 I・II』、有精堂出版、1989年</p> <p>日向一雅著、『源氏物語の準拠と話型』、至文堂、1999年</p> <p>日向一雅編、『源氏物語と古注釈』、青簡舎、2014年</p>				
予習・復習について	小テストを行うので、講義内容をノート等にまとめよく、復習をして授業に臨むこと。				
成績評価の方法・基準	小テスト 30%、レポート 50%、授業への取り組み 20%				

オフィス アワー	金曜日 12:00～13:00(ただし、質問・相談は随時受け付けるので、メール等で事前連絡のこと)
担当教員か らのメッセ ージ	古典が好きな人も、そうでない人も、考えるヒントになると思います。

授業科目名	日本文学史 I				
担当教員名	酒井 英行		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火7・8
キーワード	連想力、着眼力、愛すること				
授業の目標	日本近代・現代文学における《100パーセントの女の子》の系譜を理解する。				
学習内容	夏目漱石と村上春樹が描いた《100パーセントの女の子》を主軸にして、泉鏡花、谷崎潤一郎、川端康成などが描いた《100パーセントの女の子》の系譜をたどる。				
授業計画	<p>日本の近代・現代の男性作家たちが、自分の《100パーセントの女の子》をどのように描いてきたか？男性にとっての《100パーセントの女の子》像には、女性への夢と時代の女性規範が刻印されているはずである。</p> <p>A、《100パーセントの女の子》の規定 B、夏目漱石『趣味の遺伝』、『永日小品』、『明暗』など C、村上春樹『4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて』、『国境の南、太陽の西』など d、泉鏡花『外科室』 e、谷崎潤一郎『春琴抄』など f、川端康成『眠れる美女』</p>				
受講要件					
テキスト	プリントで配布する。				
参考書					
予習・復習について	配布されたプリントを熟読しておくこと。				
成績評価の方法・基準	授業時の4回の小テストの平均点で評価する。				
オフィスアワー	火曜日3・4(10時20分～11時50分)				
担当教員からのメッセージ	1、県立大学単位互換(認めない) 2、科目等履修生(認めない) 3、難易度(b)				

授業科目名	日本語学概論Ⅱ				
担当教員名	勝山 幸人		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	日本語学、国語学、音韻、文字、日本語教育、いろはうた、五十音図、漢字、仮名				
授業の目標	日本語における音韻と文字について学ぶ。				
学習内容	中一種免(国語)、高一種免(国語)、及び日本語教育能力検定試験の受験資格を取得する人は、必須科目となります。ただし、「日本語学概論Ⅰ」とあわせて4単位が必要となるので、注意してください。				
授業計画	<p>日本語学概論Ⅱでは、おもに日本語の音韻と文字について学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界四大文明と文字の発生というテーマから、言語における文字の役割と発達について学びます。とくに、中国における漢字の誕生と、漢字に対抗して周辺アジア諸国で作られた民族文字、及び我が国の万葉仮名をはじめとする仮名の発明から分化のプロセスのところは、かなり深く突っ込んで学習します。 2. 文字と文体のかかわり、という観点から、奈良時代の記紀歌謡から近代の言文一致まで、歴史的に通り眺めてみることにします。 3. 万葉仮名の研究によって推定される上代の母音組織をはじめ、ハ行子音の変遷、ア行の「え」とヤ行の「え」、「お」と「を」の統合、撥音・促音・幼音、オ列長音など、日本語の音韻を歴史的に辿ります。あわせて、音韻が仮名を使って表記する原理原則についても学習します。 4. なお時間があれば、日本語のアクセント史にも及びたいと思います。 				
受講要件	現3・4年生、及び再履修のための科目です。2年生は、日本語学概論Ⅰを履修してから受講してください。				
テキスト	『日本語学要説』(ひつじ書房 1900円+税)の p.117-p.207 をテキストとします。				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席(遅刻を含む)+筆記試験				
オフィスアワー	水曜日 16:00-17:00				
担当教員からのメッセージ	はじめて学ぶ人にもよくわかるように、丁寧に説明します。ただ、語学ですから、一回でも休むと後がまるでわからなくなってしまいます。毎回きちんと出られる自信のない人は、はじめから履修しないでください。				

授業科目名	発達心理学 I				
担当教員名	島垣 智恵		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード					
授業の目標					
学習内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> <h1 style="margin: 0;">校正中</h1> </div>				
授業計画					
受講要件					
テキスト					
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準					
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	ドイツ事情Ⅲ				
担当教員名	トーマスエゲンベルク		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期	必修選択区分	—
対象学年		難易度	B・C	曜日・時限	水3・4
キーワード					
授業の目標	Beschäftigung mit aktuellen Themen in Deutschland, Österreich und der Schweiz.				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> - Lektüre und Diskussion von deutschsprachigen Zeitungsartikeln, Reportagen, Essays etc. - Das Handwerkszeug lernen, um eine solide Hausarbeit zu schreiben - Präsentationstechniken 				
授業計画	<p>Viele Japanerinnen und Japaner denken bei Deutschland immer nur an dieselben Dinge: Würste, Bier, Hitler. Bei der Schweiz, unvermeidlich, an Heidi oder die sogenannte Neutralität, und zu Österreich fällt manchen gar nichts mehr ein außer vielleicht Sachertorte ... Schade, denn es gibt so viel mehr zu entdecken!</p> <p>In diesem Kurs beschäftigen wir uns mit verschiedenen Themen der Gegenwart wie auch der Vergangenheit, vor allem aus den Bereichen Gesellschaft und Kultur. Quellen sind das Internet, Zeitungen und Zeitschriften - und natürlich Bücher (was nicht mehr so selbstverständlich ist, wie es scheint).</p> <p>Vorgehen:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Projektgruppen erarbeiten ihr frei gewähltes Thema (Textlektüre, Recherche, Thesenpapier) 2. Präsentation und Diskussion 3. Hausarbeit 				
受講要件	Deutsch-Level mindestens A2 sowie Neugier!				
テキスト					
参考書					
予習・復習について	Der Kurs findet in Form von Projektarbeit, Einzel- oder Gruppenpräsentationen sowie Diskussionen statt. Weitere Details werden in der ersten Stunde bekanntgegeben.				
成績評価の方法・基準	Engagierte Teilnahme, Präsentation, Hausarbeit (zu gleichen Teilen)				
オフィスアワー	授業に関する質問は電子メールでも結構です: jtegggen@ipc.shizuoka.ac.jp オフィスアワー: 金曜日 12.00~12.45				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	社会経済論 I				
担当教員名	遠山 弘徳		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	水 5・6
キーワード	資本主義、制度、企業				
授業の目標	「企業」に焦点を置き、資本主義という経済システム、およびその多様性への制度経済学的アプローチを学習し理解することを目的とします。				
学習内容	本講義は次の3つの点を理解することを目標とします。1.資本主義という経済システムの基本構造（授業内容2～6）、2.対立を抱えた企業モデル（7～14）、3.現代資本主義の多様性およびその制度的構図（13～15）、以上3点を理解することを目標とします。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト、授業方法、評価方法、および学習方法の解説 2. 社会経済学と比較制度：テキスト「序章」 3. 市場と資本（1）：テキスト第1章「資本主義経済システムの基本的構造」 4. 市場と資本（2）：テキスト第1章「市場の働き」、「市場の規律づけ」 5. 市場と資本（3）：テキスト第1章「抗争的交換」、「条件付きの契約更新戦略」 6. 市場と資本（4）：テキスト第1章「労働抽出曲線」 7. 企業（1）：テキスト第7章「新古典派経済学の企業像」 8. 企業（2）：テキスト第7章「政治的構造としての企業1」 9. 企業（3）：テキスト第7章「政治的構造としての企業2」 10. 企業（4）：テキスト第7章「最適賃金の決定」 11. 企業（5）：テキスト第7章「寡占企業と労働組合の交渉1」 12. 企業（6）：テキスト第7章「寡占企業と労働組合の交渉2」 13. 企業（7）：テキスト第7章「企業と制度1」 14. 企業（8）：テキスト第7章「企業と制度2」 15. 企業（7）：テキスト第7章「2つの市場経済」 				
受講要件	特にありません。				
テキスト	宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹著『入門社会経済学（第2版）』ナカニシヤ書店				
参考書	ホール・ソスキス『資本主義の多様性』ナカニシヤ書店				
予習・復習について	講義の範囲について、事前にテキストを一読しておくことが望まれます。				
成績評価の方法・基準	期末試験（100%）によって評価します。				
オフィスアワー	第1回めの授業のさいにお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	講義はパワーポイントを使用して進めます。ファイルは提供しませんので、毎回ノートを取ることが大切となります。解説にあたってはグラフを多用しますが、数学（微分・積分、行列）は利用しません。				

授業科目名	哲学の歴史 I				
担当教員名	田中 伸司		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード	哲学史、真理、倫理				
授業の目標	古代ギリシアから中世スコラ学へと至る哲学史を通じて、哲学に関する基本的な概念を身につける。				
学習内容	古代ギリシアから古代ローマそして西欧中世における哲学を概観します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：哲学史とアルケー 2. ギリシア哲学の端緒：パルメニデスと「アキレスとカメ」 3. パルメニデスの衝撃を受けて：ピュタゴラス、エンペドクレス、デモクリトス 4. プラトン（1）：「ソクラテス」と対話 5. プラトン（2）：イデアへ 6. プラトン（3）：イデア論再考 7. アリストテレス（1）：真理を探究するための道具 8. アリストテレス（2）：存在論と自然学 9. アリストテレス（3）：形而上学と魂論 10. アリストテレス（4）：倫理学と政治学 11. ストア派 12. ストア派に対して：懐疑主義とエピクロス派、そしてその後の展開 13. ローマ帝政期の哲学：新プラトン主義からアウグスティヌスへ 14. 中世哲学展望：スコラ 15. まとめ 				
受講要件	人間学概論および哲学概論を履修していること。				
テキスト	テキストは定めません。プリントを配布します。				
参考書	中央公論新社の『哲学の歴史』シリーズ、とくに第一巻から三巻は参考になると思います。				
予習・復習について	授業内での小テストは各回授業の初めに行います。復習をしましょう。レポートに向けては、じぶんで、きちんとしたノートを作成することが有益です。関心のある思想については、片っ端から図書館で本を借りて読んでください。				
成績評価の方法・基準	授業内での小テスト（60%：毎回の授業の最初に行います）と学期末のレポート（40%）で評価します。				
オフィスアワー	火曜 5・6 時限（12:45-14:15）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 哲学は暗記物ではありません。唯一の正しい理解を目指すのではなく、（何らかの意味で）有益な理解を目指してください。				

授業科目名	地域社会論Ⅱ				
担当教員名	長沼 さやか		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	文化人類学、地域研究、異文化理解				
授業の目標	①文化人類学で地域社会を読み解く際、どのようなテーマで分析することができるかを具体例から学び、論理的思考力、問題発見力、課題解決力を養う。②異文化にまなざしを向けることで、多様な人間社会について深く理解し、多文化共生について考える。				
学習内容	文化人類学は異文化にまなざしを向ける学問である。異文化は外国のみならず、私たちの身近にも存在する。本講ではそうした身近な異文化にまなざしを向けながら、周縁から地域社会を読み解くことの意義を論じる。また、各回のテーマに即して文化人類学的な視点や分析方法についても講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フィールドワークと文化相対主義 3. 近代国家と私たち 4. 民族とは何か 5. ネーションとエスニシティ 6. ジェンダーとセクシュアリティ 7. 家族と結婚 8. 親族 9. 観光と文化 10. 観光と地域開発 11. ポストコロニアル 12. グローバリゼーション、越境 13. 医療 14. 老い 15. まとめ 				
受講要件	文化人類学に興味をもつ学生の受講を歓迎する。				
テキスト	なし				
参考書	<p>山下晋司編（2005）『文化人類学入門—古典と現代をつなぐ20のモデル—』弘文堂。</p> <p>日本文化人類学会編（2009）『文化人類学事典』丸善出版社。</p>				
予習・復習について	普段から多様な物事の見方ができるよう感覚を磨き、そこからの発見をリアクションペーパーなどに活かしてほしい。				
成績評価の方法・基準	毎回のリアクションペーパー(40%)+期末試験(60%)				
オフィスアワー	木曜日 11:50～12:50 事前にメール連絡してから来室すること。jsnagan☆ipc.shizuoka.ac.jp (☆→@)				

担当教員からのメッセージ	平成 23 年度以前入学の学生は、「社会人類学Ⅱ」に単位を読み替える。 1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）
--------------	--

授業科目名	考古学概説				
担当教員名	山岡 拓也、篠原 和大		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード	旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代				
授業の目標	旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代などの各時期がどのような時代で、どのような研究が行われているのか学ぶことをとおして、日本列島で展開されている考古学研究の概要を理解する。				
学習内容	この講義では、食糧を獲得する狩猟採集の社会であった旧石器時代・縄文時代と食糧を生産する農耕社会であった弥生時代・古墳時代に分けて、日本列島で行われている考古学研究について解説する。具体的には、旧石器時代・縄文時代と弥生時代・古墳時代それぞれの時代背景や概要について解説した後に、各時代で行われている事例研究を紹介する。				
授業計画	<p>I 旧石器時代・縄文時代の概要 ①時代背景 ②日本列島の旧石器時代の概要 ③縄文時代の概要</p> <p>II 日本列島における旧石器時代の研究 ①日本列島の旧石器時代の資料と研究の特性 ②旧石器時代における編年研究 ③旧石器時代の生業</p> <p>III 縄文時代の研究 ①縄文時代の資料と研究の特性 ②縄文時代における編年研究 ③縄文時代の生業</p> <p>IV 弥生時代・古墳時代の概要 ①時代背景 ②弥生時代の概要 ③古墳時代の概要</p> <p>V 弥生時代の研究 ①世界と日本の農耕起源 ②弥生土器の編年研究 ③水稻耕作文化と初期農耕社会の特質</p> <p>VI 古墳時代の研究 ①権力と政治組織の発生の考え方 ②古墳研究の分析視角 ③古墳時代の生産と流通</p>				
受講要件	考古学概論を履修している程度の基礎知識があることを前提に講義を進めます。				
テキスト	特になし。プリントを配布しながら授業を進めます。				
参考書	必要な参考文献については適宜指示します。				
予習・復習について	資料（プリント）の多くは事前に配布します。ものを対象とする学問ですから、ノートだけではなく具体的なイメージを持つことが重要です。				
成績評価の方法・基準	授業への参加状況（コメントペーパー・小テストなど）と期末の筆記試験とで評価します。				
オフィスアワー	山岡：水曜 3・4 限（10 時 20 分～11 時 50 分）。要連絡、連絡先（j t yamao@ipc.shizuoka.ac.jp）。 篠原：水曜 3・4 限（10 時 20 分～11 時 50 分）。要連絡、連絡先（j s k sino@ipc.shizuoka.ac.jp）。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認めます） 2. 科目等履修生（認めます） 3. 難易度（B）				

授業科目名	中国事情				
担当教員名	桑島 道夫		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 5・6
キーワード	現代中国の社会と文化、歴史的背景				
授業の目標	中国を理解するための基礎的知識・背景の習得。				
学習内容	歴史、地理、政治、経済、民俗、生活、文化その他、中国を多角的に理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. プロローグ 2. 歴史（１）——中華世界とは何か 3. 歴史（２）——「近代」の諸相 4. 地理（１）——漢民族と少数民族 5. 地理（２）——人口政策 6. 政治（１）——20世紀中国政治史、そのパラダイムシフトをめぐって 7. 政治（２）——習近平体制への移行、何が変わり、何が変わらないのか 8. 経済——社会主義市場経済とは 9. 宗教（１）——儒教 10. 宗教（２）——仏教・道教 11. 民俗——風水の思想 12. 生活——家族・食文化 13. 文化（１）——言語と文芸 14. 文化（２）——映画、テレビ（ドラマ） 15. エピローグ 				
受講要件	中国語教職免許取得のための必修科目				
テキスト	プリントを配布、中国特集番組等のDVD教材も活用。				
参考書	授業中に随時紹介。				
予習・復習について	授業では各テーマの一端を紹介することしかできないので、授業中に紹介された本を読み込んでください。				
成績評価の方法・基準	期末テストを実施しますが、テストでは単なる知識を問うことはせず、小論文的な要素を入れます。現象の奥にある要因を把握すべく自分なりに熟考した答えは評価が高くなります。ただし、自分なりに、とは先行研究を使わないということではありません。				
オフィスアワー	火曜日お昼休み 人文A棟524				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（○） 2. 科目等履修生（○） 3. 難易度（B）				

授業科目名	アメリカ文学文化各論Ⅱ				
担当教員名	レッドフォード SW		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期	必修選択区分	—
対象学年		難易度	C	曜日・時限	水5・6
キーワード	America、novel、racial tension、discrimination、、				
授業の目標	To develop, at a high level, the ability to read, analyze, and discuss important works of American fiction. To develop an understanding of racial prejudice and discrimination in American fiction.				
学習内容	Students will read, analyze, and discuss Harper Lee's TO KILL A MOCKINGBIRD, published in 1960. The instructor will introduce other works/events that portray the black experience in America. Students are required to make one short presentation in English				
授業計画	<p>Schedule*:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction 2. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 1 (pp. 3-16) 3. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 2-3 (pp. 17-35) 4. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 4-6 (pp. 36-64) 5. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 7-9 (pp. 65-101) 6. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 10-11 (pp. 102-128) 7. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 12-14 (pp. 131-163) 8. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 15-16 (pp. 164-188) 9. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 17-18 (pp. 189-215) 10. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 19-21 (pp. 216-241) 11. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 22-24 (pp. 242-271) 12. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 25-27 (pp. 272-291) 13. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 28-29 (pp. 292-310) 14. TO KILL A MOCKINGBIRD, Chapter 30-31 (pp. 311-323) 15. TO KILL A MOCKINGBIRD (the movie) 16. TEST <p>* = schedule is subject to change</p>				
受講要件					
テキスト	TO KILL A MOCKINGBIRD (Harper Lee) Harper Perennial Modern Classics ISBN-13: 978-0060935467				
参考書					
予習・復習について	Weekly reading and study questions are required preparation for each class.				
成績評価の方法・基準	Weekly reading quizzes, classroom participation, short presentation, and test. Final test is 50% of final grade. Others, 50%.				
オフィスアワー	Thursday, 10:20 - 11:50, and by appointment, e-mail: jrsteve@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	A strong willingness to participate in English is appreciated.				

授業科目名	臨床心理学Ⅱ				
担当教員名	笠井 仁		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 7・8
キーワード	心理的援助、適応と不適応、実践				
授業の目標	人間援助の学問としての臨床心理学について基礎的な知識を得る。				
学習内容	臨床心理学は、人間の心に関わる諸問題の理解と援助に関する学問である。この授業では、臨床心理学の歴史的背景、基礎となる理論、領域と対象、援助の実際、研究の現状について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学とは何か 2. 歴史的背景 3. 基礎となる理論 4. 実践の領域 5. 心理アセスメント 6. 援助の対象（1）：発達臨床 7. 援助の対象（2）：疾患と障害 8. 援助の対象（3）：家族・コミュニティにおける諸問題 9. 援助の方法と過程（1）：源流としての催眠 10. 援助の方法と過程（2）：力動論的アプローチ 11. 援助の方法と過程（3）：行動論的アプローチ 12. 援助の方法と過程（4）：人間論的アプローチ 13. 援助の方法と過程（5）：システム論的アプローチ 14. 臨床心理学の研究 15. 臨床心理学の倫理 				
受講要件	心理学概論、基礎心理学を受講していることが望ましい。				
テキスト	とくに指定しない（資料を配布する）。				
参考書	下山晴彦（編）『よくわかる臨床心理学』（ミネルヴァ書房）。下山晴彦・丹野義彦（編）『講座臨床心理学』（東京大学出版会）全6巻。その他、そのつど指示する。				
予習・復習について	各テーマについて、さらに発展的に参考書等により予習・復習することを期待する。				
成績評価の方法・基準	授業毎の小レポート（30%）と最後の筆記試験（70%）により評価する。				
オフィスアワー	火曜日 7・8時限				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 単なる知識の習得ではなく、その知識が得られた背景にも思いをめぐらせつつ、積極的に自分の頭と心を働かせながら講義に参加することを期待する。				

授業科目名	西洋史概説				
担当教員名	藤井 真生		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水 9・10
キーワード	古代文明、ギリシャ民主政、ローマ帝国、キリスト教、国家形成、封建社会、中世都市				
授業の目標	前近代ヨーロッパの歴史の概略を理解する。また、その内容を自分で再構成できることを目標とする。				
学習内容	古代オリエント世界から中世ヨーロッパ世界まで、時代をおっていくつかのトピックをとりあげる。高校で習う世界史よりもテーマを限定し、その分詳しい史料紹介や歴史的意義の考察に重点をおいて学ぶこととする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 古代文明の発生（1） 2. 古代文明の発生（2） 3. ギリシャの民主政（1） 4. ギリシャの民主政（2） 5. ローマ帝国の拡大（1） 6. ローマ帝国の拡大（2） 7. キリスト教の誕生（1） 8. キリスト教の誕生（2） 9. 中世国家の形成（1） 10. 中世国家の形成（2） 11. 封建社会の身分と支配（1） 12. 封建社会の身分と支配（2） 13. 中世都市の成立（1） 14. 中世都市の成立（2） 15. 中世から近世へ 				
受講要件	とくになし。				
テキスト	とくになし。				
参考書	各回のテーマごとに、講義内で案内します。				
予習・復習について	とくに予習は求めませんが、評価方法との関連で、講義内容は自分なりにまとめておくことが必要となります。				
成績評価の方法・基準	テーマごと（「古代文明の発生」「ギリシャの民主政」など）に講義内容を要約した文章を書いてもらいます。各回の平均点に授業貢献度（発言回数など）を加味したものを最終的な評価とします。				
オフィスアワー	月曜日午前				
担当教員からのメッセージ	難易度 A 2回に1度は文章にまとめてもらうので、必ず各テーマの1回目の内容を整理してから2回目にごぞんでください。また、適切な日本語表現も評価ポイントとなるため、西洋中世にかぎらず歴史の概説書を読み、文章表現を学んでおくことをおすすめします。				

授業科目名	ヨーロッパ近代史				
担当教員名	岩井 淳		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	水 9・10
キーワード	近世史、近代史、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランド、ブリテン国家、ピューリタン革命				
授業の目標	現在のイギリスの正式名称は、「グレート・ブリテンおよび北アイルランド連合王国」です。イギリスは、イングランドだけで説明できず、スコットランドやウェールズ、北アイルランドといったさまざまな地域から成り立っています。この授業では、多様な地域や民族を包括する連合国家が生まれてきたプロセスを、複合国家成立の歴史として、わけてもピューリタン革命期に焦点を絞って考察します。				
学習内容	この授業では、連合王国を構成してきたイングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランドの特色を最初に概観します。続けて、それらの地域が、中世以来、独自のまとまりをもって成立したこと、同時に対立関係や協力関係を伴いつつ、征服や従属を繰り返してきたことを示します。 そうした関係は、16世紀以降に大きく変化します。イングランドが中心的な勢力として登場し、スコットランドと戦ったり、アイルランドへの入植を積極的に進めました。その中でウェールズでは、比較的順調にイングランド化が進みました。1640年に始まるピ				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> この授業の目的と計画 「ピューリタン革命」とは何か 複合国家とは何か 映像で見るウェールズ イングランドとウェールズの概観 スコットランドとアイルランドの概観 17世紀前半(初期ステュアート期)の政治と宗教 初期ステュアート朝の危機と革命勃発 ピューリタン革命の展開 国王処刑 映像で見るアイルランド クロムウェルのスコットランド・アイルランド征服 王政復古と複合国家体制 名誉革命と複合国家体制の確立 まとめと展望 				
受講要件	世界史やイギリス史について、基本的知識をもっていることが望ましいです。				
テキスト	岩井淳『ピューリタン革命と複合国家』世界史リブレット、山川出版社、729円。				
参考書	岩井淳編『複合国家イギリスの宗教と社会』ミネルヴァ書房を参考書とします。 その他の参考書は、必要に応じて指示します。				
予習・復習について	テキストや配布プリントを使って、予習・復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	出席状況や試験の結果によって、総合的に評価します。				
オフィスアワー	金曜日 3・4時限。				

担当教員からのメッセージ	1.県立大学単位互換(認める) 2.科目等履修生(認める) 3.難易度(B) 歴史学やイギリスに興味のある方、大歓迎です。
--------------	--

授業科目名	中国文学史Ⅱ				
担当教員名	桑島 道夫		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	水9・10
キーワード	中国小説、口語と文語、日本文化への影響				
授業の目標	中国小説の流れをおおまかにつかみます。				
学習内容	<p>『三国志演義』『西遊記』等、テレビや漫画で見たり読んだりした人も多いと思います。しかし、実際に原典で読むのは格別な味わいがあり、たとえば『水滸伝』では、江戸の人びとの熱気や興奮を居ながらにして追体験できるのです。</p> <p>本講ではさわりの部分をできるだけ紹介しながら、スケールの大きさを誇り、バラエティに富む中国の小説がどのような文化的背景のもとで生み出されてきたのか、といったことも考えてゆきたいと思います。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 六朝志怪小説 3. 唐代伝奇 4. 明代四大奇書・その一 『三国志演義』 5. 明代四大奇書・その二 『水滸伝』 6. 明代四大奇書・その三 『金瓶梅』 7. 明代四大奇書・その四 『西遊記』 8. 清代・その一 『聊齋志異』 9. 清代・その二 『紅樓夢』 10. 中華民国期・その一 魯迅 11. 中華民国期・その二 創造社 12. 中華民国期・その三 現代派・巴金・張愛玲ほか 13. 中華人民共和国期・その一 建国から文革まで、文芸復興としての「新时期文学」 14. 中華人民共和国期・その二 中国文学の現在と今後 15. まとめ 				
受講要件	中国語を履修しておくことが望ましいでしょう。				
テキスト	授業中に随時指定。				
参考書	藤井省三・大木康『新しい中国文学史』（ミネルヴァ書房、1997年）				
予習・復習について	授業中に触れることのできる小説はごく一部です。翻訳でもいいですから、興味を持った小説を、授業後にぜひ自分で読破してみてください。				
成績評価の方法・基準	出席点、授業時の積極性、および期末レポートの成績等を考慮します。				
オフィスアワー	火曜日お昼休み 人文A棟524				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）				

授業科目名	手形小切手法				
担当教員名	小林 道生		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	木 1・2
キーワード	手形、小切手、約束手形、為替手形				
授業の目標	手形・小切手の経済的機能および法理論について基本的な理解を得る				
学習内容	<p>手形法、小切手法は、その特徴として、とりわけ理論的整合性を重視しているといわれる。本講義では、手形法理論の基礎に通底する学説の構造を前提に、各論として位置づけられる諸論点の検討に入ることとする。</p> <p>手形には約束手形と為替手形とがあるが、国内取引において利用されているのは前者であり、本講義においても約束手形を基本に解説する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総説 2. 有価証券 3. 手形行為 4. 約束手形の振出 5. 白地手形 6. 裏書 7. 善意取得 8. 抗弁の制限 9. 特殊の裏書 10. 手形保証 11. 支払 12. 遡求 13. 手形の権利の消滅 14. 利得償還請求権 15. 授業のまとめ 				
受講要件					
テキスト	初回の授業の際に指示する				
参考書	初回の授業の際に指示する				
予習・復習について	授業に毎回出席すれば当然にすべての受講者が理解できるわけではないので、ある程度、各自の自発的な対応も必要となる。				
成績評価の方法・基準	筆記試験による				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 県大との単位互換 認める 2. 科目等履修生の受講 認める 3. 難易度 人によって不向き（不得手）と感ずることのある分野かもしれない。 				

授業科目名	社会心理学 I				
担当教員名	橋本 剛		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	社会心理学、社会的認知、社会的推論、社会的影響、集団力学				
授業の目標	社会心理学、特に社会的認知、社会的影響、集団力学に関する基礎的な知識を習得する。				
学習内容	人間の行動は、主体的要因のみならず社会環境的要因によっても規定されている。同時に、個人の社会的行動は、社会のあり方を大きく規定することにもなる。本講義では、この双方向的ダイナミクスを包括的に議論する学問である社会心理学の主要な知見を概観し、それらの機序が社会においてどのように体现されるかの理解を深めることを目指す。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 社会心理学とは 3. 社会的認知 4. 社会的推論 5. 態度と説得 6. 同調と服従 7. 社会的促進と社会的手抜き 8. 集団意思決定とリーダーシップ 9. ステレオタイプ、偏見、差別 10. 集団間関係と社会的アイデンティティ 11. 攻撃 12. 社会的公正 13. 社会的ジレンマと協力 14. 環境問題 15. まとめ 				
受講要件	心理学概論と基礎心理学 I を履修済みであることが望ましい。該当しない場合は自習で補うこと。				
テキスト	吉田俊和・元吉忠寛（編著）『体験で学ぶ社会心理学』ナカニシヤ出版				
参考書	山岸俊男（編）『社会心理学キーワード』有斐閣／浦光博・北村英哉（編著）『個人の中の社会』誠信書房／池田謙一他『社会心理学』有斐閣／池上知子・遠藤由美『グラフィック社会心理学 [第2版]』サイエンス社／潮村公弘・福島治（編著）『社会心理学概説』北大路書房／その他随時紹介する。				
予習・復習について	文献等を活用して積極的に予習・復習することを推奨する。				
成績評価の方法・基準	試験成績（85%）と各回授業時の小レポート（15%）により評価する。				
オフィスアワー	水曜日 5・6 限を予定している。				

担当教員からのメッセージ	社会心理学の全体像を理解するために、後期開講の「社会心理学Ⅱ」、および来年開講予定の「臨床社会心理学Ⅰ」とあわせて受講することが望ましい。 難易度 B。
--------------	---

授業科目名	英米言語文化基礎論				
担当教員名	鈴木 実佳		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	木3・4
キーワード	United Kingdom、王室、英語、文学、生成文法、認知科学、言語獲得				
授業の目標	特に、人文社会科学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）2・3及び言語文化学科のディプロマ・ポリシー1に示されているような知識と教養を得ることを目標とする。言語文化学科の教育課程編成実施の方針（カリキュラム・ポリシー）1に示されているように、導入的基礎知識を得るための基礎科目として設定されている。				
	（鈴木）主にイギリスや英文学・文化の基礎的な事柄を学び、関心を広げて、今後の学習の準備となるようにする。				
学習内容	（小町）英語を理論的研究／実証的研究の対象に位置づけ、「ことばの体系」を通じて人間の本质				
	（鈴木）「イギリス」について歴史的経緯や現在の立場、過去の帝国の遺産などについて、講義形式を基本として進める。				
授業計画	（鈴木）2012年のロンドンオリンピック開会式を出発点に、主に以下の事項を中心に考察する。				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ Isles of Wonder : ① ・ UK, Team Britain, Britishness, a myth? ②③ ・ 文化的帝国・英語・文学④ ・ 英語⑤ ・ 児童文学、Shakespeare など ⑥⑦⑧ 				
受講要件	（小町）以下の論点に関して、文献を紹介しながら、先人たちの議論を紹介する。(⑨～)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何を「言語」と呼ぶか？（内在言語、外在言語） ・ 「言語」について、ヒトは特別な生物種か？ ・ ヒトはどのように「言語」を獲得するか？ ・ 「言語」の多様性をどう捉えるか？ 				
受講要件	受講希望者数により制限を課す（言語文化学科の1年生を優先）。				
テキスト	（鈴木） ハンドアウト （小町） ハンドアウト				
参考書	必要に応じて指定。				
予習・復習について	予習・復習共に欠かさないこと。				
成績評価の方法・基準	コメントペーパーと筆記試験により総合的に評価する。基本的に2教員の担当分を合わせて成績を定める。なお試験の実施方法等については、各教員が授業時に行う指示を確認すること。				
オフィスアワー	（鈴木） 前期 火曜 8:40～10:10、後期 木曜 10:20～11:50（メールにて事前に連絡を！） （小町） 未定（授業時に案内します。急ぎの場合は、メールで連絡を取ってください。連絡用メールアドレス： omkomac@ipc.shizuoka.ac.jp）				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 難易度（A）				

授業科目名	法学入門				
担当教員名	横濱 竜也		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	木3・4
キーワード	法と道徳、法の支配、司法制度、法の解釈、基本的人権の保障、権力分立、契約自由の原則、罪刑法定主義				
授業の目標	実定法各分野の学習に先立ち、法の基本的性格を理解し、実定法学の基本概念を習得する。				
学習内容	授業計画に示す通り。				
授業計画	<p>※以下の各項目はほぼ毎回の授業内容に対応する。但し授業の進捗状況や展開によって若干の変更があり得る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン（六法の選び方、判例の調べ方） 2 六法と判例の読み方・法とは何か <p>【第1部 法学基礎】</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 裁判制度（司法制度、裁判官の独立、民事裁判と刑事裁判の基礎） 4 法源（制定法、慣習、判例、条理、判例法主義と成文法主義、判例の拘束力） 5 法解釈の方法（事実認定と法適用、解釈方法の分類と方法） 6 法と道徳（リーガル・モラリズム、パターンリズム、憲法問題） 7 法の歴史（西洋法制史：大陸法系とコモンロー法系、ローマ法とその継受、日本近代法史：明治期の法典編纂とくに民法制定過程をめぐって） 8 中間テスト <p>【第2部 実定法基礎】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 日本国憲法の歴史（大日本帝国憲法の基本理念、日本国憲法制定過程、平和主義） 10 憲法の基本原理（1）（基本的人権の保障） 11 憲法の基本原理（2）（権力分立、立憲主義と民主主義） 12 民事法の基本原理（1）（所有権絶対の原則） 13 民事法の基本原理（2）（契約自由の原則、過失責任主義） 14 刑事法の基本原理（1）（罪刑法定主義、犯罪の成立要件、刑罰の目的） 15 刑事法の基本原理（2）（令状主義、起訴状一本主義、犯罪被害者への配慮） 				
受講要件					
テキスト	石山文彦編『ウォーミングアップ法学』（ナカニシヤ出版、2010年）、授業支援システムより配布する講義案、六法（購入すべき六法については初回授業時に説明する）。				
参考書	毎回の授業時に詳細な文献リストを配布するが、ひとまず以下を挙げておきたい。五十嵐清『法学入門〔第3版〕』（悠々社、2006年）、田島信威『法令入門—法令の体系とその仕組み〔第3版〕』（法学書院、2008年）、川崎政司『法律学の基礎技法〔第2版〕』（法学書院、2013年）、市川和人・酒巻匡・山本和彦『現代の裁判〔第6版〕』（有斐閣アルマ、2013年）、中野次雄編『判例とその読み方〔三訂版〕』（有斐閣、2009年）、山本祐司『最高裁物語（上）（下）』（講談社プラスα文庫、1997年）。				
予習・復習について	予習：講義案および教科書の該当箇所を読んだ上で、予習問題に取り組む。 復習：授業内容を振り返り復習問題に取り組む。また授業内容の疑問点をまとめる。疑問点は授業時やオフィスアワーなどに質問し解決する。さらに、課題レポート（学期中2回を予定）を提出する。				
成績評価の方法・基準	期末試験40%、平常点40%（小テストへの応答20%+レポート課題提出20%）、学期中に1回実施する中間テストの得点20%。評価方法の詳細は初回授業の際に示す。				
オフィスアワー	金曜日14時25分～15時55分（同じ時間に相談者が重なることを避けるために、事前に予約をお願いします）。				

担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (○) 2. 科目等履修生 (○) 3. 難易度 (A) この授業の狙いは、学生の皆さんが法の世界の概要を知悉すること、そして法的思考に必要不可欠な基礎知識を習得し、それを不自由なく活用できるようになるための訓練を行うことです。しっかり勉強しましょう。
--------------	---

授業科目名	地方財政論 I				
担当教員名	川瀬 憲子		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	地方自治、地方分権、課税自主権、公共事業、まちづくり、課税自主権、地方税、住民参加、福祉社会、ローカルガバナンス				
授業の目標	地方財政や地方分権、自治・参加のシステムがどのようにして発達してきたのか、いま、どのような改革が求められているのかといった諸課題に対して、歴史や国際比較という観点を交えながら、様々な角度から洞察力を培うことを目標としている。				
学習内容	内容的には地方財政入門編と歴史編に分かれるが、前者では、日本の地方財政の仕組みや課題、後者では主として歴史的な流れに即して、欧米と日本の地方財政がどのように発達してきたのかを、財政思想の紹介などを交えながら、幅広い観点から解題する。また、日本における市町村合併、三位一体の改革といった「分権改革」が、地方財政のみならず国民生活や地域社会に及ぼされる影響についても、具体的な事例をあげながら、わかりやすい説明を加えることにしている。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 地方財政のしくみと地方自治 3. 「分権改革」と地方財政①－市町村合併 4. 「分権改革」と地方財政②－三位一体の改革と道州制論 5. 17世紀ヨーロッパの市民的財政思想 6. 自由主義的財政思想とイギリスの産業革命 7. 社会政策思想と19世紀末期英独の地方財政改革 8. ケインズ主義とアメリカのニューディール期財政改革 9. 新自由主義とイギリス地方財政改革 10. 明治地方自治制と地方財政 11. 大正デモクラシー期の自治要求 12. 昭和恐慌と井上・高橋財政 13. 戦後改革とシャープ勧告 14. まちづくりと住民参加 15. 分権型福祉社会の制度設計 				
受講要件	毎回出席すること				
テキスト	川瀬憲子(2011)『「分権改革」と地方財政－住民自治と福祉社会の展望』(自治体研究社)				
参考書	川瀬憲子(2001)『市町村合併と自治体の財政』自治体研究社、宮本憲一・遠藤宏一編(2006)『セミナー現代地方財政 I』勁草書房、宮本憲一・鶴田廣巳編(2008)『セミナー現代地方財政 II』勁草書房、川瀬憲子(2012)『アメリカの補助金と州・地方財政－ジョンソン政権からオバマ政権へ』勁草書房他				
予習・復習について	テキスト、参考文献、新聞などをしっかりと読んでおくこと。				
成績評価の方法・基準	平常点(30%)、定期試験(70%)をもとに評価を行う。平常点としては、コメントペーパーに感想やまとめなどを記入してもらったり、適宜小レポートを課す予定。				
オフィスアワー	オフィスアワー一覧を参照のこと。				

担当教員からのメッセージ	携帯電話の電源を切っておくこと。 県立大学との単位互換：認める。 科目等履修生：認める。 難易度 B
--------------	--

授業科目名	英語学各論 I				
担当教員名	大村 光弘		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	認知意味論、モダリティ、発話階層構造、歴史言語学、語用論				
授業の目標	認知意味論・語用論・歴史言語学を中心に、生成文法研究の方法と分析に関する専門的知識を深める。				
学習内容	2年次に英語学概論や英語学基礎読解で学んだ生成文法の基礎知識を基にして、より専門的見地から生成文法が実際の言語資料をいかに分析するかを観察する。授業は基本的に講義形式で進める。ただし、内容理解のために受講生に質問をしたり、理解度を測る小テストを課す。				
授業計画	<p>講義全体のテーマは言語変化の結果としての多義性(polysemy)である。多義性を生み出す言語変化の過程を分析するために、1つの階層意味論(layered-structure semantics)モデルを提示する。具体的手順は、以下に示すとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 扱うべき言語事実 法助動詞 shall, should 2) 階層意味論 文の意味構造 モダリティ(modality)と命題(proposition) 意味論と語用論の接点 3) 史的意味論(historical semantics)・史的語用論(historical pragmatics) 文法化(grammaticalization) 主観化(subjectification) 意味の漂白(semantic bleaching) 機能推移(functional shift) 4) 法助動詞 shall, should における機能推移 				
受講要件	英語学概論、英語学基礎読解を履修していることが望ましい。				
テキスト	配付資料を用いて授業を行う。				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
予習・復習について	復習に重点を置き、講義内容の理解に努めてほしい。				
成績評価の方法・基準	欠席(30分以上の遅刻は欠席1回とみなす)は4回までとする。 数回の小テストの結果(90%) + 平常点(10%)で評価する。				
オフィスアワー	火曜日(12:00-13:00、事前に連絡を頂ければこれ以外の時間帯も可) 連絡先メールアドレス: jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認めない) 3. 難易度(C)				

授業科目名	日本文学講読Ⅱ				
担当教員名	小二田 誠二		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	日本、江戸時代、実録、講談、大岡越前守、天一坊、歴史、小説、時代劇				
授業の目標	・大岡政談もの最大の作品『天一坊実記』を読むことを通して、事実と虚構について考えると同時に、江戸時代の娯楽の魅力を見出すことを目指す。				
学習内容	『天一坊実記』を味わう。				
授業計画	<p>番号は授業の回数とは関係ありません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 大岡政談 天一坊事件とは 2 テレビドラマを見てみる 3 とにかく読んでみる 4 事件の概要、資料の変遷 5 設定変更、人物増強 6 新しい人物はどこから来たのか 7 実録の想像力 8 ヒーローは誰か 9 近代的解釈 10 まとめ 娯楽の魅力と意義 				
受講要件	古文が抵抗なく読めること。 江戸時代の歴史について、おおよその知識があること。				
テキスト	・プロントを配付。				
参考書	・授業中に適宜紹介しますが、大岡越前、天一坊に関しては沢山の本が出ていますので読んで置いてください。				
予習・復習について	・かなり大量の資料を配付するので、必ず読んでおくこと。 ・疑問に思ったことなどは次回までに調べて小レポートを提出すること。				
成績評価の方法・基準	最終レポートのみ。 ただし、小レポートなどを提出すれば適宜加算します。				
オフィスアワー	空き時間随時。 私の時間割は、web で公開します。ブログ（コニタス）参照。				
担当教員からのメッセージ	今では殆ど読まれることの無い名作『天一坊実記』をひたすら読みます。殆ど、連続講談だと思って楽しんでくれれば良いと思います。そこから学ぶことは沢山有るはず。				

授業科目名	法制史 I				
担当教員名	橋本 誠一		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	ローマ法、ゲルマン法、近世自然法、パンデクテン法学、ドイツ法				
授業の目標	<p>この授業では以下の能力を身に付けることを目標とします。</p> <p>【知識】 古代から近代に至るヨーロッパ法史（とくにドイツ法史）の基礎的知識を習得する。</p> <p>【思考】 歴史的資料に基づいて実証的に考えることができる。</p> <p>【技術】 実証的考察を論理的に文章表現することができる。</p>				
学習内容	<p>【予習】 授業用資料を学務情報システムからダウンロードし、一通り読んでおく。</p> <p>【授業】 週替わりで著名な法テキストを取り上げ、その背景、内容等について講義する。</p> <p>【復習】 講義内容と資料を踏まえ、レポートを作成・提出する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—授業の内容と進め方 2. 十二表法 3. ガイウス「法学提要」(1) 4. ガイウス「法学提要」(2) 5. タキトゥス「ゲルマニア」 6. ユスチニアヌス法典（市民法大全） 7. サリカ法典 8. ザクセン・シュピーゲル 9. カロリナ刑事法典 10. “Das Volkacher Salbuch”（1504）を見る 11. 近世自然法論 12. プロイセン一般ラント法 13. ドイツ帝国憲法 14. ドイツ民法典（BGB） 15. まとめ 				
受講要件	・法的知識（憲法、民法、刑法、民刑訴法など）と世界史（とくにヨーロッパ史）の基礎知識があれば、ということありません。				
テキスト	・事前に学務情報システムから「授業用資料」をダウンロードして下さい。				
参考書	・各講ごとに、授業用資料の末尾に参考文献一覧を付していますので、参考にして下さい。				
予習・復習について	<p>・「学習内容」欄に記載した通りです。</p> <p>・なお、法学や歴史学の基礎的知識について説明する時間的余裕がなかなかありませんので、分からないところは自分でも学習するよう心がけてください。</p>				
成績評価の方法・基準	<p>・レポート（50%）と筆記試験（50%）の結果をもとに成績を評価します。</p> <p>・レポートは毎週提出を基本とします（講義中に課題を提示し、1週間以内に提出）。</p> <p>・筆記試験は第15講（最終講）の時間内に実施します（試験時間30分、穴埋め問題、ノート・資料等の持込「可」）。</p>				
オフィスアワー	・月曜日 3・4 時限（10:20～11:50）				

担当教員からのメッセージ	・県立大学との単位互換の可否 (○)、科目等履修生の可否 (○)、難易度 (やや難)
--------------	--

授業科目名	アメリカ文学文化基礎読解 I				
担当教員名	レッドフォード SW		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期	必修選択区分	—
対象学年		難易度	C	曜日・時限	金 3・4
キーワード	America、fiction、Hemingway、Steinbeck、reading、analysis				
授業の目標	To develop the ability to read, analyze, and discuss important works of American fiction.				
学習内容	Students will read, analyze, and discuss four or five short stories (Ernest Hemingway, Judy Cofer, Raymond Carver), and one short novel written by John Steinbeck, Of Mice and Men. As time allows, short passages from other important American authors will				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction; Raymond Carver's "The Father" 2. Hemingway's "A Day's Wait" 3. Hemingway's "A Clean, Well-Lighted Place" 4. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 1 5. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 1 6. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 2 7. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 3 8. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 3 9. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 4 10. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 5 11. Steinbeck's Of Mice and Men Chapter 6 12. Steinbeck's Of Mice and Men video 13. Judy Cofer's "More Room" 14. Raymond Carver's "A Small, Good Thing" 15. Discussion 				
受講要件					
テキスト	Of Mice and Men, John Steinbeck, A PENGUIN BOOK (ISBN 0-14-0177396)				
参考書					
予習・復習について	Weekly reading assignments and study questions must be done before class.				
成績評価の方法・基準	Class participation, 20%; weekly quizzes and assignments, 30%; final test (short answer and essay test), 50%.				
オフィスアワー	Thursday 10:20 - 11:50, and by appointment		e-mail: jrsteve@ipc.shizuoka.ac.jp		

担当教員からのメッセージ	A willingness to participate in English is appreciated.
--------------	---

授業科目名	芸術文化思想				
担当教員名	上利 博規		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 7・8
キーワード	芸術、音楽、美術、演劇、バレエ、写真、映画、芸能				
授業の目標	<p>下記の視点をもとに芸術に関する概略を知ることが大きな目標です。</p> <p>1 近代音楽史、近代美術史など、芸術諸ジャンルについての概略を知る。</p> <p>2 古代、中世、現代との相違という点から、近代芸術の形成過程を考える。</p> <p>3 アジア・日本の芸術・芸能との相違という点から、西洋近代芸術の特徴や意義を考える。</p>				
学習内容	<p>音楽、美術、演劇、バレエ、写真、映画について、それぞれのジャンルの歴史とその社会的背景について考える。それぞれのジャンルの興隆や衰退を知ることを通して、芸術を支えている社会、人々、思想など探る。</p>				
授業計画	<p>1. 芸術についての予備的注意</p> <p>われわれは近代芸術という立場から芸術を見るという誤りをおかしていることへの注意</p> <p>2. 音楽史 1 古代から 1700 年までの西洋音楽</p> <p>3. 音楽史 2 1700 年から 1930 年までの西洋音楽</p> <p>4. 音楽史 3 バロック音楽、古典派音楽、ロマン派音楽の特徴について作品を通して理解する。</p> <p>5. 美術史 1 古代から 1500 年までの西洋美術</p> <p>6. 美術史 2 1500 年から 1970 年までの西洋美術</p> <p>7. 美術史 3 ルネサンス絵画、近代絵画、現代絵画の特徴について作品を通して理解する。</p> <p>8. 演劇 1 古代演劇から現代演劇までの通史</p> <p>9. 演劇 2 西洋演劇とアジア・日本の演劇との比較</p> <p>10. バレエ ルネサンス・ダンス、バロック・ダンス、近代バレエの成立と展開、現代の舞踊文化など</p> <p>11. 写真 写真の誕生から現代まで</p> <p>12. 映画 映画の誕生から現代まで</p> <p>13. 西洋及びアジアの芸術・芸能の日本への影響、西洋とアジアの比較など</p> <p>14. 現代における芸術からアートへの流れ</p> <p>15. まとめ</p>				
受講要件					
テキスト	特になし				
参考書	音楽史、美術史などについての、あまり詳しくない入門的な本を一読することがよいと思います。				
予習・復習について	講義で扱う事柄については、知らないことが多いと思われるので、よくわからなかったことについては、各自で調べるという復習が重要になります。				
成績評価の方法・基準	試験による。				
オフィスアワー	前期	月曜	15:00-16:00	人文 A 棟	420
	後期	火曜	11:45-12:45	人文 A 棟	420

担当教員からのメッセージ	
--------------	--

授業科目名	英語学概論				
担当教員名	小町 将之		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 7・8
キーワード	統語論、意味論、語用論				
授業の目標	英語の統語論、意味論、語用論を中心に、英語学の基礎知識を学習する。				
学習内容	一様に言語学といっても様々な分析方法が存在する。英米言語文化コースで提供する言語学は、生成文法と呼ばれる分析方法である。授業は、生成文法の観点から、英語学の下位分野のそれぞれが解明しようとする言語学的トピックと、その方法論を学ぶ。				
授業計画	<p>指定テキストに基づいて、生成文法が行う単語や文の意味分析、句構造や文構造の統語分析を概観する。考えられるトピックとして、以下に示したものがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. How Words Mean: Semantics 2. How English Phrases are Formed: Syntax 3. How English Sentences are Formed 4. How Sentences Mean: Semantics 5. How to Communicate with Other People: Pragmatics 				
受講要件	2013 年度入学者対象				
テキスト	First Steps in English Linguistics (英語言語学の第一歩)、影山太郎ほか、くろしお出版				
参考書	必要に応じて適宜紹介する。				
予習・復習について	予習を前提にして授業を行う。				
成績評価の方法・基準	数回の小テストの結果 (80%) + 平常点 (20%) で評価する。 欠席 (30 分以上の遅刻は欠席 1 回とみなす) は 3 回までとする。				
オフィスアワー	未定 (授業時に案内します。急ぎの場合は、メールで連絡を取ってください。連絡用メールアドレス: omkomac@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	国際金融論				
担当教員名	鳥畑 與一		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	金融グローバル化、国際金融危機、国際金融システム改革				
授業の目標	「100年に一度」と呼ばれるサブプライム国際金融危機の問いかけるものは何か、そして持続可能な21世紀の国際社会を構築するためにはどのような金融システムが求められているのかをの学習を通じて、国際金融に関する基礎知識とともに探求する能力を育てる。				
学習内容	大転換期にある国際金融の動きを正面に据えながら、それを理解するための基礎知識の習得を重視しながら授業を進める。また定期的な小テストで理解度を確認する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1講 授業目標と計画、評価の方法、何を学んで欲しいのか 2. 第2講 サブプライム金融危機以後の国際金融の世界 3. 第3講 国際金融市場の発展① 国際金融市場の基本構造 4. 第4講 国際金融市場の発展② 金融活動のグローバル化 5. 第5講 国際金融市場の発展③ 外国為替取引の膨張 6. 第6講 ドル体制の矛盾と世界経済の不均衡拡大 7. 第7講 発展途上国の累積債務問題の現在 8. 第8講 ドル危機とEU通貨統合の進展 9. 第9講 ユーロの発展と課題 10. 第10講 ドル危機と円の国際化 11. 第11講 21世紀型金融危機（アジア通貨危機） 12. 第12講 国際金融システム改革の模索 13. 第13講 バーゼル規制と金融システムの安定性 14. 第14講 カジノ資本主義とどう向き合うか 15. 第15講 まとめ 				
受講要件	現実問題への旺盛な関心を持つこと				
テキスト	適宜指示する				
参考書	適宜指示する				
予習・復習について	小テストを3回程度行いますので、予習復習が欠かせません。				
成績評価の方法・基準	小テストと最終テストで総合的に評価します。				
オフィスアワー	水曜 1:00 - 13:00				

担当教員からのメッセージ	今、国際金融は大きなパラダイム転換の時期にあります。これまで当たり前とされてきたことが崩れ、新しい基準 (New Normal) への模索が始まっています。現実感覚と同時に創造的な思考が問われていますので、能動的に学ぶ姿勢を持ってほしいと思います。
--------------	--

授業科目名	統計学 I				
担当教員名	上藤 一郎		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	金 5・6
キーワード	データサイエンス、データ解析、統計データ、統計的記述、多変量データ解析				
授業の目標	データサイエンスの視点に立った記述統計学の基本について学習します。				
学習内容	本講義では、統計データ（人間の行動や社会・経済に関するデータ）の要約を目的とした記述統計学の方法について学習します。社会・経済分析において記述統計学の果たす役割は、データに含まれるさまざまな情報を要約し、データから意味ある情報を読み取ることにあります。そこで本講義では、特にデータサイエンスの視点（データ重視の視点）から、①統計データの持つ特徴や問題点を理解できる能力、②データから何か言えて何が言えないかを判別できる能力を習得してもらうために、記述統計学の諸方法を具体的な事例を用いながら解説していきます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計データを科学する 2. 統計調査の体系－全数調査と一部調査－ 3. 統計調査の実際－さまざまな調査の実施方法－ 4. 統計データの構造－変数とデータ－ 5. 統計データの分布－集計と分類－ 6. 分布の中心の尺度－さまざまな代表値－ 7. 分布のバラツキの尺度－散布度と集中度－ 8. 量的関係の探索－相関と回帰－ 9. 量的現象の予測－重回帰分析－ 10. 質的関係の探索－カテゴリカルデータ解析－ 11. 質的現象の計測－数量化の方法－ 12. 複雑な事象の計測－多変量データ解析の体系－ 				
受講要件	特にありません。				
テキスト	上藤一郎・森本栄一・常包昌宏『調査と分析のための統計－社会・経済のデータサイエンス－（第2版）』丸善、2013年。				
参考書	講義を通じて随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読 復習：テキストの章末問題等の計算				
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%）、②各単元毎の課題（30%）、③期末テスト（60%）によって評価します。				
オフィスアワー	開講時に指示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）				

授業科目名	経済統計学				
担当教員名	上藤 一郎		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	金 7・8
キーワード	公的統計、統計の真実性、調査統計、業務統計、加工統計、回帰分析、時系列解析				
授業の目標	公的統計（政府統計）を中心としたミクロ経済およびマクロ経済に関する経済統計の体系・種類・特徴とその利用方法について学習します。				
学習内容	本講義は、次の三つの部分から成り立ちます。第一に、経済分析に不可欠なミクロ経済やマクロ経済に関する経済統計（データ）を取り上げ、それらの体系・種類・特徴などについて学習します。経済統計の多くは政府機関によって作成・公表されたものが多く、利用に当ってはそのことによる問題点を理解しておく必要があります。このためまず公的統計（政府統計）の作成過程について概略を講述します。第二に、ミクロ経済並びにマクロ経済に関する具体的な統計と統計指標を取り上げ解説していきます。第三に、経済データを使用した統計分析の方法、特に				
授業計画	1. 経済統計の作成過程 (1) 経済統計の体系と統計制度 (2) 経済統計の信頼性と正確性 2. 経済統計各論 (1) 人口統計 (2) 家計統計・物価統計 (3) 労働統計 (4) 国民経済計算 (5) 景気統計 (6) 国際収支統計 3. 経済データの統計的分析 (1) 回帰分析と回帰診断 (2) 時系列解析と確率過程				
受講要件	必要条件ではありませんが、統計学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望まれます。				
テキスト	御園謙吉・良永康平編『よくわかる統計学Ⅱ－経済統計編－』第2版、ミネルヴァ書房、2011年。				
参考書	講義時に随時指示します。				
予習・復習について	予習：テキストの精読（毎回の講義終了時に次回講義時まで読んでおくべき範囲を指示します） 復習：テキストに示されている EXCEL による計算問題				
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%）、②各単元毎の課題（30%）、③期末テスト（60%）によって評価します。				
オフィスアワー	開講時に開示します。				
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（C）				

授業科目名	会社法				
担当教員名	西川 義晃		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	月3・4/木3・4
キーワード	会社法、商法、コーポレート・ガバナンス、コーポレート・ファイナンス				
授業の目標	1. 会社法制について基礎知識を得、理解を深める。 2. 会社法をもとに企業社会に生じる諸問題を読み解き、これを解決するための専門知識を修得する。 3. 会社法を通してリーガルマインドに触れることにより、社会と人間に対する洞察力と理解力を身につけることを目指す。				
学習内容	会社法について、株式会社法を中心に講義する。 現在の経済社会でその中心を担っているのは株式会社を始めとした企業である。平成17年に成立した会社法は非公開会社を想定した改正であり、上場会社は例外という位置づけにある。しかし、株式会社は本来、資本市場において資金を調達し、大規模な企業経営を行う仕組みであり、そうした株式会社の特質は、株式会社法全体に反映されている。本講義はそうした観点に留意しつつ、会社法について解説していく。				
授業計画	《授業の進め方》 レジュメを配布し、レジュメを中心に講義するが、教科書も適宜参照するため毎回持参すること。教科書は特に、予習・復習に利用すること。 なお、シラバス執筆時現在、会社法は改正作業中である。改正の内容については、随時、講義で取り上げる。 《計画》 講義期間の前半では、特に機関関係、すなわち取締役、監査役、株主総会などの企業組織に関する問題を扱う。企業形態や会社の種類に触れた後、株式会社とはいかなる制度であるのか、その内部組織はどのように構成されているのかについて考察する。 後半では、特に企業の資金調達、会社の計算、設立、企業再編(M&A)に関する問題を扱う。会社の資金調達の仕組み、会社の設立の際にその組織がどのように形成されるのか、企業買収がどのように行われるのか・その際利害関係者はどのように保護されるのかなどについて考察する。 以下の項目を1、2回で講義する。 1. 会社の種類 2. 株式会社の特質 3. 証券市場と株主の地位 4. 株主総会の役割 5. 取締役と取締役会 6. 取締役の義務と責任 7. 委員会設置会社の意義と仕組み 8. 会計参与 9. 監査役・監査役会 10. 会計監査人（ここまで講義したのち、レポートの提出、または中間試験を実施） 11. 株式 12. 募集株式の発行 13. 社債 14. 新株予約権・ストックオプション 15. 会社の計算1：開示規制 16. 会社の計算2：剰余金の分配規制 17. 株式会社の設立 18. 企業再編（学期末にここまでを予定、学期末試験を実施）				
受講要件	特になし。				
テキスト	以下の2冊を使用する。 1. 伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征『LEGAL QUEST 会社法〔2版〕』有斐閣、2011年 2. 酒巻俊雄ほか（編）『会社法重要判例』成文堂、2013年 また、最新の六法を持参すること（『デイリー六法』『ポケット六法』『コンパクト六法』のいずれかでよい）。				
参考書	初回の講義において紹介する。				
予習・復習について	随時レジュメを配布するので、レジュメに対応する教科書の該当ページに、事前に目を通して頂くことが望ましい。				

成績評価の方法・基準	講義内容の前半部分を終えた時点でレポートの提出を求めるか、または中間試験を実施する。学期末に筆記式の試験を実施し、総合評価する。出席点は設けない。
オフィスアワー	水曜日の5・6時限をオフィスアワーとする。 これ以外は、事前にメールでアポイントを取ること。
担当教員からのメッセージ	<p>1. 県立大学単位互換 (○)</p> <p>2. 科目等履修生 (○)</p> <p>3. 難易度 (A) 難易度Aは、事前に当該分野について専門知識があることを前提としないレベルを意味する。</p> <p>4. 会社法はそれのみで完結した分野ではなく、他の分野との関連も強い。特に民法(「民法総論」など)と同時履修、または履修済みであることを強く求める。</p> <p>注意：平成22年度以前の入学生は「企業法」(4単位)に読替え。</p>

授業科目名	行政学				
担当教員名	日詰 一幸		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 1・2/水 1・2
キーワード	行政システム、官僚制、ガバナンス、市民活動、NPO、新公共経営、行政評価				
授業の目標	現代行政学理論の内容を学び、現代日本の政治・行政を見る目を養います。				
学習内容	現代行政学理論の内容を紹介します。その際、近年欧米で研究されているガバナンス論の視角を用いて、行政機関ばかりでなく、市民活動やNPO、企業の活動等にも目を向けて、行政のあり方について考えていくことにします。また、政策過程の中でも、これまであまり論じられることのなかった行政評価についても、NPM (New Public Management、新公共経営) 論の立場から中央省庁や地方自治体レベルで行われている最近の動向を紹介します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 行政学とは 3. 行政学理論の展開 (1) ～アメリカ行政学の形成と展開 4. 行政学理論の展開 (2) ～日本の行政学と最近の動向 5. 官僚制理論～M.ウェーバーの官僚制論を中心に 6. 組織理論の展開 (1) 7. 組織理論の展開 (2) 8. 政策過程とは 9. 政策の立案・決定過程 10. 政策実施過程 11. 行政評価 (1) 12. 行政評価 (2) 13. 行政組織の編成 14. 組織決定の構造 15. 行政組織の発展過程 16. 現代公務員制度 17. 行政組織における意思決定 18. 意思決定理論 19. 日本の行政組織における意思決定の特徴 20. 予算編成過程 21. 行政改革の背景 22. 諸外国における行政改革の動向 23. 日本における行政改革 				

	<p>24. 行政責任</p> <p>25. 行政責任論争</p> <p>26. 行政統制手段</p> <p>27. 行政への市民参加</p> <p>28. 行政と市民活動、NPO（1）</p> <p>29. 行政と市民活動、NPO（2）</p> <p>30. まとめ</p>
受講要件	法学科で開講されている政治学関連の講義と関連がありますので、それらも受講して下さい。
テキスト	今村都南雄、武藤博己他『改訂版 ホーンブック 基礎行政学』北樹出版
参考書	講義の中で、その都度紹介します。
予習・復習について	毎日、新聞を読んでください。
成績評価の方法・基準	成績は期末試験で評価します。
オフィスアワー	水曜日 13：00～14：00（事前に連絡してください。）
担当教員からのメッセージ	広く政治・行政に関心のある学生の履修を期待します。

授業科目名	線形代数学基礎 (B組)				
担当教員名	大田 春外 OTA Haruto		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 402	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	—
キーワード	行列、連立1次方程式、行列式				
授業の目標	線形代数学は、比例 $y=ax$ の高次元化である $y=Ax$ 、さらにそのベクトル空間への一般化である線形写像を扱う学問である。ここで、 x 、 y はベクトル、 A は行列である。この講義では、その線形代数学の基礎として、行列、連立一次方程式、行列式について学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学C を履修していないことを前提にして、線形代数学の講義を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行列の定義 2. 行列の演算 (1) 3. 行列の演算 (2) 4. 行列と連立一次方程式 5. 行列の基本変形 6. 簡約な行列 7. 連立一次方程式の解法 (1) 8. 連立一次方程式の解法 (2) 9. 正則行列であるための必要十分条件 10. 置換 <ol style="list-style-type: none"> 11. 行列式の定義と性質 (1) 12. 行列式の性質 (2) 13. 行列式の余因子展開 14. クラームルの公式 15. 期末試験 				
受講要件					
テキスト	テキスト 三宅敏恒著 『線形代数学－初歩からジョルダン標準形へ』 培風館 ISBN-13: 978-4563003814				
参考書	三宅敏恒著 『線形代数の演習』 培風館 ISBN-13: 978-4563004781				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	レポートの提出状況と成績、及び期末試験の成績を合わせて評価する。				
オフィスアワー	最初の講義で紹介する。				
担当教員からのメッセージ	内容の多くは初めて勉強する事柄だと思います。 休まず出席することが特に大切です。遅刻もしないように気をつけよう。				

授業科目名	代数学 I				
担当教員名	谷本 龍二 TANIMOTO Ryuji		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 403	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	—
キーワード	1次結合、1次従属、1次独立、基、次元、線形写像、核、像				
授業の目標	『ベクトル空間の基』と『線形写像』の両方の概念を習得できるよう、以下の目標(1), (2), (3)を立てている。 (1) 代数学 I で学ぶ基礎的概念の定義を正しく述べることができる。 (2) 具体的なベクトル空間の基を求めることできる。 (3) 具体的な線形写像の表現行列を求めることできる。				
学習内容	ベクトル空間の基の計算方法, 線形写像の表現行列の計算方法などを学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1次結合 2. 有限個のベクトルで生成される部分空間 3. まとめ 4. 1次関係 5. 1次従属と1次独立 6. 1次独立なベクトルの最大個数 7. まとめ 8. ベクトル空間の基と次元 9. 解空間の基と次元 10. 有限個のベクトルで生成される部分空間の基と次元 11. まとめ 12. 線形写像 13. 線形写像の表現行列 14. 線形写像の核と像 15. 総まとめ 				
受講要件	線形代数学基礎および線形代数学を履修していること。				
テキスト	線形代数学基礎から用いているテキストを引き続き用いる。				
参考書	必要があれば適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	テスト60点, 小テスト20点, レポート20点を用いて成績評価をする。				
オフィスアワー					

担当教員からのメッセージ	
--------------	--

授業科目名	集合と論理基礎				
担当教員名	大田 春外 OTA Haruto		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 402	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	集合、集合の演算、命題、真理値、論理演算、直積集合、写像、関数、同値関係				
授業の目標	すべての数学の基礎である「集合と論理」について、基本的事項を学ぶ。目標は、集合を正しく書き表し、具体的な集合の演算ができるようになること、集合演算と論理演算の関係を理解すること、写像と関数の概念を理解し、数学のいろいろな場面で使えるようになること。				
学習内容	下記の授業計画に従い、集合とその基本演算、命題と論理演算、直積集合と写像、同値関係と分類について講義します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合とその表し方 2. 部分集合と集合の相等 3. 集合の演算 4. 補集合とド・モルガンの公式 5. 命題と論理演算 6. 真理値と論理演算の基本性質 7. 命題 $p \rightarrow q$ と $p \leftrightarrow q$ 8. 中間テスト 9. 直積集合 10. 写像 11. 像と逆像 12. 全射, 単射, 全単射 13. 関係と集合の分割 14. 同値関係 15. 同値類と商集合 				
受講要件					
テキスト	大田春外著『はじめての集合と位相』日本評論社				
参考書	最初の講義で紹介します。				
予習・復習について	教科書を予習して、問と演習問題を解いておこう。				
成績評価の方法・基準	中間テストと期末試験の成績。授業への参加状態を加味します。				
オフィスアワー	最初の授業でお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	本講義は、初めて学ぶ内容。毎回出席して、しっかりノートをとろう。				

授業科目名	微分積分学基礎 (A組)				
担当教員名	大和田 智義 OWADA Tomoyoshi		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 9・10
キーワード	極限、関数、連続関数、微分、自然対数				
授業の目標	微分積分学の基礎を学ぶ。				
学習内容	高等学校で数学 III を履修していないことを前提にして、下記の授業計画にしたがって微分積分学の講義を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数列と極限 2. 関数と極限 3. 連続関数 4. 微分法の基本公式 1 5. 微分法の基本公式 2 6. 指数関数・対数関数 7. 指数関数と対数関数の微分法 8. 小テスト 9. 三角関数の微分法 10. 対数微分法 11. 逆三角関数の微分法 12. ライプニッツの定理 13. 平均値の定理 14. 不定形の極限值 15. 小テスト 				
受講要件	数学教育専修の学生				
テキスト	石原繁・浅野重初著『理工系の基礎・微分積分・増補版』裳華房 ISBN978-4-1508-5				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義中に指示する。				
成績評価の方法・基準	最初の講義で伝えます。				
オフィスアワー	最初の講義で伝えます。				
担当教員からのメッセージ	高校までの計算主体の講義から、「何故そうなるのか」という理論展開を中心とした講義になります。理論的な考え方は講義を聞くだけでは身につけません。授業で学習した内容を、自分の力で正しく理解できるようになるまで、何度でもノートを読み返して復習するようにしてください。				

授業科目名	幾何学 I				
担当教員名	大田 春外 OTA Haruto		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 402	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	1次変換、合同、相似、放物線、楕円、双曲線、円周率				
授業の目標	1次変換が1次関数の2次元版であることを理解し、幾何学的な計算ができるようになること。合同と相似の意味を理解すること。2次曲線の方程式を標準形に直すことにより、どんな曲線であるかを判定できるようになること。				
学習内容	下記の教科書の第8, 9, 10章について講義します。内容は、1次変換の基本性質を学び、それらを使って「合同と相似」について考える。2次曲線の基本性質と分類。時間に余裕があれば、円周率についても解説します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1次変換とその性質 1 2. 1次変換とその性質 2 3. 1次変換と表現行列の正則性 4. 合同と相似 5. 合同変換と相似変換 6. 直交行列と直交変換 7. 2次曲線とその標準形 8. 中間テスト 9. 焦点と接線の性質 10. 2次曲線の分類 1 11. 2次曲線の分類 1 12. 円錐曲線 13. アルキメデスの漸化式 14. 無限級数による円周率の近似 15. 円周率の無理性 				
受講要件	集合と論理基礎と線形代数基礎を受講していること。				
テキスト	大田春外著『高校と大学をむすぶ幾何学』日本評論社 ISBN978-4-535-78619-6				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	教科書を予習すること。教科書の問題を解いておくこと。また、復習用の補充問題を配付します。				
成績評価の方法・基準	中間テストと期末試験の成績に、授業への参加状態を加味します。				
オフィスアワー	初回の講義のときに説明する。				
担当教員からのメッセージ	本講義は、はじめて学ぶ内容が多い。毎回、出席することが大切です。				

授業科目名	欧米学校史				
担当教員名	菅野 文彦 SUGANO Fumihiko		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 103	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	公教育、国民教育制度、「新教育」運動				
授業の目標	この講義は、教育実践学専修の学生のための選択専門科目です。欧米における学校教育の成立と展開、それに関わる教育思想の歴史を学ぶことを通して、今日的な学校教育の姿とそこに内在する諸課題や諸問題をとらえるための歴史的な視座を得ることをねらいとします。				
学習内容	(古代・)中世社会における教育の(社会史的)状況や学校の出現から始め、近世、近代を経て近代学校・近代教育の成立、そして「新教育」運動から現代までに至る通史的な講義の構成をとる予定です。制度史、政策史、運動史的な視点とともに、思想史さらには社会史の視点をもとり入れることをめざします。				
授業計画	1 導入 2 「社会史」的研究動向の成果と問題(1) 3 「社会史」的研究動向の成果と問題(2) 4 前近代の教育状況と学校の出現 5 近代の学校と教育思想 6 近代公教育の構想と学校の制度化 7 近代の学校と教育思想(1) 8 近代の学校と教育思想(2) 9 近代の学校と教育思想(3) 10 近代の学校と教育思想(4) 11 国民教育制度の成立 12 「新教育」運動(1) 13 「新教育」運動(2) 14 「新教育」運動(3) 15 現代の教育改革 16 試験				
受講要件	教育実践学専修の学生のための選択専門科目です。履修は、原則として教育実践学専修の学生に限ります。				
テキスト	なし。適宜、プリント資料等を配布します。				
参考書	講義の中で適宜、紹介します。				
予習・復習について	予習・復習の仕方については、授業のなかで話したり相談に応じたりします。				
成績評価の方法・基準	授業における討論等への参加状況および提出物と最終試験(レポート)を通し、授業の目標が達せられた度合いを判断します。				
オフィスアワー	質問・相談等は原則として各回の授業終了後に受け、その他は適宜、連絡のうえ。				
担当教員からのメッセージ	できれば文献購読的な作業も一部交えていきたいと考えています。積極的な参加を希望します。				

授業科目名	解析学 I				
担当教員名	大和田 智義 OWADA Tomoyoshi		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード	不定積分、定積分、広義積分				
授業の目標	この授業では、不定積分の様々な計算方法を習得します。また、微分積分の基本定理を通じて、定積分と不定積分の関係を正しく理解します。				
学習内容	この授業は 1 年生の微分積分学の続きです。高校の授業では学習しなかった複雑な計算が正しく出来る力を身につけます。また、定積分の定義を正しく理解して、その図形的な意味を理解します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 不定積分の公式 1 2. 不定積分の公式 2 3. 不定積分の計算 1 4. 不定積分の計算 2 5. 定積分の定義 6. 定積分の計算 1 7. 定積分の計算 2 8. 小テスト 9. 回転体の表面積 10. 回転体の体積 11. 曲線の長さ 1 12. 曲線の長さ 2 13. 広義積分 1 14. 広義積分 2 15. 小テスト 				
受講要件	1 年生の微分積分学の授業の続きだから、それを承知で受講すること。				
テキスト	「微分積分」矢野 健太郎, 石原 繁 著, 裳華房				
参考書	「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版				
予習・復習について	予習は特に必要ないが、復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	2 回行う小テスト、レポートおよび授業の取組み等で総合的に判断する。				
オフィスアワー	最初の講義のときに伝える				

担当教員からのメッセージ	ノートをしっかりととり、復習に時間をかけて学習した理論展開をよく理解するようにしてほしい。
--------------	---

授業科目名	書写基礎 B				
担当教員名	杉崎 哲子 SUGIZAKI Satoko		所属等	教育学部	
			研究室	教育学部A棟602	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	B	曜日・時限	木1・2
キーワード	書写、字形、字体、筆順				
授業の目標	小中学校国語科書写の内容を講義と実技を通して理解し、書写の原理を把握する。				
学習内容	「毛筆は硬筆の基礎を養う」との観点から、毛筆を中心に書写の基本を系統的・段階的に学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本点画 3. 字形のとり方①（長短、画間、方向） 4. " ②（交わり方、接し方） 5. " ③（組立て方・左右） 6. " ④（ " ・上下） 7. " ⑤（ " ・内外） 8. 平仮名 9. 片仮名 10. 行書の特徴①（変化・連続） 11. " ②（省略） 12. 文字の大小 13. 配置・配列 14. 書式 15. まとめ 				
受講要件	中学校国語免許取得予定者。原則として、Aは国語教育専修と書文化専攻、Bは他の専修・専攻。				
テキスト	『新編書写指導』全国大学書写書道教育学会編				
参考書					
予習・復習について	適宜宿題を課す				
成績評価の方法・基準	毎時の提出課題（毛筆・硬筆）と筆記試験によって、理解度と取り組みの姿勢、技能面を見る。筆記試験の結果は40%反映させる。実技科目であるため、欠課時数が総授業時数の5分の1を超えた場合は基本的に単位を認めることは難しい。				
オフィスアワー	水曜昼休み				
担当教員からのメッセージ	作品の出来不出来などの技能的な結果ばかりを気にするのではなく、原理原則を理解して指導できるようになるという自覚を持って、意欲的に「書く」ようにしてください。				

授業科目名	生化学				
担当教員名	天野 豊己 AMANO Toyoki		所属等	理学研究科	
			研究室	総 721	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	タンパク質、アミノ酸、代謝				
授業の目標	生体を構成する分子の構造と機能が分かるようになり、それらがどのように結びついているのかが理解できるようにする。				
学習内容	生体内における酵素反応の分子機構について、タンパク質の構造と機能の両面から解説する。またタンパク質科学の実験方法についても解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. pH と緩衝液 2. 生体物質 3. アミノ酸 4. タンパク質の二次構造 5. タンパク質の三次構造 6. タンパク質の四次構造 7. タンパク質間相互作用 8. 酵素反応 9. 酵素反応速度論 10. タンパク質の沈殿 11. クロマトグラフィー 12. 電気泳動 				
受講要件					
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	ヴォート生化学(東京化学同人)、ストライヤー生化学(東京化学同人)、コーンスタンプ生化学(東京化学同人)、細胞の分子生物学 (Newton Press)、など。				
予習・復習について	高校で生物もしくは化学を学習していない人は、細胞の分子生物学 (第5版) の第2章と第3章に目を通して、分子の世界に慣れておくが良い。また、自分に合った生化学の入門書で全体像をつかんでおくことも勧める。				
成績評価の方法・基準	成績は、試験と出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	質問は適宜受け付ける。不在に備えて sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡が望ましい。				
担当教員からのメッセージ	しっかりやりましょう。				

授業科目名	放射線計測・管理学概論				
担当教員名	大矢 恭久 OYA Yasuhisa		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A202	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 1・2
キーワード	放射線計測、放射線管理、主任者試験				
授業の目標	放射線計測・管理についての基礎知識を習得する。				
学習内容	必要な放射線測定および管理技術に関する基礎知識を演習問題を解きながら講義する。(放射線取扱主任者試験の計測・管理科目に該当する。)				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線量と単位 2. 気体の検出器 3. 固体・液体の検出器 4. 個人被ばく線量の測定 5. その他の測定器 6. 放射線測定の実際 7. 演習(1) 8. 放射線管理と防護の基準 9. 防護量と実用量・防護の基準 10. 体外放射線に対する防護 11. 体内に取り込まれる放射性物質の防護、健康診断 12. 場所の管理、個人被ばく管理、取扱施設 13. 個人被ばく管理～放射性廃棄物の処理 14. 放射性物質の保管～平成 17 年度法令改正の要点 15. 演習(2) <p>ただし、講義の進捗により前後することがある。</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論 (飯田博美、通商産業研究社)				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第 1 種、第 2 種 (通商産業研究社)				
予習・復習について	ホームページで公開している講義資料にあらかじめ予習しておくことが望ましい。また、テキストの各章末問題は適宜復習を兼ねて行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の演習(30%)および試験(70%)。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を受験希望する人は放射線物理学概論、放射化学概論 (化学科は放射化学 I)、放射線生物学概論も受講することをお勧めします。ただし本授業の受講要件ではありません。				

授業科目名	統計学				
担当教員名	板津 誠一 ITATSU Seiichi		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 605	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	検定、十分統計量				
授業の目標	「数理統計学」について講義する。ある現象を観測したり、ある集団を推測するため、標本をもとにもとの集団についての解析をすることが統計的推測である。推測する対象について実際のデータをもとにどのように分析し、どのように判断するかという問題を考えることを目標とする。				
学習内容	数理統計学の基本的な考え方がどのように定式化され基礎付けられることを解説する。講義では確率分布・条件付平均値などをもとに統計的推測の基礎である仮説検定、推定、統計量を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 確率空間と確率分布 2. 確率, 確率変数, 期待値 3. 条件付確率 4. 条件付密度関数, 条件付頻度関数 5. 条件付期待値の定義 6. 条件付期待値の性質 7. 多次元確率変数の変換 8. 統計的推測 9. 仮説検定 10. ネイマン-ピアソンの基本定理 11. 十分統計量 12. 因子分解定理 13. 推定 14. 推定量 15. クラメール・ラオの定理 				
受講要件					
テキスト	テキストはとくに指定しない。				
参考書	柳川堯「統計数学」近代科学社 ISBN: 4-7649-1014-4				
予習・復習について	配布するレジュメおよび各自のノートで予習・復習をしてください。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、レポートおよび演習問題を加えて評価します。				
オフィスアワー	火曜 9・10時限				
担当教員からのメッセージ	(※この科目は隔年開講です)				

授業科目名	物理数学 I				
担当教員名	松山 晶彦 MATSUYAMA Akihiko		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育C棟C414	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月3・4
キーワード	常微分方程式、フーリエ級数、フーリエ変換				
授業の目標	物理で登場する基礎的な微分方程式が解けるようになること。また、フーリエ級数、フーリエ変換の考え方を理解すること。				
学習内容	授業の前半は基礎的な微分方程式を取り上げ、その解法を説明する。後半ではフーリエ級数、フーリエ変換について学ぶ。なるべく物理における具体的な応用例に即して議論をすすめる。				
授業計画	<p>主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微分方程式について、一般解と特殊解 2. 1階微分方程式、変数分離型、同次型 3. 1階線形微分方程式、定数変化法、ベルヌーイ方程式、リカッチ方程式 4. 定数係数線形微分方程式の解空間、線形独立性、ロンスキアン 5. 線形非斉次微分方程式、共鳴 6. 特異点、形式解、フロベニウスの方法 7. フーリエ級数とフーリエ変換 8. フーリエ変換の応用 				
受講要件	基礎物理学 I，基礎物理学 I I，力学 I，力学 I I の単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「物理のための数学」 岩波 和達三樹				
参考書	「理工系の数学入門コース 微分方程式演習」 岩波書店 和達・矢嶋 著				
予習・復習について	予習と復習を必ずすること。				
成績評価の方法・基準	出席、宿題、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	この授業で学ぶことは物理学科のすべての授業で使うことになるので、しっかりと理解してください。				

授業科目名	有機化学Ⅲ				
担当教員名	塚田 直史		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	構造有機化学、立体化学、有機反応機構論、アルケン、アルキン、非局在化電子系、有機電子論				
授業の目標	有機化学を構造論と反応論の両面から理解する				
学習内容	有機化学Ⅰ、Ⅱでは、有機化合物は官能基によって分類され、その反応は官能基の変換であることを学んだ。本講義でも引き続き官能基の構造とその反応性について、アルケン、アルキン、さらに非局在化したパイ電子系化合物を中心に学習する。また、有機反応を電子の動きと結合の分極性に基づくと考える有機電子論を基に様々な反応を学び理解する。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>11章 アルケン 12章 アルケンの反応 13章 アルキン 14章 非局在化したパイ電子系</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上(第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人)				
参考書	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下(第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人)				
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	時間がある限り随時対応する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	発生生物学 I				
担当教員名	徳元 俊伸 TOKUMOTO Toshinobu		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	総合研究棟 625 室	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	配偶子形成、転写因子、誘導シグナル、モデル生物				
授業の目標	近年解明が進んでいる動物の発生の分子機構、その研究手法について理解する。				
学習内容	発生生物学は分子生物学の手法を用いることにより、近年めざましい進展を果たした。その発展の原動力となったのは発生過程で重要な機能を担う分子の同定法（遺伝子配列の決定）が確立されたことにある。さらにその遺伝子の導入、除去などの手法を駆使することで発生過程を実験的に改変する技術が確立され、今ではこれらの技術を基礎とした様々な研究から発生機構が分子のレベルで理解できるようになってきた。本講義では近年明らかになった発生の分子機構を概説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発生生物学の隆盛 2. 発生における一般的な問題 3. 発生に関わる重要な分子群(1) 4. 発生に関わる重要な分子群(2) 5. 発生における共通現象(1) 6. 発生における共通現象(2) 7. 発生における共通現象(3) 8. 発生遺伝学 9. 実験発生学(1) 10. 実験発生学(2) 11. 発生研究に必要な技術(1) 12. 発生研究に必要な技術(2) 13. モデル生物・アフリカツメガエル(1) 14. モデル生物・アフリカツメガエル(2) 15. モデル生物・ゼブラフィッシュ 16. 試験 				
受講要件	「発生生物学 II」をセットで履修することが望ましい。				
テキスト	エッセンシャル発生生物学、羊土社、 Jonathan Slack 著 大隈典子 訳 5,700 円（生協で販売）				
参考書	ウィルト発生生物学、東京科学同人				
予習・復習について	各回につき、予習・復習のためテキストを読むこと。				
成績評価の方法・基準	出席確認を兼ねて毎回、復習のための小テストを実施する。この小テストと本試験 1 回の成績を合計して理解度を評価する。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限（2 時 25 分-3 時 55 分）を予定				
担当教員からのメッセージ	本講義を履修することにより分子レベルの発生学の概略が理解できるようになると期待している。				

授業科目名	植物生理学				
担当教員名	栗井 光一郎 AWAI Koichiro		所属等	理学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	月 3・4
キーワード	光合成、光形態形成、膜脂質、貯蔵脂質				
授業の目標	植物の光形態形成反応，光合成，膜脂質合成の基礎を学び，植物のエネルギー獲得戦略について理解を深める。				
学習内容	植物生理学のなかで，植物特有の反応である光形態形成，光合成を中心に学ぶ。また，膜脂質やバイオディーゼルの合成と分解機構についてその合成と分解機構を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス，光形態形成 2. 光による制御 3. フィトクロム 4. クリプトクロム，フォトトロピン 5. 植物細胞と葉緑体分化 6. 光合成概説 7. 光捕集，電子伝達 I 8. 電子伝達 II 9. トピックス：遺伝子導入植物 10. 炭酸固定，光呼吸 11. C4 植物と CAM 植物，藻類の炭酸濃縮 12. 細胞膜 13. 脂肪酸合成 14. 膜脂質合成 15. 貯蔵脂質の合成と分解 				
受講要件	他の植物学系の講義も履修することが望ましい。				
テキスト	ベーシックマスター植物生理学（オーム社）				
参考書	Biochemistry & Molecular Biology of Plants, Buchanan 編 ほかプリントを適宜配布する				
予習・復習について	期間中に小テストを行うので，予習復習をしっかりと行うこと。				
成績評価の方法・基準	出席，小テストおよび試験の結果より総合的に判断する。試験は期末試験 1 回で終了の予定。講義した植物生理学の基本的な理解ができているかを判断する。プリント，ノートは持ち込み不可。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限を予定。				

担当教員からのメッセージ	地球上全ての生物は光合成の影響を受け、ほとんどの生物が光合成によって得られたエネルギーに依存しています。光合成の仕組みを理解することは、エネルギー循環の最初の部分を理解することです。エネルギー問題が大きく取り上げられている現在、光合成の正しい知識を身に着け、社会に還元する人材となってほしい。
--------------	--

授業科目名	生物環境科学概論 I				
担当教員名	宗林 留美 SOHRIN Rumi		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 411	
分担教員名	木村 浩之				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	生物、古生物、進化				
授業の目標	生物界の成り立ちを地質学的時間スケールで理解するための基礎を身につける。				
学習内容	進化古生物学の体系と理論と基本概念を解説し、古生物を生物学的・進化的側面から学ぶ。				
授業計画	<p>進化古生物学の背景</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 進化古生物学の概要（化石とは何か，進化の定義，進化古生物学の方法，関連諸分野） 2. 進化学関連学史（自然神学，自然哲学，進化論の登場，集団遺伝学の確立，総合説） 3. 化石の保存と記録の不完全性（保存の条件，化石化作用，自生・他生，化石の発見確率） <p>個体レベルの進化古生物学</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 成長と個体発生（成長型，絶対成長と相対成長，アロメトリー） 5. 生活様式と個古生態（生活型，摂食様式，古生態と地質学的情報，機能形態） <p>化石記録と進化</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 化石に見られる進化速度（系統的速度と分類学的速度，生きた化石，断続平衡論争） 7. 多様性変遷史の解釈（大量絶滅と適応放散，完全性と多様性の補正，分類群生存曲線） <p>8. 中間試験</p> <p>初期生命の記録</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. ストロマトライト，真核生物の出現 10. 多細胞生物の出現 <p>進化のバタンと化石生物</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. エディアカラ化石群 12. カンブリア紀の化石群と進化の大爆発 <p>地球環境と大量絶滅</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 大量絶滅の認識，主な大量絶滅 14. 大量絶滅の要因 15. 先カンブリア時代の地球環境 <p>16. 期末試験</p>				
受講要件	なし				
テキスト	特に定めない。配布したプリントは毎回持参すること。				
参考書	なし。プリントを適宜配布。				
予習・復習について	予習・復習とも各自しっかりやること。				
成績評価の方法・基準	試験による。試験で合格点に達しなかった場合，出席優良者に限って，再試験代わりのレポートを課すなどの救済措置を取る。				
オフィスアワー	なし				
担当教員からのメッセージ	なし				

授業科目名	多様性生物学				
担当教員名	塚越 哲 TSUKAGOSHI Akira		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 507	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期(前半)		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	—
キーワード	生物多様性、分類、分類学、個体発生、形態、進化				
授業の目標	生物のもつ分類学的、形態学的多様性の認識と理解を深める				
学習内容	ヒトはどのようにして生物を分類しその多様性を把握するのか、またその多様性はどのように創出されるのかについて基礎から学ぶ。				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の種数 ・ヒトの認識と分類 ・個体発生と系統発生 <p>以上の内容をオムニバス形式で行う。</p>				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適宜指示する。				
予習・復習について	キーワードについて、あらかじめ文献やインターネット等で学習しておくことが望ましい。また、授業でわからないことは放置せず、各自よく復習すること。質問も歓迎する。				
成績評価の方法・基準	筆記試験またはレポート、もしくは両方。				
オフィスアワー	下記参照。				
担当教員からのメッセージ	席をはずすことが多いので、来室の際は電子メール<<satukag@ipc.shizuoka.ac.jp>>もしくは電話054-238-4800(直通)であらかじめ連絡をください。特に重要な質問などがあれば、授業で取り上げることもあります。それから、授業中の飲食は慎んでいただきたい(当たり前のことですが)。				

授業科目名	幾何学				
担当教員名	久村 裕憲 KUMURA Hironori		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 603	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	月 5・6
キーワード	微分可能多様体、写像の微分、ベクトル場、微分形式、外微分				
授業の目標	微分可能多様体の基礎を学ぶ。				
学習内容	局所的に n 次元のユークリッド空間の開集合と微分同相な空間を微分可能多様体という。多様体上では微分・積分が展開される。また、微分形式を用いてド・ラム・コホモロジー・特性類が定義される。これらは現代幾何学・数理物理において極めて重要な概念である。この授業では、多様体のほんの入口を学ぶ。				
授業計画	(1) 微分可能多様体 (2) 接ベクトル空間 (3) 関数・写像の微分 (4) ベクトル場 (5) 微分形式 (6) 外微分 (7) de Rham コホモロジーの定義				
受講要件					
テキスト	村上信吾著「多様体」共立出版				
参考書	松本幸夫著「多様体の基礎」東京大学出版会				
予習・復習について	教科書に沿って授業を行うので予習を良くして下さい。数学の専門書が一人で読めるようになりましょう。				
成績評価の方法・基準	レポート、試験等を総合的に判断する。				
オフィスアワー	授業時間中にお知らせします。				
担当教員からのメッセージ	授業中内で全てが理解できる、ということはおそらくないです（それが普通です）。毎回の授業で、しっかりノートを取って、復習をしてはじめて理解ができます。特に、この授業では課題を出すので、課題を解くことを通して理解を深めてください。				

授業科目名	線形代数学Ⅲ				
担当教員名	浅芝 秀人 ASASHIBA Hideto		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 615	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	C	曜日・時限	—
キーワード	Jordan 標準型				
授業の目標	ジョルダン標準型について学ぶ.				
学習内容	線形代数学 II の続きとして正規行列とジョルダン標準型について学ぶ.				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 線形代数 I, II の復習 2. 正規行列のユニタリ行列による対角化 3. 最小多項式 4. ジョルダン標準型の理論 5. ジョルダン標準型の計算 				
受講要件	線形代数 I, II の内容を理解していること.				
テキスト	基礎講義 線形代数学 (二木昭人著 培風館)				
参考書					
予習・復習について	授業を受ける前には前回までの内容を理解してくること.				
成績評価の方法・基準	平常点 (レポート) 20%, 試験 80% で評価する.				
オフィスアワー	年度の初めに掲示する.				
担当教員からのメッセージ	分からないところがあれば, できるだけ早く質問に来てください.				

授業科目名	内分泌学				
担当教員名	鈴木 雅一 SUZUKI Masakazu		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A616	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	脊椎動物、内分泌、ホルモン、進化、病気				
授業の目標	脊椎動物の内分泌現象の原理と多様性を理解する。				
学習内容	人間の身体の中では多様な器官が機能しているが、それぞれの器官やそこで働く分子システムには生命の進化とともに歩んだ歴史がある。本講義では、哺乳類の内分泌系の機能を中心に解説しながら、内分泌器官やホルモン等の多様性および進化の道筋についても比較動物学的観点から考察する。また、折に触れてホルモンの関わる病気についても解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌学の歴史 2. 内分泌学研究の技術 3. 内分泌腺とホルモン I 4. 内分泌腺とホルモン II 5. 性と性分化、生殖周期 I 6. 性と性分化、生殖周期 II 7. ストレスとホルモン 8. 水・電解質調節 9. カルシウムの調節 10. 甲状腺ホルモン 11. 糖分の調節 12. 消化管とホルモン 13. 妊娠・出産・授乳とホルモン 14. 松果体とホルモン 15. 無脊椎動物とホルモン 16. 試験 				
受講要件					
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	<p>生命をあやつるホルモン（編；日本比較内分泌学会：講談社）</p> <p>比較内分泌学序説（編；日本比較内分泌学会：学会出版センター）など</p>				
予習・復習について	関連する事項について、随時、生物学の本を参照して自ら理解を深めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	主として最終授業の試験の結果で成績評価する。レポートを課した場合、それも評価の対象とする。				
オフィスアワー	随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ	内分泌に関連した本を一冊でも読んで欲しい。				

授業科目名	解析学				
担当教員名	田中 直樹 TANAKA Naoki		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	σ 集合体、測度、可測空間、可測関数、ルベーグの収束定理、Fubini の定理				
授業の目標	σ 集合体、測度、可測空間、可測関数などの定義を体得し、ルベーグ積分に関する定理の証明において、その行間の内容を補って理解する習慣を身につける。積分記号と極限記号の交換可能性を意味する単調収束定理・ルベーグの収束定理、および積分の順序交換に関する Fubini の定理など基本的で重要な定理の修得を目標とする。				
学習内容	ルベーグ積分は、リーマン積分の問題点（完備性の欠落など）を改良した積分である。まず、広い意味の長さを指す言葉「測度」の概念を導入し、その性質を調べる。さらに、関数の積分を定義するために、被積分関数として「可測関数」の概念を導入する。それらをもとにルベーグ積分を定義し、積分に関する諸定理（単調収束定理、ルベーグの収束定理、Fubini の定理など）を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Riemann 積分と面積 2. σ 集合体 3. 測度の定義と諸性質 4. 測度空間の完備化 5. 外測度 6. Hopf-Kolmogorov の拡張定理 7. Lebesgue 測度 8. 可測関数の定義と諸性質 9. 積分の定義 10. 積分に関する諸性質 11. 収束定理 12. 直積測度 13. Fubini の定理 				
受講要件	微分積分学 I、II の内容を理解していることが望ましい。				
テキスト					
参考書	ルベーグ積分入門、伊藤清三、裳華房 測度と積分、鶴見茂、理工学社、4-8445-0115-1				
予習・復習について	予習と復習を行い、理解度を高めてほしい。				
成績評価の方法・基準	定期試験の結果（80%）、受講態度・レポート（20%）により総合的に判断する。				
オフィスアワー	初回の講義の際に時間を設定する。				
担当教員からのメッセージ	測度論は、解析学 I で学ぶ L^p 空間（ p 乗可積分空間）の基礎であり、確率論や偏微分方程式への応用にも用いられる理論である。実数論や集合論と関係する抽象的な概念のため、初めのうちは取り付きにくい感じがするかも知れないが、行間の内容を補い理解を深めて欲しい。				

授業科目名	熱化学 I				
担当教員名	河合 信之輔 KAWAI Shinnosuke		所属等	理学研究科	
			研究室	理 B 3 0 2	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	火 1・2
キーワード	熱力学第 2 法則、エントロピー、自由エネルギー、変化の方向、化学平衡、統計熱力学、ボルツマン分布				
授業の目標	物理化学のひとつの柱である化学熱力学を理解・体得し、どんな問題にも応用できるような基礎をつくる。				
学習内容	講義前半では、熱力学第 2、第 3 法則を学び、熱力学の理論体系の成り立ちを理解する。講義後半は、熱力学に分子論的な基礎づけを与える理論としての統計力学を学び、エントロピーや自由エネルギー等の諸概念の分子的意味を理解する。 ?				
授業計画	<p>最初の数回を、数学と物理の予備知識の復習にあてた後、テキストの次の章を講義する。</p> <p>第 2 章 熱力学第 1 法則、 基本的な概念 (仕事、熱、エネルギー) 状態関数 (内部エネルギー、エンタルピー) 完全微分と不完全微分 熱化学 (標準生成エンタルピー、反応エンタルピー)</p> <p>第 3 章 熱力学第 2 法則 自発変化の方向 エントロピー (定義、自発性との関係、第 2 法則のエントロピーによる表現) 熱力学第 3 法則 自由エネルギー (ヘルムホルツエネルギーとギブスエネルギー)</p> <p>第 7 章 化学平衡 平衡状態 (自由エネルギーと平衡条件、平衡の温度・圧力依存性) 平衡電気化学 (半反応と電極、起電力)</p> <p>第 16 章 統計熱力学 分子状態の分布 (確率分布、配置と重み) エントロピーの分子論的意味 ボルツマン分布 分配関数</p>				
受講要件	微分積分, 確率論, 力学, および 1 年次の基礎熱化学の知識を前提とする。				
テキスト	「アトキンス 物理化学(上)(下)」(東京化学同人)第 2, 3, 7, 16 章 ?				
参考書	授業中に適宜引用文献を挙げる				
予習・復習について	新しく学ぶ諸概念や論理展開のしかたを理解するのに苦勞する分野であるので、週 1~2 時間 (以上) を目安に、しっかりと予習復習および教科書や配布プリントの演習問題に取り組むこと。				
成績評価の方法・基準	毎回課される小レポートの提出を、出席代わりとする。 成績は、小テストと最終試験の点数を半分ずつの割合で加算して評価する。				
オフィスアワー	随時。ただし会議等の都合で研究室に不在の時間があるので、事前に連絡を取ってもらったほうが安全ではある (sskawai@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	層序学				
担当教員名	北村 晃寿 KITAMURA Akihisa		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火1・2
キーワード	層序学、層序区分、層序単元、模式層と模式地、岩相層序、生層序、古地磁気層序、火山灰層序、サイクル層序、シーケンス層序				
授業の目標	地層に保存された地質記録や化石記録の理解に不可欠な層序学を習得する。				
学習内容	層序学の体系と理論と基本概念を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 層序学とは何か（地層体系化の手順，様々な層序学，層序学関連小史） 2. 層序学の基本原理（公式層序単元，岩相層序単元各説） 3. 層序区分の標準化（年代層序尺度，地質年代単元，GSSPと“黄金の楔”） 4. 層序単元の命名（模式，国際層序ガイド，地層命名法，先取権の原則） 5. 生層序学の基礎（生層準(FAD, LAD)，誘導・導入化石，異時性，生層序帯各説，示準化石各説） 6. 生層序学の実際（CSRS，グラフ対比法，AEO，CONOP，RASC，生層準の区間推定） 7. 層序と編年（GSSA，複合年代尺度の構築，年輪・骨格編年，交差年代決定） 8. 微化石層序・古地磁気層序（概念，事例） 9. 火山灰層序学（概念，事例） 10. サイクル層序1（サイクル層序の概念，生態層序，海洋酸素同位体層序） 11. サイクル層序2（海洋酸素同位体層序） 12. 第四紀の層序 13. シーケンス層序1（シーケンス層序の原理） 14. シーケンス層序2（海水準変動） 15. 層序学の応用 				
受講要件	なし。				
テキスト	なし。				
参考書	適時，プリントを配布する。				
予習・復習について	ノート，配布プリントを使って，予習復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	レポートの内容と試験の結果から，成績評価を行う。				
オフィスアワー	授業で個々に通知する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	放射化学Ⅱ				
担当教員名	矢永 誠人 YANAGA Makoto		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 201	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 1・2
キーワード	天然放射性核種、人工放射性核種、核反応、放射化分析、放射化学分離、R I の利用				
授業の目標	原子核の性質を理解するとともに、同位体、特に放射性同位体を利用した化学の実際を修得する。				
学習内容	<p>I. 元素を構成している同位体について、安定同位体と放射性同位体に分けて考え、これらがどのような過程によって生成・分布しているのかという点を目指して概説する。これを理解するために必要な放射性同位体および安定同位体の物理的性質、化学的性質および放射性同位体をつくる核反応についても述べる。</p> <p>II. きわめて類似した同位体どうしの化学的性質は、同位体をトレーサーなどとして利用できる。他方、わずかながら検出される同位体間の性質の差を利用して、同位体の分離はもちろん、他の方法では難しい研究にも特色を生かして応用されて</p>				
授業計画	<p>以下の項目について、基礎的・基本的な事項を解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 核反応 <ol style="list-style-type: none"> 核反応 核反応断面積と生成放射能 核反応の種類 核分裂反応 核融合反応 元素の起源 <ol style="list-style-type: none"> Hubble の法則 宇宙温度変化と物質の創成 年代測定法 <ol style="list-style-type: none"> 宇宙年代学 放射性壊変を利用する年代測定の原理 年代測定 核・放射化学的分析 <ol style="list-style-type: none"> 放射化学的分離法 放射化分析 放射分析 同位体希釈分析 				
受講要件	放射化学Ⅰ、放射化学概論、放射線物理学概論のいずれかを受講していることが望ましいが、これらの科目を履修していない者に対しては配慮する。				
テキスト	放射化学概論 第3版 (富永健、佐野博敏著、東京大学出版会)				
参考書	適宜、資料を配布する。				
予習・復習について	予習および復習、特に復習は重要である。聞いたこと、あるいは、疑問に思ったことをそのままにせず、自ら調べることにより、さらに実力が養成される。				
成績評価の方法・基準	授業時の演習課題と期末試験により総合的に評価する。				
オフィスアワー	午前9時頃から午後6時頃まで、随時、質問等を受けつける。				
担当教員からのメッセージ	放射化学Ⅰなど、要件に記した科目を履修していることが望ましいが、未履修者に対しても考慮しつつ講義を進めていく。				

授業科目名	代数学				
担当教員名	浅芝 秀人 ASASHIBA Hideto		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 615	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	火 3・4
キーワード	環、イデアル、単項イデアル整域、一意分解整域、ネーター環、多項式環、加群				
授業の目標	環、環のイデアル、剰余環等の基本的な事項を習得し、環上の加群に関する基本事項に慣れることを目標とする。				
学習内容	環および環上の加群について講義する。環について基本的な事項を解説した後、重要な例として多項式環を取上げる。次に環上の加群について基本的な事項を解説し、時間があれば単項イデアル整域上の有限生成加群を決定する。				
授業計画	1. 環 1.1 環，整域，体の定義 1.2 イデアル，剰余環 1.3 準同型写像 1.4 素イデアル，極大イデアル 1.5 単項イデアル整域 2. 多項式環 2.1 可換環上の多項式 2.2 体上の多項式環 2.3 多変数多項式 3. 加群 3.1 加群の定義 3.2 $\text{Hom}(A, B)$ 3.3 単項イデアル整域上の加群				
受講要件	代数学入門を履修していること。				
テキスト	代数学入門（東郷重明著，サイエンス社）あるいは下記の参考書等				
参考書	代数学 2（雪江明彦，日本評論社） 現代代数学（服部昭著，朝倉書店） 代数学入門（松坂和夫著，岩波書店）				
予習・復習について	教科書や参考書で予習，授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは，できるだけ早く質問に来て理解すること。				
成績評価の方法・基準	出席，レポートなどの平常点 20%，および試験 80%で評価する。				
オフィスアワー	最初の授業で連絡する。				
担当教員からのメッセージ	授業の内容で分からないことがあったら，できるだけ早く質問に来て下さい。				

授業科目名	電磁気学Ⅲ				
担当教員名	土屋 麻人 TSUCHIYA Asato		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 4 0 1	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 3・4
キーワード	Maxwell 方程式、電磁波の伝搬、電磁波の放射				
授業の目標	Maxwell 方程式に基づいて、電磁波の伝搬と放射を理解する。				
学習内容	Maxwell 方程式に基づいて、電磁波の伝搬と放射を学習する。さまざまな応用にも触れる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Maxwell 方程式の一般的性質 2. 電磁波の伝搬 3. 電磁波の放射 				
受講要件	電磁気学 I,II が履修済みであること。				
テキスト					
参考書	砂川重信「理論電磁気学」紀伊国屋書店、ジャクソン「電磁気学（上）（下）」吉岡書店、ランダウ・リフシッツ「場の古典論」東京図書				
予習・復習について	復習が大事である。				
成績評価の方法・基準	中間および期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	情報生化学				
担当教員名	大吉 崇文 OYOSHI Takanori		所属等	理学研究科	
			研究室	大吉研究室（理学部A棟 310）	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火 3・4
キーワード	核酸、遺伝子発現、転写、翻訳、DNA複製、DNA組み換え、染色体、染色体分配				
授業の目標	生命を情報という視点から学習し、その原理を学ぶ。				
学習内容	生命の遺伝情報という視点から解説します。生物の性質および形態を決定するのが遺伝情報であり、この遺伝情報の本体とは何か、どのようにしてこの情報を利用しているのか、そしてどのような仕組みで子孫へこの情報を受け継いでいくのかを解説します。また現代社会ではこの仕組みを応用した遺伝子操作技術が発展し、多大な変化をもたらしていますが、この技術についても解説します。				
授業計画	<p>テキストにそって、以下の内容を解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヌクレオチド代謝 2. 核酸の構造 3. DNAの複製、修復、組み換え 4. 転写とRNAプロセッシング 5. 翻訳 6. 遺伝発現の制御 				
受講要件	基礎生化学、代謝生化学の履修を前提とする。生物学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。				
テキスト	ヴォート基礎生化学・第3版（東京化学同人）				
参考書	細胞の分子生物学・第4版（ニュートンプレス）、アメリカ版大学生物学の教科書1～3巻（講談社ブルーバックス）				
予習・復習について	テキスト、ノートの前習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。				
オフィスアワー	空いているときはいつでもOK。				
担当教員からのメッセージ	DNAの構造が解かれてから50年間の分子生物学の歴史と基礎を学んでください。ちなみに、アメリカ版大学生物学の教科書は、高校で生物を学ばなかった人にも理解できる内容なので参考書としておすすめです。				

授業科目名	地球環境学				
担当教員名	加藤 憲二 KATO Kenji		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育C棟 602	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	火3・4
キーワード	地球環境、海洋、生態系、物質循環、生物多様性				
授業の目標	地球上で今おこっている環境問題をトピック的に眺めるのではなく、それらがなぜ問題なのか、問題の根っこはどこにあるのかについて地球科学を学ぶ者として必須となる知識も整理しながら学ぶ。しくみを理解する、しくみを動かす力を理解する、そして人間と地球環境のありようを考える。				
学習内容	地球環境を統合的に理解することを目指して、考え方のツールとしての時間軸、空間スケールの捉え方から、物質循環の意味、生態系のありようを学ぶ。				
授業計画	第1回 地球環境をどのように捉えるか；空間と時間（加藤） 第2回 気候変動の仕組み（1）（北村） 第3回 気候変動の仕組み（2）（北村） 第4回 海洋の仕組みと温暖化（宗林） 第5回 海洋の酸性化、仕組みと問題（宗林） 第6回 水循環（1）大気と海洋の相互作用（宗林） 第7回 水循環（2）地下水と水資源（加藤） 第8回 物質循環（1）；CとN， バランスをとる仕組み（加藤） 第9回 物質循環（2）；Sと重金属、環境影響と汚染について（加藤） 第10回 生態系の捉え方（1）生体濃縮、カスケード、富栄養化と汚染の違い（加藤） 第11回 生態系の捉え方（2）遷移、進化、全球凍結（加藤） 第12回 環境変動と生物多様性（1）（塚越） 第13回 環境変動と生物多様性（2）（塚越） 第14回 エネルギーと環境（2）地球科学はどのように機能するか（加藤） 第15回 環境倫理について（加藤） 講義の順序は入れ替わることがあります。Case sensitive!				
受講要件	出席するだけでなく授業に＜参加する＞こと。				
テキスト	プリント				
参考書	鈴木秀夫『森林の思考・砂漠の思考』（NHK ブックス） 和辻哲郎の『風土』（岩波文庫） Environmental Science, International Student Version, Botkin & Keller, Wiley, 2012.				
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度推薦された文献や資料を読む。				
成績評価の方法・基準	成績はレポートと試験による。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	シミュレーション数理科学 I				
担当教員名	田中 直樹 TANAKA Naoki		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 602	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	火 5・6
キーワード	偏微分方程式、差分法、作用素半群の積公式				
授業の目標	熱伝導という物理現象を題材に、1. 現象の数学モデル化の方法、2. 数学モデルへの実解析的な立場からの接近方法、3. 数学モデルへの数値解析的な接近方法、に関する基本的な考え方を身につける。				
学習内容	微分積分学の知識をもとに、熱伝導という物理現象の数学モデル化から始める。このモデルは偏微分方程式で与えられる。この授業では、偏微分方程式の数値解法の代表的な方法である差分法、および、シミュレーションにより現象の可視化について学習する。その際、偏微分方程式を近似する差分方程式をどのように構成するのか、また、どのような場合に差分方程式の解が偏微分方程式の解に収束するのか、などの直面する数学的問題への解決法を作用素半群の近似理論を題材とし講義する。				
授業計画	次の計画を進めるが、受講生の理解状況に応じて変更することがある。 1. 熱伝導の現象の数学モデル化 2. 必要な数学用語の準備 3. 作用素半群の積公式 4. 差分法による偏微分方程式の解法 5. Mathematica によるシミュレーション				
受講要件					
テキスト					
参考書					
予習・復習について	授業中にすべてを理解することは一般的に不可能である。予習と復習を必ず行い、理解度を高めてほしい。				
成績評価の方法・基準	受講態度と小テスト（20%）および最終試験（80%）により総合的に判断する。				
オフィスアワー	初回の授業の時に、曜日と時限を決めるが、随時質問に応じる。但し、事前に在室を確認すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	微分積分学Ⅲ				
担当教員名	清水 扇丈 SHIMIZU Senjo		所属等	理学研究科	
			研究室	理 C510	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	火 5・6
キーワード	偏微分、全微分、テイラーの定理、陰関数の定理、逆関数の定理、条件付極値問題				
授業の目標	多変数関数の微分積分学のうち、主に多変数関数の微分についての基本的内容を学ぶ。				
学習内容	数学科では1・2年次に微分積分学全般を必修科目として学習する。1年次では主に実数論と1変数関数の微分積分学を、2年次では多変数の微分積分学を学ぶ。この流れの中で微分積分学では主に多変数の微分法に関する基本的内容を、テイラーの定理などを初めとし、陰関数の定理、陰関数の定理、条件付極値問題までを解説することを目指して講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユークリッド空間の点列と部分集合 2. 連続写像 3. 線形写像、写像の微分 4. 全微分 5. 偏微分 6. 高次導関数 7. テイラーの定理 8. 極値問題 9. 逆関数定理 10. 陰関数定理 11. 条件付極値問題 				
受講要件	微分積分学 I,II および線形代数学 I,II を学習していること。さらに、集合・位相を並行して学ぶこと。				
テキスト	白岩謙一 著「解析学入門」学術図書 ISBN4-87361-114-8				
参考書	笠原皓司 著「微分積分学」サイエンス社（サイエンスライブラリ数学 12）				
予習・復習について	多変数関数の微分積分学は、1変数の場合と異なり、大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した1変数微分学、線形代数学や2年次に並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされるので予習復習〔主に復習〕が不可欠である。				
成績評価の方法・基準	成績評価の主要部は試験の成績の良否による。出席状況および関連したレポート問題を課す場合には、その実績も考慮する。 試験やレポートでの評価は論述的解答および記述が求められる。				
オフィスアワー	最初の授業時に述べる。				
担当教員からのメッセージ	1変数の場合と異なり、これらは大学で初めて学ぶ数学であり、今までに学習した1変数微分学、線形代数学や、並行して学ぶ集合・位相についての知識が必要とされます。講義内容の難易度も上がるが、具体例を挙げて解説するので、難しさを感じるのみでなく、理論の巧みさの一端も味わって新しい知識を習得して下さい。				

授業科目名	生物多様性科学				
担当教員名	栗井 光一郎		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	多様性、進化、細胞内共生				
授業の目標	様々な生物のもつ特徴，多様性，生活環を中心とした基礎的知識を身に着けると共に，地球のいたるところで活動する生物を体系的に理解する。				
学習内容	生物の多様性，特徴，進化，環境適応機構を総合的に学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体膜・生物の分類 2. 原核生物：古細菌，細菌 3. 原生生物：エクスカバータ 4. 原生生物：クロモアルベオラータ 5. 原生生物：アーケプラスチダ 6. 原生生物：リザリア，ユニコンタ 7. 菌類 8. 植物：コケ植物 9. 植物：シダ植物 10. 植物：裸子植物 11. 植物：被子植物 1 12. 植物：被子植物 2 13. 動物：機能・形態における多様性と進化 1 14. 動物：機能・形態における多様性と進化 2 15. 動物：行動・生態における多様性と進化 				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない				
参考書	丸善 キャンベル生物学-原書第 9 版- ほかプリントを適宜配布する				
予習・復習について	期間中に小テストを行うので，予習復習をしっかりと行うこと				
成績評価の方法・基準	出席，小テストおよび試験の結果より総合的に判断する。試験は期末試験 1 回で終了の予定。講義した多様性生物学の基本的な理解ができていないかを判断する。プリント，ノートは持ち込み不可。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限を予定（栗井）				

担当教員からのメッセージ	生物の生理生態，進化を知ること，地球上に存在する様々な生物を体系的に理解することが可能となる。実験生物だけではなく，生き物とは何かということを学んでほしい。
--------------	--

授業科目名	地球科学入門 I				
担当教員名	石橋 秀巳 ISHIBASHI Hidemi		所属等	理学研究科	
			研究室	理 C 棟 405	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	地球システム、鉱物、岩石、火山、マグマ、噴火、火成活動				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って学習しながら、地球科学の基礎的素養を幅広く身につける。地球科学の専門用語を英語と日本語に対応させ、その内容を理解する。				
学習内容	英語の教科書を使いながら、地球科学の基本的な考え方と、鉱物・岩石・火山に関する地球科学の基礎知識を学習する。				
授業計画	1. Introduction to Earth Science Unit One: Earth Materials 2. Matter and Minerals 3. Rocks: Materials on the Solid Earth Unit Three: Forces Within 9. Volcanoes and Other Igneous Activity				
受講要件	特になし				
テキスト	Tarbuck, E. J., Ludgens, F. K., Tasa, D., Earth Science. 13th Edition. Prentis Hall, 740pp (2012) ISBN-13:978-0-321-68850-7, ISBN-10:0-321-68850-3				
参考書	ニューステージ新地学図表 - 地学基礎+地学 (浜島書店, 2013) ISBN-10: 4834340104, ISBN-13: 978-4834340105				
予習・復習について	英語辞書などを使って教科書をよく読み、十分に予習してきてください。				
成績評価の方法・基準	出席、小テスト・小レポート、期末の試験の成績により総合的に評価する。				
オフィスアワー	相談などの際には、メールで事前連絡してください。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	数理論理学				
担当教員名	鈴木 信行 SUZUKI Nobuyuki		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 601	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	古典命題論理、古典述語論理、完全性定理				
授業の目標	数理論理学の基礎となる古典論理とその完全性を理解する。				
学習内容	<p>近代的論理学としての数理論理学は、19 世紀中葉の George Boole をその嚆矢とし、前世紀の前半に、哲学・数学の基礎付け・コンピュータの基礎理論等との関連の中で大きく進歩した。その後、哲学・理論計算機科学・社会科学などのさまざまな分野の基礎および応用と関連を増しつつ、ますます発展してきている。本講義では、数理論理学の基礎となる古典論理について概説する。</p>				
授業計画	<p>下記の 2 までを目標に講義し、余裕があれば 3 まで言及したい</p> <p>1.古典命題論理 構文論：命題計算 NK 意味論：付値と真理表 古典命題論理の完全性定理 真理関数・標準形・Boole 代数</p> <p>2.古典述語論理 構文論：述語計算 NK 意味論：第 1 階構造とモデル Godel の完全性定理とその応用</p> <p>3.Sequent Calculi Gentzen の LK、LJ 基本定理とその応用</p>				
受講要件	数学科 2 年までの授業が一通り理解できていること（単位取得は不問）				
テキスト	なし（プリント配布の予定）				
参考書	<p>A mathematical introduction to logic, Enderton, Academic Press, 2000, 978-0122384523</p> <p>数理論理学、鹿島亮、朝倉書店、978-4-254-11765-3</p> <p>数学基礎論、新井敏康、岩波書店、978-4-00-005536-9</p> <p>ほかにも良書があるので講義中に適宜指示する。</p>				
予習・復習について	この講義は、数学科の専門科目である。2 年までの講義に比べてとき、難しくなるのは当然である。予習・復習などをしっかりやって欲しい。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。(適宜、レポートの評価を加算する。)				
オフィスアワー	開講時に連絡する。				
担当教員からのメッセージ	予習・復習などの自宅での自発的かつ積極的勉強なくしては、身に付くものも少ない。大学の講義は、これを前提としている。				

授業科目名	地球物理学				
担当教員名	生田 領野 Ryoya IKUTA		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育C棟 306	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	地球物理学、地震学、測地学、弾性体力学				
授業の目標	地球物理学の基礎を学び、地学現象を物理的に捉える思考力を養う。				
学習内容	地球物理学で用いられる数学的／物理学的知識と思考法を学び、適宜演習を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1. 地球物理学入門：ケプラーからニュートンへ（質点系の力学） 2. 2. 地球物理学入門：質点系から連続体への拡張 3. 3. 地球物理学入門：スペクトル解析 I（フーリエ級数とフーリエ積分） 4. 4. 地球物理学入門：スペクトル解析 II（相互相関とクロススペクトル） 5. 5. 地震学：P波，S波，表面波 6. 6. 地震学：震度，マグニチュード，震源と断層，地震モーメント 7. 7. 地震学：世界の震源分布，深発地震，プレートテクトニクスと地震 8. 8. 地震学：地震のメカニズム，P波初動分布，P軸，T軸 9. 9. 地震学：余震，地震に伴う地殻変動 10. 10. 地震学：津波，火災，地震予知 11. 11. 地震学：走時曲線とレイパラメーター 12. 12. 上部マントル，下部マントル，外核，内核 13. 13. 大陸地殻と海洋地殻，アイソスタシー 14. 14. 測地学：国際単位系，ジオイド，地球楕円体，重力と地球の形 15. 15. 測地学：水準測量，三角測量，宇宙測地学 				
受講要件					
テキスト	とくになし。				
参考書	<p>地球科学に関連するシリーズの教科書の固体地球物理学関連 (例) 新版地学教育講座2「地震と火山」：安藤雅孝ほか，東海大出版</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地震学 第3版」：宇津徳治，共立出版株式会社 ・測地学会テキスト（一般向けの「測地学」の教科書）HP: 				
予習・復習について	数学的・物理学的思考に不慣れな人にとっては予習復習大切です				
成績評価の方法・基準	レポートとテストの成績				
オフィスアワー	水曜日 正午～夕方				

担当教員からのメッセージ	
--------------	--

授業科目名	物理数学Ⅱ				
担当教員名	土屋 麻人 TSUCHIYA Asato		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 4 0 1	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード					
授業の目標					
学習内容	複素関数論				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初等複素関数 2. 正則関数 3. 等角写像 4. 複素積分 5. コーシーの積分定理 6. 留数定理とその応用 7. テイラー展開とローラン展開 8. 解析接続 				
受講要件	微分、積分、ベクトル解析を理解していること。				
テキスト					
参考書	寺沢貫一「数学概論」岩波書店、松下貢「物理数学」裳華房、中山恒義「物理数学(II)」裳華房、スミルノフ「高等数学教程 第6巻、第7巻」共立出版				
予習・復習について	復習をすること。				
成績評価の方法・基準	中間試験と期末試験。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	有機化学 I				
担当教員名	山中 正道 YAMANAKA Masamichi		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 B 棟 3 1 1 室	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	水 1・2
キーワード	混成軌道、有機電子論、有機反応機構、構造有機化学、立体化学、アルカン、シクロアルカン、立体異性体				
授業の目標	有機化学の基礎概念を学び、構造有機化学を理解する。				
学習内容	有機化学の基礎概念として、共有結合の電子状態と混成軌道について学ぶ。次に、構造と反応性の基本概念を学ぶ。そして、構造有機化学に関して、立体配座、立体配置、光学異性体について学習する。				
授業計画	<p>テキストに従って以下の章を解説する。</p> <p>1 章 有機分子の構造と結合 2 章 構造と反応性 3 章 アルカンの反応 4 章 シクロアルカン 5 章 立体異性体</p>				
受講要件					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上 (第6版)」(古賀憲司・野依良治ら監訳) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	試験および出席状況により評価する。				
オフィスアワー	平日午後				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	基礎生化学				
担当教員名	瓜谷 眞裕 URITANI Masahiro		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 312 室	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	生体分子、ヌクレオチド、核酸、アミノ酸、タンパク質、単糖、多糖、脂質、生体膜、酵素				
授業の目標	アミノ酸とタンパク質、糖、脂質、ヌクレオチドと核酸などの生物特有の物質について、それらの構造と機能を学ぶ。生体膜の構造と酵素反応の仕組みを学習する。				
学習内容	生物はタンパク質、糖、脂質などの生物特有の物質から構成される複雑で精巧な機械といえます。そしてこの機械は DNA という核酸にコードされた情報にしたがって作られ、またその機能が制御されています。この生物機械の働きはすべて生体物質間の化学反応に依存しています。この講義では化学の視点から生体物質の構造と働きを学ぶとともに、生物を理解する上で必要な生化学の基礎を学びます。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、生化学の基礎：生命の科学 2. 生化学の基礎：水の性質、生体分子：ヌクレオチド、核酸、遺伝情報 3. 生体分子：ヌクレオチド、核酸、遺伝情報 4. 生体分子：アミノ酸 5. 生体分子：タンパク質の一次構造 6. 生体分子：タンパク質の三次元構造 7. 生体分子：タンパク質の三次元構造、タンパク質の機能 8. 生体分子：タンパク質の機能 9. 生体分子：単糖と多糖 10. 生体分子：脂質と生体膜 11. 生体分子：脂質と生体膜 12. 生体分子：膜輸送、酵素：酵素触媒 13. 酵素：酵素触媒 14. 酵素：酵素の反応速度論 15. 復習と総括 				
受講要件	特になし。				
テキスト	ヴォート基礎生化学 第3版（東京化学同人）				
参考書	細胞の分子生物学 第5版（ニュートンプレス）				
予習・復習について	教科書やノートをよく読むなど、日々の予習と復習が必要である。				
成績評価の方法・基準	単位の認定には、原則として3分の2以上の出席が必要です。単位の認定と成績の評価は、小テストとレポート（両方で50%）および期末試験（50%）の総点で判断します。				
オフィスアワー	月曜日の午前中を空けておきますが、これ以外でも可能な限り対応します。				
担当教員からのメッセージ	化学科でなぜ生物を学ぶの？と思うかも知れませんが、生命現象は化学の知識で理解できるものです。生化学はその学問分野であり、化学の中の主要な分野のひとつを占めています。遺伝子操作や iPS 細胞などのバイオ技術も生化学の延長線上にあります。生化学を学べばバイオ技術の原理が分かり、物質（化学）という視点からの生命観が得られるようになります。生化学の理解には化学の知識が必要ですが、化学科の学生はそのような学習環境にあるのでたいへん有利ということが言えます。				

テキストのヴォート基礎生化学（第3版）は、本講義以外にも代

授業科目名	有機反応論				
担当教員名	小林 健二 KOBAYASHI Kenji		所属等	理学研究科	
			研究室	小林研究室 (総合研究棟 514)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	有機化学、官能基、構造、反応、反応機構				
授業の目標	有機化合物の構造と反応を理解する				
学習内容	2年次の反応有機化学の講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに講述する。本講義で取り扱う内容は、現代有機化学の基礎を数多く含んでいる。有機反応の原理と多様性、材料・医薬品合成などの基礎をなす有機合成化学の重要性など、有機化学の魅力を感じてほしい。				
授業計画	15章 ベンゼンと芳香族性：芳香族求電子置換反応 16章 ベンゼン誘導体への求電子攻撃：置換基による位置選択性の制御 17章 アルデヒドとケトン：カルボニル基の化学 18章 エノール、エノラートとアルドール縮合： α, β -不飽和アルデヒドおよびケトン 19章 カルボン酸 20章 カルボン酸誘導体				
受講要件	特になし				
テキスト	ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下巻 (第6版) (古賀憲司・野依良治・村橋俊一監訳) (化学同人)				
参考書					
予習・復習について	予習・復習は必須である。どのような反応にも反応機構がある。置換・付加・脱離・転位という素反応の組み合わせで反応を考えてみよう。				
成績評価の方法・基準	試験により評価する				
オフィスアワー	平日午後				
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。				

授業科目名	電磁気学 I				
担当教員名	松本 正茂 MATSUMOTO Masashige		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 A501	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	電磁気学、電場、電位、ベクトル解析				
授業の目標	ベクトル解析を用いて静電場を理解することを目標とする。				
学習内容	物理学で学ぶ電磁気学ではベクトル解析を用いる。ベクトル解析の意味や計算方法を詳しく説明し、電磁気学にどのように応用されているかを解説する。ベクトル解析を用いることで、電磁気学は簡潔に表現されることを学ぶ。				
授業計画	<p>テキストの第 4 章までの内容を、次の順に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 静電場 クーロン力 電場 表面積分、体積分、ガウスの発散定理 ガウスの法則 2. 電位 (スカラーポテンシャル) 線積分、ストークスの定理 保存力 スカラーポテンシャル ポアソン方程式 3. 導体と静電場 静電容量 コンデンサー 				
受講要件	一年次の物理学科専門科目と理系基礎科目を修得していることが望ましい。				
テキスト	電磁気学 I 長岡洋介 著 岩波書店 ISBN 400076434 (電磁気学 II の授業でも使用する)				
参考書	<p>ファインマン物理学〈3〉電磁気学 ファインマン 著 岩波書店 ISBN 400077139</p> <p>例解 電磁気学演習 長岡洋介・丹慶勝市 著 岩波書店 ISBN 400077929</p> <p>電磁気学演習 (基礎物理学選書 (21)) 小出昭一郎 著 裳華房 ISBN 4785321237 (現在絶版)</p>				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要なため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験とレポートによって成績を評価する。				
オフィスアワー	適宜。場合によっては、必要に応じて設定する。				
担当教員からのメッセージ	電気と磁気の現象を統一的な立場から理解する電磁気学は、物理の分野だけでなく、産業界においても重要である。この電磁気学を学ぶためには、 ∇ (ナブラ) 演算子の意味と使い方を理解する必要がある。授業ではこの点を詳しく説明するので、物理を理解するための道具として、 ∇ 演算子を自在に使えるようになって欲しい。				

授業科目名	量子化学Ⅱ				
担当教員名	関根 理香 SEKINE Rika		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 3 階 302 号室	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	化学結合、分子軌道法、シュレーディンガー方程式、共有結合、イオン結合、分子の対称性、群論				
授業の目標	分子軌道法の考え方を理解する。さらに分子軌道や分子振動について群論を用いた考察ができるようになることを目指す。				
学習内容	「量子化学Ⅰ」で学んだ原子に関する量子力学的考察の結果をもとにして、化学結合の成り立ちと分子軌道法について学ぶ。さらに群論の基礎を学ぶことにより、分子の形（対称性）から分子の性質に関する有益な情報を得ることができることを学ぶ。				
授業計画	0. はじめに 1. 化学結合と分子軌道法 1.1 水素分子イオン 1.2. 原子価結合法と分子軌道法 1.3. 等核二原子分子の分子軌道 1.4. 異核二原子分子の分子軌道 1.5. 混成軌道 1.6. 分子軌道法と永年方程式 2. 分子の対称性と群論 2.1. 対称要素と対称操作 2.2. 点群 2.3. 対称操作と表現行列 2.4. 可約表現と既約表現 2.5. 相似変換と表現行列の簡約 2.6. 指標と指標表 2.7. 指標表を用いた表現の簡約 2.8. 分子軌道と既約表現 2.9. 混成軌道と既約表現 2.10. π 分子軌道と既約表現 2.11. 電子遷移の選択則と既約表現 2.12. 分子振動と既約表現				
受講要件	「量子化学Ⅰ」の内容程度の知識、行列や行列式に関する初歩的知識があることが望ましい。				
テキスト	「バーロー物理化学（下）」第 10 章後半（二原子分子）、第 11 章、第 12 章（12.5）				
参考書	「アトキンス 物理化学(上)」（東京化学同人）、「分子の対称と群論」（東京化学同人）				
予習・復習について	予習・復習合わせて、週 1 時間程度はテキスト・ノートを読むこと。				
成績評価の方法・基準	レポート（10%）と期末試験(90%)で評価する。				
オフィスアワー	特に定めませんが、なるべく講義の直後に質問してください。				
担当教員からのメッセージ	群論に対して、最初は抽象的な印象を持つかもしれませんが、分子のいろいろな性質について具体的な結論を明快に与えてくれます。分子軌道や分子スペクトルを理解する上でとても有用な道具となりますので、よく復習して内容の理解に努めてください。自分でよく考えても分からない事があれば、質問してください。				

授業科目名	溶液化学				
担当教員名	加藤 知香 KATO Chika		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 307	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水3・4
キーワード	溶液内化学平衡、酸塩基平衡、沈澱平衡、錯体平衡、酸化還元平衡				
授業の目標	溶液内イオン平衡の厳密な取り扱いの習得を目的としている。平衡定数を基に、反応物および生成物の平衡濃度の計算方法を学ぶ。				
学習内容	分析化学においては溶液内反応が最もよく利用されている。水と電解質溶液の性質、溶液内化学平衡の基礎理論、各種の化学反応とその分析化学への応用など、主として分析化学を学ぶために必要な溶液化学の基礎を解析する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 第1章 溶液と濃度（モル濃度、規定度、式量濃度） 第1章 溶液と濃度（重量パーセント、ファクター、規定液の調製） 第2章 活量と濃度（活量と活量係数、イオン強度） 第2章 活量と濃度（デバイーヒュッケルの式、電解質と非電解質） 第3章 溶液内化学平衡（化学平衡と質量作用の法則、平衡定数と自由エネルギー） 第3章 溶液内化学平衡（化学平衡の移動、平衡定数を用いる計算） 第4章 酸塩基平衡（酸と塩基、水のイオン積と pH、弱酸または弱塩基のみを含む溶液、弱酸と共役塩基を含む溶液、弱塩基と共役酸を含む溶液） 第4章 酸塩基平衡（緩衝溶液、酸と塩基の混合、多塩基酸、多塩基酸の塩、酸塩基滴定曲線） 第5章 沈澱平衡（溶解度と溶解度積、単純な沈澱平衡、共通イオンを含む沈澱平衡） 第5章 沈澱平衡（分別沈澱、沈澱平衡の pH による影響、硫化物の沈澱、沈澱滴定曲線） 第6章 錯体平衡（安定度定数、平均配位数とジョブの連続変化法、錯体平衡の pH による影響） 第6章 錯体平衡（錯体平衡と沈澱平衡の競合、EDTA を含む溶液の平衡、キレート滴定曲線） 第7章 酸化還元平衡（半反応と電池反応、標準水素電極と基準電極、標準電極電位） 第7章 酸化還元平衡（起電力と平衡定数、酸化還元反応と電位、酸化還元滴定曲線） 第8章 溶液内イオン平衡とグラフ 				
受講要件					
テキスト	小倉興太郎著 「溶液内イオン平衡と分析化学」(丸善)				
参考書					
予習・復習について	テキストの例題は、予習・復習で必ず解いておくこと。				
成績評価の方法・基準	基本的に期末試験で判断するが、受講態度や小テストも加味する。				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ	講義には関数電卓を持って来てください。				

授業科目名	細胞生物学				
担当教員名	丑丸 敬史 USHIMARU Takashi		所属等	理学研究科	
			研究室	総合研究棟 702	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水3・4
キーワード	細胞周期、シグナル伝達、細胞老化、アポトーシス、癌、DNA複製、染色体分離分配				
授業の目標	細胞の増殖のしくみに焦点をあてるとともに、細胞の積極的な死のしくみも学ぶ。				
学習内容	授業計画を参照。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 普遍的な真理とモデル生物 2. モデル生物としての酵母 3. 細胞内のシグナル伝達 4. G1期に起きるイベント（中心体の複製開始。中心体の細胞周期を通した挙動） 5. S期に起きるイベント（DNA複製。なぜ複製は一回しか起こらないか） 6. DNA複製チェックポイント（DNA複製が遅れた場合にS期から脱出しない機構） 7. M期に起きるイベント・1（染色体の分離。正確に1コピーずつ分配する機構） 8. M期に起きるイベント・2（染色体分離の完了とM期からの脱出） 9. DNAダメージチェックポイントと細胞周期（DNAダメージを修復するまで次の細胞周期に進まない機構） 10. 細胞分化と細胞周期（増殖か分化か？ G1期での選択） 11. アポトーシス 12. 癌（癌発症の機構） 				
受講要件	分子生物学、生化学をすでに受講していることが望ましい。				
テキスト	『細胞の分子生物学』（第15, 17, 18章）。				
参考書	必要に応じてプリントを配布する。				
予習・復習について	予習・復習として授業範囲のテキスト又はプリントを読む。				
成績評価の方法・基準	毎回の小テスト、期末のテスト、レポート。				
オフィスアワー	特に定めないが、夕方以降がありがたい。いない場合もあるため、来る前にはメール等で連絡をして欲しい。 sbtushi@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	授業に積極的に参加して、質問を活発にして欲しい。				

授業科目名	堆積学				
担当教員名	北村 晃寿 KITAMURA Akihisa		所属等	理学研究科	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期(前半)		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動				
授業の目標	堆積学についての基礎的かつ必須事項を修得する。				
学習内容	生物進化や地球環境の変遷を明らかにする際に、地層中に残された様々な記録は大変に役立つ。それらの記録から正しい情報を引き出すためには、地層がどのように形成されたかを理解する必要がある。そこで、本講義では堆積作用、堆積構造、岩相解析、堆積環境、海水準変動に関して解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 堆積作用—碎屑物の運搬と沈降 2. 堆積構造とベッドフォーム 3. 堆積重力流 4. 生物攪拌 5. 岩相解析・河川とデルタの堆積物 6. 浅海-海底扇状地の堆積物 7. 海水準変動 				
受講要件	なし				
テキスト	なし。				
参考書	岩相解析および堆積構造（八木下晃司著・古今書院）。 毎回プリントを配布する。				
予習・復習について	配布資料とノートをもとに予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を加味して評価をする。ただし、出席 70%未満の場合は不可とする。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、まずメールで連絡下さい(アドレス : seakita@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	なし				

授業科目名	地球ダイナミクス概論 I				
担当教員名	森下 祐一 MORISHITA Yuichi		所属等	理学研究科	
			研究室	理 C401	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	地球内部物質科学、岩石、鉱物、同位体、資源と環境、マグマ熱水系				
授業の目標	固体地球を概観して、地球を構成する岩石・鉱物の基礎を学ぶとともに、今後の地球科学分野での学習、研究が円滑に進むよう、必須事項について理解を深めるようにする。				
学習内容	固体地球を概観して、地球内部物質科学の基礎を学ぶ。地球を構成する岩石・鉱物の性質を様々な研究手法で明らかにする、地球科学の基盤手法を学ぶ。また、地球表層地殻における重要な現象である鉱物資源の生成を、元素の挙動・濃集の観点から詳しく学ぶ。				
授業計画	<p>授業計画 授業のねらい：地球科学の見かた</p> <p>プレートテクトニクスに基づく地球内部物質科学</p> <p>岩石と鉱物</p> <p>同位体の性質と分析法</p> <p>地球科学における機器分析法（気体質量分析法、二次イオン質量分析法など）</p> <p>マグマ熱水系とメタルフロー（社会における金属の役割）</p> <p>鉱物資源の形成：様々な熱水性鉱床の成因と鉱石の特徴</p> <p>外国の鉱床、特に白金族鉱床</p> <p>鉱床成因解明研究と鉱床探査法</p> <p>海底鉱物資源、地熱発電と温泉、地中熱の利用</p> <p>資源、環境、地球表層変動に関するトピックス</p>				
受講要件	なし				
テキスト	浜島書店 ニューステージ「新地学図表」				
参考書	授業の中で地球科学分野の書籍を紹介するので、地球についての理解を深めて欲しい。				
予習・復習について	授業中にプロジェクターで写す内容の要点をノートに書留めて、随時配布するプリントと合わせて授業でのストーリーを追うことを授業後の復習として欲しい。				
成績評価の方法・基準	2/3 以上の出席を前提として、期末の試験等に基づき評価する。				
オフィスアワー	授業の最後に質問時間を設ける。個別の質問は事前にメールで時間を予約してから研究室に来て欲しい。				
担当教員からのメッセージ	地球科学は太陽系の一員としての地球を対象としており、諸事象が複雑に関連している。地球を理解するためには幅広い分野を学習すると同時に、専門性を持った学習も必要である。両方の立場から地球科学を広くかつ精緻に考える視点を身につけて欲しい。				

授業科目名	地球環境微生物学				
担当教員名	加藤 憲二		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期(前半)		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	多様な地球環境、微生物生態系、物質循環				
授業の目標	地球環境を理解する上で微生物の働きを理解することは必須である。多様な地球環境の中で理解するための基本を学ぶ。				
学習内容	原核生物（細菌）は地球上に最初の生命として登場してから37億年の間に地球環境を変え、また新たなエネルギー生産系を作り出し、その分布域を地球のあらゆる空間へと広げた。研究は、暗黒で無酸素の地下圏にも広大な微生物による生命圏が存在することを明らかにしはじめた。生命の持続的維持装置である生態系には、必ず原核生物が主要メンバーとして含まれており、その維持に重要な役割を果たしている。さまざまな地球上の生態系で、原核生物がどのような活動をしているかを水圏から地下圏にわたって講義し、地球環境における原核生物の位置づけを				
授業計画	1.原核生物の特徴 <ul style="list-style-type: none"> どこにでもいる、<早い>,<小さい>,ウイルスと細菌の違い、地球上に最初に登場した生物に似ている 2. 研究の流れ <ul style="list-style-type: none"> Robert Koch と Louis Pasteur, コッホの4原則 VBNC(viable but non-culturable, yet) : 自然界は培養できない未知の原核生物であふれている。 3. 水圏生態系の構造と微生物ループ; 炭素循環と従属栄養細菌 <ul style="list-style-type: none"> 湖で考える; 微生物ループ、ボトムアップとトップダウン、ウイルスの役割 汽水湖; 複雑に仕組まれた生態系の中の光合成細菌 湖や海の沿岸の底では; 硫酸還元菌 4. バイオマット <ul style="list-style-type: none"> 温泉バイオマットとシアノバクテリア; 酸素発生型の光合成細菌 硫黄芝—好熱性硫黄酸化細菌; 化学合成細菌 海底の温泉 5. 窒素循環と原核生物; 脱窒細菌 <ul style="list-style-type: none"> 窒素は地球内部に大きなリザーバーを持たない ほか 6. 地下圏には膨大な微生物圏がある; メタン生成アーキアと微生物コンソーシアム				
受講要件	化学と生物学について必要に応じて高等学校程度の知識は整理、理解しておくこと。				
テキスト	特に定めない。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	配付された資料を次回までに理解すること。講義の前に前回の講義内容を見直すこと。これらは必須。また次に語られる内容について自分なりに少しいメージを持つことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	授業への参加（出席することだけではない）と期末試験によって行う。				
オフィスアワー	講義終了後と月曜日の昼休み時間ありがたい。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	集合・位相				
担当教員名	横山 美佐子 YOKOYAMA Misako		所属等	理学研究科	
			研究室	理 C614	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	水5・6
キーワード	集合、写像、連続、開集合、閉集合				
授業の目標	現代数学の基礎である集合や写像、位相の基礎を学ぶ。				
学習内容	集合論と位相空間論の基本的事項について講義します。 写像と集合について学んだ後、距離空間上の位相について講義します。				
授業計画	<p>おおむねテキストに沿って講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集合 2. 写像 3. 集合族の演算 4. 同値関係 5. 無限集合 6. ここまでのまとめ 7. 関数空間 8. 距離空間 9. 開集合と閉集合 10. ここまでのまとめ 11. 収束性 12. 連続 13. 一様連続 14. 完備距離空間 15. ここまでのまとめ 				
受講要件					
テキスト	講座 数学の考え方8 集合と位相空間 森田茂之著 朝倉書店				
参考書	なっとくする集合・位相 瀬山士郎著 講談社				
予習・復習について	毎回復習してください。				
成績評価の方法・基準	テストや授業への取り組みを総合的に評価して判断する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	演習の授業で積極的に問題を解いてください。				

授業科目名	生物学 I				
担当教員名	丑丸 敬史 USHIMARU Takashi		所属等	理学研究科	
			研究室	総合研究棟 702	
分担教員名	徳元 俊伸				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	生体分子、生命の起源、細胞構造、細胞分裂、有性生殖と減数分裂、DNA、遺伝子組換え技術、ゲノム、遺伝子発現の制御				
授業の目標	生物学 I と生物学 II を前期、後期を通して、生物学の幅広い分野の基礎を学ぶ。				
学習内容	主に名著レーヴン／ジョンソン『生物学』(上) をテキストとして生物学の基礎を学ぶ(本授業の続きは後期に生物学 II として開講される)。まず生物とは何かを定義し、生命の最小単位である細胞について、またそれをささえる分子、DNA に関して解説する。さらに、生命の期限、遺伝子組換え技術についても教科書に準じて学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生物学とは 2. 分子の性質 3. 生命の科学的基礎 4. 生命の起源と初期の進化 5. 細胞の構造 6. 細胞はいかに分裂するか? 7. 自然淘汰と性淘汰 8. 試験 9. 有性生殖と減数分裂 10. 遺伝の様式 11. DNA: 遺伝物質 12. 遺伝子とその働き 13. 遺伝子組換え技術 14. ゲノム 15. 遺伝子発現の制御 16. 試験 				
受講要件	特になし				
テキスト	レーヴン／ジョンソン『生物学』(上巻)				
参考書	麻生一枝『科学でわかる 男と女の心と脳』、その他、適宜紹介				
予習・復習について	定められている教科書で予習復習、配布資料で復習を行う。				
成績評価の方法・基準	2回のテストの他、出席代わりに毎回の小問から理解具合を参考に評価する。				
オフィスアワー	丑丸: 月曜午後、徳元: 月曜日 7・8時限(2時25分~3時55分)を予定				
担当教員からのメッセージ	当講義の内容をヒントに、生命に対する認識を上げ、生物科学の専門講義や実験、卒業研究等の基礎を築いてほしい。自ら学びとる力を養ってほしい。				

授業科目名	線型代数学 I				
担当教員名	久村 裕憲 KUMURA Hironori		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 603	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	行列、連立 1 次方程式、行列式				
授業の目標	後期以降で習う抽象論の故郷が、(この授業で行う) 計算にある。計算が何を意味するかを考えましょう。				
学習内容	線形代数学は微積分学と並んで、大学初年度で学習する最も基本的な数学であり、現代数学の諸分野において、まるで「空気のように浸透」している。本授業では、いろいろな計算の中に、「線形代数の故郷」を垣間見ることでしよう。				
授業計画	(1) 行列とその間の演算 (2) 正則行列 (3) 基本変形と連立 1 次方程式 (4) 行列の階数 (5) 外積・行列式 (6) 余因子展開				
受講要件	理学部数学科 1 年生の必修科目です。				
テキスト	特に指定ません。				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験などで評価します。				
オフィスアワー	授業の始めにお知らせします。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	統計力学 I				
担当教員名	青山 昭五 AOYAMA Shogo		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 402	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	温度、エントロピー				
授業の目標					
学習内容	マクロな立場で構築された熱力学をミクロな立場から理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計力学の基礎 2. ミクロカノニカル分布とエントロピー 3. カノニカル分布と自由エネルギー 4. 古典統計力学の近似 				
受講要件					
テキスト	「統計力学」 岩波書店 長岡洋介 著				
参考書	「大学演習 熱学・統計力学」 裳華房 久保亮五 編 「統計力学」 共立出版 久保亮五 著				
予習・復習について	毎回やること。特に復習が重要				
成績評価の方法・基準	中間・期末試験（欠席は受講放棄とみなす）とレポート・出席で総合評価				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	構造錯体化学				
担当教員名	菅野 秀明 KANNO Hideaki		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟3階 A306室	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木3・4
キーワード	錯体化学、錯体の命名法、錯体の立体構造、配位子場理論、電子スペクトル、磁氣的性質、第一遷移元素の化合物				
授業の目標	配位化合物を理解するための基本的な法則や原理を学ぶ。				
学習内容	金属原子または金属イオンが、陰イオンや中性分子の無機化合物、あるいは有機化合物との組み合わせから、多様な金属錯体（配位化合物ともよばれる）を生成する。金属錯体や、金属を含む化合物が様々な色を出すしくみ、さらに、その制御された立体構造や種々の化学的・物理的性質がどのような原理で発現するのかを学ぶ。錯体化学の基礎となる命名法や異性現象、配位結合の理論と構造および性質との関係、さらに個々の第一遷移金属の性質について解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 6章 配位化学：序論、配位数と立体構造 2. 6章 配位化学：配位子のタイプ 3. 6章 配位化学：配位化合物の異性現象 4. 6章 配位化学：配位化合物の命名法 5. 6章 配位化学：配位化合物の安定度 6. 23章 遷移元素入門：結晶場理論 7. 23章 遷移元素入門：配位子場理論 8. 23章 遷移元素入門：分子軌道理論 9. 23章 遷移元素入門：遷移金属錯体の磁氣的性質 10. 23章 遷移元素入門：電子吸収スペクトル 11. 23章 遷移元素入門：配位子場安定化エネルギー 12. 24章 第一遷移系列元素：チタン、バナジウム 13. 24章 第一遷移系列元素：クロム、マンガン 14. 24章 第一遷移系列元素：鉄、コバルト 15. 24章 第一遷移系列元素：ニッケル、銅 				
受講要件	「無機化学Ⅰ」で学ぶ無機化学の基礎が理解されているものとして解説する。				
テキスト	F. A. Cotton, G. Wilkinson, P. L. Gauss 著／中原勝儼 訳 「基礎無機化学（原著第3版）」（培風館）				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				
予習・復習について	授業毎に予習と復習をすること。				
成績評価の方法・基準	レポートの内容と期末試験の得点を総合して評価する。				
オフィスアワー	特に指定しない。				

担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。
--------------	--------------------------------

授業科目名	植物系統分類学				
担当教員名	徳岡 徹 TOKUOKA Toru		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 517	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	被子植物、系統、形態、進化				
授業の目標	地球上には非常に多様な植物が生育している。この多様な形態を学び、この多様性を生み出した進化を理解する。				
学習内容	被子植物は地球上におよそ25万種ある。これらを進化の順序に従って整然と分類することを目標に研究者は植物の様々な形態から始まり DNA データまでを詳細に観察してきました。これらの知見を紹介し、様々な植物それぞれの特徴を学び、現在見られる膨大な多様性を生み出した進化がどのように起こったのかを考える。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：植物の多様性 2. 分類とは 3. 系統解析の基礎 1 4. 系統解析の基礎 2 5. 系統解析の基礎 3 6. 生活環、藻類、コケ類 7. シダ植物 1 8. シダ植物 2、裸子植物 1 9. 裸子植物 2 10. 被子植物の共有派生形質 11. 原始的被子植物 12. 単子葉植物 13. 離弁花植物 14. 合弁花植物 15. まとめ 				
受講要件					
テキスト	特に指定しない。資料は随時配布します。				
参考書	Plant Systematics: A Phylogenetic Approach, Walter S. Judd (ed.), Sinauer, 2002, 0878934030 被子植物の系統、田村道夫、三省堂、1974、BN01321887 (NCID)				
予習・復習について	関連する事項について、参考書などを活用して予習・復習するようにしてください				
成績評価の方法・基準	授業中の小レポートと期末試験により評価する				
オフィスアワー	特に定めていないが、随時受け入れます				

担当教員か
らのメッセ
ージ

授業科目名	放射線物理学概論				
担当教員名	近田 拓未		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部A棟 201	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	木5・6
キーワード	放射線、放射性核種、放射線取扱主任者				
授業の目標	全学科の2～4年生を対象とした、放射線取扱主任者試験に向けて必要となる放射線物理学の基礎の理解				
学習内容	原子核の構造、各種放射性崩壊、各種核反応および各放射線と物質の相互作用等を解説するとともに逐次演習を行い、理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原子の構造 原子模型、励起と電離、X線、オージェ効果 2. 原子核の構造 原子質量単位、結合エネルギーと原子核の大きさ 3. 放射性核種 α壊変、β壊変、γ線の放出と原子核のエネルギー準位、自発核分裂、壊変の法則 4. 核反応、核分裂、核融合反応 核反応の表示、核反応断面積、放射性核種の生成、核反応の種類、放射化 5. 加速器 加速器の原理、加速器の種類 6. 荷電粒子と物質の相互作用 電離と励起、阻止能と飛程、電子と物質の相互作用、重荷電粒子と物質の相互作用 7. 光子と物質の相互作用 光電効果、コンプトン効果、電子対生成、光子の減弱と物質へのエネルギー伝達、衝突カーマ、吸収線量、照射線量 8. 中性子と物質の相互作用 中性子捕獲反応、弾性散乱、その他の中性子反応 				
受講要件	特になし				
テキスト	放射線概論 第8版 (柴田 徳思 編、通商産業研究社)				
参考書	放射線取扱主任者試験問題集 第1種、第2種 (発行：通商産業研究社)				
予習・復習について	あらかじめ教科書に目を通しておくとともに、必ず毎回の課題により復習をすること。				
成績評価の方法・基準	毎回の演習および期末試験により評価する。				
オフィスアワー	質問等は、平日9時頃から18時頃まで、随時、受けつける。				
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を目指す学生は、放射化学概論（化学科の学生には別途放射化学の講義があり）、放射線生物学概論、放射線計測・管理概論等を受講する事が望ましい。 放射線主任者資格を取り、自らに付加価値を付けよう!!				

授業科目名	複素解析学				
担当教員名	奥村 善英 OKUMURA Yoshihide		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 613	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	積分公式、Taylor 展開、一致の定理、Liouville の定理、最大値の原理、Laurent 展開、孤立特異点、有理型関数、留数定理、偏角の原理				
授業の目標	正則関数と有理型関数の理論を中心に解説を行います。 はじめに「関数論入門」の続きとして、Cauchy の積分定理を用いて、正則関数の性質を導きます。Cauchy の積分公式、Taylor 展開、一致の定理、Liouville の定理そして最大値の原理等を扱います。次に、有理型関数の説明として、Laurent 展開、孤立特異点（特に極、真性特異点）、留数定理等を扱います。さらに、これらの応用として、実定積分の計算、偏角の原理と Rouché の定理を説明します。				
学習内容	複素解析学（関数論）は微分積分学に続いて学習される数学の基礎的な分野です。純粋数学の多くの美しい結果や驚くべき結果をうみ出す肥沃な領域です。純粋数学の中心をなす諸分野（例えば、リーマン面論、複素多様体論、タイヒミュラー空間論、代数幾何学、整数論等）は、複素解析学の上に築かれていると言えます。また、複素解析学は物理学等の自然科学諸分野にも、広く応用されています。 本学科における複素解析学の授業は四部から成っています。第一部は「関数論入門」、第二部は「複素解析学」、第三部は「複素解析学 I」、そして第四部は「				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積分定理. 2. 積分公式. 3. 整級数. 4. Taylor 展開. 5. 正則関数の性質. 6. 有理型関数. 7. Laurent 展開. 8. 孤立特異点. 9. 留数定理. 10. 実定積分の計算. 11. 偏角の原理. 12. Rouché の定理. 				
受講要件	「関数論入門」を受講していることが望ましい。				
テキスト	林一道著，初等関数論（裳華房）. 洲之内治男著，演習 関数論（サイエンス社）.				
参考書	神保道夫著，複素関数入門（岩波書店）. 谷口健二・時弘哲治，複素解析（裳華房） 藤本 淳夫著，複素解析学概説（培風館）. 野口潤次郎著，複素解析概論（裳華房）. L.V.アールフォルス著，複素解析（現代数学社）. 佐藤宏樹著，複素解析学（近代科学社）. 谷口雅彦・奥村善英共著，双曲幾何学への招待（培風館）. 辻正次・小松勇作共編，大学演習関数論（裳華房）.				
予習・復習について	この講義では、美しい結果や驚くような結果が多く出てきます。最初は説明や証明が難しいかもしれませんが、そのからくりが理解できるように、講義、講義ノートや教科書を見直して下さい。				
成績評価の方法・基準	定期試験を主に、受講態度、レポート等を加えて評価し判定します。				
オフィスアワー	講義中に連絡します。				
担当教員からのメッセージ	この講義から、複素解析学の第二部の勉強がはじまります。複素関数論の美しい結果や驚くような結果を味わって下さい。そして、複素関数論が他の分野と密接に関わり、実り多い学問であることを実感して下さい。				

授業科目名	量子力学 I				
担当教員名	土屋 麻人 TSUCHIYA Asato		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 4 0 1	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	粒子性と波動性、重ね合わせの原理、波束、シュレディンガーの波動方程式、波動関数、確率解釈、エルミート演算子、トンネル効果、束縛状態				
授業の目標	量子力学の考え方を習得し、基本的な問題を解いて、量子力学の理解を深めることを目標とする。				
学習内容	実験事実をもとに量子力学の基本的な考え方を説明し、典型的な問題について解説しながら、量子力学の基本的な理論形式を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 量子論の誕生 2. シュレディンガーの波動方程式 3. 1次元の量子系 4. 量子力学の基本的な性質 				
受講要件	基礎物理学 I・II、力学 I・II、解析力学、電磁気学 I・II、物理数学 I を履修していることが望ましい。				
テキスト	「量子力学 I」 猪木・川合／著 (講談社サイエンティフィック)				
参考書	必要に応じて紹介する。				
予習・復習について	復習を行うこと。				
成績評価の方法・基準	中間試験と期末試験と小テスト。				
オフィスアワー	随時。				
担当教員からのメッセージ	現代物理学は量子力学を抜きに語ることはできない。量子力学の考え方は、これまで勉強してきた古典の物理学（力学や電磁気学）とは大きく異なるが、柔軟に対応して、この考え方を習得してほしい。自ら手を動かすことが大事である。				

授業科目名	無機化学Ⅱ				
担当教員名	近藤 満 KONDO Mitsuru		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 501	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	無機化学、溶媒の性質、酸と塩基、典型元素の性質、無機化合物				
授業の目標	酸と塩基、典型元素の性質など無機化学を理解するための基礎を習得する。				
学習内容	「無機化学Ⅰ」で学習した無機化学の基本的な法則や原理を踏まえ、無機化合物の反応において重要な溶媒の種類と性質および酸と塩基の定義を解説した後、主に典型元素の単体と化合物について、同族元素に共通する性質と各元素に特有の性質を解説する。				
授業計画	<p>「無機化学Ⅰ」に引き続き、元素の構造と性質について解説する。 酸と塩基の概念と定義、水素や酸素の電子状態や反応性など、無機化合物の性質について紹介する。 テキストの章に従い、次の項目を講義する。</p> <p>7章：溶媒の性質、酸と塩基の定義、酸の種類と性質 9章：水素 10章：1族元素 11章：2族元素 12章：ホウ素 13章：13族元素 14章：炭素 15章：14族元素 16章：窒素 17章：15族元素 18章：酸素 19章：16族元素 20章：ハロゲン元素 21章：貴ガス元素</p>				
受講要件	無機化学Ⅰを履修していること。				
テキスト	基礎無機化学（原著第3版）、Cotton,他著／中原勝儼 訳、培風館、1998年、4-563-04551-9				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回の講義毎に予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。				
オフィスアワー	質問はできるだけ授業中に。特に時間を指定しないが、研究室での質問等は随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分子遺伝学				
担当教員名	山内 清志 YAMAUCHI Kiyoshi		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 602	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	ゲノム情報、転写調節、転写後調節、機能解析技術				
授業の目標	遺伝情報の発現調節機構を理解する。				
学習内容	染色体遺伝子の可変性を理解し、その発現調節を転写や翻訳および翻訳後レベルで学習する。また、種々の RNA を介した調節に触れ、ゲノム進化についての理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゲノム解析からわかること 2. 遺伝子調節蛋白質 3. DNA 結合モチーフ 4. オペロン説 5. 原核生物の遺伝子発現制御 6. λファージの溶菌・溶原コントロール 7. 真核生物の転写 8. RNA プロセッシング 9. 転写制御 10. シグナル伝達系 11. 翻訳後修飾 12. タンパク質にならない RNA の機能 13. DNA のメチル化とヒストンのアセチル化 14. 遺伝子発現と機能解析技術 15. まとめ 				
受講要件	「分子生物学」(1年・後期)と履修していることが望ましい。				
テキスト	ブルース・アルバーツほか著、中村桂子・松原謙一監訳「細胞の分子生物学(第5版)」(ニュートンプレス)				
参考書	指定しない				
予習・復習について	授業の進行に合わせてテキストを用いて予習・復習に取り組むこと。 HP(http://www4.tokai.or.jp/kyama)に「講義の概要と手引き」があるので、予習・復習に活用するとよい。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の開始時に前回の授業の復習を兼ねて小テストを行い、それによって普段の学習への姿勢を評価し(33%)、試験において到達度を評価する(66%)。両者の評価を総合して最終的な成績評価とする。				
オフィスアワー	適宜応じる。事前に sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	積極的な姿勢で受講してほしい。				

授業科目名	地球変動学				
担当教員名	道林 克禎 MICHIBAYASHI Katsuyoshi		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部C棟 401	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	C	曜日・時限	金 1・2
キーワード	惑星地球の誕生、コア、マントル、地殻、中央海嶺、プレートテクトニクス、サブダクション、造山運動、世界の変動帯、巨大火成岩区、超大陸の形成と分裂、プルームテクトニクス				
授業の目標	地球の誕生と熱移動の過程を核からマントル、地殻まで解説し、現在の地球表層の変動の原因を理解する。その上で世界の変動帯について学ぶ。				
学習内容	『地球ダイナミクス概論 II』に引き続き、地球内部のダイナミクスからプレートテクトニクスによる造山運動・変動地形について解説する。				
授業計画	<p>予定している授業計画は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球変動学について 2. 地球の誕生と層構造の形成 3. 地球内部物質科学の進展 4. マントルの熱移動とプルームの役割 5. 中央海嶺：海洋プレート生成の場 6. プレートテクトニクス 7. 沈み込み帯：プレートの収束場 8. 強大火成岩区とホットスポット 9. オフィオライト 10. 世界の造山帯 11. 東アジア周辺のテクトニクス 12. グローバルテクトニクス 				
受講要件	特になし				
テキスト	指定なし				
参考書	随時指定				
予習・復習について	随時指示				
成績評価の方法・基準	レポート、授業中の態度、期末テスト、出席状況などを総合して評価する				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	量子力学Ⅲ				
担当教員名	嘉規 香織 KAKI Kaori		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 A 棟 405号室	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	4年	難易度	C	曜日・時限	金 3・4
キーワード	量子力学				
授業の目標	量子力学をより深く理解し、使いこなせるようにする。				
学習内容	量子力学の重要な概念を発展させ、具体的な問題に応用する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外場中の粒子の量子力学 2. 一様な磁場中の荷電粒子 3. 時間によらない摂道論 4. 時間による摂道論 5. 連続スペクトルへの遷移 6. 準古典近似 (WKB 法) 7. 接続公式 8. ポテンシャル壁の透過確率 9. Fermion と Boson 10. 第二量子化 11. 散乱断面積 12. Born 近似 13. 部分波と位相のずれ 14. Coulomb 散乱 15. 同種粒子の散乱 				
受講要件	量子力学 I、II を履修済みであること。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	講義時間の 2 倍の自習が標準である。				
成績評価の方法・基準	提出物と学期末試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	離散数学 I				
担当教員名	保坂 哲也	所属等	理学研究科		
		研究室	理学部C棟 606 室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 5・6
キーワード	集合論、組合せ論、グラフ理論				
授業の目標	離散数学の基礎を学ぶ。				
学習内容	集合論、組合せ論、グラフ理論の初歩を用いて、身近なところにある疑問・問題を数学的に解決することを学ぶ。また時間があれば代数的構造についても学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合 2. 関係 3. 順序と組合せ 5. グラフ理論 6. RSA 暗号 				
受講要件					
テキスト					
参考書	パワーアップ離散数学 (大山達雄著) 共立出版、1997、ISBN: 4320015290				
予習・復習について	講義内容に沿ったレポート課題を出すので、問題を解くことを通して理解を深めてほしい。				
成績評価の方法・基準	レポートなどにより評価する。				
オフィスアワー	授業開始後通知する。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	物理実験学 I				
担当教員名	嶋田 大介 SHIMADA Daisuke		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 4 0 7 (理学部 A 棟)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 5・6
キーワード	物理学実験、実験方法、測定方法、データ処理、レポート作成、誤差、エレクトロニクス、実験用回路作製、電気回路、半導体回路				
授業の目標	物理学科 2 年生から始まる物理学実験と対応し、物理学実験方法とエレクトロニクスの基礎を習得する。				
学習内容	物理学実験 I と並行して実験を行うのに必要な事柄に関する講義を行う。さらに、物理実験で行う電気回路に関する基礎的な理論を修得する講義がないので、前半は交流回路の基礎に関する講義を行う。後半は物理学実験 I および物理学実験 I I の中からいくつかの実験テーマを選び、理論的な原理などを紹介する。				
授業計画	単位について 電気回路の基礎 直流回路の解き方 交流回路の解き方 I 交流回路の解き方 I I 共振回路 誤差について 最小 2 乗法 グラフとレポートの書き方 学生実験のいくつかのテーマについて				
受講要件	物理学科 2 年生の必修科目。				
テキスト	講義の中で必要なときに紹介する。				
参考書	講義の中で必要なときに紹介する。				
予習・復習について	復習を重視すること。講義内容を、実際の物理実験時に参考にすること。必要な部分は、図書館等で調べられることを勧める。				
成績評価の方法・基準	小テスト、レポート、試験の結果により評価する				
オフィスアワー	水曜日の 12 時・14 時 理学部 B 棟 207 室にて				
担当教員からのメッセージ	物理学実験を適切に行って行く為の基礎を学ぶ。その為、実学的・技術的内容が含まれる。実験に必要なエレクトロニクスの基礎をこの講義で学ぶ。				

授業科目名	物理実験学Ⅱ				
担当教員名	三重野 哲 MIENO Tetsu		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	三重野研究室。理学部 A408 室	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	金 5・6
キーワード	物理実験、実験方法、測定方法、実証性、再現性、信頼性、発見、発明、データ処理、誤差				
授業の目標	実験や開発に取り組む時、どのようにすれば短時間で正確に目標に達することができるか学ぶ。実験計画時、実施時および実験後のデータ処理に必要な種々の知識を学ぶ。				
学習内容	研究・開発の場面では、しばしば実験・観測が必要となるが、ここでは物理学実験の場合を考える。実験結果から目的の現象が証明されたか？再現性・信頼性は有るか？定量的に値は正しいか？時間や実験装置は有効に使えたか？などの実験方法の適切さについて学習する。また、実験準備を合理的に行い、短期間で人々の評価を得るにはどうしたら良いか検討する。ビデオと配布資料を利用する。				
授業計画	1) 序論 2) 実験・観測の目的、意義 3) 実験計画法 4) 文献・資料の集め方 5) 実験の取り組み方。安全な実験。 6) 実験材料、試料、装置。試料や装置の準備。 7) 授受の物理量の測定方法、観測方法。 8) データ処理、コンピュータ利用 9) 実験のまとめ方。公表の仕方。				
受講要件	「物理実験学Ⅰ」の知識。物理学実験の経験。				
テキスト	プリントを配布する。ファイルに綴じること。				
参考書	物理実験指導書。物理実験者の為の 13 章（兵藤、東大出版会）。あなたも狙えノーベル賞（石田、化学同人）。セレンディピティ（化学同人）など。				
予習・復習について	復習を重視する。興味ある内容は、自主的に調べて欲しい。				
成績評価の方法・基準	受講状況、レポートにて成績を出す。レポートは複数回課す。レポートは、自分の力で調べてまとめること。				
オフィスアワー	月曜日、夕方、16 時~18 時を予定しています。				
担当教員からのメッセージ	多くの卒業生が、物理の基礎知識を身につけて、社会で活躍しています。研究や開発の現場で、実験知識は役立つでしょう。				

授業科目名	地球科学入門Ⅱ				
担当教員名	鈴木 雄太郎 SUZUKI Yutaro		所属等	理学研究科	
			研究室	理学部 C 棟 502	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 7・8
キーワード	風化・土壌、水、氷河・砂漠・風、地質年代、地球史				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って地球科学全般を学習しながら英語表現や専門用語に慣れる。3・4年で学習する英語の論文を読み・理解する能力を身につける。				
学習内容	地球科学全般の基礎知識を学習し、習得する。特に地形と地球史について学ぶ。				
授業計画	UNIT TWO Sculpturing Earth's Surface UNIT FOUR Deciphering Earth's History				
受講要件	特になし。				
テキスト	Tarbuck, E.J. and Ludgens, F.K., Earth Science, 13th Edition, Prentis Hall, 740pp (2012)				
参考書	特になし。				
予習・復習について	十分に英語辞書を使って教科書を予習しておくことをすすめる。				
成績評価の方法・基準	試験結果とレポートの内容を総合的に評価して成績とする。 出席率も評価に加味する。				
オフィスアワー	相談などは、事前にメールで連絡すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎物理学 I				
担当教員名	溜渕 継博 TAMARIBUCHI Tsuguhiro		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 5 0 5	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期 (前半)		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6、水 5・6
キーワード	力学、微分、積分				
授業の目標	物理学の基礎にある力学を学びながら、大学で物理学を学ぶために必要な数学を習得する。				
学習内容	適宜演習を交えながら力学と基礎的な数学を並行して学んでいく。「基礎物理学 I」では、これから必要になる基礎的な数学の習得に重点が置かれる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微分積分の復習 2. 複素数、スカラーとベクトル、ベクトルの内積、ベクトルの外積 3. ベクトルの微分、速度ベクトル、加速度ベクトル 4. ニュートンの運動の 3 法則 5. テイラー展開 6. 偏微分、全微分 7. 多変数関数のテイラー展開 8. 微分方程式 <p>この講義は週に 2 回開講され、前期の前半 16 回分をもって終了する。前期の後半は、「基礎物理学 I I」の講義が同じ形式で開講される。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	和達 三樹著「物理のための数学 (物理入門コース 10)」(岩波書店、ISBN-13: 978-4000076500)				
参考書	吉岡 大二郎著「力学(朝倉物理学選書)」(朝倉書店、ISBN-13: 978-4254137569)				
予習・復習について	授業のノートや教科書を読み、よく考えて、手を動かし計算して、復習することが大切である。授業中は理解できたつもりでいても後になると分からなくなってしまうことはよくあることである。そのような非効率を避けるためにも、授業後はその日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	演習への積極的参加の状況、定期試験の結果等を評価する。				
オフィスアワー	随時 (不在の時は何度でも訪ねてきてほしい)				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	基礎物理学Ⅱ				
担当教員名	溜渕 継博 TAMARIBUCHI Tsuguhiro		所属等	理学研究科	
			研究室	理 A 5 0 5	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期（後半）		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	月 5・6、水 5・6
キーワード	微分、積分、力学				
授業の目標	基礎物理学Ⅰに引き続き、物理学の基礎にある力学を学びながら、大学で物理学を学ぶために必要な数学を習得する。				
学習内容	適宜演習を交えながら、力学と基礎的な数学を並行して学んでいく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簡単な運動の解析 2. 力積と運動量保存則 3. 極座標 4. 角運動量と力のモーメント 5. 中心力と角運動量保存則 6. 線積分と仕事 7. 保存力と力学的エネルギー保存則 8. 重積分 9. 万有引力のポテンシャルエネルギー <p>この講義は週に2回開講され、前期の後半16回分をもって終了する。前半は、「基礎物理学Ⅰ」の講義が同じ形式で開講される。</p>				
受講要件	基礎物理学Ⅰの単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	吉岡 大二郎著 「力学(朝倉物理学選書)」 (朝倉書店、ISBN-13: 978-4254137569)				
参考書	和達 三樹著 「物理のための数学 (物理入門コース 10)」 (岩波書店、ISBN-13: 978-4000076500)				
予習・復習について	授業のノートや教科書を読み、よく考えて、手を動かし計算して、復習することが大切である。授業中は理解できたつもりでいても後になると分からなくなってしまうことはよくあることである。そのような非効率を避けるためにも、授業後はその日のうちにノートをまとめる習慣をつけると良い。				
成績評価の方法・基準	演習への積極的参加の状況、定期試験の結果等を評価する。				
オフィスアワー	随時 (不在の時は何度でも訪ねてきてほしい)				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	植物繁殖学				
担当教員名	原田 久 HARADA Hisashi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 433 (移転後：農学総合棟 427)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	—
キーワード	種子繁殖、栄養繁殖、種苗生産				
授業の目標	植物の種子繁殖および栄養繁殖について理解し、種苗生産に関する基本的な知識を得ることを目標とする。				
学習内容	種苗生産や採種の基礎となる植物繁殖・生殖の一般的な現象を説明した後、種子繁殖と栄養繁殖の原理と技術について講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、種苗生産の歴史と現状 2. 生殖器官の構造と発育 3. 受粉 4. 受精 5. 自殖性植物の採種 6. 他殖性植物の採種 7. 一代雑種品種の採種 8. 種子の発育と収穫 9. 種子の取り扱いと貯蔵 10. 種子の発芽と休眠 11. さし木繁殖 12. 接ぎ木繁殖 13. 組織培養による繁殖 14. その他の栄養繁殖 15. 品種の保護と種苗法 				
受講要件	組織培養については植物細胞工学で主に講義する。				
テキスト	使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	園芸種苗生産学 (朝倉書店)				
予習・復習について	授業後に専門用語を復習し覚えること。				
成績評価の方法・基準	期末筆記試験 (90%) と小テスト (10%) の成績で評価する。 評価基準は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	随時 (事前にメール等で連絡してください)				
担当教員からのメッセージ	授業中、授業後に積極的に質問してください。				

授業科目名	分子遺伝学				
担当教員名	本橋 令子 MOTOHASHI Reiko		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 340 (移転後：農学総合棟 485)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 1・2
キーワード	遺伝学、分子生物学				
授業の目標	基礎的な遺伝学と分子生物学の習得				
学習内容	遺伝のしくみから遺伝子、転写、翻訳、DNA 複製、細胞分裂、変異と修復、植物ゲノムと遺伝子操作について学ぶ				
授業計画	1 回目. 遺伝のしくみ(性と生殖 1) 2 回目. 遺伝のしくみ(性と生殖 2) 3 回目. 遺伝のしくみ (メンデルの法則) 4 回目. 遺伝のしくみ (いろいろな遺伝現象) 5 回目. 遺伝子 6 回目. 転写 (ポリメラーゼ) 7 回目. 転写 (転写調節) 8 回目. 翻訳 9 回目. DNA 複製 10 回目. 細胞分裂 11 回目. 染色体と遺伝 12 回目. 変異と修復 13 回目. 植物ゲノム 14 回目. 植物ゲノム 15 回目. 遺伝子操作 試験				
受講要件	必須				
テキスト	朝倉書店 植物遺伝学入門				
参考書	東京化学同人 基礎分子生物学				
予習・復習について	小テストを実施するので、復習を必ず行う事				
成績評価の方法・基準	出席、テスト、小テスト				
オフィスアワー	農学部 A 棟 340 10時から18時				
担当教員からのメッセージ	総ての専門科目の基礎となる科目なので、意欲を持って勉強に取り組む事				

授業科目名	栄養化学				
担当教員名	森田 達也 MORITA Tatsuya		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 602(移転後：農学総合棟 576)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	栄養素、代謝、食、ヒトの健康維持				
授業の目標	栄養学の一分野である栄養化学の基礎を理解していただく。				
学習内容	栄養素と生体との相互作用について、各栄養素ごとに理解し、栄養素ならびにそれらを含む食品の役割を考える。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養素の消化・吸収・代謝（1） 2. 栄養素の消化・吸収・代謝（2） 3. 糖質（1）基礎 4. 糖質（2）基礎 5. 糖質（3）生活習慣病との関連から眺めて 6. 脂質（1）基礎 7. 脂質（2）基礎 8. 脂質（3）生活習慣病との関連から眺めて 9. タンパク質・アミノ酸（1）基礎 10. タンパク質・アミノ酸（2）基礎 11. タンパク質・アミノ酸（3）生活習慣病との関連から眺めて 12. ミネラル 13. ビタミン 14. 運動と栄養代謝ミネラル（1） 15. エネルギー代謝 				
受講要件	特になし				
テキスト	「最新栄養化学」野口忠編（朝倉書店）				
参考書	授業時に紹介する。				
予習・復習について	特になし				
成績評価の方法・基準	定期試験の成績から評価する。ただし、出席率は2／3以上であること。				
オフィスアワー	特に指定なし				

担当教員からのメッセージ	ヒトの必須栄養素は約 50 種類あるが、これらは食事から摂取する必要がある。これら栄養素の消化吸収・代謝に焦点を合わせた講義に努める。
--------------	---

授業科目名	森林土木工学				
担当教員名	近藤 恵市 KONDO Keiichi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 511 (移転後：農学総合棟 273)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	林道、路線測量、林道規程、幾何構造、路体構造				
授業の目標	地形の急峻な山岳地に建設されることの多い林道を周辺環境と調和させながら作設できるよう、林道設計に関する基礎的な知識・技術の獲得をめざす。				
学習内容	<p>森林の管理・経営の基盤施設である林道について、まず基本的な配置計画を述べ、さらに林道規程で定められた林道幾何構造の理論を概説し、林道の測量・設計法について論述し、林道の路体構造や施工法について講義する。</p> <p>なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、運材方法の歴史 2. 林道の機能と分類 3. 林道密度理論 4. 周辺環境との調和を考慮した林道配置計画 5. 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距) 6. 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距) 7. 林道の幾何構造 (幅員、曲線、勾配、視距) 8. 曲線設定法 9. 曲線設定法 10. 縦断測量、横断測量 11. 縦断測量、横断測量 12. 林道の路面と路体 				

	<p>13. 林道の施工法・土工機械</p> <p>14. 林道の施工法・土工機械</p> <p>15. 排水施設、のり面保護</p>
受講要件	本科目は森林利用学実習と密接に関連しており、実習と合わせて受講することが望ましい。
テキスト	森林土木学 小林洋司 他（朝倉書店）
参考書	酒井秀夫：作業道（全国林業改良普及協会）
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。
成績評価の方法・基準	履修態度・レポート（合計 30%）、学期末試験（70%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。
オフィスアワー	昼休み、農学部 A511 室。メール（afkkond@agr.shizuoka.ac.jp）で連絡してください。
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。

授業科目名	果樹園芸学				
担当教員名	向井 啓雄 MUKAI Hiroo		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 412 (移転後：農学総合棟 428)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	果樹、栽培管理、生理生態				
授業の目標	主要栽培管理の理論的背景の習得と今後新たに発生する問題点に対する応用力を目標とする。				
学習内容	果樹園芸に関する基礎理論を生理・生態学的見地から解説し、あわせて種苗・栽植から収穫に至る主要栽培管理の現状と今後の展望について講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 果樹園芸の概要, 果樹の分類と形態 2. 育種と品種 I 3. 育種と品種 II 4. 繁殖と台木 5. 開園と栽植 6. 生長, 開花と結実 I 7. 生長, 開花と結実 II 8. 生長, 開花と結実 III 9. 結実管理 10. 樹体生育と果実の発育・成熟 11. 樹体管理 12. 土壌管理, 施肥管理 13. 気象環境と災害, 病害, 虫害 14. 高付加価値・高収量・省力生産技術 15. 果実の流通利用 				
受講要件	特になし				
テキスト	「新編果樹園芸学」, 間苧谷徹ら, 化学工業日報社, 2002, ISBN4-87326-396-4				
参考書	授業中に紹介する。				
予習・復習について	教科書での予習復習, ならびに専門用語を正確に理解すること				
成績評価の方法・基準	筆記試験 (択一式と記述式) において成績評価する (100%)。				
オフィスアワー	火曜 16 時以降 (研究室 A412) 電子メールによる質問は随時, abhmuka@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	構内圃場に各種果樹が植えられているので適宜観察すること。				

授業科目名	木質材料学				
担当教員名	鈴木 滋彦 SUZUKI Shigehiko		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 403 (移転後：農学総合棟 322)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	循環型社会、木質資源、再生利用技術				
授業の目標	再生産可能な木質資源を人類の生活に必須な材料として有効に利用するための手法を、科学技術的な視点から理解することを目標とする。				
学習内容	木質材料開発の歴史と今後の方向性、環境と木質資源、各種木質系材料の製造技術と材質の特徴、耐久性等について講義する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(B)および(D)に対応する。				
授業計画	1) 木質資源利用のあり方 2、3) 木質材料の基礎技術 4、5) 材料開発の方向とエンジニアードウッド 6～9) 軸材料：集成材、単板積層材、P S L 軸材料の種類と製造技術、性質、製造機械装置について説明する。 10～11) 面材料：合板、O S B、パーティクルボード、M D F 面材料の種類と製造技術、性質、製造機械装置について説明する。エレメントの形状と種類による材質の違いを説明する。 12～13) 面材料：ハードボード、インシュレーションボード湿式と乾式製法の相違点を材質の違いを説明する。 面材料：窯業系ボードについて解説する。 14) 木質材料技術開発と倫理 15) 木質材料の世界の生産動向と今後の方向性 16) 筆記試験				
受講要件	関連科目：木質バイオマス科学、木質機能科学、木材接着学、環境木質材料学実験				
テキスト	鈴木正治他編： 「木材科学講座 8 木質資源材料」海青社				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	・5回のレポートは復習が中心です。レポートのとりまとめを行うことで、技術的な課題全体が理解できるように配慮してあります。				
成績評価の方法・基準	・履修態度 (15%)、5回のレポートおよび学期末試験 (合計 85%) の結果を総合して評価する。評価基準は、科目の目標に沿って行い、筆記試験は講義内容の理解度を判断基準とする。 ・「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	月曜日の昼休み、木曜日の昼休み 農学部 A 棟 403 号室				
担当教員からのメッセージ	資源の利用と環境との関連を考える良い機会であると思います。海外の最新の資料も提供しますので、質問等はメールで：s-suzuki@agr.shizuoka.ac.jp までお寄せ下さい。				

授業科目名	基礎生態学				
担当教員名	澤田 均 SAWADA Hitoshi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 306 (移転後：農学総合棟 471)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	群集、生態系、生物多様性、生態現象、生態学の方法				
授業の目標	主な目標は次の 2 点である。(1)実際の研究例をとおして、生態学とはどのような学問でどんなことを研究対象とするか、どのような方法を使うのか、社会とどのように関係しているのかを理解すること。(2)生態系及び群集レベルの基本的な概念を理解すること。				
学習内容	この講義は生態学の入門編である。前半部では実際の研究例を紹介しながら、生態学という学問の特徴、研究対象、研究方法、社会との関係を学ぶ。後半部では生態系レベルと群集レベルの基礎を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス, 生態学とは何か 2, 3. 生態学の事例 1 - 生物階層 4. 生態学の事例 2 - 時間スケール 5. 生態学の事例 3 - 長期研究 6. 生態学の事例 4 - 数理モデル 7, 8. 生態系 1 - 一次生産力 9, 10. 生態系 2 - 物質の流れ 11. 群集 1 - 種の豊かさ 12. 群集 2 - 種の豊かさに影響する要因 13. 群集 3 - 種の豊かさのパターン 14. 群集 4 - 食物網 15. 群集 5 - 安定性 16. 筆記試験 				
受講要件	生態学の入門編のため、特に受講要件はない。本講義は 2 年生後期の「応用生態学」を受講するために必要である。				
テキスト	特に使用しないが、概ね、Townsend, C.R. (2008) Essentials of Ecology (3rd ed.). Blackwell. に沿う内容である。必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	初回の授業ガイダンスで紹介する。さらに講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	ほぼ毎回、予習用にクイズを課す。クイズの難易度及び解答に要する時間は適切なものである。一方、復習用には、毎回配布する資料が役立つ。				
成績評価の方法・基準	クイズ(20%を目安とする)と筆記試験(80%を目安とする)、授業への参加姿勢の合計で評価する予定である。評価基準は主に講義内容の理解度をみる。特に筆記試験で理解度をみる。				
オフィスアワー	講義に関する質問等は授業終了後に講義室にて。それ以外は、電子メールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	初回は授業ガイダンスを行うので、必ず出席するように。また遅刻はしないように。遅刻すると、最初から聴けない分、授業内容を理解しにくい、また他の受講生の集中力を低下させるなど悪影響をもたらす。正当な理由以外の欠席は、極力しないように。				

授業科目名	応用微生物学				
担当教員名	徳山 真治 TOKUYAMA Shinji		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 630(移転後：農学総合棟 525)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	火 1・2
キーワード	微生物、バイオテクノロジー、発酵、遺伝子、酵素				
授業の目標	微生物機能の基礎を習得し、微生物バイオテクノロジーを遺伝子を通して理解する。				
学習内容	生物学の共通語である遺伝子から多様な微生物機能を理解し、微生物機能を利用した物質生産、環境保全技術などについて紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の発見からニューバイオテクノロジーまで 2. 微生物細胞と機能発見：二重らせんから物質生産へ 3. 微生物遺伝学と遺伝子工学 4. 微生物の細胞構造 5. 細胞の調節とシグナル伝達 6. 微生物の分類 7. 微生物の分離と増殖 8. 微生物の代謝 9. タンパク質と酵素 10. 微生物の多様な栄養形態 				
受講要件	生化学				
テキスト	応用微生物学：熊谷英彦ら編著、朝倉書店				
参考書	授業で紹介。				
予習・復習について	予習・復習は基本的に必要。本授業の受講は基礎微生物学および分子生物学の履修をを前提とし、微生物代謝工学の履修に必要。				
成績評価の方法・基準	期末試験と出席率で評価する。				
オフィスアワー	月・金：9-21 時				
担当教員からのメッセージ	欠席、遅刻をしないこと。				

授業科目名	生化学概論				
担当教員名	村田 健臣 MURATA Takeomi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 713 (移転後: 農学総合棟 673)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 1・2
キーワード	生化学、生体分子、生命科学				
授業の目標	生化学は、化学的立場から生命現象を究明することを目的とする分野で、ここでは生化学の動的諸原則を学ぶ前段階として、基本となる分子レベルでの構造と特性に関する知識を得ることを目標とする。				
学習内容	この講義では生化学を理解する上で基礎となる生物を構成する生体成分 (タンパク質、糖質、核酸、脂質) の構造と特性について学び、生物学の背後にある化学現象を理解するための礎とする。				
授業計画	1. 序論、生化学入門 (1 回) 2. タンパク質の構造と機能 (4 回) アミノ酸の構造と特性、タンパク分子の構造と特性 3. 糖質 (4 回) 単糖とオリゴ糖の構造と性質、多糖の構造と特性 4. 脂質 (3 回) 脂肪酸の構造、脂質 (中性脂質、グリセロリン脂質、スフィンゴ脂質) の構造と機能 5. 核酸 (3 回) ヌクレオシドとヌクレオチドの構造、DNA と RNA の構造と特性				
受講要件	この科目は、後に続く生化学、分子生物学、酵素科学と関連を持たせており、順番に従って履修されることを望む。				
テキスト	「ホートン生化学」 Horton ら著、鈴木紘一ら訳				
参考書					
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	定期試験評価する。筆記試験は講義内容の理解度を試す。				
オフィスアワー	火曜日 12:45~14:15。質問は随時受け付けますので、まずはメール (actmura@ipc.shizuoka.ac.jp) にて連絡すること。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	保全生物学				
担当教員名	山下 雅幸 YAMASHITA Masayuki		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 239 (移転後：農学総合棟 472)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	A	曜日・時限	火 1・2
キーワード	生物多様性、保全、生態学、農業生態系				
授業の目標	生物多様性の危機的現状およびその保全の必要性を理解する。また、農業生態系（たとえば棚田、里山）など、人間との関わりの深い 2 次的自然の重要性についての認識も深める。				
学習内容	「生物多様性の保全」という社会的な目標の実現のための指針と技術の確立を目指す保全生物学について学ぶ。生物多様性の意味、その危機的現状、保全の必要性および対策事例などを紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（保全生物学とは何か？） 2. 生物多様性の意味（生物多様性とは何か？） 3. 生物多様性の仕組み 4. 生物多様性の増大（進化） 5. 生物多様性の危機①（生息地の破壊） 6. 生物多様性の危機②（持続不能な利用） 7. 生物多様性の危機③（侵略的外来種） 8. 生物多様性の危機④（絶滅） 9. 生物多様性の保全①（種の保全 1） 10. 生物多様性の保全②（種の保全 2） 11. 生物多様性の保全③（生態系の保全） 12. 生物多様性の保全④（保全と持続的利用 1） 13. 生物多様性の保全⑤（保全と持続的利用 2） 14. 生物多様性の保全⑥（生態学的復元） 15. まとめ 				
受講要件	基礎生態学を受講し、その内容を理解しておくことが望ましい。				
テキスト	使用しない。適宜、資料を配付する。				
参考書	<p>Andrew S. Pullin (2004) 保全生物学. 丸善</p> <p>Richard B. Primack (1997) 保全生物学のすすめ. 文一総合出版</p> <p>樋口広芳編 (1996) 保全生物学. 東京大学出版会</p> <p>鷲谷いづみ・矢原徹一 (1996) 保全生態学入門. 文一総合出版</p> <p>その他、講義中に適宜紹介する。</p>				
予習・復習について	予習・復習のために、ほぼ毎回宿題（あるいは小テスト）を課す。				
成績評価の方法・基準	出席率（小テスト・レポート含む）40%、定期試験 60%の合計で評価する。評価基準は講義内容の理解度等をみる。				

オフィス アワー	火曜日の授業終了後および他の曜日は 16:00～17:00（ただし、他の曜日は事前にメール連絡してから）
担当教員か らのメッセ ージ	授業中の私語と欠伸はしないように。

授業科目名	育種学				
担当教員名	富田 因則 TOMITA Motonori		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	遺伝子実験棟301	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	B	曜日・時限	火5・6
キーワード	品種、交雑育種、選抜法、雑種強勢、種属間交雑、組織培養、突然変異、遺伝子組換え、ゲノム研究、遺伝資源				
授業の目標	人類の歴史とともに、そして遺伝学・ゲノム科学の進歩とともに培ってきた遺伝的変異を創出するための最新の原理と方法を習得し、植物の遺伝的改変に適用する能力を身につけることを目標とする。				
学習内容	植物がもつ多様な繁殖様式と遺伝的性質に基づいて人為的に遺伝的変異を拡大し、さらに選抜して遺伝的に固定するための育種の原理と方法について、その事例を通して多角的に学習する。一方、育種に有用な遺伝子のゲノム解析による探索・同定とゲノム育種への利用ならびに新育種技術（NBT）等について学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 育種の事例と遺伝学的基盤1：緑の革命、光周性と適応性 3. 育種の事例と遺伝学的基盤2：ストレス抵抗性 4. 自殖性作物育種の原理と方法：ホモの選抜、純系分離、系統育種 5. 自殖性作物育種の原理と方法：集団育種、戻し交雑 6. 雑種強勢育種法：ハイブリッドライスと雄性不稔の利用 7. 他殖性作物育種の原理と方法：ヘテロの創出と増大 8. 倍数体育種法：偶数倍数体、奇数倍数体 9. 半数体育種法：花粉培養による育種年限の短縮 10. 遠縁交雑育種法：異質倍数体、染色体工学による異種遺伝子の移入 11. 突然変異育種法：放射線の平和利用 12. ゲノム研究による遺伝子の探索と同定 13. DNA マーカー選抜による有用遺伝子の集積 14. 遺伝子組換えと GM 作物の開発 15. 品種の育成と登録 				
受講要件	なし。育種学は遺伝学を基礎としているので、その未履修者にも配慮します。				
テキスト	プリントを配布します。				
参考書	西尾剛・吉村淳編 『植物育種学 第4版』 文永堂出版、日向康吉・西尾剛編 『植物育種学各論』 文永堂出版				
予習・復習について	理論的な分野なので授業内容をよく復習して再現して下さい。授業で培った力で参考書も通読するとよい。				
成績評価の方法・基準	期末試験の得点に、小テストなどの日常点を加味して評価します。小テストは思考力を喚起する問いかけです。				
オフィスアワー	講義の後やグリーン科学技術研究所遺伝子実験棟にて随時対応します。				

担当教員からのメッセージ	育種学は、人類の生存を左右する栽培植物を遺伝的に改変していくための学問で、農学応用生命科学の王道と言えます。地球規模の環境変動に晒されるとともに、大震災で国難を迎えたこの時代において、ゲノム解析に則る先端的育種学に我国のみならずグローバルな貢献が期待されています。
--------------	--

授業科目名	植物バイオサイエンス入門				
担当教員名	切岩 祥和 KIRIWA Yoshikazu		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 343 (移転後：農学総合棟 481)	
分担教員名	山脇 和樹、本橋 令子、西東 力、田上 陽介、平田 久笑				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 5・6
キーワード	園芸学、植物保護、バイオテクノロジー				
授業の目標	この科目は、共生バイオサイエンス学科において専門教育を履修するための導入科目で、特に農学バイオサイエンス講座で履修する園芸学、バイオテクノロジーおよび植物保護について広く学び、農学バイオサイエンスを学ぶための動機づけとする。				
学習内容	農業関連産業の発展に欠かすことのできない植物の多様な機能について理解し、農業、バイオ、食品産業等自然科学関連産業の基盤として発展を続ける基礎と応用研究の実情に触れる。				
授業計画	<p>ガイダンス (切岩 祥和)</p> <p>植物を栽培するってどういうこと？(切岩 祥和)</p> <p>理系研究者への道しるべ (本橋 令子)</p> <p>遺伝子組み換え技術の基礎と応用 ～GM作物と機能解析～ (本橋 令子)</p> <p>植物の不思議 ～ミクロの世界から環境応答まで～ (山脇 和樹)</p> <p>植物保護 ～作物の病気と害虫防除～ (西東 力・田上 陽介・平田久笑)</p> <p>園芸作物生産 ～果樹・野菜・花卉の生産とその利用～ (切岩 祥和)</p>				
受講要件	共生バイオサイエンス学科の専門科目への導入科目である。				
テキスト	特に使用しない。				
参考書	講義の中で適宜紹介する。				
予習・復習について	植物の基本構造、光合成や呼吸の仕組み、植物の環境応答などの高校生物の知識についてきちんと理解しておくこと。また、農学は生物学にとどまらない総合科学です。すべてが新鮮なトピックスですので、わからないことを調べたり、興味のあることを深化させる努力をすること。				
成績評価の方法・基準	受講態度やレポート評価による。 レポートでは各講義に関する理解度と関心度に加え、応用力についても評価する。				
オフィスアワー	特に設けないので、随時メールにて問い合わせること。				
担当教員からのメッセージ	「農学バイオサイエンスってなんだろう？」って講義を通じて一緒に考えてみましょう。				

授業科目名	室内環境学				
担当教員名	渡邊 拡 WATANABE Hiromu		所属等	農学研究科	
			研究室	共 C307-2、農 A506 (移転後：農総 381)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	住宅、居住性、環境、健康、資源				
授業の目標	日本人の暮らしには「木」が深く関わっており、古くから多く木を利用してきた。木材は建築材料の中でも大きな位置を占め、日本の風土に合った伝統的材料であり、木造住宅に住むことを望む人は少なくない。人間が日常生活を送るうえで重要である室内環境について、木造住宅を中心に講義をする。				
学習内容	住宅や建造物の種類や安全性についての考え方を説明した後に、住宅の工法及び住宅内環境の評価について講義を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 住宅の種類、安全性 2. 建築材料の種類 3. 建築材料の種類 4. 建築材料の種類 5. 住宅の工法 6. 住宅の工法 7. 住宅内の温度、湿度、音 8. 住宅内の温度、湿度、音 9. 住宅内の光、視覚 10. 住宅内の光、視覚 11. 住宅内の空気 12. 住宅内の空気 13. 住宅と健康 14. 住宅と健康 15. 建築材料に関わる環境問題 				
受講要件					
テキスト	なし。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	出席（50%）及びレポート2回（50%）の合計で評価する。 レポートは講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	E-mailで問い合わせてください。				

担当教員からのメッセージ	講義に関する質問はE-mailで受けます。
--------------	-----------------------

授業科目名	測量学				
担当教員名	近藤 恵市 KONDO Keiichi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 511 (移転後：農学総合棟 273)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	火 5・6
キーワード	距離測量、コンパス測量、トランシット測量、水準測量				
授業の目標	測量及び測量器械に関する基本的な知識を理解するとともに、測量結果の数値的な処理方法と作図方法を理解する。				
学習内容	<p>地表における相対的な位置関係の決定や、地形の具体的な把握に必要な測量技術を取得するため、その基本となるトランシット、レベル、コンパス等の測量器械の構造的特性及び作動原理と、器械の利活用技術等について講義を行う。</p> <p>なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 距離測量の基礎概念について 2. 水準測量の基礎概念について 3. コンパス測量の基礎概念について 4. トランシット測量の基礎概念について 5. トラバース測量の基礎概念について 6. 測量による観測値の精度と誤差について 				
受講要件	本科目は、「測量学実習」と密接な関係にあるので、「測量学実習」と併せて受講する必要がある。				
テキスト	測量学 大木正喜著 森北出版				
参考書	長谷川昌弘：基礎測量学（電気書院）				
予習・復習について	受講前にテキストの該当部分を読んでおくこと。また復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度（20%）、学期末試験（80%）の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部A511室。メール（afkkond@agr.shizuoka.ac.jp）で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	疑問があれば積極的に質問してください。				

授業科目名	人間環境科学論				
担当教員名	澤田 均 SAWADA Hitoshi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 306 (移転後：農学総合棟 471)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	火 7・8
キーワード	環境問題、農業環境問題、地域環境問題、環境保全、環境倫理、資源、循環、dddddddddddddd				
授業の目標	この科目は、共生バイオサイエンス学科に入学した学生を主な対象にした初年次教育科目と位置づけている。入学後、人間と自然環境の関わり、農業環境問題、地域環境問題、生物由来資源、環境倫理などの幅広いテーマについて段階的に学習できるようにカリキュラムを構成している。その起点となるのがこの科目である。				
学習内容	人間環境科学講座各教員により、下記授業計画に沿って講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス (講義責任者) 2. 第 1 章 エネルギーと食料生産 (澤田 均) 3. 第 2 章 生物多様性 (山下雅幸) 4. 第 3 章 持続可能型農業科学 (南雲俊之) 5. 第 4 章 土壌環境 (鮫島玲子) 6. 第 5 章 微生物と環境 (小川直人) 7. 第 6 章 水環境 (釜谷保志) 8. 第 7 章 バイオマス及びリサイクル (鈴木恭治) 9. 第 8 章 住環境の健康論 (渡邊 拓) 10. 第 9 章 農業の近代化と環境問題 (柴垣裕司) 11. 第 10 章 人間 - 自然系における社会の作用 (富田涼都) 12. 第 11 章 武谷三段階論と環境問題 - 実体論(もの)と実証論(こと) (野上啓一郎) 13. 第 12 章 生命環境倫理学 - スウェーデンで考えたこと (竹之内裕文) 14. 第 13 章 生命環境倫理学 - ポスト 3.11 の社会構築へむけて (竹之内裕文) 15. 第 14 章 総括 (講義責任者) <p>なお、上記はあくまでも予定であり、変更することもある。</p>				
受講要件	共生バイオサイエンス学科カリキュラムの起点科目である。				
テキスト	特になし。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	実施前の章及び実施後の章について、本やインターネット検索等により情報を収集、整理すること。				
成績評価の方法・基準	レポートと授業への取り組み(遅刻・欠席を含む)で評価する。レポートは4回課す(ガイダンスで担当者を紹介)。配点はそれぞれ20%。4回以上の欠席は落第とする。評価基準は、科目の目標に沿って、特にレポートは講義テーマの理解度と関心度、論理的思考力、文章表現力をみる。				
オフィスアワー	各教員の開講科目のシラバスにオフィスアワーを記載してある。				
担当教員からのメッセージ	初回は欠席しないこと。				

授業科目名	園芸生産学				
担当教員名	向井 啓雄 MUKAI Hiroo		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 412 (移転後：農学総合棟 428)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	火 7・8
キーワード	園芸、作物、生産、栽培				
授業の目標	園芸生産の基本を理解する。				
学習内容	園芸作物生産（栽培）の基礎となる理論を栽培学のテキストに沿って学習する。とくに植物の生理に基づいた栽培管理について学習する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、食料生産と栽培学 2. 作物の起源と農耕文化 3. 作物の遺伝的改良 4. 耕地生態系と環境条件 5. 作物栽培と栽培管理 1、種物と播種・苗と移植 6. 作物栽培と栽培管理 2、土壌管理・施肥管理・水管理・根圏管理 7. 作物栽培と栽培管理 3、植物保護 8. 作物栽培と栽培管理 4、挿し木と接ぎ木 9. 作物栽培と栽培管理 5、整枝剪定 10. 作物栽培と栽培管理 6、生長調節物質 11. 作物栽培と栽培管理 7、施設管理・養液栽培 12. 作物栽培と栽培管理 8、ポストハーベスト 13. 収量形成と生育診断 14. 栽培様式と作付様式、世界の農業システム 15. 今後の栽培研究 				
受講要件	受講要件は特にないが、植物に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。				
テキスト	『栽培学-環境と持続的農業-』、森田茂紀・大門弘幸・阿部淳編著、朝倉書店、2006、97842544102080 今年度からテキストが変更される。 テキストの購入を義務付けないが、講義はテキストに沿って進める。また、試験はテキストの文章を用いて出題される。				
参考書	『園芸学入門』、今西英雄編著、朝倉書店、2006、9784254405422 『園芸学の基礎』、鈴木正彦編著、農山漁村文化協会、2012、9784540111051 『図説園芸学』、萩原勲編著、朝倉書店、2006、9784254410273 『園芸学』、金浜耕基編、文永堂出版、2009、9784830041150 その他の参考書については授業中に紹介する。				
予習・復習について	予習： テキスト・参考書を読んで内容を理解する。 復習： 講義において生じた疑問を調べる。				

成績評価の方法・基準	<p>定期試験により 100%評価する。試験の正答率をテキストの内容の理解度として判断する。</p> <p>試験： 5 択 50 問のマークシート方式。1 問 1 点で 50 点満点。 テキストの記述から出題される。出題箇所や過去問は授業支援システム等で示される。</p> <p>評価点： (試験の得点から求められる) 偏差値+30。 共生バイオサイエンス学科 2 年生の受験者における平均値と標準偏差を偏差値の計算に用いる 評価点の上限を 100 点とする。試験を受けなかった人の評価点を 0 点とする。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 16:00~20:00 授業終了後、当該講義室あるいは研究室 電子メールでの質問は随時 (返信メールあるいは次回の講義において回答する)。 メールアドレス： abhmuka@ipc.shizuoka.ac.jp</p>
担当教員からのメッセージ	<p>疑問があればできるだけ授業中に質問してください。 園芸生産学の過去の試験結果・授業アンケート結果が果樹園芸学研究室オリジナル WEB サイトに記載されているので、参考にしてください。 HP アドレス http://www.agr.shizuoka.ac.jp/b/pomology/index.html</p>

授業科目名	森林生態管理学				
担当教員名	今泉 文寿 Fumitoshi IMAIZUMI		所属等	農学研究科	
			研究室	農学 A 棟 512	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	森林の健康、樹木の健康、攪乱と多様性、森林の管理				
授業の目標	樹木と森林の保全技術に必要な基礎的考え方を身につける 森林が周囲の環境（気象，地盤条件）からどのような影響を受けて成立しているのか，森林が周囲の環境にどのような役割を果たしているのかについての理解を深める 持続的に機能を発揮できる森林の管理に必要な考え方を身につける				
学習内容	森林へのニーズが資源から環境へシフトする中で、樹木・森林の保全方法を学ぶ。森林と周囲の環境の相互作用や生態の多様性を維持しているメカニズムについて学び，森林の持つ役割や意義を理解する。 本科目は技術者教育プログラムの学習教育目標 D に対応する				
授業計画	1：ガイダンス 授業内容の紹介，森林の保全・管理に関する諸問題 2：森林をどうして保全・管理するのか（森林の持つ多面的機能） 3：樹木を知る（樹木の形態と機能） 4：樹木を知る（樹木の形態と機能） 5：樹木の生態と環境（森林の成立基盤：地盤，土壌，水，気候） 6：樹木と環境の相互作用 7：樹木のストレス 8：樹木の被害（気象災害） 9：樹木の被害（病虫害，獣害，人為的被害） 10：森林の攪乱（攪乱の種類，多様性） 11：森林の診断法（調査・計測法，攪乱の履歴の調査） 12：森林の診断法（森林の機能の評価法） 13：森林の保全手法（樹木・森林管理） 14：森林の保全手法（国際社会，国，地方の取り組み） 15：まとめ				
受講要件	関連科目：森林生態学 造林学 森林計画学実習 森林環境学 森林環境水文学 山地保全学				
テキスト	なし，プリントによる。				
参考書	講義中に随時紹介する				
予習・復習について	十分な復習を行い，理解できない点は教員へ質問すること				
成績評価の方法・基準	期末試験（50%） 小レポート（50%） 成績の秀は 90%以上、優は 80%以上、良は 70%以上、可は 60%以上とする。				
オフィスアワー	随時可（メール等でアポイントがあればより確実に対応可）				
担当教員からのメッセージ	受身にならずに積極的に授業へ参加してほしい。 説明がわかりづらい場合は指摘，質問をしてほしい。				

授業科目名	山地保全学				
担当教員名	逢坂 興宏 OHSAKA Okihiro		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 507 (移転後: 農学総合棟 272)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	砂防、緑化、土砂災害				
授業の目標	山地斜面における土砂移動現象とその発生機構について理解し、その対策に関する知識を得ることを目標とする。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D) に対応する。				
学習内容	主として日本の森林山地に生じている土砂移動現象の実態とその発生機構、およびそれによって引き起こされる土砂災害を軽減する方策について講義する。 講義を通じて、動植物及び人間の生存基盤である自然環境の、特に水と土と緑のダイナミックな関係に興味を持ってもらい、時間・空間スケールを意識した災害防止と自然環境の保全を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、森林の多面的な機能 2. 日本の自然災害 3. 土砂災害とその対策の歴史 4. 地形過程に伴う自然災害 5. 斜面における土砂移動現象の分類 6. 表面侵食と植生の効果 7. 表層崩壊 (森林と山崩れ) 8. 山腹緑化工 9. のり面緑化工 10. 地すべり、大規模崩壊 11. 地すべり対策 12. 土石流 13. 火山活動に伴う土砂移動現象 14. 雪崩 15. 斜面安定解析 				
受講要件	「森林環境水文学」、「応用気象学」、「地質学概論」、「地学実習」と関連が深い。 「溪流環境学」、「砂防学実習」の基礎科目となる。				
テキスト	保全砂防学入門 (電気書院) また、随時プリントを配布する。				
参考書	新砂防工学 (朝倉書店)、環境緑化工学 (朝倉書店)、山地保全学 (文永堂出版) その他適宜紹介する。				
予習・復習について	授業の進行にあわせて、テキストおよび参考書の該当箇所を予習・復習すること。				
成績評価の方法・基準	履修態度 (10%)、レポート (10%) および期末筆記試験 (80%) の結果を総合して評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	授業終了後、または随時、質問や相談を受け付けます。まず直接あるいは電子メールで連絡をして下さい。				
担当教員からのメッセージ	世界各地で頻発する自然災害に関心を持ち、日頃から防災意識を高めておきましょう。				

授業科目名	細胞生物学				
担当教員名	笹浪 知宏 SASANAMI Tomohiro		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 232 (移転後：農学総合棟 580)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 1・2
キーワード	細胞小器官、細胞膜、核、リボソーム、ミトコンドリア、葉緑体、細胞骨格、細胞周期				
授業の目標	細胞生物学は生物体の基本単位である細胞が活動するしくみを明らかにしようとする学問であり、生命現象の理解には欠かせない。本講では、細胞に関する基礎的知識を修め、生命現象を細胞生物学的に解釈できる能力を身につけることを目標とする。				
学習内容	本講では、細胞の構造とその機能について、細胞を構成する分子とそれらの働きに重点を置いて講義し、細胞生物学の基礎を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、細胞生物学分野における実験手法 2. 細胞とは 3. 細胞の化学成分 4. 細胞の化学成分 5. 膜の構造 6. 膜の構造 7. 膜輸送 8. 膜輸送 9. ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産 10. ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産 11. ミトコンドリアと葉緑体におけるエネルギー生産 12. 細胞骨格 13. 細胞骨格 14. 細胞周期 15. 定期試験 				
受講要件	特になし				
テキスト	エッセンシャル細胞生物学 (南江堂)				
参考書	細胞の分子生物学、教育社				
予習・復習について	授業内容について復習をすること。不定期に小テストを行う。				
成績評価の方法・基準	期末試験 (80%)、および不定期に課すレポートや小テスト (20%) を総合して評価する。また、1/3 以上の欠席をした者は期末試験の受験資格を失う。				
オフィスアワー	事前に電子メールにて確認を取り、研究室に来ること。				
担当教員からのメッセージ	生物学概論 A・B の内容を理解していること。				

授業科目名	生物工学				
担当教員名	朴 龍洙 Enoch Y. Park		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	共通教育C棟 211 号室	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 1・2
キーワード	遺伝子、遺伝子発現、ゲノム、タンパク質、細胞膜輸送、情報伝達、幹細胞、がん				
授業の目標	1) 生命科学における細胞の仕組みを理解すること。2) 生命現象を営む分子（遺伝子、タンパク質）の理解をすること。3) 遺伝子の発現とタンパク質の細胞内輸送の基本的なシステムを理解すること。				
学習内容	生物、化学、及び工学の融合による学際的なバイオテクノロジーは、現在の新産業を形成し、多くの医薬品を生み出している。本講義は、バイオテクノロジーのなかで有用遺伝子の発現、タンパク質の分泌などライフサイエンスの基礎について講義し、さらに最近の幹細胞やがんについても紹介する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子の発現機構 2. 遺伝子の調節機構 3. 遺伝子とゲノム 4. ゲノムの進化 5. ゲノムの解析 6. タンパク質の輸送 7. タンパク質の分泌経路 8. 細胞間シグナル伝達 9. Gタンパク質共役型受容体 10. 酵素共役型受容体 11. 細胞間マトリックス 12. 細胞の組織 13. 幹細胞 14. がん 15. ライフサイエンスのトピック 				
受講要件	2年前期「細胞生物学」、2年後期「分子生物学」の受講者				
テキスト	Essential 細胞生物学 原書第3版（監訳 中村桂子・松原謙一）				
参考書					
予習・復習について	授業の前、次回の講義内容について予習してくるよう。				
成績評価の方法・基準	2/3以上の出席、筆記試験で評価する。				
オフィスアワー	毎週水曜日の午後・共通教育C-211へ直接又は電話、E-mail等				
担当教員からのメッセージ	積極的に授業に参加し、一緒に授業を盛り上げてほしい。				

授業科目名	木質機能科学				
担当教員名	安村 基 YASUMURA Motoi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 426 (移転後：農学総合棟 332)	
分担教員名	小林 研治				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	密度、含水率、膨潤・収縮、弾性、応力、ひずみ、ヤング係数、強度、粘弾性、動的弾性				
授業の目標	木質資源としての木材の機能について学ぶ。 木材の物理的・力学的性質に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。				
学習内容	木材と含有水分の関係、木材の熱・電気・音響等の物理的特性、さらに木材の弾性・粘弾性・強度等の力学的特性に関して基本的な考え方を述べ、応用として木材利用との関連や環境への影響について概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(D)に対応する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 木材の利用と環境への負荷 2. 木材の密度とその変動 3. 木材の含水率とその変化 4. 水分の吸着とその理論 5. 木材中での水分の移動と拡散の理論 6. 木材の膨潤および収縮と異方性 7. 木材の熱・電気に関する特性 8. 動的弾性－振動現象と木材の音響特性 9. 力の釣り合い 10. 弾性－ヤング係数と強度 11. 応力とひずみの成分 12. 木材の圧縮、曲げ、引張り 13. 一般化されたフックの法則 14. 粘弾性－クリープと応力緩和 15. 各種強度と力学的性質に影響を及ぼす因子および破壊 				
受講要件	材料力学、住環境構造学、住環境工学、木質バイオマス科学等の講義、および環境木質機能学実験、環境木質材料学実験等の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	高橋・中山 編「木材科学講座 3 物理」(海青社)				
参考書	菊池正紀他著「基礎演習シリーズ 材料力学」(裳華房)、日本木材学会 編「木質の物理」(文永堂出版)、 伏谷 他 著「木材の科学 2 木材の物理」(文永堂)、北原 著「木材物理」(森北出版)				
予習・復習について	授業で取り扱った基礎的事項に関して、必ず復習すること。 理解できない点は必ず教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により評価する。 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。 筆記試験は講義内容の基礎的事項に関する理解度をみる。				
オフィスアワー	農学部 A 棟 426, 428 室で随時受け付ける。事前にメール等で連絡して下さい。				

担当教員からのメッセージ	授業開始時に出欠を確認するため、遅れないこと。必ず復習をするようにして下さい。積極的に質問して下さい。
--------------	---

授業科目名	食品分析化学				
担当教員名	河岸 洋和 KAWAGISHI Hirokazu		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	農学部 A 棟 711 (移転後：農学総合棟 672)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード					
授業の目標	食品に含まれる成分の分析のための基礎を学ぶ。				
学習内容	食品分析に必要な方法 (クロマトグラフィー, 機器分析) の理論と実例を解説する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食品分析学の意義と概観 2. 各種クロマトグラフィーの理論と実際 3. 各種クロマトグラフィーの理論と実際 4. 各種クロマトグラフィーの理論と実際 5. UV の解説 6. IR の解説 7. MS の解説 8. MS の解説 9. NMR の解説 10. NMR の解説 11. NMR の解説 12. NMR の解説 13. NMR の解説 14. 最新のトピックスの紹介 15. 最新のトピックスの紹介 				
受講要件	化学を基礎とするので, 化学概論 AB, 有機化学概論, 生化学概論, 生物有機化学, 分析化学を受講すること。				
テキスト	未定 開講時に指示する。				
参考書	未定 開講時に指示する。				
予習・復習について	授業各回で指示する。				
成績評価の方法・基準	定期試験 (約 75%) とと出席 (約 25%) を総合して評価する。				
オフィスアワー	随時 (事前に電話や電子メール等で問い合わせること)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	分析化学				
担当教員名	原 正和 MORITA Akio		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 704 (移転後：農学総合棟 530)	
分担教員名	原 正和				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分 —
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	化学平衡論、酸・塩基反応、機器分析				
授業の目標	定性分析、定量分析、機器分析などの分析化学の基礎的な方法論を理解し、正確な実験を行う能力を培う。				
学習内容	定性分析、定量分析、機器分析など、分析化学の基礎的な理論を理解する。				
授業計画	1. 序論 -1 分析化学の意義と重要性 -2 数値と単位の取り扱い 2. 酸・塩基反応と中和滴定 I 3. 酸・塩基反応と中和滴定 II 4. 沈殿と重量分析 5. 錯化合物とキレート滴定 I 6. 錯化合物とキレート滴定 II 7. 酸化還元反応と酸化還元滴定 I 8. 酸化還元反応と酸化還元滴定 II 9. 溶媒抽出 10. クロマトグラフィーによる分析 I 11. クロマトグラフィーによる分析 II 12. 光による分析法 13. X 線と分析化学 14. 電気伝導度と分析化学 15. 同位体の性質とその利用				
受講要件	理系基礎科目の化学概論 A、化学概論 B の内容を十分理解しておくこと。				
テキスト	木村 優・中島理一郎 共著 「分析化学の基礎」(裳華房)。 その他、必要に応じて資料を配付する。				
参考書	河合 聡・他編「定量分析化学」(丸善)。分析化学研究会編「分析化学の理論と計算」(廣川書店)。土屋正彦・他編「クリスチャン 分析化学 I, II」(丸善) など。				
予習・復習について	授業は、テキストを使って進めるので、テキストによる予習・復習を適切に行うこと。				

成績評価の方法・基準	中間試験（50%）ならびに期末試験（50%）の合計で評価する。 評価基準は科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。
オフィスアワー	問合せ等がある場合には、事前に連絡の上、訪問すること。
担当教員からのメッセージ	小テストを授業開始時に行い、前回講義の復習をします。 授業には遅れずに出席すること。関数電卓の持参を求める場合がある。

授業科目名	木質利用化学				
担当教員名	西田 友昭 KAWAI Shingo		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 527 (移転後：農学部総合棟 325)	
分担教員名	西田 友昭、米田 夕子				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	C	曜日・時限	水 3・4
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分、パルプ化、パルプ漂白、生理活性				
授業の目標	パルプ製造法と木材成分の関係、抽出成分の生理的機能と特性を理解し、主体的関心を持つことを目指す				
学習内容	<p>木材主要成分のセルロース、ヘミセルロース、リグニンを取り上げ、パルプ化および漂白工程における化学反応性、生物反応を利用するパルプ製造に関する最新知見を詳述する。</p> <p>さらには、樹木の生理および木材の特性に関与している副成分の抽出成分を取り上げ、その生合成、理化学的性質、生物有機化学的な利用法について概説する。</p> <p>なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標 (D) に対応する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. パルプ原料とその化学 2. 機械パルプの製造 3. 化学パルプの製造 4. 機械パルプおよび化学パルプの漂白 5. 授業 1～4 回目のまとめ 6. 抽出成分の化学構造決定法 (NMR) (1) 7. 抽出成分の化学構造決定法 (NMR) (2) 8. 抽出成分の化学構造決定法 (質量分析) (1) 9. 抽出成分の化学構造決定法 (質量分析) (2) 10. 授業 6～9 回目のまとめ 11. 抽出成分の生合成 (フェニルプロパノイド経路) (1) 12. 抽出成分の生合成 (フェニルプロパノイド経路) (2) 13. 抽出成分の生合成 (メバロン酸経路) 14. 抽出成分の生理活性とその利用 15. 授業 10～14 回目のまとめ 				
受講要件	2 年生前学期の「樹木生化学」、2 年生後学期の「樹木成分化学」と関連する。				
テキスト	なし 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	<p>木材学会編：木質の化学 (文永堂)、中野準三ら：リグニンの化学 (ユニ出版)</p> <p>日本木材学会抽出成分と木材利用研究会：樹木の顔 (海青社)</p> <p>福島和彦ほか 編集：木質の形成・バイオマス科学への招待 (海青社)</p>				

予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・履修態度（20%）と筆記試験（80%）の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。
オフィスアワー	農学部A棟、531室（西田）、527室（河合）、540室（米田）で随時受け付ける。
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。

授業科目名	花卉園芸学				
担当教員名	大野 始 OHNO Hajime		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 342 (移転後：農学総合棟 482)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	水 3・4
キーワード	品種改良、繁殖、生育・開花調節、鮮度保持、流通、ライフサイクル、花色				
授業の目標	花卉の生産と利用に必要な基礎知識を得ることを目標とする。				
学習内容	花卉の生産と利用に必要な生理・生態学的基礎知識と主要な花卉についての品種形態、生理、生態や開花調節、繁殖法について講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 序論：花と花卉園芸、生産の状況、花の消費と国民性 3. 種類と分類：学名と命名規約、人為分類 4. 産地形成の条件と生産および経営形態：生産形態、産地形成の条件、経営形態 5. 花卉の形態と構造：花の器官と構造、花の器官の相互関係 6. 育種と新品種の保護：花卉のライフサイクルと育種の役割、日本の花卉育種、育種の目的・方法 7. 繁殖：種子繁殖、栄養繁殖、組織培養 8. 種苗生産：組織培養と種苗生産、プラグ苗生産 9-13. 生育と開花の調節 14. 花卉の鮮度保持と貯蔵、品質評価：切り花の鮮度保持と品質評価、鉢物の鮮度保持 15. 花色：花色と花色素 16. 筆記試験 				
受講要件	関連科目：植物分類および形態学、土壌学、植物病理学、応用昆虫学、育種学、遺伝学、造園学 施設園芸学、植物組織培養学				
テキスト	使用しない。				
参考書	花卉園芸総論（養賢堂）、園芸事典(朝倉書店)、花卉園芸学（朝倉書店）、花卉入門(実教出版)、球根の開花調節（養賢堂）				
予習・復習について	多くの種類の花卉が出てくるので、どのようなものかを確認しておくこと。				
成績評価の方法・基準	小テスト(30%)および定期試験(70%)により評価する。				
オフィスアワー	随時（できれば事前にメールでコンタクトをとって下さい。）				
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。				

授業科目名	基礎微生物学				
担当教員名	瀧川 雄一 TAKIKAWA Yuichi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 236 (移転後：農学総合棟 385)	
分担教員名	小川 直人、鮫島 玲子、堀池 徳祐				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード					
授業の目標	微生物学は生命科学の最も基礎的な部分を構成している。本講義では、微生物学の基礎を身につけることを目標として、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態を、その内容を整理し体系的に解説する。				
学習内容					
授業計画	第 1 回 イントロダクション・微生物学の歴史 第 2 回—第 3 回 微生物の取扱い・分類・細胞構造 第 4 回 微生物の栄養増殖・ 第 5 回、第 6 回 遺伝 (1) バイオインフォマティクス 第 7 回 中間試験 第 8 回—第 9 回 遺伝 (2) 第 10 回、第 11 回 微生物の代謝・ 第 12 回、第 13 回 発酵 第 14 回、第 15 回 微生物と物質循環・環境保全				
受講要件					
テキスト	微生物学 青木健治 化学同人				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	中間と期末に 2 回の試験を行う。その成績の合計で評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	基礎微生物学				
担当教員名	徳山 真治 TOKUYAMA Shinji		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 630(移転後：農学総合棟 525)	
分担教員名	朴 龍洙、小谷 真也				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水 5・6
キーワード					
授業の目標	微生物学は生命科学の最も基礎的な部分を構成している。本講義では、微生物学の基礎を身につけることを目標として、微生物の生理生化学、物質代謝、遺伝および生態を、その内容を整理し体系的に解説する。				
学習内容					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・微生物学の歴史 2. 微生物の取扱い・分類・細胞構造 3. 微生物の栄養増殖・遺伝 4. 微生物の代謝・発酵 5. 微生物と物質循環・環境保全 				
受講要件					
テキスト	微生物学 青木健治 化学同人				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	中間と期末に2回の試験を行う。その成績と出席率を総合して評価する。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	木材接着学				
担当教員名	山田 雅章 YAMADA Masaaki		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 535 (移転後：農学総合棟 329)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	接着、接着剤、レオロジー、ホルムアルデヒド・VOC、接着試験法、試験評価法				
授業の目標	身近にある接着製品、木質材料、いろいろな接着剤、とくにものものがなぜ接着するかを学ぶ際には木材のみならず、高分子科学、物理化学、材料科学など幅広い知識と探求が必要であることを認識して欲しい。				
学習内容	接着に関する基礎理論、接着にするレオロジー、各種接着剤の名称・分類と主要な特徴と性質、木材及び建築材料の接着に関する基礎、木材接着試験法および評価法について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D) に対応する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 木質製品・木質材料のサンプル観察 2. 木材接着の基礎 その1 3. 木材接着の基礎 その2 4. 接着の界面科学 5. 接着のレオロジー 6. 接着剤の分類と固化様式 7. 木材用接着剤の種類 その1 8. 木材用接着剤の種類 その2 9. 木材用接着剤の種類 その3 10. 木材接着に関する因子 その1 木材の因子 11. 木材接着に関する因子 その2 接着剤の因子 12. 木材接着に関する因子 その3 接着操作・装置 13. 木材接着の性能評価と耐久性 14. 木材接着の実用 15. 木材接着と環境・健康問題 				
受講要件	2 年生で学ぶ高分子材料学、木質材料学や 3 年生前期で行う環境木質化学実験など関連の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	木材接着の科学 (海青社)				
参考書	木材の接着 (日本木材加工技術協会)				
予習・復習について	毎回授業の予習、とくに復習は必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	履修態度および小レポート (30%)、期末筆記試験結果 (70%) を総合して評価する。成績の「秀」は 90% 以上、「優」は 80% 以上、「良」は 70% 以上、「可」は 60% 以上とする。				
オフィスアワー	木曜日の昼食時 17 時 30 分～18 時 30 分。農学部 A 棟 534 室				
担当教員からのメッセージ	1・2 限目の授業であるので遅刻しないで出席すること。また、卒業後住宅企業、接着剤メーカー、住器メーカー、家具メーカー等に就職を考える学生に受講して欲しい。				

授業科目名	収穫後生理学				
担当教員名	加藤 雅也 KATO Masaya		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 408 (移転後：農学総合棟 432)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 1・2
キーワード	園芸作物、生理変化、成熟（追熟）、老化、エチレン、栄養成分				
授業の目標	園芸作物（果実、野菜、花）は、収穫後急速な代謝変動を伴い成熟（追熟）・老化する。収穫後生理学では、収穫後の園芸作物の生理変化やそれに関わる酵素の遺伝子発現、活性、性質、誘導、さらに栄養成分の変動について理解を深める。				
学習内容	園芸作物（果実、野菜、花）の成熟（追熟）・老化に深く関わる植物ホルモンのエチレンの生合成、作用、調節機構を中心に講義する。また、栄養成分（ビタミン A やビタミン C）の生合成や収穫後の園芸作物における成分の生合成、変動についても述べる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス（授業概要、背景、意義） 2. 園芸作物の成熟（追熟）・老化における代謝変動 3. クライマクテリック呼吸と果実の追熟 4. 呼吸 1 5. 呼吸 2 6. エチレンの生合成機構 1 7. エチレンの生合成機構 2 および中間テスト 8. エチレンのシグナル伝達 1 9. エチレンのシグナル伝達 2 10. エチレン生合成・作用の調節、制御 11. エチレン以外の植物ホルモンの生合成と生理的役割 12. カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 1 13. カロテノイド（ビタミン A）の生合成、変動 2 14. アスコルビン酸（ビタミン C）の生合成、変動 15. まとめ 				
受講要件	関連科目：植物生理学、園芸利用学				
テキスト	使用しない。 資料は印刷して配布する。				
参考書	植物ホルモンハンドブック下巻（倍風館）、兵藤宏・楊祥発著「エチレン」				
予習・復習について	出来るだけ授業時間内で理解し、専門用語も憶えるように努める。 授業毎に簡単に復習することが望ましい。				
成績評価の方法・基準	各回の小テスト（30%）、中間テスト（35%）、最終テスト（35%）による評価で行う。				
オフィスアワー	随時（昼休み時間、夕刻等）				
担当教員からのメッセージ	身近な果物、野菜、花の生理現象に関心を持ち、講義に臨んで欲しい。				

授業科目名	動物生命科学				
担当教員名	高坂 哲也 KOHSAKA Tetsuya		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 241 (移転後：農学総合棟 584)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	生命の誕生、生殖科学、生殖生理学、哺乳類				
授業の目標	本講では、食資源動物を含む哺乳動物を中心に、動物の生命科学、すなわち命の誕生までの生殖プロセスとその仕組みについて学ぶ。				
学習内容	動物の生殖戦略、性の決定と分化、配偶子（精子、卵子）の形成、受精と発生、妊娠と分娩などについて講義し、哺乳動物の生命科学、とくに生殖生理全般について理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雄の生殖：精巣の構造とその機能 2. 精子形成とその周期 3. 精子形成とその環境要因 4. 精子と運動 5. 雌の生殖：卵巣の構造と卵胞 6. 卵子形成と成熟 7. 性周期と排卵 8. 性腺の分化 9. 生殖内分泌 10. 受精：精子の輸送と変化 11. 受精のメカニズム 12. 初期胚の発生 13. 妊娠：胚と子宮のコミュニケーション（母体の妊娠認識）と着床 14. 分娩 15. 生殖技術 				
受講要件	関連科目：動物生理学				
テキスト	「繁殖生物学」 日本繁殖生物学会編 (インターズー) を使用する。				
参考書	「動物生殖学」 佐藤英明編 (朝倉書店) 「スキップ動物生殖生理学」 佐々田比呂志・高坂哲也・橋爪一善他訳 (講談社)				
予習・復習について	とくに復習を忘れずに。				
成績評価の方法・基準	授業態度をかみし、小テスト (30%) と期末試験 (70%) で評価する。				
オフィスアワー	適宜対応 (事前にメール等で知らせてください)。				

担当教員からのメッセージ	命の誕生までのプロセスとその仕組みについて総合的に理解してほしい。
--------------	-----------------------------------

授業科目名	環境微生物学				
担当教員名	小川 直人 OGAWA Naoto		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 708 (移転後：農学総合棟 389)	
分担教員名	鮫島 玲子、堀池 徳祐				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B-C	曜日・時限	木 3・4
キーワード	微生物の代謝、微生物の環境応答、化学合成独立栄養細菌、環境問題、微生物の生態学、系統解析				
授業の目標	微生物の多様な代謝活動等の基礎知識を習得し、環境中における微生物の活動、微生物と環境問題の関係、微生物のゲノム情報などに関する専門知識を理解することを目指す。				
学習内容	微生物の多様な代謝能力と環境との関係を中心に基礎的な知識を学ぶ。その上で微生物の代謝活動等の生物学的機構や遺伝学的な知識を学ぶ。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の研究史 2. 微生物の細胞構造の特徴 3. 微生物の代謝の基礎 4. 微生物の代謝の多様性 1 5. 微生物の代謝の多様性 2 6. 微生物の代謝の多様性 3 7. 微生物の進化と系統学 8. バイオインフォマティクス (系統解析) 9. 微生物生態学の方法 10. 地球環境における物質循環と微生物 <ol style="list-style-type: none"> 11. 微生物の環境応答 1 12. 微生物の環境応答 2 13. 微生物遺伝子の環境中での動態 14. 微生物のゲノム解析研究 				
受講要件	関連科目：基礎微生物学、生化学概論、物質循環学、資源生態科学論、土壌学				
テキスト	環境微生物学 (久保幹・他著、化学同人)				
参考書	Brock 微生物学 (オーム社 (原書第 9 版))、ベーシックマスター微生物学 (オーム社)、微生物生態学入門 (日科技連)、Brock Biology of Microorganisms (Pearson (第 13 版))				
予習・復習について	とくに指定しない				
成績評価の方法・基準	講義内容の理解を期末テストで評価する。				
オフィスアワー	応対可能時間は午前 9 時から午後 5 時まで。事前にメールで確認を取ることが望ましい。				
担当教員からのメッセージ	私語は厳禁。				

授業科目名	造園学				
担当教員名	藤本 征司 FUJIMOTO Seishi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 113 (移転後：農学総合棟 274)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	4 年	難易度	B	曜日・時限	木 3・4
キーワード	景観、出会いの集合、ガーデニング、森林整備、無主・無縁、物象化批判				
授業の目標	人間の自然との関わりの総体史としての造園史の概略の習得。 次世代的な自然-人間関係論の伝達・習得。 ガーデニング、森作りを事例とした、自然の親しみかたの伝達。				
学習内容	造園学の対象領域、造園空間（自然生活空間）の史的変遷とその背景にある思潮・思想史との関連、造園学の現況や今後の造園学の課題・方法について概説する。また、実際の自然生活空間作りの事例として、ガーデニングと森林景観の造成・整備問題を取り上げ、基礎、実践の両面から、いくつかの話題を提供する。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (B)、(D) に対応する。				
授業計画	<p>Introduction</p> <p>現代における自然と人間、造園学とは? 「造園学」の対象領域</p> <p>I. 造園空間（自然生活空間）の史的変遷 自然生活空間（景観）としての造園空間、自然生活空間の原型（無主・無縁）、庭園・公園史、近代自然生活空間の成立と展開など</p> <p>II. 現代における自然生活空間と造園学の課題と方法 現代における自然生活空間（自然景観）のレベル（個人・趣味のレベルから地球レベルまで）ごとの特徴、課題など。方法論の検討（特に、既存の風景論、自然-人間関係論、環境倫理学、廣松哲学とドゥルーズの生命哲学・倫理学の検討）に基づくランドスケープ学の体系化。</p> <p>III. 趣味の造園学—ガーデニング入門 ガーデニングブームを探る、私のガーデニング、庭造りと栽培・鑑賞法など。</p> <p>IV. 森林景観の造成・整備—その理論と実践 「出会いの連続」としての森林景観、森林景観の生態学的・文化的基本構造、自然景観モデル 林の造成・整備など</p> <p>おわりに</p>				
受講要件					
テキスト	特になし。プリント配布				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	3 年次後期に開講されている「森林学」は本講義と密接に関わりあっており、予習的意味を持つ講義である。特に、「森林学」において展開される、自然の総体を「景観(landscape)」として把握する考え方の習得は、「造園学」習得の基礎となる。				
成績評価の方法・基準	履修態度 (30%) とレポート (70%)。履修態度は出席率と授業への積極的参加度合いにより評価。レポートは、講義内容の理解度、授業目標の達成度によって評価する。成績評価は、これらを総合し、「秀」は 90%、「優」は 80%、「良」は 70%、「可」は 60%以上とする。				
オフィスアワー	木、金の昼休み。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	材料力学				
担当教員名	安村 基 YASUMURA Motoi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 426 (移転後：農学総合棟 332)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	—
キーワード	応力、ひずみ、弾性体、はり、たわみ				
授業の目標	弾性体に作用する応力と変形の関係を理解することを目標とする。				
学習内容	木造建築の構造設計、木質材料の評価などの基礎となる、力のつりあい、弾性体の応力と変形について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 材料力学の歴史 2. 環境問題と力学 3. 応力とひずみ (1) 4. 応力とひずみ (2) 5. 軸力を受ける棒 (1) 6. 軸力を受ける棒 (2) 7. 曲げを受けるはり (1) 8. 曲げを受けるはり (2) 9. 断面の性質と材料の特性 10. 応力とたわみ (1) 11. 応力とたわみ (2) 12. 応力とたわみ (3) 13. トラスの解法 14. 柱の座屈 15. 材料力学の応用 				
受講要件	木質機能科学、3年後学期の「住環境構造学」との関連が深い。				
テキスト	裳華房「基礎演習シリーズ・材料力学」				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	材料力学は、毎回の講義内容の積み重ねなので、過去の講義内容をしっかりと理解しないと、新しい内容が理解できない。				
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果による。 成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	昼休み、農学部A426室。メール (afmyasu@agr.shizuoka.ac.jp) で連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	積極的に質問してください。				

授業科目名	食料経済学				
担当教員名	柴垣 裕司 SHIBAGAKI Hiroshi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 326(移転後：農学総合棟 522)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 1・2
キーワード	フードシステム、食の需給、食料政策、食料問題				
授業の目標	学生が経済学の理論を習得し、毎日口にする食料の経済的性質とそれらがもたらす経済的諸問題についての理解を深めることを目指す。				
学習内容	我々が毎日口にしてしている「食料」が、どのように生産され、どのようにして食卓にのぼってくるのかについて、各段階の問題点を交えながら講義する。また、「食料」の持つ様々な経済的性質が、その需要と供給の両面に及ぼす様々な影響について言及するとともに、世界や日本における「食料」に関する諸問題について改めて考えてもらうよう問題提起を行う。				
授業計画	1 : ガイダンス、フードシステムの概要 2 : 食生活の変遷と特徴 3・4 : 食の需給 5・6 : 食生活の外部化 7・8 : 農畜水産物の生産 9・10 : 食品製造業・農産加工 11・12 : 食品の流通 13 : 世界の食料問題 14・15 : 我が国の食料政策と食料問題 16 : 期末試験				
受講要件	特になし。				
テキスト	なし。プリントを配布する。				
参考書	高橋正郎『フードシステム学全集』農林統計協会				
予習・復習について	学問の性格上、講義内容が広範囲にわたるので、特に復習をしっかりと講義内容を理解すること。				
成績評価の方法・基準	期末試験（100％）で評価する。 評価基準として、期末試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	相談事のある方は、事前にメールで当方の都合を聞いて下さい。				
担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学の理論を援用して食料の経済的側面について講義しますが、経済活動を説明する理論に関心を持って下さい。経済学の理論は社会に出てからはもちろん、皆さんの現在の生活にも応用可能な理論です。 ・経済学には興味がないという人がいますが、経済と無関係の技術はあり得ません。技術者（研究者）を目指す人も技術が経済や社会に与える影響について考えてください。 				

授業科目名	植物栄養学				
担当教員名	森田 明雄 MORITA Akio		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 704 (移転後：農学総合棟 530)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3 年	難易度	B	曜日・時限	金 1・2
キーワード	必須元素、有用元素、肥料、環境				
授業の目標	人間生存にとって必要な食糧、資源、環境や植物バイオテクノロジーの基本となる植物の栄養の営みを理解することを目標とする。				
学習内容	植物における必須元素等の吸収、同化、代謝とそれらの制御について述べる。さらに、肥料の種類、性質、施肥の原理、肥料の施与法、栄養診断等についても講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 植物科学と植物栄養学 2. 窒素の代謝 I 3. 窒素の代謝 II 4. 多量必須元素 I 5. 多量必須元素 II 6. 多量必須元素 III 7. 微量必須元素 I 8. 微量必須元素 II 9. 植物の生育に関連深い元素 10. 肥料の種類と選択 I 11. 肥料の種類と選択 II 12. 施肥の原理と施与法 13. 植物の栄養診断 14. 環境、農業および肥料 I 15. 環境、農業および肥料 II 				
受講要件	本科目は「植物生理学」より引き継いで講義する。両科目を履修することで本学問分野を把握、理解できる。				
テキスト	特に使用しない。 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	「植物栄養・肥料学」山崎耕宇ら編（朝倉書店） 「現代植物生理学（全 5 巻）」宮地ら編（朝倉書店） 「植物生化学」金井龍二訳（シュプリンガー・フェアラーク東京）				
予習・復習について	専門用語等復習し、理解すること。				
成績評価の方法・基準	期末筆記試験で評価する。 評価基準は、科目の目標に沿って、特に筆記試験は講義内容の理解度をみる。				
オフィスアワー	授業終了後教室にて				

担当教員からのメッセージ	小テストは毎回授業開始時に行います。
--------------	--------------------

授業科目名	生物有機化学 1				
担当教員名	轟 泰司 TODOROKI Yasushi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 702(移転後：農学総合棟 682)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	分子軌道法、反応の遷移状態、求核置換反応、脱離反応、付加反応、立体化学				
授業の目標	有機化学概論で学んだ内容を基礎として、有機化学反応の仕組みを電子論的に解説し、多様な化学反応が統一された理論に基づいて整然と起こっていることを理解させる。				
学習内容	有機化学反応の基礎となる反応各論とその反応機構の考え方、生物現象との関連など。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス，電子構造と結合・酸と塩基 1 2. 電子構造と結合・酸と塩基 2 3. 有機化合物の基礎：命名法，物理的性質，および構造の表示法 4. 求電子付加反応，立体化学，および電子の非局在化 5. アルケンの反応 6. 立体化学：原子の空間配置：付加反応の立体化学 1 7. アルキンの反応：多段階合成の基礎 8. 非局在化電子と安定性，反応性，および pKa に及ぼすその効果・より詳しい分子軌道理論 9. ハロゲン化アルキルの置換反応 1 10. ハロゲン化アルキルの置換反応 2 11. ハロゲン化アルキルの脱離反応・置換反応と脱離反応の競争 1 12. ハロゲン化アルキルの脱離反応・置換反応と脱離反応の競争 2 13. アルコール，アミン，エーテル，エポキシド，および含硫黄化合物・有機金属化合物の反応 14. ラジカル・アルカンの反応 15. NMR 分光法 				
受講要件	化学概論 A, B, 有機化学概論を基礎としている。また生物有機化学 2 に引き継がれるのでここで学ぶことがらを確実に身につける必要がある。				
テキスト	ブルース有機化学第 5 版 上 (化学同人), ブルース有機化学問題の解き方第 5 版 (化学同人)				
参考書	生物有機化学がわかる講義 (清田洋正著, 講談社)				
予習・復習について	授業中に課す小テストに沿った内容の宿題を必ず課すので復習が必須である。				
成績評価の方法・基準	定期試験 (70 %) および講義中に実施する小テスト (30 %)				
オフィスアワー	授業終了時、事前にメール等で連絡があれば時間を調整する。				
担当教員からのメッセージ	反応機構を書きながら考えること。手を動かすことが大切。				

授業科目名	樹木生化学				
担当教員名	西田 友昭 NISHIDA Tomoaki		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 531 (移転後：農学総合棟 326)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2 年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、生合成、生分解				
授業の目標	樹木および森林微生物（木材腐朽菌）の生化学的機能を理解し、主体的関心を持つことを目指す。				
学習内容	樹木主要成分であるセルロース、ヘミセルロースおよびリグニンの生合成と生分解機構について講述し、これらの機構を解明することでどのような工業的応用が期待されているのかについて概説する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. バイオテクノロジーと森林資源、樹木成分の種類、含有量、化学構造 2. 樹木成分の生理的役割、光合成(1) 3. 光合成(2) 4. セルロースおよびヘミセルロースの生合成(1) 5. セルロースおよびヘミセルロースの生合成(2) 6. リグニンの生合成(1) 7. リグニンの生合成(2) 8. まとめ（樹木成分の生合成） 9. セルロースおよびヘミセルロースの生分解(1) 10. セルロースおよびヘミセルロースの生分解(2) 11. リグニンの生分解(1) 12. リグニンの生分解(2) 13. リグニンの生分解(3) 14. リグニン生分解と工業的応用 15. まとめ（樹木成分の生分解） 16. 筆記試験 				
受講要件	2 年生後学期の「樹木成分化学」、3 年生前学期の「木質利用化学」と関連する。				
テキスト	なし 必要な資料は印刷して配布する。				
参考書	木質の化学（日本木材学会編、文永堂出版株式会社、2010、ISBN 978-4-8300-4118-1）				
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・履修態度（20%）と筆記試験（80%）の合計で評価する。 ・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。 ・成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。 				
オフィスアワー	農学総合棟 326 室で随時受け付ける。				

担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。
--------------	---------------------------

授業科目名	一般昆虫学				
担当教員名	田上 陽介 TAGAMI Yosuke		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 334(移転後：農学総合棟 475)	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	金 3・4
キーワード	昆虫、分類、形態、発生、生理、生態、遺伝				
授業の目標	昆虫は、人にはない驚くべき能力を秘めています。その一端に触れてもらい、一般生物学では学べない「昆虫学」に慣れ親しんで頂く授業にします。				
学習内容	昆虫とはどのような生き物であるかを理解してもらうため、その特徴（起源、分類、形態、生理など）を詳しく解説します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昆虫の起源 2. 昆虫の分類 3. 昆虫の形態 I 4. 昆虫の形態 II 5. 昆虫の発生 I 6. 昆虫の発生 II 7. 昆虫の生態 I 8. 昆虫の生態 II 9. 昆虫の生態 III 10. 昆虫の生理 I 11. 昆虫の生理 II 12. 昆虫の遺伝 I 13. 昆虫の遺伝 II 14. 昆虫の内部共生 15. 環境保全と昆虫 				
受講要件	2年後期の「応用昆虫学」に向けての予備知識の習得を目指しています。				
テキスト	「最新応用昆虫学」（朝倉書店）を予習、復習に活用して下さい。 必要に応じて資料を配布します。				
参考書	「応用昆虫学の基礎」（朝倉書店）				
予習・復習について	適宜テキストや配付資料を用いて、予習・復習を行ってください。				
成績評価の方法・基準	筆記試験と出席回数で評価します。				
オフィスアワー	昼休み等に応用昆虫学研究室やA334に直接来るか、電話やE-mailで連絡してください。				
担当教員からのメッセージ	私たちの身のまわりにはたくさんの昆虫がいます。よく観察すると、それら昆虫の興味深い暮らしぶりが見えてきます。				

授業科目名	樹木・組織学				
担当教員名	水永 博己 MIZUNAGA Hiromi		所属等	農学研究科	
			研究室	農学部 A 棟 612 (移転後：農学総合棟 282)	
分担教員名	小島 陽一				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	金 5・6
キーワード	針葉樹、広葉樹、形態、分布、生態、材の形成、細胞、構造				
授業の目標	森林群落を構成する主要な樹木に関して、形態学・生態学的特徴および分布について解説する。また木材の組織学・解剖学的見地から、樹木の成長・細胞構成、細胞壁の微細構造等を中心に講義する。樹木の形態・生態および成長・組織に関する基礎的な事項を理解することを目標とする。				
学習内容	森林群落を構成する主要な樹木に関して、形態学・生態学的特徴および分布について学ぶ。木材の組織学・解剖学的見地から、樹木の成長・細胞構成、細胞壁の微細構造等について学ぶ。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標(D)に対応する。				
授業計画	<p>1. 木材組織学 (8 回) 木材の組織学・解剖学的見地から樹木の生長・細胞構成、さらには細胞壁微細構造について学ぶ。 樹木の成長と樹幹の形成 (2 回) 針葉樹の細胞構成 (1 回) 広葉樹の細胞構成 (2 回) 木材のマクロ構造と細胞壁の微細構造 (1 回) 木材の欠点と材質 (1 回) 筆記試験 (1 回)</p> <p>2. 樹木学 (8 回) 樹木の同定方法や生活史あるいは森林植生の分布について学ぶ。陸域自然生態系の環境を学習するための基礎となる知識を身につける。 1: 樹木的生活戦略 針葉樹 V S 広葉樹 常緑樹 V S 落葉樹 2: 多様な森林植生タイプと分布 3: 樹木の検索技術の基礎 4-6: 身近な樹木の同定 (野外講義) 7-8: 樹木紹介のプレゼンテーション</p>				
受講要件	「造林学」・「森林生態学」・「木質機能科学」等の講義、「樹木学実習」等の実習、「環境木質材料学実験」等の実験を受講することが望ましい。				
テキスト	尼川・長田著 「検索入門 樹木 (総合版)」 (保育社) 古野・澤辺 編「木材科学講座 2 組織と材質」 (海青社)				
参考書	「日本の野生植物 木本 (フィールド版)」 (平凡社) 矢頭 著「樹木学」 (朝倉書店), 島地・伊東 著「図説 木材組織」 (地球社), 島地・須藤・原田 著「木材の組織」 (森北出版)				
予習・復習について	樹木それぞれの特徴は実物を見なければわからない。身近な野山など自然フィールドや緑地公園に積極的に足を運び、樹木と触れ合う時間を積極的に設けること。復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。				
成績評価の方法・基準	プレゼンテーション・レポート・中間テスト・学期末試験の結果を総合して評価する。成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。筆記試験は講義内容の基礎的事項に関する理解度をみる。				
オフィスアワー	随時・但し事前にメール等で連絡すること (水永) 毎週木曜日の昼休み・農学部総合棟 321 室 (小島)				
担当教員からのメッセージ	野外講義を行います。正規の講義時間に振り替えて休日 (5 月上中旬) に野外講義をおこないます。また樹木の解説の学生発表を行います。受講生全員に能動的な学習を求めます。樹木学および木材組織学の両者を総合して成績評価します。				

授業科目名	ドイツ言語文化基礎演習 I				
担当教員名	大藪 正彦		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 3・4
キーワード	ドイツ語、コミュニケーション、ドイツ文化、多文化理解				
授業の目標	読む・書く・聞く・話すという 4 技能のバランスに配慮して、ドイツ語の運用能力（中級程度）を伸ばすことが目的です。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。				
学習内容	前期と後期で異なる教科書を用います。前期は 1 年次の復習も行いつつ、特に初級で詳しく取り上げられないことのある文法事項に焦点を当て、詳しく学んでいきます。後期はドイツ語文法を一通り終えた学習者を対象とした教材を用います。発音、表現、語彙、聞き取りなどを段階的に学習し、さらにドイツ人の価値観、生活観を取り上げ、理解を深めていきます。				
授業計画	<p>前期は文法テーマに沿って学習していきますが、後期は文化的なテーマにも目を向けます。</p> <p>前期の文法テーマ（例）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去形と現在完了形 2. 副文 3. 関係文 4. zu 不定詞句 5. 受動態 6. 接続法 <p>後期の文化的テーマ（例）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中の生徒 2. ドイツの女性 3. 答案の記載 4. ドイツの広告 5. 話の途中の質問 6. 結婚制度 				
受講要件					
テキスト	<p>前期：大藪正彦・Roland Schulz 『CD 付き ドイツ語ネクスト・ステージ』三修社（2,200 円＋税）</p> <p>後期：大谷弘道 『CD 付き ドイツ人の生活を知る 11 章』三修社（2,500 円＋税）</p>				
参考書	独和辞典は必携です。その他授業中に適宜紹介します。				
予習・復習について	授業 1 回あたり、2-3 時間程度の授業外学習が前提です。				
成績評価の方法・基準	授業時の取り組みおよび筆記試験により総合的に評価します。各学期において、正当な理由なく 3 分の 1 以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。				
オフィスアワー	月曜日の昼休み				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	民法総論				
担当教員名	藤巻 梓		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	通年		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	民法、民法総論、民法総則				
授業の目標	<p>私たちが社会生活を送るうえで最も基本的な法律である「民法」の意義と、その社会的機能を考える。私法の一般法と呼ばれる民法を学ぶことは、法律学の重要な基礎となるものであり、他の法律を学ぶにおいても重要な意義を有する。この講義では、民法の体系を把握したうえで、その基本的な考え方を身に付けてもらいたい。民法総則という領域は、抽象的な規定も多く、難易度も高いので、講義では、判例や具体例を用いながらできるだけ平易に解説をすることを心がけたい。</p>				
学習内容	民法の全体像を把握したうえで、民法全体を規律する総則について学修する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 民法の意義と基本原理 2. 民法の全体像（1） 3. 民法の全体像（2） 4. 権利能力、意思能力 5. 未成年者 6. 成年後見制度 7. 意思表示 8. 心裡留保 9. 虚偽表示（1） 10. 虚偽表示（2） 11. 錯誤（1） 12. 錯誤（2） 13. 詐欺と強迫 14. 法律行為の有効要件（90条・91条） 15. 消費者契約法 16. 無効と取消し 17. 条件と期限 18. 代理総論 19. 無権代理 20. 表見代理（1） 21. 表見代理（2） 22. 法人総論 				

	<p>23. 法人の内部関係</p> <p>24. 法人の外部関係</p> <p>25. 法人以外の団体</p> <p>26. 時効総論</p> <p>27. 消滅時効</p> <p>28. 取得時効</p> <p>29. 信義則と権利濫用</p> <p>30. 民法改正をめぐる新たな動向</p>
受講要件	平成16年度以前入学生が本授業を履修した場合には、「契約法」に読み替える。平成22年度以前入学生が本授業を履修した場合には、「契約法総論・不法行為法」に読み替える。
テキスト	初回講義時に指示する。
参考書	田山輝明『民法総則（第三版）』（成文堂）、佐久間毅『民法の基礎Ⅰ総則（第3版）』（有斐閣）、池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）等。詳細は講義時に指示する。
予習・復習について	講義内容が広範囲にわたり、かつ初学者には理解が容易ではない分野も多いので、講義の内容については、必ず毎回予習・復習をすること。
成績評価の方法・基準	学期末の試験期間内に実施する試験で評価する。その他、講義期間内に小テストを実施する予定であるが、詳細は講義の際に適宜指示する。
オフィスアワー	初回講義時に指定する。
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 教科書は必ず購入すること。また、「六法」については、いずれの出版社でもよいが、最新のものを購入し、授業時には必ず毎回持参すること。講義に際しては、シラバスに示した進行計画を適宜変更することがある。

授業科目名	生命科学				
担当教員名	杉浦 敏文		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード	生理、解剖、生体、医療機器				
授業の目標	<p>“人間とは何か”という、古来より哲人達はその答えを求め続けてきた命題は依然として我々の眼前に屹立している。「考える」ためには“身体”が必要であるが、身体内部の調整はホルモンと神経で行われており、その指示を出しているのは“脳”である。脳からの指令によって身体状態は良くも悪くもなる。一方で脳自体は脳以外の全ての臓器の働きによって支えられており、それらの状態が脳の働きを左右する。また、それら臓器の設計図は遺伝子のコードの中にある。持ちつ持たれつ、である。脳の中で我々の情動、感情、意識及び意志が作られるのであれば、それらを理解するには脳を支えている身体を理解することが大切になる。本講義は身体の働きを知ることを通して生き方を学び、学生諸君が単なる知識人ではなく真の教養人となるきっかけとなることを目標にしている。</p>				
学習内容	<p>生理学 身体各部の構造と働きを解説する。 骨格系、筋肉系、消化器系、呼吸器系、循環器系、神経系等。 随時ビデオ教材を使用する。 時間次第だが、遺伝子にも適宜言及する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（授業の目標，内容の解説，成績評価法の説明，注意事項など） 2. 骨格系と筋肉系 3. 神経系Ⅰ ニューロンとシナプス，自律神経 4. 神経系Ⅱ 自律神経，中枢神経 5. 神経系Ⅲ 中枢神経（ビデオ） 6. 心臓Ⅰ 構造と働き 7. 心臓Ⅱ 電気伝導他 8. 呼吸Ⅰ 構造と働き 9. 呼吸Ⅱ 血液ガス交換他 10. 消化器Ⅰ 消化器全般，胃，十二指腸 11. 消化器Ⅱ 膵臓（ビデオ） 				

	<p>12. 消化器Ⅲ</p> <p>肝臓他</p> <p>13. 消化器Ⅳ</p> <p>小腸, 大腸, 直腸, 肛門</p> <p>14. 血液と免疫</p> <p>15. 胎児の世界</p>
受講要件	身体に興味のある人、生き方に関心のある人
テキスト	プリントを用意する。
参考書	人体生理学ノート（真島英信著、松村幹郎改訂、金芳堂）、標準生理学（豊田順一監修、医学書院）、図書館にもさまざまな書籍を用意してあるのでそれらも併せて参考にして欲しい。
予習・復習について	身体に関して興味のあることを予め考えて疑問点を整理しておき、できる限り授業中に質問すること。講義をよく聴き、その日のポイントをプリントをもとにしっかり復習しておくが良い。
成績評価の方法・基準	70%以上の出席者に対して試験を行い、60点以上を合格とする。
オフィスアワー	毎週月曜日午後4時～5時半
担当教員からのメッセージ	毎回出席し、よく聴き、よく訊き、納得しながら最後まで聴講して欲しい。自分の頭で考えて、分からないことは質問して欲しい。

授業科目名	化学の世界				
担当教員名	梅本 宏信		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード	基礎工学、自然科学、環境科学、科学哲学				
授業の目標	担当者が専門とする「化学」は、基礎工学という実学としての側面と自然哲学という純粋科学としての側面をもっている。本講義では、この両方の側面から「化学(科学)」について考えていきたい。また、特に、地球環境を例にとり、現代化学(科学)の果たすべき役割について考える。				
学習内容	銅、鉄、水銀といった身近な物質の化学から始め、「地球温暖化対策」などの複合科学である環境科学まで、具体的な事例をその背後に存在する哲学を交えて講義する。同時に、我々の実生活に欠かせない「化学(科学)の知識」、「科学的ものの考え方」を身に着ける。なお、本講義では、一部を除き、数式の使用は避ける方針であるが、化学式は使用する。				
授業計画	<p>以下に授業内容を掲げる。具体的内容は、受講生の希望によって、変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明、基礎工学としての化学と純粋科学としての化学 2. 銅と酸化還元(10円玉とブロンズ像の化学) 3. 鉄と磁性(磁石は日本のお家芸) 4. 水銀と環境問題(科学進歩の立役者との惜別) 5. 環境問題パート2(公害問題から環境問題へ) 6. エネルギーに関する基本法則 7. エネルギー資源1(化石燃料) 8. エネルギー資源2(核エネルギー) 9. 新エネルギー1(太陽光発電) 10. 新エネルギー2(燃料電池) 11. 地球環境問題1(地球大気の変遷、酸性雨) 12. 地球環境問題2(温暖化) 13. 地球環境問題3(オゾン層の破壊とフロン) 14. みえるものとみえないもの(走査型トンネル顕微鏡からみえてくるもの、みえないものは存在しないか?) 15. 科学と似非科学(カール・セーガンの遺書) 				
受講要件	特に定めないが、本講義では、自ら考え、発言することを求める。				
テキスト	なし				
参考書	<p>芝哲夫「化学物語25講」 化学同人 ISBN4-7598-0776-4</p> <p>今中利信、廣瀬良樹「環境・エネルギー・健康20講」 化学同人 ISBN4-7598-0849-3</p> <p>カール・セーガン「カール・セーガン 科学と悪霊を語る」 新潮社 ISBN4-10-519203-5</p>				
予習・復習について	随時、レポートの課題を示すので、それを期限内に提出すること。				
成績評価の方法・基準	レポート50%、期末試験50%。期末試験は、ノート、参考書持込可で行い、論述式とする。学習度が60%を満たしている者を合格とする。				
オフィスアワー	事前にメールで予約してください。				
担当教員からのメッセージ	哲学はすべての学問の基本である。工学も化学も例外ではないことを認識して欲しい。				

授業科目名	経済と社会				
担当教員名	高口 鉄平		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火1・2
キーワード	経済問題、さまざまな政策、経済学				
授業の目標	日々、経済に関するさまざまな政策が立案、施行されている。それらの政策はどういう考えに基づいて立案されているのか。それらの政策はほんとうに望ましいのか。この授業では、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、日々目にする政策に対して自分なりの検討ができるようになることを目指す。				
学習内容	経済学と一口に言っても、考え方を異にするさまざまな経済学が存在する。また、歴史的に見ると、これまで支持される経済学は変わってきた。この授業では、現在中心的な存在となっているミクロ経済学・マクロ経済学を中心にその考え方を解説するが、その他の経済学についても可能な限り取り上げる。特定の経済学を深く学ぶよりも、さまざまな経済学を幅広く知ることができるような内容とする。また、理論的な解説に終始することなく、時事問題を取り上げ、経済学が現実の問題を考えるうえで一定の有効性があることを実感できるような内容とする。				
授業計画	<p>授業の構成はつぎのとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（1回） ・経済学とはなんだろうか（1回） ・ミクロ経済学の考え方（4回） ・マクロ経済学の考え方（4回） ・新たな経済学①：組織の経済学（3回） ・新たな経済学②：行動経済学、実験経済学（1回） ・経済学に対する批判（1回） <p>回数の割り当ては、授業の進行により適宜調整する。</p>				
受講要件	とくになし。				
テキスト	授業中に指示する。				
参考書	授業中に指示する。				
予習・復習について	毎回、復習および授業内容に対する自分なりの検討を行うことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	数回実施するレポートにより評価する。				
オフィスアワー	随時対応しますが、事前にアポイントメントをとってください。				
担当教員からのメッセージ	関心の中心は他にあるかと思いますが、経済にも興味を持ってくれることを期待しています。				

授業科目名	現代の社会				
担当教員名	藤井 史朗		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	水 1・2
キーワード	現代社会、歴史、産業、社会学、社会システム、情報、メディア、共同、コミュニケーション				
授業の目標	主に現代日本社会を念頭において、現代社会の歴史的成り立ちと基本構造、世界の中での現代日本社会について、社会学的視点から全体連関を明らかにさせつつ描写したい。				
学習内容	現代社会の構造理解に連なる形で、人類史上のトピックについて、相互連関を含めて理解する。また現代日本社会の基本的問題について、歴史経過と世界社会のインパクトとの関係で理解する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会を捉える基本的視点と論点。講義の全体概要。ヒト社会の特徴。 2. 現代社会の歴史的背景①—人類初期の共同社会と相互抗争・戦争。奴隷制の成立。古代アジア社会の特徴。 3. 現代社会の歴史的背景②—西洋奴隷制社会の崩壊と封建制社会の成立。中国の宋王朝の特質。 4. 現代社会の歴史的背景③—西洋資本制社会の成立と植民地拡張の軌跡。 5. 現代社会の歴史的背景④—二度の世界大戦と日本。 6. 現代社会の歴史的背景⑤—冷戦体制と戦後日本社会の特徴。 7. 現代社会の歴史的背景⑥—冷戦体制の崩壊とグローバリゼーション下の日本社会。9.11 事件の意味。 8. 現代社会の歴史的背景⑦—21 世紀の世界動向と日本社会の基本的問題。 9. 現代日本社会の基礎構造①—「日本的経営」の解体と日本企業の展開。 10. 現代日本社会の基礎構造②—ICT の発展と情報産業の展開。 11. 現代日本社会の基礎構造③—現代の情報職業 12. 現代日本社会の基礎構造④—ワーキング・プア問題。 13. 現代日本社会の基礎構造⑤—学校社会と「いじめ」問題。 14. 現代日本社会の基礎構造⑥—マス・メディアの問題。 15. 現代日本社会の基礎構造⑦—今後の日本社会を拓く課題と自己形成。 				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	講義中に紹介する。				
予習・復習について	指定した重要な文献については、できる限り独習してほしい。また、関心を持ったテーマについて、自ら調べ、考えることを期待する。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の最後に「質問票」を配り、記入してもらおう。その累積点と最終レポートによって評価する。				
オフィスアワー	原則として講義・ゼミ以外で研究室にいるときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ	本講義は、私がこれまで検討してきた大枠の世界観を再吟味・再構成する機会としても考えている。部分内容としては、情報学部における私の講義(情報学概論 I、情報職業論、現代社会システム論など)と重なるところもある。				

授業科目名	心理学				
担当教員名	坂井 敬子		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火 3・4
キーワード	心理学、心、社会、人間				
授業の目標	1. 人間を主な対象として、行動や認知の一般的メカニズムと多様性を知る。 2. 心理学の知識や考え方に基づいて、社会における様々な現象を考え、説明することができる。 3. 自らの生活への応用を積極的に考えようとする。				
学習内容	初回はガイダンス。 2回目から6回目までは社会心理学のトピックを紹介し、人が共同社会の中で生きることを考える。 7回目から11回目までは認知心理学や神経心理学等のトピックを紹介し、認知機能のメカニズムやそれを支える生体基盤について考える。 12回目から15回目までは発達心理学のトピックを紹介し、人の生涯のパターン／多様性について考える。				
授業計画	初回： ガイダンス：授業の概要・評価方法，授業「心理学」で何を目標として欲しいか 第2-6回： 社会で生きること ①対人認知：印象形成，ステレオタイプ etc. ②対人関係：説得，対人魅力，返報性 etc. ③自己：主我と客我，自尊心，自己高揚動機 etc. ④対人行動：援助行動，傍観者，攻撃行動 etc. ⑤社会的圧力：同調実験，服従実験，ホーソン効果 etc. 第7-11回： 認知のメカニズムと生体基盤 ①記憶：記銘・保持・想起，チャンク，文脈との関連 etc. ②行動の学習：条件づけ，観察学習 etc. ③脳・神経：右脳と左脳，ニューロン，神経伝達物質 etc. ④知覚：眼と脳，錯視，アフォーダンス etc. ⑤思考：推論，問題解決，意思決定 etc. 第12-15回： 生涯発達のパターンと多様性 ①発達の規定因：遺伝と環境，相互作用， etc. ②子どもの発達：言語発達，愛着発達 etc. ③青年の発達：思春期，アイデンティティ，学校 etc. ④大人の発達：職場，家族，高齢者 etc. ならびに総括。 ※上記授業計画は，授業の進行や理解度に応じて変更する場合がある。				
受講要件	特になし。				
テキスト	特にテキストは設けない。下記に，中間レポート用文献とその他を数件挙げるが，授業内でも随時紹介。				
参考書	【中間レポート用文献；1冊を選択】 ・永田良昭『心理学とは何なのか—人間を理解するために』（中央公論新社，2011年） ・市川伸一『考えることの科学—推論の認知心理学への招待』（中央公論新社，1997年） ・下條信輔『サブリミナル・インパクト—情動と潜在認知の現代』（筑摩書房，2008年） 【その他】 ・安達智子他『キャリア・コンストラクション ワークブック—不確かな時代を生き抜くためのキャリア心理学』（金子書房，2013年） ・山本睦他『ひとつ上をいく卒論・修論を書くための心理学理論ガイドブック』（ナカニシヤ出版，2011年）				
予習・復習について	【予習】早い段階から中間レポート用の文献を読み進め，心理学では何が探究の題材となるのか，自分の生活にどう応用できるのかを考えてほしい。 【復習】授業で紹介されたトピックを足掛かりに，紹介文献だけでなく，図書館や CiNii 等で調べた心理学文献から学んでほしい。				
成績評価の方法・基準	学期中間レポート（40%），学期末レポート（60%）。 ※上記の他に，エキストラポイントのための課題を設けることがある。 ※レポート提出は学務情報システムにて。提出メ切の予定は，中間レポートが第5-6週前後，期末レポートが期末試験期間終了2-3日後（それぞれ目安。詳細は後日連絡）。 ※規定回数以上の出席がないと単位は認められない。出席はコメントペーパーで報告。学籍番号や氏名を				

	<p>明瞭・正確に報告すること。</p> <p>※コメントペーパーの内容は採点の対象外。感想，意見，質問，要望などを自由に記述し，毎回授業後に提出のこと。次回の授業で一部をフィードバックする。</p>
オフィスアワー	<p>この授業の前後。授業前ならば講師控室(7号館 1F)、授業後なら教室で。</p> <p>研究室は静岡にあるので，上記以外の時にはメールで。アドレスは授業内で告知。</p>
担当教員からのメッセージ	<p>座学であるが，日々のコメントペーパーで，大いに質問・意見を表明して欲しい。</p>

授業科目名	ことばと表現				
担当教員名	森本 隆子		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火3・4
キーワード	近代、テキスト、アイデンティティ、恋愛、友情、家族、セクシュアリティ、ジェンダー				
授業の目標	<p>私たちが生きる<日本の近代>とは、どのような時空なのだろうか？</p> <p>文芸作品を機軸に、明治の文豪・夏目漱石から村上春樹やよしもとばなな、ジブリに至るまでが一貫して追究してきた恋愛・家族・アイデンティティ等の問題群について、様々な角度からの提起を試みたい。偉大なる人気作家たちは、規範に閉塞せず、逸脱を生きる。その変奏を大いに楽しみ、かつ議論したい。</p>				
学習内容	<p>人は生涯に、おおむね2つの家族を生きる、というのが、長く近代社会の約束事であった。</p> <p><血縁>によって結ばれた生家と、<愛>の絆によって育むもう1つの家族と。</p> <p>近代の文芸作品は、この2つの家族の過渡期を<青春(思春期)>と呼んで、恋愛、友情、性的成熟などの葛藤をヴィヴィッドに織り込んでゆく。</p> <p><幸福>の名の下に近代人が追究してきた夢と幻想をときほぐし、その先に見えてくるものを展望したい。</p> <p>「アイデンティティ」とは、何だったのだろうか？</p>				
授業計画	<p>第1回 青春、恋愛、そして友情… —— 「近代小説」の発生</p> <p>第2～6回 夏目漱石『こころ』 —— 2つのちやぶ台・恋愛結婚イデオロギーの登場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <私的空間>の発生 —— 純白の愛と性欲と ・ 男たちの絆 —— 三角形の欲望と帰結としての淋しい「明治の精神」 ・ 「心臓(ハート)の授受」と巡る血潮 —— 愛と友情の連続体 <p>第7、8回 「新しい女」の発生と男たち —— 夏目漱石 VS. 森?外</p> <p>第9、10回 <家族映画>を<読む> —— 「?」・テキストとしての映画</p> <p>第11、12回 村上春樹『ノルウェイの森』 —— 「まとも」であることの断念・社会からの逃走=闘争</p> <p>第13回 ジブリの批評性 —— 脱・漱石、脱・堀辰雄、あるいは男と国家の退場</p> <p>第14、15回 女性作家の時代 —— ばななの「夢のキッチン」と江国の「きらきら」& 「流しのした」</p>				
受講要件	特になし				
テキスト	夏目漱石『こころ』(ちくま文庫)、他は本文抜粋をコピーで。				
参考書	小森陽一『漱石を読みなおす』(ちくま新書)、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの?』(朝日文庫)、斎藤環『戦闘美少女の精神分析』(ちくま文庫)ほか。教室にて提示します。				
予習・復習について	対象作品を、まずは自力で読み込んでみましょう。自分流の読みや印象と、授業で提供されるアングルおよび友人たちのコメントとのズレや異和を知ることで、思考力はグンと伸びます。				
成績評価の方法・基準	毎時のコメント・カード+最終レポートの総和				
オフィスアワー	授業終了後にお声をおかけ下さい。				
担当教員からのメッセージ	高校までの「国語」で、みんながよく知っている「鑑賞」。ここでは、それを時代へ問いかけ、また時代の息吹を映し出す生き物としての「テキスト」へ開く刺激と楽しさを味わいましょう。				

授業科目名	日本国憲法				
担当教員名	原田 伸一郎		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火 3・4
キーワード	立憲主義、リベラル・デモクラシー、個人主義、人権、統治機構				
授業の目標	この講義は、日本国憲法の内容や、それにまつわる議論の紹介を通じて、日本国憲法の全体像を理解することと、およそ憲法とは何か、憲法がなぜ必要なのかを原理的に思考することをねらいとしています。到達目標は、憲法について、中学・高校での学習よりも理解を深めるとともに、新しい見方・パースペクティブをも獲得することです。				
学習内容	下記の予定で、ほぼテキストの構成に沿って授業を行います。テキストの内容を理解するのに必要な背景知識や、法学の基本用語・概念はその都度解説しますので、受講に当たって法学の予備知識は必要ありません。授業では、テキストの内容を踏まえたうえで、その問題意識や議論の争点を、より正確に、多面的に理解できるよう、さまざまな素材を提供します。それらを思考のヒントとして、憲法が個人の生き方とどう関わるのか、自分なりに考えていただきたいと思います。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. オリエンテーション／立憲主義 3. 表現の自由 4. 学問の自由／信教の自由と政教分離 5. 財産権／職業選択の自由 6. 人身の自由 7. 社会権 8. 参政権 9. 平等 10. 包括的基本権 11. 誰の権利を保障するのか 12. 代表民主政の原理 13. 代表民主政の機構 14. 平和主義／憲法の改正 15. ドキュメンタリー鑑賞 				
受講要件	特にありません。				
テキスト	長谷部恭男、『憲法入門』、羽鳥書店、2010、9784904702055、2200 円＋税				
参考書	授業時にその都度紹介します。				
予習・復習について	テキストの該当する部分を読んでください。1 回につき 10 ページ前後です。テキストを読んでから授業を受けるか、授業を受けてからテキストを読むか（あるいはその両方か）は自由です。				
成績評価の方法・基準	平常点 40%、学期末試験 60%とします。平常点は、毎回の授業で配布するコメントペーパーにより評価します。試験では、憲法に関する知識・理解度と、思考力・論述力の双方を評価します。				
オフィスアワー	メールで連絡していただければ随時対応します。				
担当教員からのメッセージ	この授業をきっかけとして、どうか自分なりの「憲法観」を築いてください。それが私の望みです。				

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅱ				
担当教員名	田中 柊子		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	火5・6
キーワード					
授業の目標	フランスへ旅行したときや、日本にいるフランス人と簡単なフランス語で会話するときに、すぐ使えるフランス語を身に付けましょう。				
学習内容	教科書に沿って、日常の様々なシーンで使えるフランス語会話を練習します。仏作文を書いたり、グループワークでフランス語を活用したりなど、授業ではなるべくフランス語に親しむようにします。フランスの文化や社会についても、お話しします。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Lecon 0 フランス語の基礎 2. Lecon 1 自己紹介をする 1 3. Lecon 1 自己紹介をする 2 4. Lecon 2 住んでいるところや出身地について話す 5. Lecon 3 交通手段について話す 6. Lecon 4 アルバイトについて話す 7. 復習 8. 小テスト 9. Lecon 5 ペットなどについて話す 10. Lecon 6 科目・先生について話す 11. Lecon 7 食べ物について話す 12. Lecon 8 家事について話す 13. Lecon 9 家族について話す 1 14. Lecon 9 家族について話す 2 15. 復習 				
受講要件					
テキスト	『Moi, je ... コミュニケーション』、Bruno Vannieuwenhuise など著、アルマ出版、2625 円(税込) ISBN 978-4-905343-03-5				
参考書	仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990 円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200 円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095 円、電子辞書など。				
予習・復習について	授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。				
成績評価の方法・基準	平常点（参加度・課題）30%、小テスト 30%、期末試験 40%				
オフィスアワー	前期 火曜 7・8 限 J 2707 研究室（情報学部 2 号館 7 階）				

担当教員からのメッセージ	この授業ではあまり細かいことは考えずに、フランス語の表現をそのまま、まるごと覚えてもらいます。フランスを旅行したときや、フランス人と出会ったときに「自然に」フランス語が出てくるようになりますね！
--------------	---

授業科目名	ことばと表現				
担当教員名	田中 柊子		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	水3・4
キーワード	幻想、妖精、SF、文学、物語、ファンタジー、怪奇、超自然、読者、受容				
授業の目標	妖精や魔法使いは怖くないのに、なぜ幽霊や吸血鬼は恐怖の対象となるのでしょうか。同じ非現実なものでも、怪物が得体の知れない「不気味なもの」であるのに対し、なぜロボットは謎めていないのでしょうか。「ことばの表現」がどのようにして読者に「幻想」として受容されるのか考えてみましょう。				
学習内容	幻想文学と呼ばれる文学ジャンルに注目し、読者がテキストから「幻想」を読み取るための形式上の条件や工夫を分析します。いくつかの幻想文学論をもとに幻想文学の定義や歴史に関する知識を得た上で、実際に「幻想文学」作品を読み解きます。文学におけるジャンルの問題、娯楽作品と本質的な文学作品を隔てる違いの問題なども取り上げます。				
授業計画	1. ガイダンス 2. 幻想文学について (1) 「幻想」の定義 3. 幻想文学について (2) 「幻想文学」というジャンル 4. 幻想文学について (3) 「幻想文学」の歴史 5. 作品分析 (1) E.T.A. ホフマン『砂男』など 6. 作品分析 (2) ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』など 7. 作品分析 (3) ブラム・ストーカー『ドラキュラ』など 8. 作品分析 (4) グスタフ・マイリンク『ゴーレム』など 9. 幻想文学と妖精物語 10. 幻想文学とSF 11. 幻想文学とファンタジー 12. 映画鑑賞 13. 幻想文学のアダプテーション (1) 14. 幻想文学のアダプテーション (2) 15. 日本における「幻想文学」の受容 谷崎潤一郎『人面疽』、泉鏡花『夜叉ヶ池』など				
受講要件	特になし				
テキスト	授業時にプリントを配布します。				
参考書	ジャン＝リュック・スタインメッツ著、中島さおり訳、『幻想文学』、文庫クセジュ・白水社、1993年 ISBN : 9784560057414、951円(税抜)				
予習・復習について	興味をもった作品をどんどん読んで、作品について人と話してみましょう。				
成績評価の方法・基準	平常点(毎回提出のコメントシート)40%、レポート60%				
オフィスアワー	前期火曜7・8限 J2707研究室(情報学部2号館7階)にて				

担当教員からのメッセージ	幻想文学は、数ある文学ジャンルの中でも特に強烈な感覚を読者に感じさせるジャンルです。みなさんが今まで読んだ本の中にも、幻想文学に属する作品があったかもしれません。幻想文学をもう少し知って、読書の楽しみを増やしてみませんか。
--------------	---

授業科目名	現代の社会				
担当教員名	中 正樹		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	水 3・4
キーワード	社会問題、現代社会、社会学				
授業の目標	私たちは社会について「知っている」つもりでいる。けれども、「それでは社会とは何か」と質問されたら、恐らくは返答に困るのではないだろうか。社会にはかたちがなく、実感することができない。私たちは個人的な経験とマスメディアから得た知識をもとに社会を想像しているに過ぎない。以上のような前提のもと、本授業においては「社会とは何か」の答えを探す学問である「社会学」を学ぶことを通して、現代の社会についての理解を深めることを目標とする。				
学習内容	社会学は日常化された「ものの見方」からではなく、新しい「ものの見方」から社会を理解することを試みる。授業では、そうした新しい「ものの見方」を紹介しつつ、社会学の基本的な知識と理論について社会のさまざまな領域における身近なトピックを通じて学んでいく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 社会学の視点 3. 意思決定と行為 4. 集団と規範 (1) 5. 集団と規範 (2) 6. 家族と結婚と性 7. 職業と就職 8. 都市と人間 9. 社会階層と社会移動 10. 権力と参加 11. 科学時代の宗教 12. スポーツの社会学 13. メディアと疑似現実 14. 高齢化と社会福祉 15. 国際化と日本 				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	友枝敏雄・山田真茂留『Do!ソシオロジー』(有斐閣アルマ、2007年) 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志『社会学』(有斐閣、2007年)				
予習・復習について	毎回の授業終了後、ノートを読み直しておくこと。				
成績評価の方法・基準	①期末試験の配点を70%、随時実施する小レポートの配点を30%とする。 ②期末試験は指定の持込用紙のみを持込可とする。複写、印刷物は認めない。 ※毎回出席を取るが成績には反映しない。十分な出席回数にも関わらず不可の場合、追加レポートを課す可能性がある。 ※出席にあたり、代返行為が認められた場合には厳しく対処する。				

オフィス アワー	金曜日 5・6 限 (12 時 45 分～14 時 15 分) を予定。
担当教員か らのメッセ ージ	

授業科目名	離散数学				
担当教員名	中谷 廣正	所属等	情報学研究科		
		研究室	J-1605		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	2年	難易度	A	曜日・時限	水5・6
キーワード	集合、関数、論理、関係、順序、グラフ、代数系				
授業の目標	集合・写像・論理・関係・グラフ理論・代数系などの概念を講義し、離散数学の考え方・証明法を教授する。集合論を理解した上で、その上に定義された概念を理解し、定義・定理・原理の抽象的表現から共通の性質を見いだす能力を養成する。これにより、情報の分析能力および論理的思考能力・理解力・表現力・問題解決能力の養成の基盤を形成することが本科目の目的である。情報科学専門家として問題を表現するときや解決法を表現するときに基本的な道具としてそれらを使えるようになることが目標である。				
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集合と論理 集合・集合の演算・要素の個数・命題・論理演算・論理式・証明 2. 関係と写像 関係・直積集合・関係の表現・同値関係・写像・置換・可付番集合 3. 代数系 代数系・交換律と結合律・単位元と逆元・半群・群・巡回群・対称群・環・体・多項式環 4. 順序集合と束 半順序と全順序・ハッセ図・上限と下限・束・ブール代数 5. グラフ グラフ・経路・いろいろなグラフ・平面的グラフ・オイラーグラフ 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論理計算 2. 離散集合 3. 写像 4. 剰余演算 5. 離散代数 6. 離散代数 7. (試験) 8. (復習) 9. 離散関係 10. 離散関係 11. 離散グラフ 12. 木グラフ 13. 順序の数学 14. (試験) 15. (復習) 				
受講要件					
テキスト	宮崎,新谷,中谷, 理工系のための離散数学, 東京図書, 2013.				
参考書	<p>小倉久和, はじめての離散数学, 近代科学社, 2011. ISBN978-4764910546</p> <p>石村園子, やさしく学べる離散数学, 共立出版株式会社, 2007. ISBN978-4-320-01845-4</p> <p>Seymour Lipschutz, マグロウヒル大学演習 離散数学, オーム社, 1995. ISBN4-274-13005-3</p> <p>M. A. アービブ他, 計算機科学入門, サイエンス社, 1984. ISBN 978-4-7819-0375-0</p>				
予習・復習について	復習: 学習項目に関して教科書にある問題を解くこと。				
成績評価の方法・基準	小試験・定期試験・報告書の成績を合計する。				
オフィスアワー	木金 12:30-13:30				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	工学基礎化学 I				
担当教員名	平川 和貴		所属等	工学研究科	
			研究室	共 503	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1 年	難易度	A	曜日・時限	木 1・2
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、先ず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に応用できる力を養う。				
授業計画	<p>以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ（8 回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 7 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 8 中間のまとめ 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体 				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」 植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館） ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人） ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人） ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員（植田、梅本、平川、宮林）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	エネルギーと環境				
担当教員名	大矢 恭久	所属等	理学研究科		
		研究室	理学部 A202		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	エネルギー、環境、放射線、原子力、放射線影響、地球温暖化				
授業の目標	エネルギー問題および環境問題の現状について理解すると共に、放射線や核エネルギーと人間との関わりについて科学的な教養を深める。				
学習内容	エネルギーと環境問題についてサイエンスの観点から理解するとともに、その解決法の一つである核エネルギー発電の原理および仕組み、核エネルギー発電の問題点を学ぶ。また、放射線の応用的利用についても言及する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスおよびエネルギー・環境問題(1) (大矢・近田) 2. エネルギー・環境問題(2) (近田) 3. 化石燃料とエネルギーセキュリティ (近田) 4. 核エネルギーの歴史 (大矢) 5. 原子力発電の仕組みと課題 (1) 原子炉 (中電：岡田) 6. 原子力発電の仕組みと課題 (2) 原子炉 (中電：岡田) 7. 原子力発電の仕組みと課題 (3) 放射性廃棄物 (中電：岡田) 8. 核融合炉発電の仕組みと開発の現状 (大矢) 9. 地球温暖化の科学 (大矢) 10. 温室効果ガス削減の取り組み (大矢) 11. 原子力エネルギー行政 (静岡県：神村) 12. 省エネルギー (大矢) 13. 放射線の測定 (矢永) 14. 放射線の生物影響 (矢永) 15. エネルギーと環境および社会との関わり (矢永) 				
受講要件	特になし				
テキスト	【基礎講座】エネルギーと地球環境				
参考書	原子力がひらく世紀 (日本原子力学会編)				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートおよび各教員が課すレポートにより評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	文理学生合同での講義のため、極力数式を用いない講義とする。エネルギー・環境問題に関する教養を深めることを主たる目標とする。				

授業科目名	異文化と出会う				
担当教員名	許山 秀樹		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-2805	
分担教員名	浜村 和明、堀内 裕晃、田中 柊子、森野 聡子、竹林 洋一、八柳 良次郎、鈴木 益子				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金3・4
キーワード	多言語、多文化、自言語、自文化、多文化共生社会、方言				
授業の目標	英語のみに偏らず、さまざまな言語と文化を知ること、グローバルな視野の獲得をめざすと同時に、地球社会の中にある日本語と日本文化に関する認識を深めます。				
学習内容	下記学習計画を参照。()内は担当教員名。				
授業計画	<p>【1】ガイダンス(許山)</p> <p>【2】英語圏1(浜村)[テーマ:米国の宗教と学問 内容:米国の宗教の歴史を概観して、宗教と学問の関係を探る。]</p> <p>【3】英語圏2(堀内)[テーマ:ことばと文化の比較対照 内容:英語と日本語の対照的特徴を手がかりに英語圏と日本語圏の文化的特徴を探る。]</p> <p>【4】アラビア語圏(竹林)[テーマ:コモンセンスの観点からの異文化理解の深化内容:映像を使ってサウジアラビアと日本の文化や考え方・価値観の違いについて検討します]</p> <p>【5】フランス語圏(田中柊子)[テーマ:アルザス地方の歴史と文化 内容:フランスとドイツの支配を交互に受けながら、独自色を培ってきたアルザス地方の歴史と文化を学ぶ。]</p> <p>【6】チェコ語圏(田中柊子)[テーマ:チェコ文化の平民主義的伝統 内容:18世紀末から19世紀前半にかけて起こったチェコ民族再生運動や、被支配者の歴史を背景とした独特の精神風土を学ぶ。]</p> <p>【7】ケルト語圏1(森野)[テーマ:ブリテン諸島の少数言語と少数民族 内容:ゲール語とウェールズ語をとりあげ、それら言語の成り立ち、歴史的・社会的背景を知る。]</p> <p>【8】ケルト語圏2(森野)[テーマ:多言語と多文化 内容:アイルランドとウェールズにおける二言語併用(英語と少数言語)の意味について考える。]</p> <p>【9】ポルトガル語圏1(鈴木)[テーマ:ポルトガル語の音節と基本文型 内容:挨拶などの簡単な表現からポルトガル語の基礎的な音の仕組みと文型を学ぶ。]</p> <p>【10】ポルトガル語圏2(鈴木)ポルトガル語圏2(鈴木)[テーマ:ブラジルの日系人歴史と役割 内容:伯国の概要、歴史、信頼高い日系人、移民の歴史的背景やその足跡をたどる。]</p> <p>【11】韓国語圏1(金)[テーマ:日本と朝鮮半島の交流史1 内容:交流の痕跡としてのモノから考える]</p> <p>【12】韓国語圏2(金)[テーマ:日本と朝鮮半島の交流史2 内容:海を介して繋がった人々について考える]</p> <p>【13】ドイツ語圏1(高岡)[テーマ:ドイツと日本 内容:日独の文化の差異を概観する]</p> <p>【14】ドイツ語圏2(高岡)[テーマ:ドイツと日本 内容:日独の文化の差異を概観する]</p> <p>【15】中国語圏(許山)[テーマ:異文化の受容 内容:日本人が漢詩をどのように受容したかを学ぶ。]</p>				
受講要件	とくになし。				
テキスト	とくになし。				
参考書	各担当教員の指示に従ってください。				
予習・復習について	ガイダンス時における注意事項に留意し、各担当教員の指示に従ってください。				
成績評価の方法・基準	各担当教員が授業時間内に10点満点でミニ・レポートを課す。担当する教員は全員で9名ですので、ミニ・レポート分が小計90点満点となります。これに期末レポート60点満点を加算し、合計150点満点を100点満点に換算し、最終評価とします。				
オフィスアワー	各担当教員にメールで問い合わせてください。				
担当教員からのメッセージ	特に許可された場合を除き、パソコン・携帯電話・その他、授業に関係ない物を授業中に使用しないこと。授業内容が多彩、多岐にわたるので、欠席せずにしっかり内容を理解してください。なお担当教員の事情により順番が入り替わる可能性があることを予めご了解ください。				

授業科目名	ことば				
担当教員名	近藤 真		所属等	情報学研究科	
			研究室	J-1313	
分担教員名	梶 博行、竹内 勇剛、田村 敏広				
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	B	曜日・時限	金 3・4
キーワード	コミュニケーション、言語学、自然言語処理、認知科学				
授業の目標	ことばは人間が生得的に備えている能力のひとつであり、すべての人々のあらゆる知的活動にことばが関わっていると言える。この講義では、私たちの日常生活に遍在することばにあらためて関心を向けることによって、ことばについての認識を深めることを目標とする。				
学習内容	授業では、ことばの本質についての理論的取り組み、情報技術的取り組み、コミュニケーションにおけることばの働きなどに焦点をあて、各講師が言語学、自然言語処理、認知科学といった視点から、ことばの諸側面について概説する。				
授業計画	<p>梶（自然言語処理）、竹内（認知科学）、田村（言語学）、近藤（言語学）、の4名が分担して講義を担当する。</p> <p>第1回： オリエンテーション 第2回・第3回： コミュニケーションにおけることばの役割とその特徴（近藤） 第4回・第6回： 言語のリズムについての情報科学的アプローチ（梶） 第7回・第9回： ことばの文法についての理論的アプローチ（近藤） 第10回・第12回： ことばの意味についての理論的アプローチ（田村） 第13回・第15回： ことばのコミュニケーションについての認知科学的アプローチ（竹内）</p> <p>※各講師の順序および担当回数は変更される場合がある。</p> <p>【各教員への連絡方法について】 各教員への連絡は、メールを利用すること。直接、話をしたい場合でも、まずメールでアポイントを取る こと。</p> <p>梶： kaji@inf.shizuoka.ac.jp 竹内： takeuchi@inf.shizuoka.ac.jp 田村： tamura@inf.shizuoka.ac.jp 近藤： mkondo@inf.shizuoka.ac.jp</p>				
受講要件	特になし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	各講師が必要に応じて、授業の中で関連する参考文献を紹介する。				
予習・復習について	各トピックの講義では、そのトピックに関する前回の講義内容を理解していることが前提となって講義が進められる。毎週の講義の後で必ず復習をして、各週の講義内容を、その週のうちに理解するよう努めること。				
成績評価の方法・基準	各トピックごとにレポートを課し、各レポートをそれぞれ20%とし、それらの合計点で評価する。 ※未提出のレポートがある場合には、提出されたレポートの合計点に関わらず、最終評価を「不可」とする。				
オフィスアワー	近藤のオフィスアワーは水曜 5・6 時限。各教員への連絡方法は授業計画欄を参照。				
担当教員からのメッセージ	普段、あたりまえのように使っていることばを見直すことが、みなさんの知的好奇心を刺激することを願っています。				

授業科目名	浜松市の交通を考える				
担当教員名	戸田 三津夫		所属等	工学研究科	
			研究室	C西406	
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	3年	難易度	A	曜日・時限	金3・4
キーワード	50年後の浜松を考える、静岡LRT構想、高齢ドライバー、コンパクトシティ、公共交通とモーダルシフト、中量輸送手段としてのLRT、歩行者？車いす？自転車、信用乗車と運輸連合、世界で活躍するLRT、魅力あるかがやく街とは				
授業の目標	これから出生数の減少により若年人口が減り、日本国民の年齢構成が変化することにより高齢化が進む。産業構造の変化、CO2削減圧力、石油枯渇など、日本と浜松市を取り巻く環境はこれから激変する。それを乗り越えるには何が必要だろうか。この講義では、政令指定都市となった浜松市が、行政の効率化と自動車に頼らなくても大丈夫な交通を実現するためにコンパクトシティと公共交通の拡充を目指さなければならないこと。そのための有効なツールとしてLRTや運輸連合があることなどを紹介する。受講生諸君にそれらを学んだのちに、講義の最終回までに自由な発想で今後の浜松や日本の未来を考え、活発に論じてもらうことを目標とする。				
学習内容	浜松を取り巻くさまざまな状況：産業や交通の歴史、技術、エネルギー、経済、環境に関する事柄を学ぶ。そのことから将来の浜松市を予測し、想定される問題点をいかに解決してゆくべきかを考え、交通を軸とした都市デザインを個々の受講者が自ら考え発表する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容とスケジュールの紹介（戸田） 2. 交通と文明、近代都市と交通が支える物流、経済と環境への影響（戸田） 3. 動力の歴史と交通（人力、風、家畜、エンジン、モータ）（松田） 4. 交通がもたらす災い：社会的費用：交通事故、環境被害（武田） 5. 日本と浜松の交通史（戸田） 6. 静岡市LRT構想（塩川） 7. 交通装置の主役たち：自動車とは、鉄道とは、航空機とは、船舶とはなにか（戸田） 8. 浜松市の現状と将来予測：高齢化、工場の移転、モータリゼーション、高齢ドライバー、中心市街地空洞化、大型ショッピングセンター乱立、交通事故政令市ワースト、財政の不安、浜松市の将来ビジョン（戸田） 9. 西遠都市圏の都市計画と交通：パーソントリップ調査をふまえて（浜松市交通政策課） 10. 交通と環境負荷（松田） 11. 世界で活躍するLRT：その機能と可能性（栗田） 12. 浜松型次世代交通システムの紹介（内田） 13. 浜松型交通のデザイン（河岡） 14. 浜松と日本の未来を語る1（受講生によるアイデア、プランの発表と討論1） 15. 浜松と日本の未来を語る2（受講生によるアイデア、プランの発表と討論2） 				
受講要件	浜松市の市政に関心のある学生の受講を望む。都市の運営や計画に関心のある人、地元公務員志望、鉄道だいすき人、自動車産業への就職希望者、自転車ツーガキスト、ツーキニスト歓迎します。				
テキスト	定めません。				
参考書	テーマが非常に多岐にわたるため、各自で探して下さい。必要に応じて紹介もします。大学図書館には交通や都市運営の関連書籍を用意しました。浜松市立城北図書館も利用して下さい。				
予習・復習について	日ごろから講義内容に関することに問題意識を持って生活して下さい。自転車交通、高齢者の交通事故、インフラの維持、第二東名、中央リニア、東海地震、富士山噴火、地方財政逼迫ほか。				

成績評価の方法・基準	期末試験はしませんが、随時小テストなどを行います。
オフィスアワー	特に定めません。メールしてから来て下さい。tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp
担当教員からのメッセージ	自動車など輸送機メーカーへの就職を希望している人、公務員となって都市政策にたずさわることが希望している人には役立つと思います。浜松市広報物（広報 はままつ、HP パブリックコメント情報など）、電車やバス・駅の広告、新聞記事、雑誌など情報に気を配っておいて下さい。

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅰ				
担当教員名	田中 柊子		所属等	情報学研究科	
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年	1年	難易度	A	曜日・時限	金 5・6
キーワード					
授業の目標	日常生活でよく使う簡単なフランス語を理解し、自分でも表現できるようにがんばりましょう。				
学習内容	教科書に沿ってフランス語文法を丁寧に学び、練習問題を繰り返し解くことで、フランス語の構造を理解し、フランス語独特の構文、表現に慣れます。授業ではたくさんフランス語を書き、声に出してフランス語を覚えます。フランスの文化や社会についても、お話しします。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Lecon 0 発音の基礎 発音とつづり 2. Lecon 1 動詞 être 「はいいいえ」で答える疑問文 3. Lecon 1 否定形 名詞の男性／女性 4. Lecon 2 第一群規則動詞（-er 動詞） 5. Lecon 3 疑問詞を使った疑問文 動詞 aller venir 6. Lecon 4 不定冠詞と定冠詞 第二群規則動詞（-ir 動詞） 7. 復習 8. 小テスト 9. Lecon 5 動詞 avoir 10. Lecon 6 直接目的語代名詞 形容詞 11. Lecon 7 部分冠詞 動詞 boire faire prendre 12. Lecon 8 人称代名詞の強勢形 所有形容詞 強調構文 13. Lecon 9 数字（1～6 9） 動詞 partir sortir dormir 14. 復習 15. 映画鑑賞 				
受講要件					
テキスト	『Moi, je ... コミュニケーション』、Bruno Vannieuwenhuise など著、アルマ出版、2625 円(税込) ISBN 978-4-905343-03-5				
参考書	<p>仏和辞書を必ず所持すること。ディコ仏和辞典（白水社）3990 円（税込）、プチ・ロワイヤル仏和辞典（旺文社）4200 円（税込）、クラウン仏和辞典（三省堂）4095 円、電子辞書など。</p> <p>フランス語をめきめき上達させたい人には教科書と同じシリーズの文法版の購入をおすすめします。</p> <p>『Moi, je...文法』 2625 円（税込）アルマ出版 ISBN 978-4-905343-02-8</p>				
予習・復習について	授業の前に学習する項目に目を通し、単語の意味を調べておくこと。授業後は学習内容を確認するとともに、練習問題で間違ったところを見直すこと。				
成績評価の方法・基準	平常点（参加度・課題）30%、小テスト 30%、期末試験 40%				

オフィス アワー	前期 火曜 7・8 限 J 2707 研究室 (情報学部 2 号館 7 階)
担当教員か らのメッセ ージ	お店やマンション、洋菓子の名前など、普段の生活の中でもフランス語があふれています。フランス語を勉強することで、いつもの風景が少し変わって見えてくるのではないのでしょうか。旅先でフランス語が使えたら、楽しさも倍増することでしょう。

授業科目名	電気電子材料				
担当教員名	喜多 隆介		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	月3・4
キーワード	導電体材料、超伝導体材料、半導体材料、抵抗体材料、誘電体絶縁体材料、磁性体材料、ICプロセス				
授業の目標	電気・電子機器に使われている様々な材料について、その基本的な物性を理解し、その具体的な応用について学習する。				
学習内容	現代社会には様々な電気・電子機器があふれており、これらは電気・磁気・光エネルギー等を様々な形で運用して動いている。それらを支えているのは様々な電気・電子材料である。本講義では、膨大な電気・電子材料を導電体材料、抵抗材料、半導体材料、磁性体材料、誘電体絶縁体材料に大きく分け、その機能と具体的な応用例について講義する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気電子材料の種類とその機能 2. 導電体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・金属中の電気伝導とバンド理論 ・金属導電体材料の特性（導線材料） ・特殊導電材料（接触子材料、ヒューズ材料等） ・超伝導体材料（超伝導現象、金属系超伝導材料、酸化物超伝導体） 3. 抵抗材料 <ul style="list-style-type: none"> ・電流による抵抗体の発熱機構 ・精密抵抗材料、電流調整用抵抗材料、電熱・照明用抵抗材料 ・特殊抵抗材料（サーミスタ、バリスタ、感ガス、感歪、感磁、感光抵抗材料） 4. 磁性体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・磁気モーメントと磁性、磁性体の種類 ・磁区と磁化、軟磁性材料と硬磁性材料 ・磁気記録材料 5. 誘電体絶縁体材料 <ul style="list-style-type: none"> ・誘電分極とその種類及びメカニズム、誘電分散 ・強誘電体材料の種類 ・圧電効果 ・焦電効果 ・絶縁体の電気伝導 6. その他の材料 <ul style="list-style-type: none"> ・ディスプレイ用材料 ・炭素材料 ・レーザ材料他 				
受講要件	固体物理の初歩について理解していることが望ましい				
テキスト	特になし。授業中に適宜プリントを配布する。				
参考書	一ノ瀬 昇 編著、電気電子機能材料、オーム社 キッテル著、固体物理入門、丸善				
予習・復習について	授業の十分な理解のために、授業中指示された予習・復習を必ず行うこと。理解度の確認のため授業中適宜演習を行い、レポート提出を課す。				
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、電気電子材料における基本的な理解がなされたかどうか評価する。評価の配分は、試験 80%、演習・レポート 20%である。評価点が 60 点以上である場合を合格とする。				
オフィスアワー	あらかじめメールでアポイントを取ってから来て下さい。terkita@ipc.				
担当教員からのメッセージ	身の回りの電気電子関係の機器に、どのような電気電子材料が利用されているのか、関心をもって調べてみることを薦めます。				

授業科目名	塑性加工学				
担当教員名	早川 邦夫		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	火5・6
キーワード	塑性力学、圧延、曲げ加工、鍛造、板成形				
授業の目標	材料の塑性変形能を利用した各種加工法についてまた、その基礎となる塑性力学について理解する。				
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・塑性力学の基礎 ・圧延加工 ・曲げ加工 ・鍛造加工 ・引抜き、押し出し加工 ・せん断加工 ・板成形加工 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 塑性加工の意義、塑性力学の基礎 (1) 金属材料の塑性変形 (早川) 2. 塑性力学の基礎 (2) 応力とひずみ (早川) 3. 塑性力学の基礎 (3) 降伏条件 (早川) 4. 塑性力学の基礎 (4) 塑性構成式 (早川) 5. 圧延加工 (1) (早川) 6. 圧延加工 (2) (早川) 7. 曲げ加工 (1) (早川) 8. 曲げ加工 (2) (早川) 9. 鍛造 (1) (田中) 10. 鍛造 (2) (田中) 11. 引抜き加工 (田中) 12. 押し出し加工 (田中) 13. せん断加工 (田中) 14. 板成形加工 (1) (田中) 15. 板成形加工 (2) (田中) <p style="text-align: center;">期末試験</p>				
受講要件	材料力学、材料加工学を修得していることが望ましい				
テキスト	基礎からわかる塑性加工 (長田・柳本, コロナ社)				
参考書	塑性加工入門 (日本塑性加工学会編, コロナ社) 基礎塑性力学 (野田・中村, 日新出版)				
予習・復習について	復習レポートをほぼ毎回出すので、提出すること。これをもって出欠を判断する。				
成績評価の方法・基準	復習レポートを毎回提出することが期末試験を受ける前提となる。成績は期末試験で評価する。評価区分は以下の通りである。 秀・・・・・・「塑性加工学」の全般が理解に優れ、かつ応用に優れる 優・・・・・・「塑性加工学」の全般が理解でき、かつ応用できる 良・・・・・・「塑性加工学」の全般が理解できる 可・・・・・・「塑性加工学」の基本が理解できる 不可・・・・・・「塑性加工学」の基本が理解できない 再試験：再試験は行わない。				
オフィスアワー	特に定めていない。可能な限り随時受け付ける。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	弾性力学				
担当教員名	島村 佳伸、矢代 茂樹		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	C	曜日・時限	金7・8
キーワード	応力、ひずみ、構成方程式、2次元弾性問題、有限要素法				
授業の目標	<p>材料・部材・構造物に生じる応力・変形を取り扱う弾性力学について学習する。特に、弾性体の力学の基礎知識とその体系について習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 応力の概念とその性質の修得 2. ひずみの概念とその性質の修得 3. 構成方程式の修得 4. 平面問題の解析法の理解と応用力の養成 5. 有限要素法の理解 				
学習内容	<p>弾性力学は材料力学の基礎知識をベースに、固体の応力や変形挙動を正確に求める学問である。そのため、弾性力学では応力・ひずみ・構成方程式・弾性ひずみエネルギーについての理論体系を学習する。さらに、それらを基礎として材料・部材・構造物に生じる応力や変形を予測する方法を習得する。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス（授業内容，注意点）。緒論（弾性力学とは） 2. 基礎理論（応力1） 3. 基礎理論（応力2） 4. 基礎理論（変形とひずみ1） 5. 基礎理論（変形とひずみ2） 6. 基礎理論（構成式，降伏条件） 7. 基礎理論（弾性力学の問題の解法） 8. 基礎関係式のまとめ，中間試験 9. 二次元問題1（2次元問題の基礎，平面ひずみ，平面応力） 10. 二次元問題2（諸関係式の極座標表示） 11. 二次元問題3（応力関数） 12. 二次元問題4（応力集中問題） 13. 数値解法1（有限要素法，仮想仕事の原理） 14. 数値解法2（ひずみ-変位マトリックス，剛性方程式） 15. 数値解法3（境界条件と解の求め方，解析手順） 				
受講要件	材料力学I，材料力学IIの単位を取得していることが望ましい。				
テキスト	「弾性力学入門—基礎理論から数値解法まで」，竹園 茂男，埜 克己，感本 広文，稲村 栄次郎（共著），森北出版，ISBN：9784627666412				
参考書	「弾塑性力学の基礎」，吉田 総仁（著），共立出版，ISBN：9784320081147				
予習・復習について	関連科目の復習を含め，予習・復習を十分に行うこと。				
成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験：全講義終了後に期末試験を実施する。 2. 評価割合：中間試験・期末試験 80%，レポート 20% 3. 評価基準 <ul style="list-style-type: none"> 秀・・・「弾性力学」の全般が理解に優れ、かつ応用に優れる 優・・・「弾性力学」の全般が理解でき、かつ応用できる 				

	<p>良・・・「弾性力学」の全般が理解できる 可・・・「弾性力学」の基本が理解できる 不可・・・「弾性力学」の基本が理解できない</p> <p>4. 再試験：実施しない。</p>
オフィス アワー	毎週木曜日の 9・10 時限にオフィスアワーを設けています。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知ください。
担当教員か らのメッセ ージ	この授業は、構造設計のための基本的な概念とその応用を習得することを目的としています。また、強度信頼性評価の基礎となる学問です。興味を持って授業に臨み、基本をきっちり身に付けて下さい。

授業科目名	博物館概論				
担当教員名	高松 良幸		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	月1・2
キーワード	博物館、学芸員、生涯学習、パブリック				
授業の目標	博物館が、近・現代社会においてどのような社会的役割を果たしているのかについて、博物館史、博物館の現状等から考察するとともに、博物館において果たすべき学芸員の使命・職務内容等について、総括的な理解を図る。				
学習内容	欧米、アジア、日本などの博物館の歴史を確認するとともに、現代社会の中で、博物館とはいかなる存在か、あるいはどのような機能を果たしているのかについて理解を図る。また、学芸員の職に就く場合、どのような心構えと使命感が必要か、一方、例えば学芸員の職に就かない場合でも、学芸員の資格を有するものが社会に対して果たすべき役割とは何か、などについて考察する。				
授業計画	<p>1. 博物館学と博物館学芸員資格</p> <p>博物館学関連講義、博物館学芸員資格の概要を説明</p> <p>2. 博物館の分類</p> <p>設置形態、館種等による分類をおこなうことで、博物館と称される文化施設はいかなるものかを考察</p> <p>3. 博物館の歴史1</p> <p>ヨーロッパにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>4. 博物館の歴史2</p> <p>アメリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>5. 博物館の歴史3</p> <p>アジア・アフリカにおける博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>6. 博物館の歴史4</p> <p>日本における博物館の歴史を概観し、同社会における博物館の機能、位置づけ等を考察</p> <p>7. 博物館関連法規</p> <p>博物館法その他博物館関連法規の紹介、その現状における問題点の指摘</p> <p>8. 学芸員の職務</p> <p>学芸員の多岐にわたる職務内容とその問題点を指摘。また学芸員資格取得に関する問題を検討</p> <p>9. 博物館の組織と設備</p> <p>博物館における人事・組織とその業務に必要な設備のあり方について考察、ボランティア、友の会などの外部組織と博物館組織の連携についても論及</p> <p>10. 博物館の運営</p> <p>博物館活動を活性化させるための人材、資料、資金、情報等のマネジメントのあり方について考察</p> <p>11. 博物館資料の収集と保存</p> <p>博物館資料の収集、保管について論及</p>				

	<p>12. 調査研究機関としての博物館</p> <p>博物館における調査研究活動のあり方を考察</p> <p>13. 博物館における展示</p> <p>博物館活動の中心である展示のあり方について検討</p> <p>14. 生涯学習機関としての博物館</p> <p>博物館における教育普及活動の諸様態を紹介</p> <p>15. まとめ</p> <p>コミュニティーの拠点としての博物館の役割</p>
受講要件	
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する
参考書	鈴木眞理編『博物館概論』（大堀哲監修『博物館学シリーズ』第1巻）樹村房 1999
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習時間が必要である
成績評価の方法・基準	講義期間中の小レポート（10%）、期末試験（90%）により評価する
オフィスアワー	授業中に指示する
担当教員からのメッセージ	受講者には積極的に周辺の各種博物館を見学することを勧めます。

授業科目名	コミュニケーション・メディア史				
担当教員名	森野 聡子、赤尾 晃一		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月3・4
キーワード	情報伝達、マスメディア、視覚メディア、複製メディア、パノラマ、パノプティコン、VR、近代、歴史、ナショナリズム				
授業の目標	近現代において、さまざまなコミュニケーション・メディアが発展し、社会生活に定着してきた歴史をトピック的にたどることを通じて、現代のメディアの構造と機能について理解を深めることを目的とする。とりわけ、メディアと受け手/送り手の関係に注目し、その通時性を理解するとともに、現代的特質を実証的に考える力を養う。				
学習内容	<p>新聞・出版・放送・レコード・映画などのコミュニケーション・メディアは、近代化の過程において、多くの国の特性に応じて受容が進み社会に定着してきた。コミュニケーション・メディアの歴史に世界共通の〈普遍的法則〉を見いだすことは不可能ではないが、〈固有性〉の方が際立つ。</p> <p>また、その〈固有性〉は現代のメディアの在り方にも影響を及ぼしている。その国や民族の基底をなす〈言論の風土〉に変化が乏しい限り、コミュニケーション・メディアを同じ作法で受容しようとする傾向がみられる。これが〈通時性〉と呼ばれる特徴である。本授</p>				
授業計画	<p>1. 第1部 マスメディアの誕生と近代イングランドにおける発展（森野）</p> <p>
1. ガイダンス：「マスメディア」と耳の文化・目の文化</p> <p>2. 2.ロンドン万博：博覧会は「世界」を複製したメディア装置だ</p> <p>3. 3.Illustrated London News：新聞は「世界」をパノラマとして見る欲望を生んだ</p> <p>4. 4.少年冒険小説：「南洋」「暗黒大陸」「アジア」は物語化された</p> <p>5. 5.推理小説：謎解きはかくしてディナーのデザートになった</p> <p>6. 6.動画：動く映像は人類を月へといざなう</p> <p>7. 7.王室：メディアはロイヤル・ファミリーを必要とする</p> <p>8. 8.「オリンピック」：メディア・イベントが「国家」という意識を生んだ</p> <p>9. 第2部 マスメディアの発達と近代日本（赤尾）</p> <p>
1.日本のメディアの原点は江戸時代の「讀賣瓦版」にあった</p> <p>10. 2.明治新聞の「三面記事」がスキャンダルリズム(断罪報道)と“毒婦”を生んだ</p> <p>11. 3.明治期の自由民権運動と新聞は「誰でも言論人＝壮士」の時代の魁だった</p> <p>12. 4.日清・日露の戦争報道で「軍国美談」の創作に新聞が荷担した</p> <p>13. 5.「声だけ」伝えるラジオは、感情に火を付ける煽動装置にもなった</p> <p>14. 6.「流行歌」や「映画」も国策を伝えるための手段(戦時歌謡)になっていった</p> <p>15. 7. 焼け跡闇市に花咲く「カストリ雑誌」はエロ・グロ・ナンセンスの伝道師だった</p>				
受講要件	「ジャーナリズム論」を受講済みであることが望ましい。				
テキスト	なし				
参考書	<p>次の書籍を推奨する。その他、授業時に随時紹介。</p> <p>吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』（新曜社、1994年）</p> <p>佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店、1998年）</p>				

	ウォルター・オング『声の文化と文字の文化』（藤原書店，1991年）
予習・復習について	担当教員より指示
成績評価の方法・基準	教員ごとの課題（2回）と参加態度
オフィスアワー	木曜の昼休み（森野），担当1回目の授業時に指示する(赤尾)
担当教員からのメッセージ	

授業科目名	人間情報処理論				
担当教員名	竹内 勇剛		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	月 5・6
キーワード	認知、インタフェースデザイン、システム、モデル、ヒューマンファクタ、ヒューマンエラー、ユーザビリティ、相互作用				
授業の目標	<p>技術の進歩によって人間を取り巻く人工的なシステムはより複雑化し、高速化するようになってきた。その結果、人間は何かの支援がないとそれらを使いこなすことができなくなっている状況になっている。このような状況の中で、システムを信頼し、安全かつ効率的に利用していくためには、人間の認知的能力と行動特性を十分に理解しなくてはならない。</p> <p>本講義では、人間とシステムとの関係のデザインと人間の認知的能力に適応したシステムデザインのあり方について学び、情報科学、情報システムデザインに役に立つ知識と分析力および実践力を身につけることを目指す。</p>				
学習内容	<p>以下の項目に関する内容をさまざまな事例を通して通観し、情報機器を中心としたシステムデザインやインタフェースデザインへの応用力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間工学 ・認知工学 ・安全工学 ・福祉工学 ・ユーザエクスペリエンスデザイン／インタラクションデザイン ・ユーザビリティ／ユニバーサルデザイン ・ユーザ中心設計 				
授業計画	<p>[0] オリエンテーション</p> <p>[1] 人間という存在 (2回) 人間とはどういう存在であるかを再確認し、システムの振る舞いに対してどのような認識と反応を示す行動特性をもつかを事例を通して理解する。</p> <p>[2] ヒューマンファクタとヒューマンエラーそして安全 (5回) 人間の振る舞いに起因するさまざまな事故や失敗がなぜ起きるか、どのようにすればそれらを防ぐことができるのかを事例を通して分析・考察し、人間の身体と認知との調和的なシステムデザインの指針を学ぶ。</p> <p>[3] 人間にやさしいデザイン (4回) 人間の知識や経験、身体的特徴、認知的特性と合致したシステムデザインをすることの意義と、ヒューマンインタフェースデザインの望ましいあり方について考察し、実践力と応用力を養う。</p> <p>[4] オープンなシステムとクローズドなシステム (2回) 不特定多数のユーザや知識やスキルにばらつきがあるユーザに対処するインタフェースやマニュアルの適切な設計指針について学ぶ。</p> <p>[5] まとめ</p>				
受講要件	特になし。ただし「認知科学」や「認知心理学 (概論)」等の認知系の授業を履修してることが望ましい。				
テキスト	指定しない。				
参考書	適宜授業の中で紹介する。				
予習・復習について	授業の前日までには当日使用するスライドを公開しておくので要予習。復習は授業の中で出題する課題に取り組むことで、当日中に授業の内容を完全に学習する。				
成績評価の方法・基準	数回の小レポート (授業中に行なうものも含む) と中間／学期末の課題レポートによる成績評価。				
オフィスアワー	あらかじめメールでアポイントメントをとってもらえれば、できるだけ互いの都合のいい時間を確保する。				
担当教員からのメッセージ	身近な事例や過去にあった事例を通してリアルに問題に接近していきます。				

授業科目名	博物館資料論				
担当教員名	高松 良幸		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	A	曜日・時限	火 1・2
キーワード	博物館資料、実物資料、複製資料、保存と活用、展示、文化財保護、マネジメント				
授業の目標	博物館資料の収集、保管、展示、調査研究等の諸業務に関する基礎的な理解を図るとともに、日本における文化財保護行政やその中で博物館が果たすべき役割について考察することを目的とする。				
学習内容	博物館における資料の収集・保管、展示、調査研究等の諸業務について具体的な例をあげながら論じる。また、博物館資料の多くは、文化財（遺産）としての性格を持つことから、文化財（遺産）保護に博物館、あるいは学芸員がどのような貢献ができるかについても、実例をあげながら考察する。				
授業計画	<p>1. 博物館資料とは</p> <p>博物館資料の概念を明確化するとともに、実物資料と複製資料の関係について論及</p> <p>2. 博物館資料の収集</p> <p>博物館における基幹業務のうち、資料収集に関連する諸業務の実例を紹介</p> <p>3. 博物館資料の整理</p> <p>博物館における基幹業務のうち、実物資料および関連データの整理に関する諸業務の実例を紹介</p> <p>4. 博物館資料の保存</p> <p>博物館における基幹業務のうち、資料保存に関連する諸業務の実例を紹介</p> <p>5. 博物館資料の修理</p> <p>博物館における基幹業務のうち、資料の修理に関連する諸業務の実例を紹介</p> <p>6. 博物館資料の保存と展示</p> <p>博物館資料の保存に配慮した展示の実際について実例を紹介</p> <p>7.</p> <p>博物館資料の調査研究</p> <p>博物館における基幹業務のうち、資料の調査研究に関連する諸業務の実例を紹介</p> <p>8. 博物館資料の教育普及事業等への活用</p> <p>博物館資料を用いた教育普及活動事業等の実例を紹介</p> <p>9. 複製資料の意義と活用</p> <p>博物館活動における複製資料の役割について紹介</p> <p>10. 電子資料化の現状と課題</p> <p>博物館資料の電子化の現状と今後の課題について概観</p>				

	<p>11. 文化財保護の歴史と現状</p> <p>日本における文化財保護の歴史と現状、文化財と博物館の関わりについて概観</p> <p>12. 文化財としての博物館資料</p> <p>保存と公開という文化財保護法の理念に基づいた博物館資料の運営</p> <p>13. 文化財保護に果たすべき学芸員の役割</p> <p>博物館学芸員資格保持者が、文化財保護にいかなる貢献ができるかを考察</p> <p>14. 文化財マネジメント</p> <p>保存と活用のためのマネジメント</p> <p>15. まとめ</p>
受講要件	
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する
参考書	
予習・復習について	授業時間の2倍程度の予習・復習時間が必要である。
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。試験の内容は、講義内容の理解、講義内容の応用が各50%。
オフィスアワー	授業中に指示する。
担当教員からのメッセージ	博物館や文化財の現場に触れる機会をできるだけ設けられることをお勧めします。

授業科目名	メディア・デザイン論				
担当教員名	赤尾 晃一		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火3・4
キーワード	ガバナンス、ジャーナリズム、オルタナティブ・メディア、NPO/NGO、地域メディア、言論の自由、パブリック・アクセス、ソーシャル・メディア、メディア・アクティビズム				
授業の目標	<p>新しい社会(公共)をデザインする場合、メディアは重要なツールとなりうる。逆に、メディアを新しくデザインすることが新しい社会(公共)のガバナンスに通じることもある。その際、どんな中身(酒)をどんなメディア(器:革袋)に盛るかは熟慮する必要がある。古い皮袋に古い酒を注いだのでは、何のインパクトも与えられないからだ。そして、皮袋が新しいからといって(ネットメディアを使ったからといって)、それだけで社会の変革が成し遂げられるわけではない。</p> <p>本講義は、新しい革袋に新しい酒を盛り、その酒が社会を変える契機になるようなメディアデザインの方法論を、受講者が掴み取ることを目標とする。</p>				
学習内容	<p>マスメディア四媒体以外のさまざまな表現・伝達メディアを用いて、ニュースを報道すること、オピニオンを表明すること、パブリック・リレーションズを築くこと、そしてエンタテインメントを与えることを「メディア・アクティビズム」と総称する。また、マスメディア四媒体(とくにテレビ・ラジオ放送)には、市民的言論権の行使として「パブリック・アクセス」の権利がある。1970年代まではそうした活動は「メディアゲリラ」または「オルタナティブメディア」と称されてきた。</p> <p>そうした歴史的経緯を踏まえつつ、メディア・デザインのためのさ</p>				
授業計画	<p>1. 導入:オルタナティブ・メディアの思想史(エンツェンスベルガー・ベンヤミン)</p> <p>2. (第1部)空間系メディア
 書店・カフェ——メディアアクセスのための基盤装置(『世界で最も美しい書店』)"</p> <p>3. 図書館・映画館——「言論の自由」の根拠地</p> <p>4. パッサージュ・広場・公園・デモ行進——融通無碍に編成しうる「公共圏」</p> <p>5. (第2部)活字・視聴覚メディア
 ガリ版・ビラ・立て看・拡声器など——サヨクの様式"</p> <p>6. 壁新聞——『石巻日日新聞』と「ファイト新聞」</p> <p>7. ミニFM——コミュニティを声で支える</p> <p>8. ケーブルテレビ——ローカル・ビデオ・ジャーナリズム</p> <p>9. (第3部)ネットメディア
 地域ブログ</p>				

	<p>10. 地域 SNS</p> <p>11. (第 4 部)メディアデザインの思想
 パブリックアクセスとメディア改革:1960～70 年代の “メディア闘争”</p> <p>12. NPO/NGO とデジタルエンゲイジメント</p> <p>13. パブリック・ジャーナリズム</p> <p>14. twitter, ニコ動(Ustream)などによる “動員の革命”</p> <p>15. メディアデザインを正しき社会正義のために</p>
受講要件	ID プログラムでメディア系の専門科目群に興味を持つ学生
テキスト	特になし
参考書	<p>金山勉・津田正夫編(2011)『ネット時代のパブリック・アクセス』(世界思想社)</p> <p>松野良一(2005)『市民メディア論—デジタル時代のパラダイムシフト』(ナカニシヤ出版)</p> <p>松浦さと子・小山帥人(2008)『非営利放送とは何か—市民が創るメディア』(ミネルヴァ書房)</p> <p>ローラ・R・リンダー(2009)『パブリック・アクセス・テレビ—米国の電子演説台』(中央大学出版部)</p> <p>河井孝仁・遊橋裕泰 (2009)『地域メディアが地域を変える』(日本経済評論社)</p>
予習・復習について	授業で紹介・指定した文献を読むなどの「復習」が要求される
成績評価の方法・基準	小レポート(2～3回, 50%)と試験(50%)
オフィスアワー	金曜昼休み～56限。
担当教員からのメッセージ	情報学部生はともすると、「ネットメディアさえあれば、問題はすべて解決する」という思考パターンに陥りがちだ。むしろ、ネットは広報・PR メディアとして欠くことができない存在だろう。しかし、ネット以外の選択肢も含めて、自分が実現(発信)したいことに最も相応しいメディアを選び、そのメディアをデザインしていくことこそが、メディアに対する正しい向き合い方だと確信する。

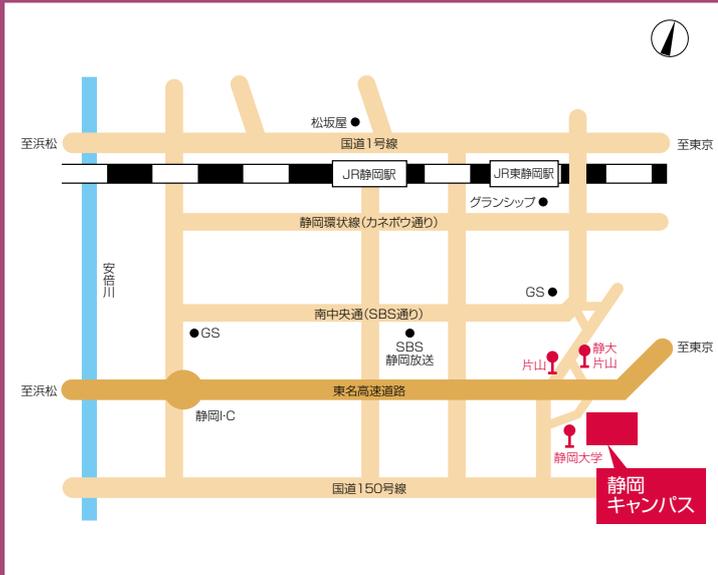
授業科目名	ジェンダー論				
担当教員名	笹原 恵		所属等		
			研究室		
分担教員名					
クラス	—	学期	前学期		必修選択区分
対象学年		難易度	B	曜日・時限	火9・10
キーワード	ジェンダー、セクシュアリティ、セックス、性別役割分業・性別職務分離、女らしさ、男らしさ、性の多様性、セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー平等、メディア・家庭・学校・職場、男女平等・男女共同参画				
授業の目標	本講義では、現代社会を考えるにあたって必須の課題、ジェンダーエクイティ（ジェンダー平等、男女平等）をすすめるために必要な社会認識及びそのための方法論（ジェンダー論）を学ぶ。本年度は、ジェンダーの観点から、メディア、学校、職場、家族などさまざまな領域を分析し、男女平等とは何か、男女平等の社会とはどのような社会か、またその実現のためには何が必要なのかを考えていくことにしたい。受講生は、本講義を通し、「ジェンダー」の視点からの社会システム構築やコミュニティデザインを考えていくことができる。				
学習内容	<p>1. ジェンダーとは何か ジェンダーgenderとは、社会的・文化的に決定される性の側面を表す概念であり、「女らしさ」「男らしさ」や、性別役割分業（家事・育児・介護の分担のあり方）、性別職務分離（いわゆる「男性」職、「女性」職など）といった社会編成全体に関わる概念である。まずは極めて複雑で、重層的な概念である「性」について、セックスsex（生物学的・解剖学的性）、セクシュアリティsexuality（性自認、性指向）、ジェンダーgender（社会的・文化的性）の3つのレベルにおいて理解する。</p> <p>2. セクシュ</p>				
授業計画	<p>ガイダンス：ジェンダーを学ぶ意味～なぜ「ジェンダー」を学ぶのか</p> <p>1. ジェンダーとは何か： *多様な性概念 セックス/セクシャリティ/ジェンダー *女性の人権の歴史：フェミニズムの歴史</p> <p>2. セクシュアリティとジェンダー *性暴力とは何か *セクシュアリティの今日的課題 *セクシュアルマイノリティ</p> <p>3. ジェンダーの現状と課題 1) ジェンダーの社会化～ひとはどのようにして女/男になるか *メディアの中のジェンダー 2) 学校・教育とジェンダー *学校におけるジェンダー問題－隠れたカリキュラムを考える－ 3) 職場におけるジェンダー *女性・男性に向いている職業ってあるの？－ *性別職域分離とは 4) 家族とジェンダー *女性は自然に母親になる？ *家事・育児は誰の仕事？ *夫婦別姓を考える</p> <p>まとめ：男女平等・男女の対等性とは何か ジェンダーの変革のために何が必要か</p>				
受講要件	特にありませんが、ジェンダーについて真摯に学ぼうとすることが要件です。				
テキスト	特に用いず、適宜、プリントを配付します。				
参考書	授業中に紹介します				
予習・復習について	最低限の予習・復習としては、①授業を受けた上での小レポート提出（出席票）、②単元毎に課すまとめの中レポート（アサインメント）などを課しますが、受講生それぞれが自分の関心に応じた予習・復習や関連図書を積極的に読むことを期待します。				

成績評価の方法・基準	予習・復習などの小レポート：4割（プレゼンなど授業での発表や発言なども含む） 単元毎のレポート：2割 中間レポート（冬休み課題）：2割 最終レポート（受講生が関心をもつテーマで作成）：2割
オフィスアワー	授業中に連絡します
担当教員からのメッセージ	例年の受講生をみていると、「ジェンダー」というと女性の問題と思っている人が大変多いのですが、ジェンダーとは女性と男性の関係性の問題であり、両性関係性にかかわる重要な問題です。私たちは無意識のうちに「ジェンダー」<女らしさ・男らしさ、女だから・男だから>にとらわれていますが、性概念の多様性に気づき、さまざまな性の存在に気づくことができれば、社会のあり方が違ったものを感じられるようになり、現代社会を考える上での重要な視点を得られると思います。そのためには、自身のものの見方・考え方を相対化することが必要になり

■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部

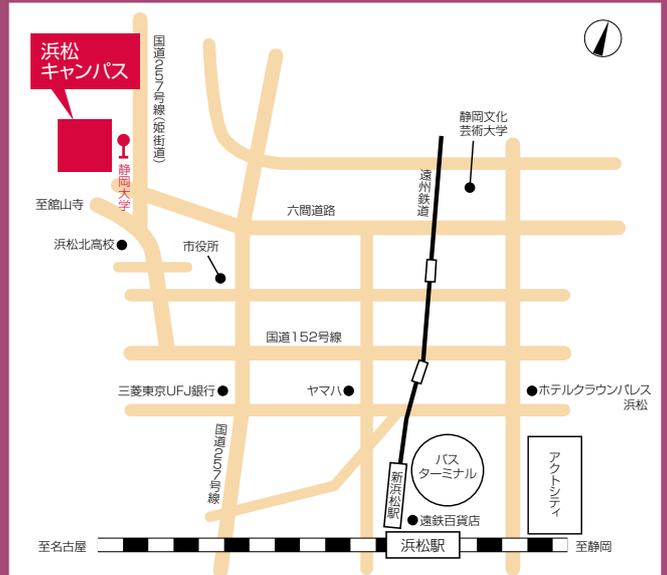
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836



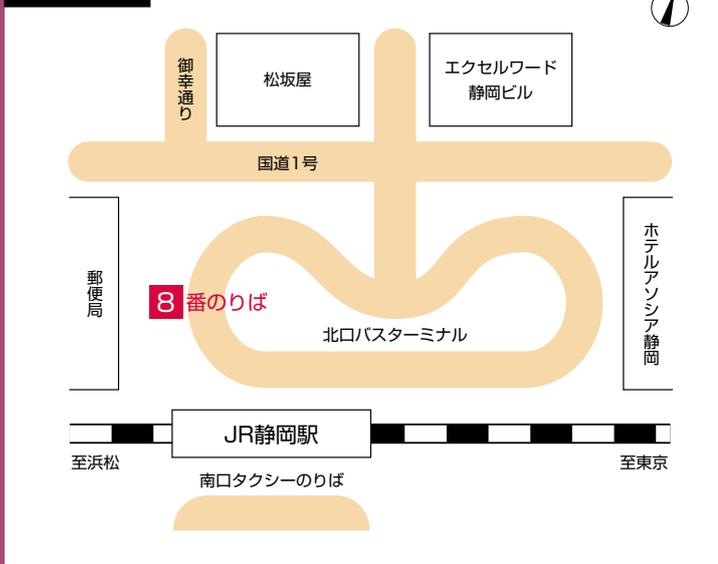
■浜松キャンパス

情報学部・工学部

〒432-8011 静岡県浜松市中区城北 3-5-1

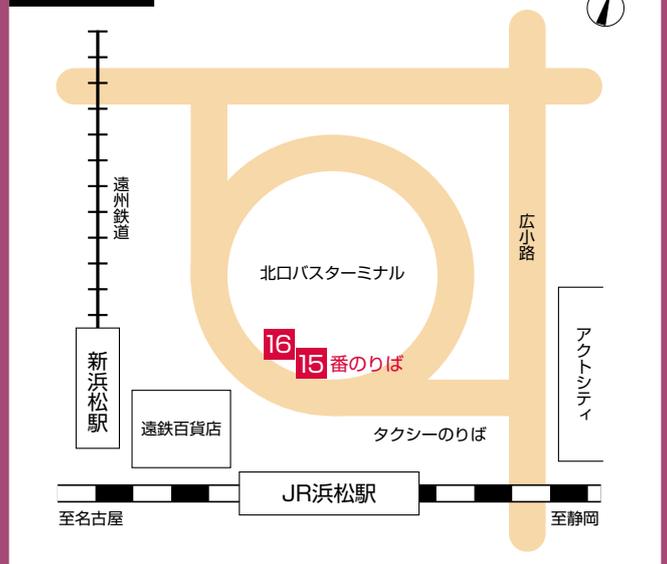


バス停案内図



1. JR静岡駅北口しずつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5~7本運行)。*静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

バス停案内図



1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。



静岡大学イノベーション社会連携推進機構

Organization for Innovation and Social Collaboration

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL: 054-238-4817 [平日9:30~16:00] FAX: 054-238-4295

E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp http://www.Lc.shizuoka.ac.jp/